
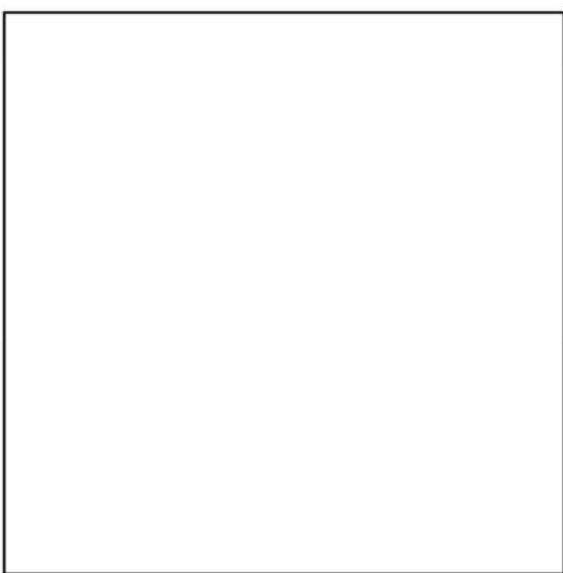

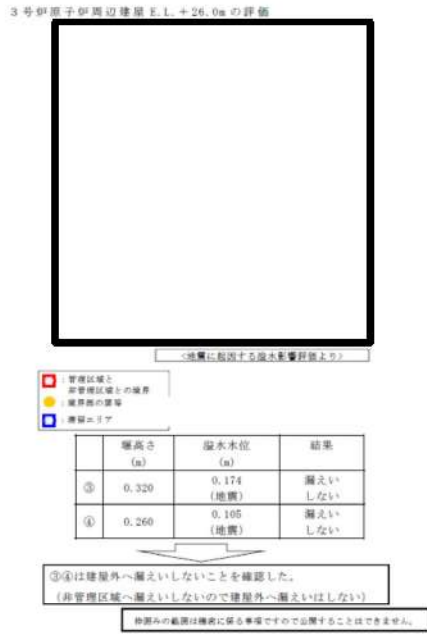
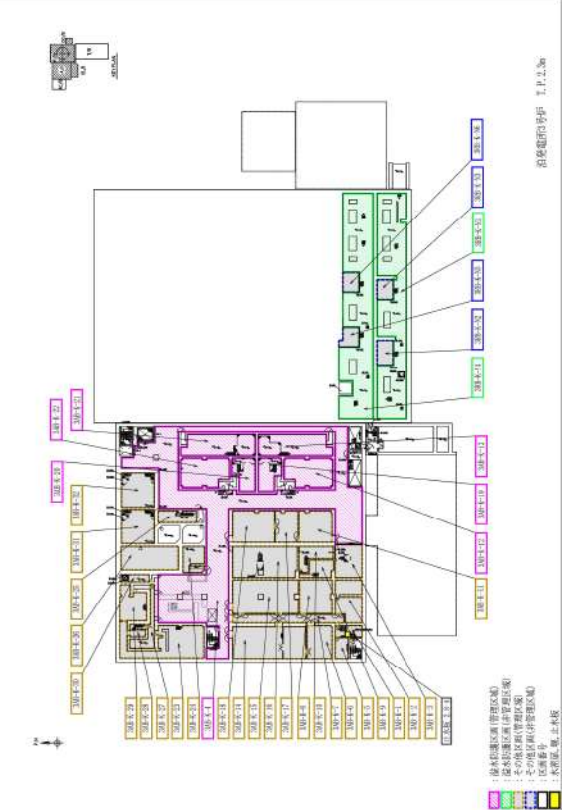


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3号炉原子炉周辺地盤E.L.+33.6mの評価</p>  <p>①②は壁外へ漏えいしないことを確認した。</p> <p>詳細の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	<p>1F 0, P, 15000</p>  <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 添付資料29）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>3号炉原子炉周辺棟屋E.L.+26.0mの評価</p>  <table border="1" data-bbox="246 622 537 734"> <thead> <tr> <th></th> <th>高さ (m)</th> <th>漏水水位 (m)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③</td> <td>0.320</td> <td>0.174 (地盤)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>0.260</td> <td>0.105 (地盤)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>③④は建屋外へ漏えいしないことを確認した。          (非管理区域へ漏えいしないので建屋外へ漏えいしない)</p> <p>特異的な漏洩は確認される事象ですので公表することはできません。</p>		高さ (m)	漏水水位 (m)	結果	③	0.320	0.174 (地盤)	漏えい しない	④	0.260	0.105 (地盤)	漏えい しない		 <p>図例：建屋外へ漏水</p>	
	高さ (m)	漏水水位 (m)	結果												
③	0.320	0.174 (地盤)	漏えい しない												
④	0.260	0.105 (地盤)	漏えい しない												



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 添付資料29）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3号伊原子伊周辺建屋E.L.+17.1mの評価</p>  <p>3号伊原子伊周辺建屋E.L.+16.0mの評価</p> 			

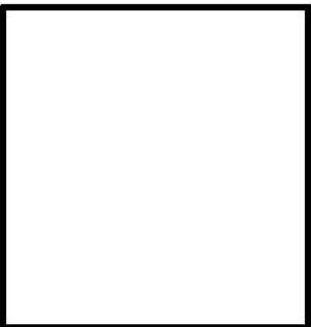
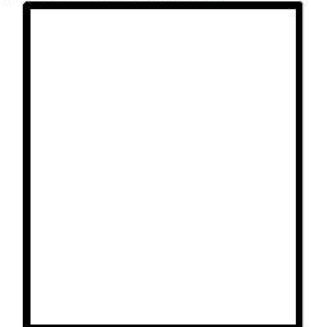
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料29）

大阪発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3号炉原子炉周辺建屋E.L.+3.5mの評価</p>  <p>3号炉原子炉周辺建屋E.L.+3.5mの評価</p> <p>（地盤に起因する溢水影響評価より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 管理区域と非管理区域との境界</li> <li>● 境界部の基準</li> <li>□ 滞留エリア</li> </ul> <p>滞留エリアには管理区域との境界に隣がなく、非管理区域へ滲みはしない。</p> <p>↓</p> <p>建屋外に滲みしないことを確認した。</p> <p>※ 貯留水の範囲は隣部に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>4号炉原子炉周辺建屋E.L.+39.0mの評価</p>  <p>4号炉原子炉周辺建屋E.L.+39.0mの評価</p> <p>（地盤に起因する溢水影響評価より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 管理区域と非管理区域との境界</li> <li>● 境界部の基準</li> <li>□ 滞留エリア</li> </ul> <p>滞留エリアには管理区域との境界に隣がなく、非管理区域へ滲みはしない。</p> <p>↓</p> <p>建屋外に滲みしないことを確認した。</p> <p>※ 貯留水の範囲は隣部に係る事項ですので公開することはできません。</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 添付資料29）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>4号伊原子伊原辺建屋 E.L.+33.6mの評価</p>  <p>①：管理区域と 非常停止区域との境界 ②：境界線の境界 ③：境界エリア</p> <p>（地質に起因する漏水影響評価より）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>壁高さ (m)</th> <th>漏水水位 (m)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>0.160</td> <td>0.054 (地質)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>0.160</td> <td>0.040 (地質)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>①②は壁屋外へ漏えいしないことを確認した。</p> <p>※図面の範囲は確認に係る事項ですので公開することはできません。</p>		壁高さ (m)	漏水水位 (m)	結果	①	0.160	0.054 (地質)	漏えい しない	②	0.160	0.040 (地質)	漏えい しない			
	壁高さ (m)	漏水水位 (m)	結果												
①	0.160	0.054 (地質)	漏えい しない												
②	0.160	0.040 (地質)	漏えい しない												
<p>4号伊原子伊原辺建屋 E.L.+26.0mの評価</p>  <p>①：管理区域と 非常停止区域との境界 ②：境界線の境界 ③：境界エリア</p> <p>（地質に起因する漏水影響評価より）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>壁高さ (m)</th> <th>漏水水位 (m)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>0.320</td> <td>0.173 (地質)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>0.260</td> <td>0.124 (地質)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>①②は壁屋外へ漏えいしないことを確認した。          （非管理区域へ漏えいしないので壁屋外へ漏えいしない）</p> <p>※図面の範囲は確認に係る事項ですので公開することはできません。</p>		壁高さ (m)	漏水水位 (m)	結果	①	0.320	0.173 (地質)	漏えい しない	②	0.260	0.124 (地質)	漏えい しない			
	壁高さ (m)	漏水水位 (m)	結果												
①	0.320	0.173 (地質)	漏えい しない												
②	0.260	0.124 (地質)	漏えい しない												



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 添付資料29）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>4号炉原子炉周辺建屋 E.L. +17.1m の評価</p> <p>4号炉原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m の評価</p> <table border="1" data-bbox="235 1273 526 1380"> <thead> <tr> <th></th> <th>床高さ (m)</th> <th>溢水水位 (m)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑤</td> <td>0.320</td> <td>0.170 (地盤)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>0.320</td> <td>0.170 (地盤)</td> <td>漏えい しない</td> </tr> </tbody> </table>		床高さ (m)	溢水水位 (m)	結果	⑤	0.320	0.170 (地盤)	漏えい しない	⑥	0.320	0.170 (地盤)	漏えい しない			
	床高さ (m)	溢水水位 (m)	結果												
⑤	0.320	0.170 (地盤)	漏えい しない												
⑥	0.320	0.170 (地盤)	漏えい しない												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 添付資料29）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4号炉原子炉周辺建屋 E.L.+3.5mの評価</p>  <p>（地質に起因する溢水影響評価より）</p> <p> <input type="checkbox"/> 管理区域と                  非管理区域との境界  <input type="checkbox"/> 境界線の番号  <input type="checkbox"/> 滞留エリア             </p> <p>滞留エリアには管理区域との境界に線が無く、 非管理区域へ漏えいほししない。</p> <p>↓</p> <p>建屋外に漏えいほししないことを確認した。</p> <p>※図中の範囲は概算に基き事業ですでの確認することではありません。</p>			
<p>3号炉及び4号炉副建屋 E.L.+7.0mの評価</p>  <p>（地質に起因する溢水影響評価より）</p> <p> <input type="checkbox"/> 管理区域と                  非管理区域との境界  <input type="checkbox"/> 境界線の番号  <input type="checkbox"/> 滞留エリア             </p> <p>滞留エリアには管理区域との境界に線が無く、 非管理区域へ漏えいほししない。</p> <p>↓</p> <p>建屋外に漏えいほししないことを確認した。</p> <p>※図中の範囲は概算に基き事業ですでの確認することではありません。</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子力発電所における安全上重要な設備は、多重性、多様性を確保するとともに、適切な裕度をもって設計され、適切に維持管理されるなど損傷防止上の配慮がなされている。</p> <p>また、安全上重要な設備は、一般的に床から比較的高い位置に設置されていること、万一漏えいが発生した場合でも建屋最下層に設置されたサンプに集められ、ポンプにより排水するなど、溢水事象に対する配慮がなされた設計としている。</p> <p>本評価ガイドは、原子力発電所内で発生する溢水に対し、原子炉施設の安全性を損なうことのないことを評価するものである。</p> <p>ここで、考慮する溢水源は、原子炉格納容器内、及び原子炉格納容器外での溢水（施設内の配管、機器の破断、火災時の消火散水等）と建屋外での溢水（屋外タンク、貯水池）を対象とする。</p> <p><b>1. 1. 一般</b></p> <p>原子力規制委員会が定める「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」第12条において、発電用原子炉施設内における溢水等による損傷の防止として、設計基準対象施設が、発電用原子炉施設内における溢水の発生によりその安全性を損なうおそれがある場合は、防護措置その他の適切な措置を講じなければならないとしている。本評価ガイドは、当該規定に定める内部溢水防護に関連して、原子力発電所（以下、「発電所」という。）に設置される原子炉施設が、内部溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統の安全機能、並びに使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）の冷却、給水機能が喪失することのないよう、適切な防護措置が施されているか評価するため</p>	<p>参考 大阪3号炉及び4号炉での評価結果</p> <p>1. 総則</p> <p>大阪3号炉及び4号炉については、溢水影響を考慮した設計を実施している。具体的には系統の独立した区画への分散配置、区画の入口堰、機器の基礎高さ等の考慮、各建屋最下層に設置されたサンプへの集積及び排水が可能な設計としている。</p> <p>今回、本ガイドにしたがい、原子炉施設内に設置された機器及び配管の破損（地震起因を含む）、火災時の消火水の放水、使用済燃料ピットのスロッシングにより発生する溢水により設計基準対象施設が安全性を損なうことのないよう、防護措置その他適切な措置が講じられていることを確認している。</p> <p>1.1 一般</p> <p>(1)重要度の特に高い安全機能を有する系統（原子炉の停止、高温停止及び低温停止（停止状態の維持含む。）に必要な系統設備原子炉の停止、高温停止及び低温停止に必要な系統設備として、以下の系統設備を抽出した。</p> <p>①原子炉停止：原子炉停止系                  ②ほう酸添加：原子炉停止系（化学体積制御系のほう酸注入機能等）                  ③崩壊熱除去：補助給水系、主蒸気系、余熱除去系                  ④1次系減圧：1次冷却系の減圧機能                  ⑤上記系統の関連系：原子炉補機冷却系、制御用空気系、換気空調系、非常用電源系、冷水系、電気盤                  ⑥その他</p>	<p>添付資料34 女川原子力発電所2号炉での評価結果</p> <p>1. 総則</p> <p>女川2号炉は溢水影響を考慮した設計を実施しており、安全上重要な機器については、区画化による分散配置や堰の設置、基礎高さへの考慮等を実施するとともに、建屋最下層に設置されたサンプに溢水を集積し排水が可能な設計としている。</p> <p>今回、「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」（以下「ガイド」という。）に従い、発電用原子炉施設内に設置された機器及び配管の想定破損、火災時の消火水の放水、地震による機器の破損（使用済燃料プールのスロッシング含む）により発生する溢水により設計基準対象施設が安全性を損なうことのないよう防護措置その他適切な措置が講じられていることを確認した。</p> <p>1. 1 一般</p> <p>溢水の影響評価に当たっては、発電所内で発生した溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を損なわないことを確認することとしており、「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」（以下「設置許可基準規則」という。）では「安全機能を損なわないもの」とは、「発電用原子炉施設内部で発生が想定される溢水に対し、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止、及び放射性物質の閉じ込め機能を維持できること、また、停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持できることをいう。さらに、使用済燃料プールにおいてはプール冷却機能及びプールへの給水機能を維持できること」とされていることから、以下の設備を溢水</p>	<p>添付資料30 泊発電所3号炉での評価結果</p> <p>1. 総則</p> <p>泊発電所3号炉は溢水影響を考慮した設計を実施しており、安全上重要な機器については、系統の独立した区画への分散配置や堰の設置、基礎高さへの考慮等を実施するとともに、建屋最下層に設置されたサンプに溢水を集積し排水が可能な設計としている。</p> <p>今回、「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」（以下「ガイド」という。）に従い、発電用原子炉施設内に設置された機器及び配管の想定破損、火災時の消火水の放水、地震による機器の破損（使用済燃料ピットのスロッシング含む）により発生する溢水により設計基準対象施設が安全性を損なうことのないよう防護措置その他適切な措置が講じられていることを確認した。</p> <p>1. 1 一般</p> <p>溢水の影響評価に当たっては、発電所内で発生した溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を損なわないことを確認することとしており、「実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」（以下「設置許可基準規則」という。）では「安全機能を損なわないもの」とは、「発電用原子炉施設内部で発生が想定される溢水に対し、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止及び放射性物質の閉じ込め機能を維持できること、また、停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持できることをいう。さらに、使用済燃料プールにおいてはプール冷却機能及びプールへの給水機能を維持できること」とされていることから、以下の設備を溢水の防</p>	<p>【資料構成について】 本資料は溢水影響評価ガイドへの適合状況を確認するための資料であることから、ガイド記載事項との比較を行うため、左列にガイドの記載を貼り付け4連表の構成とした。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【大阪】 記載方針の相違 女川書責実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>の手順の一例を示すものである。また、本評価ガイドは、内部溢水影響評価の妥当性を審査官が判断する際に、参考とするものである。</p> <p>本評価ガイドで対象とする溢水源は、発電所内に設置される機器の破損及び消火系統等の作用により発生するものとする。</p> <p>ここでいう「発電所内に設置される機器」とは、発電所内に設置される発電設備及びその関連設備のことをいい、この中には、建屋内に収納される原子炉・タービン及びその附属設備、並びに建屋外に設置される屋外タンク・海水ポンプ及びその周辺設備がある。</p> <p>また、妨害破壊行為等の想定できない意図的な活動による放水や漏水による溢水については評価の対象外とする。</p> <p><b>1. 2. 適用範囲</b>                      本評価ガイドは、実用発電用軽水型原子炉施設に適用する。</p> <p><b>1. 3. 関連法規</b>                      略</p> <p><b>1. 4. 用語の定義</b>                      略</p> <p><b>2. 原子炉施設の溢水評価</b></p> <p><b>2. 1. 溢水源及び溢水量の想定</b>                      溢水源としては、発生要因別に分類した以下の溢水を想定する。</p> <p>(1) 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(2) 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置される系統からの放水による溢水</p>	<p>原子炉外乱に対処するために必要な系統設備</p> <p>(2) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統</p> <p>使用済燃料ピットの冷却及び給水機能を適切に維持するために必要な防護対象設備を抽出した。</p> <p>(3) 建屋外からの溢水</p> <p>防護対象設備が設置されている建屋の外から建屋内への溢水影響として、防護対象設備が設置されている建屋に隣接する廃棄物処理建屋及びタービン建屋からの溢水並びに屋外タンク及び地下水からの溢水を抽出している。さらに、自然現象による屋外タンクからの溢水影響については、地震、竜巻、地滑り及び降水による溢水を抽出している。</p> <p>2. 原子炉施設の溢水評価</p> <p>2.1 溢水源及び溢水量の想定</p> <p>溢水源としては、ガイドにしたがい、(1)～(3)の発生要因別に分類した溢水を想定している。</p>	<p>の防護対象設備として選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要度の特に高い安全機能を有する設備（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針（以下「重要度分類審査指針」という。）及び「設置許可基準規則」第十二条を参照し、該当する設備を抽出）</li> <li>・使用済燃料プールの冷却及び給水機能を有する設備</li> </ul> <p>なお、原子炉格納容器内に設置される重要度の特に高い安全機能を有する設備は、原子炉冷却材喪失（LOCA）を考慮した耐環境仕様としているため、防護対象設備から除外した。</p> <p>防護対象設備が設置されている建屋・エリアにおける溢水源としては、想定破損により生じる溢水、消火水の放水による溢水、地震起因の機器の破損により生じる溢水（使用済燃料プールのスロッシング含む）を対象とした。</p> <p>防護対象設備が設置されている建屋の外からの溢水影響として、原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））からの溢水、タービン建屋からの溢水、補助ボイラー建屋からの溢水、1号炉制御建屋からの溢水、屋外タンクからの溢水を対象として抽出した。</p> <p>2. 原子炉施設の溢水評価</p> <p>2. 1 溢水源及び溢水量の想定</p> <p>溢水源としては、ガイドに従い(1)～(3)の溢水を想定して評価を実施した。</p> <p>(1) 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(2) 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置される系統からの放水による溢水</p>	<p>護対象設備として選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要度の特に高い安全機能を有する設備（発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針（以下「重要度分類審査指針」という。）及び「設置許可基準規則」第十二条を参照し、該当する設備を抽出）</li> <li>・使用済燃料ピットの冷却及び給水機能を有する設備。なお、原子炉格納容器内に設置される重要度の特に高い安全機能を有する設備は、原子炉冷却材喪失（LOCA）を考慮した耐環境仕様としているため、防護対象設備から除外した。</li> </ul> <p>防護対象設備が設置されている建屋・エリアにおける溢水源としては、想定破損により生じる溢水、消火水の放水による溢水、地震起因の機器の破損により生じる溢水（使用済燃料ピットのスロッシング含む）を対象とした。</p> <p>防護対象設備が設置されている建屋の外からの溢水影響として、出入管理建屋からの溢水、電気建屋からの溢水、タービン建屋からの溢水及び屋外タンクからの溢水を対象として抽出した。</p> <p>2. 原子炉施設の溢水評価</p> <p>2. 1 溢水源及び溢水量の想定</p> <p>溢水源としては、ガイドに従い(1)～(3)の溢水を想定して評価を実施した。</p> <p>(1) 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(2) 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置される系統からの放水による溢水</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>ここで、上記(1)、(2)の溢水源の想定にあたっては、一系統における単一の機器の破損とし、他の系統及び機器は健全なものと仮定する。また、一系統にて多重性又は多様性を有する機器がある場合においても、そのうち単一の機器が破損すると仮定する。</p> <p>ユニット間で共用する建屋及び一体構造の建屋に設置される機器にあっては、共用、非共用機器に係わらずその建屋内で単一の溢水源を想定し、建屋全体の溢水経路を考慮する。</p> <p>なお、上記(3)の地震に起因する溢水量の想定において、基準津波によって、取水路、排水路等の経路から安全機能を有する設備周辺への浸水が生じる場合、又は地震時の排水ポンプの停止によって原子炉施設内への地下水の浸入が生じる場合には、その浸水量を加味すること。</p> <p>また、タービン建屋への津波の流入を考量しても防護対象設備が設置されている建屋へ溢水が流入しないことを確認している。</p> <p>地下水の浸入に対しても、耐震性を有する湧水サンプポンプによる排水が可能であることを確認している。</p>	<p>(1)、(2)の溢水源の想定については、一系統における単一の機器の破損とし、他の系統及び機器は健全なものと仮定している。また、一系統にて多重性又は多様性を有する機器がある場合においても、そのうち単一の機器が破損すると仮定している。</p> <p>ユニット間で共用する建屋についても建屋内で単一の溢水源を想定し、建屋全体の溢水経路を考慮している。</p> <p>(3)の地震に起因する溢水量の想定においては、耐震B、Cクラスのうち基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されない機器や配管からの溢水の評価し、防護対象設備の機能が喪失しないことを確認する。</p> <p>なお、津波については、基準津波による津波高さにより海水ポンプを設置している海水ポンプエリアへ津波の浸入がないことを確認している。</p> <p>また、タービン建屋への津波の流入を考量しても防護対象設備が設置されている建屋へ溢水が流入しないことを確認している。</p> <p>地下水の浸入に対しても、耐震性を有する湧水サンプポンプによる排水が可能であることを確認している。</p>	<p>(3) 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1)の溢水源の想定については、一系統における単一の機器の破損とし、(2)の溢水源の想定については、単一箇所での放水を想定し、他の系統及び機器は健全なものと仮定した。</p> <p>(3)の地震に起因する溢水量の想定においては、耐震B、Cクラスのうち基準地震動<math>S_s</math>による地震力に対して耐震性が確保されない配管や容器からの溢水の評価し、防護対象設備の機能が喪失しないことを確認した。</p> <p>なお、津波については、基準津波による津波高さが防潮堤前面で0.P.+2.9m<sup>※</sup>であるが、防潮堤の天端高さが0.P.+29m<sup>※</sup>であること、また、取水・放水路等からの津波の流入に対して、防潮壁等を設置することから、海水ポンプを設置しているエリアへ津波の流入がないことを確認した。</p> <p>※ 0.P.（女川原子力発電所工用基準面）＝T.P.（東京湾平均海面）-0.74m なお、津波防護設計においては、2011年東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、一様に約1mの沈降が発生したことを考慮した値を用いることとしている。</p> <p>地下水の浸入については、地下水流入を防止するよう設計において考慮しており、また、建屋外壁の評価より、原子炉施設内へ地下水が流入しないことを確認した。</p>	<p>(3) 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1)の溢水源の想定については、一系統における単一の機器の破損とし、(2)の溢水源の想定については、単一箇所での放水を想定し、他の系統及び機器は健全なものと仮定した。</p> <p>また、一系統にて多重性又は多様性を有する機器がある場合においても、そのうち単一の機器が破損すると仮定した。</p> <div data-bbox="1424 598 1856 686" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>追而【地震津波側審査の反映】                  (破線囲部分)は、基準津波確定に反映する)</p> </div> <p>(3)の地震に起因する溢水量の想定においては、耐震B、Cクラスのうち基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されない機器や配管からの溢水の評価し、防護対象設備の機能が喪失しないことを確認した。</p> <p>なお、津波については、基準津波による津波高さが防潮堤前面でT.P. { } mであるが、防潮堤の天端高さがT.P. { } mであること、また、取水・放水路等からの津波の流入に対して、防水壁等を設置することから、海水ポンプを設置しているエリアへ津波の流入がないことを確認した。</p> <p>また、タービン建屋への津波の流入を考量しても防護対象設備が設置されている建屋へ溢水が流入しないことを確認している。</p> <p>地下水の浸入については、地下水流入を防止するよう設計において考慮しており、また、建屋外壁の評価より、原子炉施設内へ地下水が流入しないことを確認した。</p>	<p>記載方針の相違                  ガイドの記載に倣い、当該記載を記載している。(大阪と同様)                  【大阪】                  記載方針の相違                  泊にはユニット間で共用する建屋が無いことから、共用建屋の溢水経路については記載していない。</p> <p>記載方針の相違                  ・泊はタービン建屋への津波流入を考慮した評価を実施していることを記載している。(大阪と同様)                  ・女川が記載している0.P.に対する注記については、泊はT.P.（東京湾平均海面）を用いていることから、記載不要。                  【大阪】                  記載方針の相違                  女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 1. 1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>破損を想定する機器は、配管（容器の一部であって、配管形状のものを含む。）とする。配管の破損は、内包する流体のエネルギーに応じて①高エネルギー配管及び②低エネルギー配管の2種類に分類し、破損を想定する。分類にあたっては、付録Aによること。（解説－2. 1. 1－1）</p> <p>破損を想定する位置は、安全機能への影響が最も大きくなる位置で漏水が生じるものとする。ただし、配管の高さや引き回し等の関係から保有水量の流出範囲が明確に示せる場合は、その範囲の保有水量を放出するものとして溢水量を算出できる。（流体を内包する配管の破損による溢水の詳細評価については附属書Aを参照のこと。）</p> <p>溢水量は、以下を考慮して破損を想定する系統が漏えいするものとして求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高エネルギー配管については、完全全周破断</li> <li>・低エネルギー配管については、配管内径の1/2の長さと同配管肉厚の1/2の幅を有する貫通クラック（以下、「貫通クラック」という。）（解説－2. 1. 1－2）</li> </ul> <p>なお、循環水管の破損は、過去の事例等を考慮して伸縮継手部に設定すること。（解説－2. 1. 1－3）</p>	<p>2.1.1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>破損を想定する機器は、配管とし、配管の破損は内包する流体のエネルギーに応じて高エネルギー配管と低エネルギー配管に分類して破損を想定している。</p> <p>高エネルギー配管のターミナルエンド部については、完全全周破断を想定した溢水影響評価を実施する。環境への影響が大きいと考えられる蒸気漏えいに関して以下の対策を実施することとしており、また、必要に応じて各対策を組み合わせて対策の最適化を図ったうえで、蒸気の影響評価を実施する。</p> <p>(1) 蒸気漏えい自動検知、遠隔隔離（自動又は手動）</p> <p>(2) 防護カバーの設置</p> <p>ターミナルエンド部以外については、ガイドにしたがい応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定する等の影響評価を実施する。</p> <p>低エネルギー配管については、網羅的に発生応力評価を行い配管の健全性を確認する。</p> <p>防護対象設備は漏えい蒸気による環境影響評価を実施し、機能を喪失しないことを確認している。</p> <p>低エネルギー配管に分類される循環水管の破損は、循環水系の弁が急閉止しないように設計上考慮されていることから、伸縮継手部の破損形状は低エネルギー配管と同様貫通クラックとするが、評価は全円周状破損を想定する地震による溢水影響評価により確認する。</p>	<p>2. 1. 1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>破損を想定する機器はガイド付録Aに従い、高エネルギー配管及び低エネルギー配管の2種類に分類し破損を想定した。また破損を想定する位置は、安全機能への影響が最も大きくなる位置で漏水が生じるものとした。</p> <p>高エネルギー配管の破損形状については、完全全周破断、低エネルギー配管の破損形状については、貫通クラックを想定した。</p> <p>低エネルギー配管に分類される循環水管の破損は伸縮継手部の貫通クラックを考慮した。</p> <p>循環水管の破損評価は全円周状破損を想定する地震による溢水評価が支配的となることから、地震起因による溢水評価で代表した。</p> <p>なお、高エネルギー配管の一部（原子炉建屋原子炉棟内及び制御建屋内の加熱蒸気及び復水戻り系配管）及び低エネルギー配管の一部（原子炉建屋原子炉棟内の換気空調補機常用冷却水系配管、残留熱除去系配管、低圧炉心スプレイ系配管、高圧炉心スプレイ系配管、原子炉隔離</p>	<p>2. 1. 1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>破損を想定する機器はガイド付録Aに従い、配管の破損は内包する流体のエネルギーに応じて高エネルギー配管と低エネルギー配管に分類し破損を想定した。また、破損を想定する位置は、安全機能への影響が最も大きくなる位置で漏水が生じるものとした。</p> <p>高エネルギー配管の破損形状については、完全全周破断を想定し、一部の高エネルギー配管（補助蒸気系統配管）については、ガイドに従い応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定した。</p> <p>低エネルギー配管の破損形状については、貫通クラックを想定した。</p> <p>低エネルギー配管に分類される循環水管の破損は伸縮継手部の貫通クラックを考慮した。</p> <p>循環水管の破損評価は全円周状破損を想定する地震による溢水評価が支配的となることから、地震起因による溢水評価で代表した。</p> <p>なお、高エネルギー配管の一部（蒸気発生器ブローダウン系統（主蒸気管室外）配管及び主蒸気系統（主蒸気管室外）配管）及び低エネルギー配管の一部（防護対象設備が設置される原子炉建屋、原子炉補助建屋、ディーゼル発電機建屋、循環水ポンプ建屋（海水ポンプ室及び海</p>	<p><a href="#">記載方針の相違</a>                      ガイドの記載に倣い、当該記載を記載している。（大飯と同様）</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a>                      泊ではガイドに従い、一部の高エネルギー配管に対して応力評価を実施することで、破損形状の想定を低エネルギー配管相当である貫通クラックとして想定している。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>                      系統名称の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>ただし、漏えいを検出する機能が設置され、自動又は手動操作によって、漏えいを停止させることができる場合は、この機能を考慮することができる。</p> <p>また、漏えい停止機能を期待する場合は、停止までの適切な時間を考慮して溢水量を求めることができる。（付録B参照）</p> <p>漏えい停止を運転員等の手動操作に期待する場合にあたっては、保安規定又はその下位規定にその手順が明確にされていること。</p> <p>解説-2. 1. 1-1 流体を内包する容器の破損による漏水について</p> <p>容器の破損による溢水については、接続される配管の破損による溢水の評価に代表する。</p> <p>解説-2. 1. 1-2 低エネルギー配管に想定する貫通クラック</p> <p>本評価ガイドでは、低エネルギー配管について貫通クラックを想定することを原則としている。これは、低エネルギー配管については、配管に破損が生じたとしても、低温低圧で使用されるため配管応力は小さく、また、負荷変動の少ない運転形態のため応力の変動も少なく疲労によるき裂の進展は小さいことから、(1/2)D×(1/2)tクラックを想定すれば保守的な評価となるという考え方に基づいている。この考え方は、米国NRCのBTP 3-4を参考としている。</p> <p>また、低エネルギー配管に想定する貫通クラックの計算に用いる配管径は、内径としている。</p> <p>これは、技術基準第40条（廃棄物貯蔵設備等）の解釈4において廃棄物貯蔵設備に設置する堰の高さを求める計算において内径寸法を基準としていること、また、米国の配管破損の想定においても内径を使用して貫通クラックの計算を行っていることから、これらとの整合を図ったものである。</p>		<p>時冷却系配管）に附属書Aの想定破損除外を適用した。</p> <p>また、溢水量は、溢水の検知による隔離（自動隔離及び手動隔離）を考慮し、漏えい停止までの時間を考慮して算定した。</p> <p>なお、運転員の手動操作による漏えい停止（溢水発生箇所の隔離）については、保安規定に基づく規定文書として制定する「内部溢水対応要領書（仮称）」に、運転員の隔離操作について明記する。</p>	<p>水ストレートナ室に設置される低エネルギー配管）に附属書Aの想定破損除外を適用した。</p> <p>また、溢水量は、溢水の検知による隔離（自動隔離及び手動隔離）を考慮し、漏えい停止までの時間を考慮して算定した。</p> <p>なお、運転員の手動操作による漏えい停止（溢水発生箇所の隔離）については、保安規定「内部溢水対応要領（仮称）」に、運転員の隔離操作について明記する。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>解説-2. 1. 1-3 「過去の事例等」</p> <p>米国においては、循環水系の弁急閉によるウォーターハンマー事象により伸縮継手部から大漏えいが発生した事例があるが、国内において大漏えいは発生していない。</p> <p>このため、循環水管の伸縮継手部の破損想定にあたっては、循環水系バタフライ弁急閉防止対策等の適切な対策が採られていれば、破損形状は低エネルギー配管と同様貫通クラックを想定することができる。</p> <p>2. 1. 2 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置される設備からの放水による溢水</p> <p>(1) 火災時に考慮する消火水系からの放水による溢水</p> <p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p> <p>溢水防護区画に自動作動するスプリンクラーが設置される場合は、その作動（誤作動を含む）による放水を想定する。</p> <p>また、溢水防護区画にスプリンクラーが設置されていない場合であっても、溢水防護区画外のスプリンクラーの作動によって、溢水防護区画に消火水が流入する可能性がある場合は、その作動による溢水を考慮する。溢水量は、スプリンクラーの作動時間を考慮して算出する。</p> <p>なお、スプリンクラーの作動による溢水は、複数区画での同時放水が想定される場合には、そのすべての区画での放水を想定する。</p>	<p>2.1.2 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置されている設備からの放水による溢水</p> <p>(1)火災時に考慮する消火水系からの放水による溢水</p> <p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p> <p>防護対象設備に設置されている建屋に自動起動及び手動起動するスプリンクラーを設置していることから、その起動による放水を想定して評価する。</p> <p>また、溢水防護区画外のスプリンクラーが起動し、溢水防護区画に消火水が流入する可能性も考慮しても、防護対象設備の機能に影響を与えるものでないことを確認する。溢水量は、火災防護において設計上考慮する放水流量、放水時間及びスプリンクラー設置個数を考慮して算出している。</p> <p>なお、以下の設計により、複数区画でのスプリンクラーからの同時放水は想定しない。</p> <p>○地震時に火災源になるおそれがあるB、Cクラス機器（油内包機器及び電気盤）について、火災の発生防止対策を講じる設計としている。</p> <p>具体的には、油内包機器について、基準地震動Ssによる地震力に対して、当該機器が損壊し内包している油が外部へ漏えいしないことを確認し、その結果、損壊する機器に対しては、損</p>	<p>2. 1. 2 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置される設備からの放水による溢水</p> <p>(1) 火災時に考慮する消火水系からの放水による溢水</p> <p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p> <p>女川2号炉においては、防護対象設備が設置されている建屋に自動作動するスプリンクラーは設置されていないことから、これによる放水は想定していない。</p>	<p>2. 1. 2 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置されている設備からの放水による溢水</p> <p>(1) 火災時に考慮する消火水系からの放水による溢水</p> <p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p> <p>泊発電所3号炉においては、防護対象設備が設置されている建屋に自動作動するスプリンクラーは設置されていないことから、これによる放水は想定していない。</p>	<p>【大飯】  <u>設計方針の相違</u>                  大飯にはスプリンクラーが設置されているのに対し、泊及び女川には自動作動するスプリンクラーは設置されていない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>壊れないような改良、もしくはガス式消火装置を設置する設計としている。電気盤については、火災の発生に備えて、ハロンガス消火装置、もしくは盤内にエアロゾル消火装置を設置し、早期に自動消火できる設計としている。</p> <p>○高エネルギー配管破損時の誤動作を防止するため、スプリンクラーヘッドの開放温度は、高エネルギー配管破損時の室内温度の評価値を上回る設計としている。</p> <p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p> <p>溢水防護区画での火災発生時に、消火栓による消火活動が想定される場合については、消火活動にともなう放水を想定する。</p> <p>また、溢水防護区画で消火活動が想定されていない場合であっても、溢水防護区画外の消火活動によって影響を受ける場合は、その放水による溢水を考慮する。</p> <p>溢水量は、消火栓による消火活動が連続して実施されることを見込み算定する。（解説－2. 1. 2－1）</p> <p>ただし、火災源が小さい場合は、火災荷重に基づく等価時間により算定することができる。（解説－2. 1. 2－1）</p> <p>なお、当該区画にスプリンクラーが設置され、スプリンクラー装置の作動による溢水がある場合は、スプリンクラーからの放水量を溢水量とする。それ以外の場所においては、消火栓からの放水量を溢水量とする。</p> <p>解説－2. 1. 2－1 「消火栓からの溢水量」算出の例</p> <p>消火栓からの溢水量の算出にあたっては、原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）の解説－4－9「耐火壁」には2時間の耐火性能と記載されているが、「実用発電用原子炉及びそ</p>	<p>壊れないような改良、もしくはガス式消火装置を設置する設計としている。電気盤については、火災の発生に備えて、ハロンガス消火装置、もしくは盤内にエアロゾル消火装置を設置し、早期に自動消火できる設計としている。</p> <p>○高エネルギー配管破損時の誤動作を防止するため、スプリンクラーヘッドの開放温度は、高エネルギー配管破損時の室内温度の評価値を上回る設計としている。</p> <p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p> <p>建屋内での消火栓による消火活動を想定し、消火活動が連続して実施される時間を見込んで溢水量を算出している。</p> <p>具体的には原則として3時間の消火活動を想定して溢水量を算出するが、火災源が小さいエリアについては、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）」解説-4-5(1)の規定による「火災荷重」及び「等価火災時間」を考慮し算出している。</p> <p>なお、消火活動における消火栓からのホース引き回し経路から、扉の開放が想定される場合には、隣接エリアについても滞留エリアとして考慮して評価している。</p>	<p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p> <p>火災発生時に消火栓による消火活動が想定される区画における放水を想定し、放水箇所を起点とした溢水の伝播についても考慮した評価を実施した。</p> <p>溢水量は、建屋内での消火栓による消火活動を想定し、消火活動が連続して実施される時間(3時間)を見込んで算定した。</p> <p>なお、放水量は、実放水試験の結果に保守性を加味して放水量を設定した。</p>	<p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p> <p>火災発生時に消火栓による消火活動が想定される区画における放水を想定し、放水箇所を起点とした溢水の伝播についても考慮した評価を実施した。</p> <p>溢水量は、建屋内での消火栓による消火活動を想定し、消火活動が連続して実施される時間を見込んで算定した。</p> <p>具体的には原則として3時間の消火活動を想定して溢水量を算出するが、火災源が小さいエリアについては、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）」解説-4-5(1)の規定による「火災荷重」及び「等価時間」を考慮し算出した。</p> <p>なお、放水量は、実放水試験の結果に保守性を加味して放水量を設定した。</p> <p>また、消火活動における消火栓からのホース引き回し経路から、扉の開放が想定される場合には、隣接エリアについても滞留エリアとして考慮して評価した。</p>	<p>設計方針の相違</p> <p>女川は消火栓からの放水量は一律3時間の放水を想定しているのに対し、泊はガイドの規定に則り、火災源が小さいエリアについては火災荷重及び「等価時間」を考慮して放水量を算出している。（大阪と同様）</p> <p>記載方針の相違</p> <p>大阪審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>の附属施設の火災防護規定に係る審査基準」に規定する3時間の耐火性能を基本とすることとし、消火装置が作動する時間を保守的に3時間と想定して溢水量を算定する。火災源が小さい場合は、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）」解説4-9(1)の規定による「火災荷重」及び「等価時間」で算出することができる。また、水を使用しない消火手段を組み合わせている場合には、それを考慮して消火栓からの溢水量を算定して良い。</p> <p><b>(2) 高エネルギー配管破損とスプリンクラーからの放水が同時に発生する溢水</b>                      溢水防護区画に自動作動するスプリンクラーと高エネルギー配管が存在する場合については、火災を検知して作動するスプリンクラーからの放水と高エネルギー配管破損による溢水を合わせて想定する。なお、火災の検知システム及びスプリンクラーの作動方式から、高エネルギー配管の破損によってもスプリンクラーが作動しないことの根拠と妥当性が示される場合は、高エネルギー配管破損とスプリンクラーからの放水による溢水を合わせて想定しないとしても良い。</p> <p>スプリンクラーの作動による溢水量は、項目(1)に従い算出する。また、高エネルギー配管からの溢水量は、項目2. 1. 1に従い算出する。</p> <p><b>(3) 原子炉格納容器スプレイ系統からの放水による溢水</b>                      原子炉格納容器スプレイ系統が機器の動作等（誤動作も含む）により放出されるスプレイ水を想定する。</p> <p>溢水量は、全ての原子炉格納容器スプレイポンプが作動し定格のスプレイ流量が放出され、運転員がポンプ停止操作を完了するまでの時間に放出される量とする。</p>	<p>(2)高エネルギー配管破損とスプリンクラーからの放水が同時に発生する溢水</p> <p><b>溢水防護区画に自動起動するスプリンクラーと高エネルギー配管が存在するが、高エネルギー配管破断時の環境温度よりも高い作動温度のスプリンクラーヘッドを適用することで高エネルギー配管の破損によってもスプリンクラーが誤って動作しないため、高エネルギー配管破断とスプリンクラーからの放水による溢水を合わせて想定していない。</b></p> <p>(3) 原子炉格納容器スプレイ系統からの放水による溢水</p> <p><b>格納容器スプレイ系は単一故障による誤動作が発生しないよう設計上考慮されている。また、原子炉格納容器内の防護対象設備は耐環境性仕様となっていることから、溢水による影響を受けることはない。</b></p> <p>具体的には原子炉格納容器圧力異常高の「2 out of 4」信号による自動作動又は中央制御盤</p>	<p>(2) 高エネルギー配管破損とスプリンクラーからの放水が同時に発生する溢水</p> <p><b>女川2号炉</b>においては、防護対象設備が設置されている建屋にスプリンクラーは設置されていないことから、高エネルギー配管の破損による溢水とスプリンクラーからの放水の同時発生は想定していない。</p> <p>(3) 原子炉格納容器スプレイ系統からの放水による溢水</p> <p>原子炉格納容器スプレイ系は<b>手動起動のため、自動起動信号による誤動作は想定不要である。</b></p>	<p>(2) 高エネルギー配管破損とスプリンクラーからの放水が同時に発生する溢水</p> <p><b>泊発電所3号炉</b>においては、防護対象設備が設置されている建屋にスプリンクラーは設置されていないことから、高エネルギー配管の破損による溢水とスプリンクラーからの放水の同時発生は想定していない。</p> <p>(3) 原子炉格納容器スプレイ系統からの放水による溢水</p> <p>原子炉格納容器スプレイ系統は<b>単一故障による誤動作が発生しないよう設計上考慮されているため、誤動作は想定不要である。</b>具体的には原子炉格納容器圧力異常高の「2 out of 4」信号による自動作動又は中央制御盤上のスイッチ2個を同時に操作することによる手動作動とする設計としている。</p>	<p><b>【大阪】</b>  <u>設計方針の相違</u>                      大阪にはスプリンクラーが設置されているのに対し、泊及び女川には自動作動するスプリンクラーは設置されていない。</p> <p><u>設計方針の相違</u>                      格納容器スプレイ系統について、女川は手動起動であるのに対し、泊は原子炉格納容器圧力異常高の「2 out of 4」信号による自動作動又は中央制御盤上のスイッチ2個を同時に操作することによる手動作動とする設計としている。（大阪と同様）</p> <p><b>【大阪】</b>  <u>記載方針の相違</u>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>ただし、誤動作に対しては、原子炉格納容器スプレイ系統において誤動作が発生しないようにインターロック等の対策が講じられていれば、スプレイ水による溢水を考慮しないことができる。</p> <p>2. 1. 3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>流体を内包する機器（配管、容器）のうち、基準地震動による地震力によって、破損が生じるとされる機器について、破損を想定する。</p> <p>基準地震動によって破損し漏水が生じる機器とは、基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイドにおいて、耐震設計上の重要度分類B、Cクラスに分類される機器（以下、「B、Cクラス機器」という。）とする。</p> <p>ただし、B、Cクラス機器であっても、基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されるものについては、漏水を考慮しないことができる。（解説－2. 1. 3－1）</p> <p>漏水が生じるとした機器のうち、防護対象設備への溢水の影響が最も大きくなる位置で漏水が生じるものとする。</p> <p>溢水量は、以下を考慮して求める。</p> <p>①配管の場合は、完全全周破断とし、系統の全保有水量が漏えいするものとする。なお、配管の高さや引き回し等の関係から保有水量の流出範囲が明確に示せる場合は、その範囲の保有水量を放出するものとして溢水量を算出できる。</p> <p>ただし、循環水管に破損を想定する場合は、循環水管の構造強度を考慮して、伸縮継手部が全円周状に破損するものとして溢水量を求めること</p>	<p>上のスイッチ2個を同時に操作することによる手動作動とする設計とする。</p> <p>2.1.3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>耐震Sクラスの機器については、基準地震動による地震力によって破損が生じないことから溢水源として想定しない。</p> <p>また、耐震B、Cクラスの機器のうち、耐震Sクラスの機器と同様に基準地震動<math>S_s</math>による地震力に対して耐震強度評価により耐震性が確保されるもの（水位制限によるものを含む。）、又は耐震対策工事により耐震性を確保するものは溢水源としない。</p> <p>耐震B、Cクラスの機器が、耐震性を確保する耐震B、Cクラスの機器に対して、波及的影響を及ぼさないことを確認する方針とする。</p> <p>溢水量は、以下を考慮して求める。</p> <p>①配管の場合は、原則、配管の高さ、引き回し等を考慮せず、完全全周破断とし、系統の全保有水量が漏えいするものとする。また、循環水管の破損を想定する場合は、耐震強度を考慮して伸縮継手部が全円周状に破損するものとして溢水量を求める。</p> <p>②容器の場合は、容器内保有水の全量流出を想定する。</p>	<p>また、原子炉格納容器に設置されている重要度の特に高い安全機能を有する機器は、格納容器スプレイ系の作動が要求される事故時の環境を考慮した設計がなされていることから、原子炉格納容器スプレイ系統からの放水による溢水の影響はないため、これによる溢水は想定しない。</p> <p>2. 1. 3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>耐震Sクラスの機器については、基準地震動による地震力によって破損が生じないことから、溢水源として想定しない。</p> <p>また、耐震B、Cクラスの機器のうち、耐震Sクラスの機器と同様に基準地震動<math>S_s</math>による地震力に対して構造強度評価により耐震性が確保されるもの、又は耐震対策工事により耐震性を確保するものは溢水源としない。</p> <p>基準地震動<math>S_s</math>によって破損し漏水が生じるとした機器については、防護対象設備への溢水の影響が最も大きくなる位置で漏水が生じるものとした。</p> <p>溢水量の算出に当たっては、以下を考慮した。</p> <p>・配管の場合は、完全全周破断とし、系統の全保有水量が漏えいするものとした。</p> <p>・循環水系配管については、伸縮継手部が全円周状に破損するものとした。</p>	<p>また、原子炉格納容器に設置されている重要度の特に高い安全機能を有する機器は、原子炉格納容器スプレイ系統の作動が要求される事故時の環境を考慮した設計がなされていることから、原子炉格納容器スプレイ系統からの放水による溢水の影響はないため、これによる溢水は想定しない。</p> <p>2. 1. 3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>耐震Sクラスの機器については、基準地震動による地震力によって破損が生じないことから、溢水源として想定しない。</p> <p>また、耐震B、Cクラスの機器のうち、耐震Sクラスの機器と同様に基準地震動による地震力に対して構造強度評価により耐震性が確保されるもの、又は耐震対策工事により耐震性を確保するものは溢水源としない。</p> <p>基準地震動によって破損し漏水が生じるとした機器については、防護対象設備への溢水の影響が最も大きくなる位置で漏水が生じるものとした。</p> <p>溢水量の算出に当たっては、以下を考慮した。</p> <p>・配管の場合は、完全全周破断とし、系統の全保有水量が漏えいするものとした。</p> <p>・容器の場合は、容器内保有水の全量が流出するものとした。</p> <p>・循環水系配管については、伸縮継手部が全円周状に破損するものとした。</p>	<p>相違理由</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川審査実績の反映</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a>                  泊は地震時の溢水源としている容器についても記載している。（大阪と同様）</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載箇所の相違</a></p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>ができる。</p> <p>②容器の場合は、容器内保有水の全量流出を想定する。</p> <p>③漏えいを検出する機能が設置され、自動又は手動操作によって、漏えいを停止させることができる場合は、この機能を考慮することができる。</p> <p>漏えい停止機能に期待する場合は、停止までの適切な時間を考慮して溢水量を求めることができる（付録B参照）。ただし、地震時において漏えいを自動で停止させる場合には、自動で作動する機器、信号などが地震時においても機能喪失しないことが示されていなければならない。</p> <p>また、手動で停止させる場合には、停止までの操作時間が地震時においても妥当であることが示されていなければならない。</p> <p>漏えい停止を運転員等の手動操作に期待する場合にあたっては、保安規定又はその下部規定にその手順が明確にされていなければならない。</p> <p>解説-2. 1. 3-1 「B, Cクラス機器であっても、基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されるもの」について</p> <p>基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されるものとは、製作上の裕度等を考慮することにより、基準地震動による地震力に対して耐震性を有すると評価できるものをいう。</p> <p>(2) 使用済燃料貯蔵プールのスロッシングによる溢水</p> <p>使用済燃料貯蔵プール水が基準地震動による地震力によって生じるスロッシングによってプール外へ漏水する可能性がある場合は、溢水源として想定する。</p>	<p>③漏えいを検出する機能が設置され、手動操作によって、漏えいを停止させることができる循環水管、廃液蒸発装置等については、地震発生から停止までの操作時間を考慮して溢水量を評価する。また、運転操作手順については保安規定の下位規定にその手順を明確にする。</p> <p>(2) 使用済燃料貯蔵プールのスロッシングによる溢水</p> <p>基準地震動による使用済燃料ピットのスロッシング評価を行い、使用済燃料ピットからの溢水量を評価している。なお、使用済燃料ピットの、初期水位をピット水位高警報設定値(H.W.L.)として保守的となる条件で評価する。</p>	<p>・漏えい検知による自動隔離機能を有する場合を除き、隔離による漏えいの停止は期待しない。</p> <p>(2) 使用済燃料プールのスロッシングによる溢水</p> <p>基準地震動 Ss による使用済燃料プールのスロッシング評価を行い、使用済燃料プールからの溢水量を評価した。</p>	<p>・漏えいを検出する機能が設置され、手動操作によって、漏えいを停止させることができる機器については、地震発生から停止までの操作時間を考慮して溢水量を評価する。また、運転操作手順については保安規定の下位規定にその手順を明確にする。</p> <p>(2) 使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水</p> <p>基準地震動による使用済燃料ピットのスロッシング評価を行い、使用済燃料ピットからの溢水量を評価した。</p>	<p>設計方針の相違</p> <p>女川は地震起因による溢水の漏えい停止において、自動隔離機能のみに期待しているのに対し、泊は手動操作による漏えい停止を実施することから、漏えい検知から隔離操作完了までの時間を保守的に設定し、溢水量を算出している。(大阪と同様)</p> <p>【大阪】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>2. 2 溢水影響評価</b></p> <p><b>2. 2. 1 安全設備に対する溢水影響評価</b></p> <p>溢水に対する原子炉施設の安全確保の考え方は、以下のとおりとする。</p> <p>溢水の影響評価にあたっては、発電所内で発生した溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を失わないこと（多重性または多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）を確認する。</p> <p>溢水により原子炉に外乱が及び、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合には、その影響（溢水）を考慮し、安全評価指針に基づき安全解析を行う必要がある。</p> <p>また、中央制御室及び現場操作が必要な設備については、溢水の影響により接近の可能性が失われないことも評価対象とする。</p> <p><b>2. 2. 2 溢水から防護すべき対象設備</b></p> <p>2. 1項の溢水源及び溢水量の想定にあたっては発生要因別に分類したが、溢水から防護すべき対象設備は、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象設備とする。</p>	<p>2.2 溢水影響評価</p> <p>2.2.1 安全設備に対する溢水影響評価</p> <p>溢水の影響評価に当たっては、算出した溢水量により重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を失わないこと（多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）を確認している。</p> <p>溢水評価において、現場操作が必要な設備に対しては、必要に応じて環境の温度、放射線量、薬品等による影響を考慮しても運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認している。</p> <p>2.2.2 溢水から防護すべき対象設備</p> <p>重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を適切に維持するために必要な設備を抽出し防護対象設備とする。</p>	<p>2. 2 溢水影響評価</p> <p>2. 2. 1 安全設備に対する溢水影響評価</p> <p>溢水の影響評価に当たっては、発電所内で発生した溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を失わないこと（多重化又は多様化された系統が同時にその機能を失わないこと）を確認した。</p> <p>原子炉に外乱が及び、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合は、当該事象への対処系統についても、その安全機能を失わないことを確認した。</p> <p>溢水評価において、中央制御室は溢水防護区画として溢水の影響がないことを確認しており、現場操作が必要な設備に対しては、環境の温度及び放射線量並びに薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。</p> <p>2. 2. 2 溢水から防護すべき対象設備</p> <p>溢水防護上必要な機能を有する系統として、安全機能を有する構築物、系統及び機器の中から、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止、及び放射性物質の閉じ込め機能を維持するため、また停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持するために必要となる、「重要度分類審査指針」における分類でクラス1及び2に属する構築物、系統及び機器に加え、安全評価上その機能を期待するクラス3に属する構築物、系統及び機器を抽出した。</p> <p>その上で、「重要度の特に高い安全機能を有する系統」として、「重要度分類審査指針」及び「設置許可基準規則」第十二条を参照の上、該当する系統を抽出し、その安全機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象として選定した。</p>	<p>2. 2 溢水影響評価</p> <p>2. 2. 1 安全設備に対する溢水影響評価</p> <p>溢水の影響評価に当たっては、発電所内で発生した溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を失わないこと（多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）を確認した。</p> <p>原子炉に外乱が及び、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合は、当該事象への対処系統についても、その安全機能を失わないことを確認した。</p> <p>溢水評価において、中央制御室は溢水防護区画として溢水の影響がないことを確認しており、現場操作が必要な設備に対しては、環境の温度及び放射線量並びに薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。</p> <p>2. 2. 2 溢水から防護すべき対象設備</p> <p>溢水防護上必要な機能を有する系統として、安全機能を有する構築物、系統及び機器の中から、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止及び放射性物質の閉じ込め機能を維持するため、また停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持するために必要となる、「重要度分類審査指針」における分類でクラス1及び2に属する構築物、系統及び機器に加え、安全評価上その機能を期待するクラス3に属する構築物、系統及び機器を抽出した。</p> <p>その上で、「重要度の特に高い安全機能を有する系統」として、「重要度分類審査指針」及び「設置許可基準規則」第十二条を参照の上、該当する系統を抽出し、その安全機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象として選定した。</p>	<p>【大阪】                  記載方針の相違                  女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>画の水位が最も高くなるように当該溢水区画から他区画への流出がないように溢水経路を設定する。</p> <p>評価を行う場合の各構成要素の溢水に対する考え方を以下に示す。</p> <p>(a) 床ドレン</p> <p>評価対象区画に床ドレン配管が設置され他の区画とつながっている場合であっても、目皿が1つの場合は、他の区画への流出は想定しないものとする。</p> <p>ただし、同一区画に目皿が複数ある場合は、流出量の最も大きい床ドレン配管1本からの流出は期待できないものとする。この場合には、床ドレン配管における単位時間あたりの流出量を算出し、溢水水位を評価すること。</p> <p>(b) 床面開口部及び床貫通部</p> <p>評価対象区画床面に床開口部又は貫通部が設置されている場合であっても、床面開口部又は床貫通部から他の区画への流出は、考慮しないものとする。ただし、以下に掲げる場合は、評価対象区画から他の区画への流出を期待することができる。</p> <p>流出を期待する場合は、床開口部及び床貫通部における単位時間あたりの流出量を算出し、溢水水位を評価すること。</p> <p>①評価対象区画の床貫通部にあっては、貫通する配管、ダクト、ケーブルトレイ又は電線管と貫通部との間に隙間があって、明らかに流出が期待できることを定量的に確認できる場合</p> <p>②評価対象区画の床面開口部にあっては、明らかに流出が期待できることを定量的に確認できる場合</p> <p>(c) 壁貫通部</p> <p>評価対象区画の境界壁に貫通部が設置され、隣との区画の貫通部が溢水による水位より低い位置にある場合であっても、その貫通部からの流出は考慮しないものとする。</p>	<p>の水位が最も高くなるように当該溢水区画から他区画への流出がないように溢水経路を設定している。</p> <p>(a) 床ドレン</p> <p><b>溢水防護</b>区画に床ドレン配管が設置され他の区画とつながっている場合であっても、他の区画への流出は想定<b>していない</b>。</p> <p>(b) 床面開口部及び床貫通部</p> <p><b>溢水防護</b>区画床面に床面開口部又は床貫通部が設置されている場合であっても、<b>床面開口部又は床貫通部</b>から他の区画への流出は<b>考慮しない</b>。ただし、明らかに流出が期待できることを<b>定量的に確認できる場合は溢水防護区画から他の区画への流出を考慮する</b>。</p> <p>(c) 壁貫通部</p> <p><b>溢水防護</b>区画の境界壁の貫通部が溢水による水位より低い位置にある場合であっても、その貫通部からの流出は考慮しない。</p>	<p>画の水位が最も高くなるように、当該溢水区画から他区画への流出がないように溢水経路を設定した。</p> <p>(a) 床ドレン</p> <p>評価対象区画に床ドレン配管が設置され、他の区画とつながっている場合であっても、他の区画への流出は想定しないものとした。</p> <p><b>ただし、同一区画に目皿が複数ある場合は、一部、床ドレン一箇所の閉塞を考慮した上で、他の床ドレン配管からの単位時間あたりの流出を考慮し、溢水水位を評価した。</b></p> <p>(b) 床面開口部及び床貫通部</p> <p>評価対象区画床面に床面開口部又は、床貫通部が設置されている場合であっても、他の区画への流出は、定量的に流出が評価できる<b>機器搬入用のハッチ等</b>以外は考慮しないものとした。</p> <p>(c) 壁貫通部</p> <p>評価対象区画の境界壁に貫通部が設置され、貫通部が溢水による水位より低い位置にある場合であっても、その貫通部からの流出は考慮しないものとした。</p>	<p>画の水位が最も高くなるように、当該溢水区画から他区画への流出がないように溢水経路を設定した。</p> <p>(a) 床ドレン</p> <p>評価対象区画に床ドレン配管が設置され、他の区画とつながっている場合であっても、他の区画への流出は想定しないものとした。</p> <p>(b) 床面開口部及び床貫通部</p> <p>評価対象区画床面に床面開口又は床貫通部が設置されている場合であっても、他の区画への流出は、定量的に流出が評価できる<b>床開口</b>以外は考慮しないものとした。</p> <p>(c) 壁貫通部</p> <p>評価対象区画の境界壁に貫通部が設置され、貫通部が溢水による水位より低い位置にある場合であっても、その貫通部からの流出は考慮しないものとした。</p>	<p><b>設計方針の相違</b></p> <p>・女川は、溢水評価において床ドレンラインに期待しているのに対し、泊は同一区画内に床ドレンラインが複数ある場合でも、評価の保守性を大きくとる観点から目皿による溢水の流出は考慮していない。</p> <p><b>記載方針の相違</b></p> <p>女川は機器ハッチの他にも床ドレン等からの定量的な溢水流出を考慮しているのに対し、泊は床開口以外には期待していないことから、「等」は記載してない。</p> <p><b>【大飯】</b></p> <p><b>記載方針の相違</b></p> <p>女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>ただし、当該壁貫通部を貫通する配管、ダクト、ケーブルトレイ又は電線管と貫通部との間に隙間があって、明らかに流出が期待できることを定量的に確認できる場合は、他の区画への流出を考慮することができる。</p> <p>流出を期待する場合は、壁貫通部における単位時間あたりの流出量を算出し、溢水水位を評価すること</p> <p>(d) 扉 評価対象区画に扉が設置されている場合であっても、当該扉から隣室への流出は考慮しないものとする。</p> <p>(e) 排水設備 評価対象区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しないものとする。ただし、溢水防止対策として排水設備を設置することが設計上考慮されており、工事計画の認可を受ける等明らかに排水が期待できることを定量的に確認できる場合には、当該区画からの排水を考慮することができる。</p> <p>b. 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路の評価を行う場合、防護対象機器の存在する溢水防護区画の水位が最も高く（当該溢水区画に流出する水量は多く、排出する流量は少なくなるように設定）なるように溢水経路を設定する。</p> <p>評価を行う場合の各構成要素の溢水に対する考え方を以下に示す。</p> <p>(a) 床ドレン 評価対象区画の床ドレン配管が他の区画とつながっている場合であって、他の区画の溢水水位が評価対象区画より高い場合は、水位差によって発生する流入量を考慮する。</p>	<p>(d) 扉 溢水防護区画に扉が設置されている場合であっても、当該扉から隣室への流出は考慮しない。</p> <p>(e) 排水設備 溢水防護区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しない。</p> <p>b. 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路の評価を行う場合、防護対象設備の存在する溢水防護区画の水位が最も高くなるように溢水経路を設定している。</p> <p>(a) 床ドレン 溢水防護区画の床ドレン配管が他の区画とつながっている場合は、水位差による流入量を考慮している。</p>	<p>(d) 扉 評価対象区画に扉が設置されている場合であっても、他の区画への流出は、定量的に流出が評価できる常時開放扉等以外は考慮しないものとした。</p> <p>(e) 排水設備 評価対象区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しないものとした。</p> <p>b. 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路の評価を行う場合、防護対象機器の存在する溢水防護区画の水位が最も高く（当該溢水区画に流出する水量は多く、排出する流量は少なくなるように設定）なるように溢水経路を設定した。</p> <p>(a) 床ドレン 最下階の評価対象区画の床ドレン配管が他の区画とつながっている場合であって、他の区画の溢水水位が評価対象区画より高い場合は、水位差によって発生する流入量を考慮した。</p>	<p>(d) 扉 評価対象区画に扉が設置されている場合であっても、当該扉から隣室への流出は考慮しない。</p> <p>(e) 排水設備 評価対象区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しないものとした。</p> <p>b. 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路の評価を行う場合、防護対象設備の存在する溢水防護区画の水位が最も高く（当該溢水区画に流出する水量は多く、排出する流量は少なくなるように設定）なるように溢水経路を設定した。</p> <p>(a) 床ドレン 評価対象区画の床ドレン配管が他の区画とつながっている場合であって、他の区画の溢水水位が評価対象区画より高い場合は、水位差による流入量を考慮した。</p>	<p>設計方針の相違 女川は常時開放扉等、定量的に流出が評価できる扉は溢水評価で考慮しているが、泊は扉からの流出は期待していない。</p> <p>記載方針の相違 泊は最下階に限らず同様の方針としていることから、最下階とは記載していない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>ただし、評価対象区画内に設置されている床ドレン配管に逆流防止弁が設置されている場合は、その効果を考慮することができる。</p> <p>(b) 天井面開口部及び貫通部                      評価対象区画の天井面に開口部又は貫通部がある場合は、上部の区画で発生した溢水量の全量が流入するものとする。                      ただし、天井面開口部が鋼製又はコンクリート製の蓋で覆われたハッチに防水処理が施されている場合又は天井面貫通部に密封処理等の流出防止対策が施されている場合は、評価対象区画への流入は考慮しないことができる。                      なお、評価対象区画上部にある他の区画に蓄積された溢水が、当該区画に残留すると評価できる場合は、その残留水の流出は考慮しなくてもよい。</p> <p>(c) 壁貫通部                      評価対象区画の境界壁に貫通部が設置されている場合であって、隣の区画の溢水による水位が貫通部より高い位置にある場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮する。                      ただし、評価対象区画の境界壁に貫通部に密封処理等の流出防止対策が施されている場合は、評価対象区画への流入は考慮しないことができる。</p> <p>(d) 扉                      評価対象区画に扉が設置されている場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮する。当該扉が水密扉である場合は、流入を考慮しないことができる。ただし、水密扉は、溢水時に想定される水位により発生する水圧に対し水密性が確保でき、その水圧に耐えられる強度を有している場合に限る。</p>	<p>ただし、<b>溢水防護</b>区画内に設置されているドレン配管に逆止弁が設置されている場合は、その効果を考慮<b>している</b>。</p> <p>(b) 天井面開口部及び貫通部  <b>溢水防護</b>区画の天井面に開口部又は貫通部がある場合は、上部の区画で発生した溢水量の全量が流入するものとして<b>いる</b>。                      ただし、開口部又は貫通部に流出防止対策が施されている場合は、溢水防護区画への流入は考慮<b>していない</b>。</p> <p>(c) 壁貫通部  <b>溢水防護</b>区画の境界壁に貫通部が設置されている場合であって、隣の区画の溢水による水位が貫通部より高い位置にある場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮<b>している</b>。</p> <p>(d) 扉  <b>溢水防護</b>区画に扉が設置されている場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮<b>している</b>。  <b>ただし、水密扉については、水圧による水密性の確保でき、その水圧に耐えられる強度を有しており、流入を考慮していない。</b></p>	<p>ただし、評価対象区画内に設置されている床ドレン配管に<b>逆流防止弁</b>が設置されている場合は、その効果を考慮した。</p> <p>(b) 天井面開口部及び貫通部                      評価対象区画の天井面に開口部又は貫通部がある場合は、上部の区画で発生した溢水量の全量が流入するものとした。                      ただし、開口部又は貫通部に流出防止対策が施されている場合は、評価対象区画への流入は考慮<b>していない</b>。</p> <p>(c) 壁貫通部                      評価対象区画の境界壁に貫通部が設置されている場合であって、隣の区画の溢水による水位が貫通部より高い位置にある場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮した。                      ただし、評価対象区画の境界壁に貫通部に密封処理等の流出防止対策が施されている場合は、評価対象区画への流入は考慮<b>していない</b>。</p> <p>(d) 扉                      評価対象区画に扉が設置されている場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮した。                      当該扉が水密扉である場合は、流入を考慮<b>していない</b>。                      なお、水密扉は、溢水時に想定される水位により発生する水圧に対し水密性が確保でき、その水圧に耐えられる強度を有することを確認した。</p>	<p>ただし、評価対象区画内に設置されている床ドレン配管に<b>逆止弁</b>が設置されている場合は、その効果を考慮した。</p> <p>(b) 天井面開口部及び貫通部                      評価対象区画の天井面に開口部又は貫通部がある場合は、上部の区画で発生した溢水量の全量が流入するものとした。                      ただし、開口部又は貫通部に流出防止対策が施されている場合は、評価対象区画への流入は考慮<b>していない</b>。</p> <p>(c) 壁貫通部                      評価対象区画の境界壁に貫通部が設置されている場合であって、隣の区画の溢水による水位が貫通部より高い位置にある場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮した。                      ただし、評価対象区画の境界壁に貫通部に密封処理等の流出防止対策が施されている場合は、評価対象区画への流入は考慮<b>していない</b>。</p> <p>(d) 扉                      評価対象区画に扉が設置されている場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮した。                      当該扉が水密扉である場合は、流入を考慮<b>していない</b>。                      なお、水密扉は、溢水時に想定される水位により発生する水圧に対し水密性が確保でき、その水圧に耐えられる強度を有することを確認した。</p>	<p><a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設備名称の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>  <a href="#">女川審査実績の反映</a></p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大坂発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(e) 堰                      溢水が発生している区画に堰が設置されている場合であって、他に流出経路が存在しない場合は、当該区画で発生した溢水は堰の高さまで蓄積されるものとする。</p> <p>(f) 排水設備                      評価対象区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しないものとする。ただし、溢水防止対策として排水設備を設置することが設計上考慮されており、工事計画の認可を受けている等明らかに排水が期待できることを定量的に確認できる場合には、当該区画からの排水を考慮することができる。</p> <p>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算定                      溢水防護区画の評価で没水、被水評価の対象区画の分類例を図-2に示す。また、溢水防護区画の評価で蒸気評価の対象区画の分類例を図-3に示す。各項目の算定方法を以下に示す。</p> <p>a. 没水評価に用いる水位の算出方法                      影響評価に用いる水位の算出は、漏えい発生階とその経路上の評価対象区画の全てに対して行う。                      水位：Hは、下式に基づいて算出する。  <math display="block">H=Q/A</math>                     ただし、各項目は以下とする。                      Q：流入量(m<sup>3</sup>)                      「2. 1 溢水源及び溢水量の想定」で想定した溢水量に基づき、「2. 2. 4 (1) 溢水経路の設定」の溢水経路の評価に基づき評価対象区画への流入量を算出する。                      A：滞留面積 (m<sup>2</sup>)                      評価対象区画内と溢水経路に存在する区画の</p>	<p>(e) 堰                      溢水が発生している区画に堰が設置され、他に流出経路が存在しない場合は、当該区画で発生した溢水は堰の高さまで蓄積されるものとしている。</p> <p>(f) 排水設備                      溢水防護区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しない。</p> <p>c. 溢水伝播                      上層階の溢水は階段あるいは機器ハッチを経由して下層階へ伝播する。下層階への伝播については、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が流入するものとする。</p> <p>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算定</p> <p>a. 没水評価に用いる水位の算出方法                      影響評価に用いる水位の算出は、漏えい発生階とその経路上の溢水防護区画のすべてに対して行っている。                      水位：Hは、下式に基づいて算出する。  <math display="block">H=Q/A</math>                     Q：流入量(m<sup>3</sup>)                      A：滞留面積(m<sup>2</sup>)                      滞留面積は、コンクリート基礎等の範囲を除く有効面積を滞留面積として評価している。</p>	<p>(e) 堰                      溢水が発生している区画に堰が設置されている場合であって、他に流出経路が存在しない場合は、当該区画で発生した溢水は堰の高さまで蓄積されるものとした。</p> <p>(f) 排水設備                      評価対象区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しないものとした。</p> <p>(g) 溢水伝播                      上層階の溢水は階段あるいは機器ハッチを経由して下層階へ伝播する。下層階への伝播については、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が流入するものとする。</p> <p>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算出</p> <p>a. 没水評価に用いる水位の算出方法                      影響評価に用いる水位の算出は、漏えい発生階とその経路上の評価対象区画のすべてに対して行った。                      水位：Hは、下式に基づいて算出した。  <math display="block">H=Q/A</math>                     Q：流入量(m<sup>3</sup>)                      A：滞留面積(m<sup>2</sup>)                      滞留面積Aは、以下の方針で算出した。                      ①躯体図等を使用し対象区画の面積を算出した結果に、0.7倍した値を使用した。(0.7の係数には、床カーブ、機器基礎、床勾配、機器サポート類が含まれると仮定)                      ②復水器室等、機器の占有面積が明らかに大き</p>	<p>(e) 堰                      溢水が発生している区画に堰が設置されている場合であって、他に流出経路が存在しない場合は、当該区画で発生した溢水は堰の高さまで蓄積されるものとした。</p> <p>(f) 排水設備                      評価対象区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しないものとした。</p> <p>(g) 溢水伝播                      上層階の溢水は階段あるいは機器ハッチを経由して下層階へ伝播する。下層階への伝播については、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が流入するものとする。</p> <p>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算定</p> <p>a. 没水評価に用いる水位の算出方法                      影響評価に用いる水位の算出は、漏えい発生階とその経路上の評価対象区画のすべてに対して行った。                      水位：Hは、下式に基づいて算出した。  <math display="block">H=Q/A</math>                     Q：流入量 (m<sup>3</sup>)                      A：滞留面積 (m<sup>2</sup>)                      滞留面積Aは、以下の方針で算出した。                      躯体図等を使用し対象区画の面積を算出した結果からコンクリート基礎や機器等の欠損面積を差し引くことにより算出した。</p>	<p>記載表現の相違                      泊は評価ガイドと同様の記載としている。</p> <p>設計方針の相違                      ・女川は躯体図等から滞留面積を算出しているのに対し、泊では、滞留面積は区画の全面積から常設機器等の欠損面積を差し引くことで算出している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>総面積を滞留面積として評価する。                      なお、滞留面積は、壁及び床の盛り上がり（コンクリート基礎等）範囲を除く有効面積を滞留面積とする。</p> <p>b. 被水評価に用いる飛散距離の算出方法                      被水評価に用いる飛散距離の算出は、防護対象設備が存在する区画を対象に行う。                      飛散距離：Xは次式を用いて算出する。（図-4）</p> $X = \frac{\tan \phi + \sqrt{\tan^2 \phi + (2gh)/(V^2 \cos^2 \phi)}}{g/(V^2 \cos^2 \phi)}$ <p><math>V = \sqrt{2gP/\gamma}</math>（トリチュリの定理）                      ただし、各項目は以下とする。                      V＝噴出速度(m/s)  <math>\phi</math>＝噴出角度（破損位置や天井への衝突等も考慮し、飛散距離Xが最大となる<math>\phi</math>を採用する）                      H＝破損位置の床上高さ(m)                      g＝重力加速度(m/s<sup>2</sup>)                      P＝管内圧力(Pa)  <math>\gamma</math>＝水の比重量(kg/m<sup>3</sup>)                      なお、上記の式は空気抵抗を考慮していない安全側の評価式であるため、必要に応じて空気抵抗を考慮することができる。この場合、考慮した空気抵抗の値については、使用した値の妥当性を示すこと。</p> <p>c. 蒸気評価に用いる拡散範囲の算出方法                      蒸気評価に用いる拡散範囲は、適切な評価方法を用いて妥当な評価範囲を設定する。                      評価手法を用いて拡散範囲の算出を行わない場合は、保守側に連通した複数の区画全体に蒸気が拡散するものとする。                      ただし、評価方法として、汎用3次元流体ソフトウェア等を用いて拡散範囲を算出する場合には、使用した解析コードの蒸気拡散計算への適用性と評価条件を示すこと。</p>	<p>b. 被水評価に用いる飛散距離の算出方法                      防護対象設備から溢水源となる配管が直視できる場合には、防護対象設備が多重性又は多様性を有し、各々が別区画に設置されていることを確認する。                      被水に対して対策が必要な機器については、必要により保護カバー等による被水防護対策を実施する。</p> <p>c. 蒸気評価に用いる拡散範囲の算出方法                      高エネルギー配管のターミナルエンド部については、完全全周破断を想定した溢水影響評価を実施する。環境への影響が大きいと考えられる蒸気漏えいに関して以下の対策を実施することとしており、また、必要に応じて各対策を組み合わせて対策の最適化を図ったうえで、蒸気の拡散範囲を算出する。                      (1) 蒸気漏えい自動検知、遠隔隔離（自動又は手動）                      (2) 防護カバーの設置</p>	<p>いエリアについては、躯体図等により、詳細に評価した値を使用した。</p> <p>b. 被水評価に用いる飛散距離の算出方法                      防護対象設備が設置されている評価対象区画内に溢水源となり得る配管が存在する場合は、その飛散距離によらず被水評価の対象とした。                      被水に対して対策が必要な機器については、必要により保護カバー等による被水防護対策を実施する。</p> <p>c. 蒸気評価に用いる拡散範囲の算出方法                      蒸気評価の拡散範囲については、保守的に、連通した複数の区画全体に蒸気が拡散するものとした。</p>	<p>b. 被水評価に用いる飛散距離の算出方法                      防護対象設備が設置されている評価対象区画内に溢水源となりうる配管が存在する場合は、その飛散距離によらず被水評価の対象とした。                      被水に対して対策が必要な機器については、必要により保護カバー等による被水防護対策を実施する。</p> <p>c. 蒸気評価に用いる拡散範囲の算出方法                      高エネルギー配管のターミナルエンド部については、完全全周破断を想定した溢水影響評価を実施する。環境への影響が大きいと考えられる蒸気漏えいに関しては、蒸気漏えい自動検知、遠隔隔離（自動又は手動）による対策を実施することとしており、その対策を踏まえ、蒸気の拡散範囲を算出した。</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a>                      泊では熱流体解析コード（GOTHICコード）を用いて実機を模擬した空調条件や解析区画を設定して解析を実施している。（大阪と同様）</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子力発電所内で発生する溢水に対して、防護すべき対象機器が、以下に示す没水、被水及び蒸気の要求を満足しているか確認する。</p> <p>(3) 影響評価</p> <p>原子力発電所内で発生する溢水に対して、防護すべき対象機器が没水、被水及び蒸気の要求を満足していることを確認している。</p> <p>a. 没水による影響評価</p> <p>想定される溢水源に基づいて評価した評価対象区画における最高水位が、2. 2. 2項で選定された防護対象設備の設置位置を超えないことを確認する。</p> <p>また、中央制御室及び現場操作が必要な設備へのアクセス通路にあっては、歩行に影響のない水位（階段堰高さ）であること及び必要に応じて環境の温度、放射線量を考慮しても接近の可能性が失われないことを確認する。</p> <p>上記、設置位置及びアクセス通路の水位が判断基準を超える場合又は環境の温度、放射線により現場操作が必要な設備へ接近できないと判断される場合は、防護対象設備の機能は期待できないものとする。</p> <p>b. 被水による影響評価</p> <p>評価対象区画に設置されている防護対象設備の被水による影響については、以下の項目について確認する。</p> <p>防護対象設備から溢水源となる配管が直視できる場合には、図-5に示す被水の影響評価の考え方に従い確認する。また、溢水源となる配管については、配管径に関係なく、被水による</p>	<p>ターミナルエンド部以外については、ガイドにしたがい応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定する等の影響評価を実施する。</p> <p>(3) 影響評価</p> <p>原子力発電所内で発生する溢水に対して、防護すべき対象機器が没水、被水及び蒸気の要求を満足していることを確認している。</p> <p>a. 没水による影響評価</p> <p>溢水源に基づいて評価した溢水防護区画における最高水位が、防護対象設備の設置位置(機能喪失高さ)を超えないことを確認している。</p> <p>また、溢水影響評価において、現場操作が必要な設備に対しては、必要に応じて環境の温度、放射線量、薬品等による影響を考慮しても運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認している。</p> <p>b. 被水による影響評価</p> <p>溢水源となる配管に対して、防護対象設備が多重性又は多様性を有し、各々が別区画に設置されているか、被水防護措置がなされているか等の観点から対策が必要な設備を抽出し、必要により被水防護対策を実施する。</p>	<p>(3) 影響評価</p> <p>原子力発電所内で発生する溢水に対して、防護すべき対象機器が没水、被水及び蒸気の要求を満足していることを確認した。</p> <p>a. 没水による影響評価</p> <p>溢水源に基づいて評価した評価対象区画における最高水位と防護対象設備の機能喪失高さを比較することにより、当該設備の機能維持の可否を評価している。</p> <p>なお、溢水防護対象設備自身を溢水源として想定する場合は、当該設備は機能喪失するものとした。</p> <p>また、溢水評価において、現場操作が必要な設備に対しては、環境の温度及び放射線量並びに薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。</p> <p>b. 被水による影響評価</p> <p>防護対象設備が設置された評価対象区画内に溢水源となる配管が存在する場合は、ガイドに示す被水の影響評価の考え方に従い、防護対象設備が隔壁等で分離配置されているか、被水に対する保護構造を有したか、などの観点から確認した。また、溢水源となる配管については、配管径に関係なく、被水による影響評価を実施</p>	<p>ターミナルエンド部以外については、ガイドにしたがい応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定する等の影響評価を実施する。</p> <p>(3) 影響評価</p> <p>原子力発電所内で発生する溢水に対して、防護すべき対象機器が没水、被水及び蒸気の要求を満足していることを確認した。</p> <p>a. 没水による影響評価</p> <p>溢水源に基づいて評価した評価対象区画における最高水位と防護対象設備の機能喪失高さを比較することにより、当該設備の機能維持の可否を評価している。</p> <p>なお、溢水防護対象設備自身を溢水源として想定する場合は、当該設備は機能喪失するものとした。</p> <p>また、溢水評価において、現場操作が必要な設備に対しては、環境の温度及び放射線量並びに薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。</p> <p>b. 被水による影響評価</p> <p>防護対象設備が設置された評価対象区画内に溢水源となる配管が存在する場合は、ガイドに示す被水の影響評価の考え方に従い、防護対象設備が隔壁等で分離配置されているか、被水に対する保護構造を有したか等の観点から確認した。また、溢水源となる配管については、配管径に関係なく、被水による影響評価を実施し</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川審査実績の反映</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>影響評価を実施する。（解説2. 2. 4-2）</p> <p>① 評価対象区画に流体を内包する機器が設置されている場合は、防護対象設備に対し被水防護措置がなされていることを確認する。</p> <p>② 評価対象区画に流体を内包する機器が設置されていない場合は、天井面に開口部又は貫通部が存在しないことを確認する。</p> <p>③ 評価対象区画に流体を内包する機器が設置されておらず、かつ、天井面に開口部又は貫通部が存在する場合は、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていることを確認する。</p> <p>④ 評価対象区画に流体を内包する機器が設置されておらず、天井面に開口部又は貫通部が存在し、かつ、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていない場合にあっては、防護対象設備に対し被水防護措置がなされていることを確認する。</p> <p>⑤ ①～④を満足しない場合は、防護対象設備が、防滴仕様であることを確認する。</p> <p>⑥ 中央制御室及び現場操作が必要な設備へのアクセス通路にあっては、必要に応じて環境の温度、放射線量を考慮しても接近の可能性が失われないことを確認する。</p> <p>上記、①～⑥を満足しない場合には、防護対象設備の機能は期待できないものとする。</p> <p>①項の「被水防護措置」とは、障壁による分離、距離による分離及び防水板等による被水防護等をいい、被水防護措置がなされている場合の例を図-6に示す。</p> <p>解説-2. 2. 4-2「被水による影響評価」                  被水による影響評価の対象となる溢水源の考え方は、没水による影響評価における溢水源と同じである。</p> <p>「溢水源となる配管については、配管径に関</p>	<p>した。耐環境仕様でもなく、かつ、防護措置がとられていない機器は、被水防護措置（コーキング処理、カバー等）による水密性の向上対策等を実施する。</p> <p>①評価対象区画に流体を内包する機器が設置されている場合は、防護対象設備に対し被水防護措置がなされていることを確認した。</p> <p>②評価対象区画に流体を内包する機器が設置されていない場合は、天井面に開口部又は貫通部が存在しないことを確認した。</p> <p>③評価対象区画に流体を内包する機器が設置されておらず、かつ、天井面に開口部又は貫通部が存在する場合は、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていることを確認した。</p> <p>④評価対象区画に流体を内包する機器が設置されておらず、天井面に開口部又は貫通部が存在し、かつ、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていない場合にあっては、防護対象設備に対し被水防護措置がなされていることを確認した。</p> <p>⑤①～④を満足しない場合は、防護対象設備が、防滴仕様であることを確認した。</p> <p>⑥中央制御室については、運転員が常駐し運転操作が可能である。また、現場操作が必要な設備に対しては、必要に応じて環境の温度及び放射線量並びに薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。</p>	<p>た。耐環境仕様でもなく、かつ、防護措置がとられていない機器は、被水防護措置（コーキング処理、カバー等）による水密性の向上対策等を実施する。</p> <p>①評価対象区画に流体を内包する機器が設置されている場合は、防護対象設備に対し被水防護措置がなされていることを確認した。</p> <p>②評価対象区画に流体を内包する機器が設置されていない場合は、天井面に開口部又は貫通部が存在しないことを確認した。</p> <p>③評価対象区画に流体を内包する機器が設置されておらず、かつ、天井面に開口部又は貫通部が存在する場合は、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていることを確認した。</p> <p>④評価対象区画に流体を内包する機器が設置されておらず、天井面に開口部又は貫通部が存在し、かつ、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていない場合にあっては、防護対象設備に対し被水防護措置がなされていることを確認した。</p> <p>⑤①～④を満足しない場合は、防護対象設備が、防滴仕様であることを確認した。</p> <p>⑥中央制御室については、運転員が常駐し運転操作が可能である。また、現場操作が必要な設備に対しては、必要に応じて環境の温度及び放射線量並びに薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>係なく被水による影響評価を実施する。」としたのは、25A以下の配管においても、破断時の溢水量は、それを超える口径の配管破断時より少ないが、溢水の飛散による防護対象設備への影響を考慮する必要があるからである。</p> <p>c. 蒸気による影響評価</p> <p>評価対象区画に設置されている防護対象設備の蒸気による影響については、以下の項目について確認する。</p> <p>防護対象設備から溢水源となる同じ区画にある場合には、図-7に示す蒸気の影響評価の考え方に従い確認する。</p> <p>また、溢水源となる高エネルギー配管については、配管径に関係なく、蒸気による影響評価を実施する。（解説2. 2. 4-3）</p> <p>① 評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されている場合は、防護対象設備に対し蒸気防護措置がなされていることを確認する。</p> <p>② 評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されていない場合は、天井面に開口部又は貫通部が存在しないことを確認する。</p> <p>③ 評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されておらず、かつ、天井面に開口部又は貫通部が存在する場合は、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていることを確認する。</p> <p>④ 評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されておらず、天井面に開口部又は貫通部が存在し、かつ、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていない場合にあっては、防護対象設備に対し蒸気防護措置がなされていることを確認する。</p> <p>⑤ ①～④を満足しない場合は、防護対象設備が、耐蒸気仕様（想定される温度等を考慮した仕様）であることを確認する。</p> <p>⑥ 中央制御室及び現場操作が必要な設備へのアクセス通路にあっては、必要に応じて環境</p>	<p>c. 蒸気による影響評価</p> <p>高エネルギー配管のターミナルエンド部については、完全全周破断を想定した溢水影響評価を実施する。環境への影響が大きいと考えられる蒸気漏えいに関して以下の対策を実施することとしており、また、必要に応じて各対策を組み合わせて対策の最適化を図ったうえで、蒸気の拡散範囲を算出する。</p> <p>(1) 蒸気漏えい自動検知、遠隔隔離（自動又は手動）</p> <p>(2) 防護カバーの設置</p> <p>ターミナルエンド部以外については、ガイドにしたがい応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定する等の影響評価を実施する。</p>	<p>c. 蒸気による影響評価</p> <p>評価対象区画に設置されている防護対象設備の蒸気による影響については、以下の項目について確認した。</p> <p>また、溢水源となる高エネルギー配管については、配管径に関係なく、蒸気による影響評価を実施した。</p> <p>①評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されている場合は、防護対象設備に対し蒸気防護措置がなされていることを確認した。</p> <p>②評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されていない場合は、天井面に開口部又は貫通部が存在しないことを確認した。</p> <p>③評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されておらず、かつ、天井面に開口部又は貫通部が存在する場合は、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていることを確認した。</p> <p>④評価対象区画に蒸気を内包する機器が設置されておらず、天井面に開口部又は貫通部が存在し、かつ、当該開口部及び貫通部に密封処理等の流出防止対策がなされていない場合にあっては、防護対象設備に対し蒸気防護措置がなされていることを確認した。</p> <p>⑤①～④を満足しない場合は、防護対象設備が、耐蒸気仕様（想定される温度等を考慮した仕様）であることを確認した。</p> <p>⑥中央制御室については、運転員が常駐し運転操作が可能である。</p>	<p>c. 蒸気による影響評価</p> <p>高エネルギー配管のターミナルエンド部については、完全全周破断を想定した溢水影響評価を実施する。環境への影響が大きいと考えられる蒸気漏えいに関しては、蒸気漏えい自動検知、遠隔隔離（自動又は手動）による対策を実施することとしており、その対策を踏まえ、蒸気の拡散範囲を算出した。</p> <p>ターミナルエンド部以外については、ガイドにしたがい応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定する等の影響評価を実施する。</p>	<p><u>設計方針の相違</u></p> <p>泊では熱流体解析コード（GOTHICコード）を用いて蒸気機を模擬した空調条件や解析区画を設定して解析を実施している。（大阪と同様）</p> <p>【大阪】</p> <p><u>記載方針の相違</u></p> <p>女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>の温度、放射線量を考慮しても接近の可能性が失われないことを確認する。</p> <p>上記、①～⑥を満足しない場合は、防護対象設備の機能は期待できないものとする。</p> <p>④の「蒸気防護措置」とは、気流による分離、ケーブル端子箱の密封処理による分離等による蒸気防護処置等をいう。</p> <p>解説－2. 2. 4-3「蒸気による影響評価」                      蒸気による影響評価の対象となる溢水源の考え方は、没水による影響評価における溢水源と同じである。「溢水源となる高エネルギー配管については、配管径に関係なく、蒸気による影響評価を実施する。」としたのは、25A以下の配管においても、破断時の溢水量は、それを超える口径の配管破断時より少ないが、蒸気の拡散による防護対象設備への影響を考慮する必要があるからである。</p> <p><b>（4）溢水による影響評価の判定</b>                      （3）の影響評価の結果から内部溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を失わないこと（信頼性要求に基づき独立性が確保され、多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）。</p> <p>内部溢水により原子炉に外乱が及び、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合には、その影響（溢水）を考慮し、安全評価指針に基づき安全解析を行う必要がある。</p>	<p><b>（4）溢水による影響評価の判定</b>                      内部溢水に対して、防護対象設備が、その安全機能を失わないこと（多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）を確認している。</p> <p>また、原子炉外乱が発生する場合には、事故時等の単一故障を想定しても異常状態を収束できるよう必要に応じて対策を実施する。</p>	<p><b>（4）溢水による影響評価の判定</b>                      内部溢水に対して、防護対象設備がその安全機能を失わないこと（多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）を確認した。また、溢水により発生する放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいしないことを確認した。</p> <p>内部溢水により原子炉に外乱が及び、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合を想定し、溢水の影響を考慮した上で、安全評価指針に基づき安全解析を実施し、問題ないことを確認した。</p>	<p><b>（4）溢水による影響評価の判定</b>                      内部溢水に対して、防護対象設備がその安全機能を失わないこと（多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）を確認した。また、溢水により発生する放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいしないことを確認した。</p> <p>内部溢水により原子炉に外乱が及び、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合を想定し、溢水の影響を考慮した上で、安全評価指針に基づき安全解析を実施し、問題ないことを確認した。</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大坂発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）の溢水評価</p> <p>3.1 溢水源及び溢水量の想定                      溢水源としては、2.1項の原子炉施設の溢水源及び溢水量の想定と同じ溢水源と溢水量を想定する。</p> <p>3.1.1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水                      配管の破損は、2.1.1項の原子炉施設と同じように内包する流体のエネルギーに応じて①高エネルギー配管及び②低エネルギー配管の2種類に分類し、破損を想定する。                      ・高エネルギー配管については、完全全周破断                      ・低エネルギー配管については、配管内径の1/2の長さで配管肉厚の1/2の幅を有する貫通クラック（以下、「貫通クラック」という。）</p> <p>3.1.2 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置されている設備からの放水による溢水                      （1）火災時に考慮する消火水系統からの放水による溢水                      火災時に考慮する消火水系統からの放水によ</p>	<p>3. 使用済燃料ピットの溢水評価</p> <p>3.1 溢水源及び溢水量の想定                      溢水源としては、2.1項の原子炉施設の溢水源及び溢水量の想定と同じ溢水源と溢水量を想定している。</p> <p>3.1.1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水                      破損を想定する機器は、配管とし、配管の破損は内包する流体のエネルギーに応じて、高エネルギー配管と低エネルギー配管に分類して破損を想定している。                      高エネルギー配管のターミナルエンド部については、完全全周破断を想定した溢水影響評価を実施する。環境への影響が大きいと考えられる蒸気漏えいに関して以下の対策を実施することとしており、また、必要に応じて各対策を組み合わせて対策の最適化を図ったうえで、蒸気の影響評価を実施する。                      （1）蒸気漏えい自動検知、遠隔隔離（自動又は手動）                      （2）防護カバーの設置                      ターミナルエンド部以外については、ガイドにしたがい応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定する等の影響評価を実施する。                      低エネルギー配管については、網羅的に発生応力評価を行い配管の健全性を確認する。                      防護対象設備は漏えい蒸気による環境影響評価を実施し、機能を喪失しないことを確認している。</p> <p>3.1.2 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置されている設備からの放水による溢水                      （1）火災時に考慮する消火水系からの放水による溢水</p>	<p>3. 使用済燃料プールの溢水評価</p> <p>3.1 溢水源及び溢水量の想定                      溢水源としては、2.1項の原子炉施設の溢水源及び溢水量の想定と同じ溢水源と溢水量を想定した。</p> <p>3.1.1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水                      破損を想定する機器はガイド付録Aに従い、高エネルギー配管及び低エネルギー配管の2種類に分類し破損を想定した。高エネルギー配管の破損形状については、完全全周破断、低エネルギー配管の破損形状については、貫通クラックを想定した。</p> <p>3.1.2 発電所内で生じる異常状態（火災を含む）の拡大防止のために設置される設備からの放水による溢水                      （1）火災時に考慮する消火水系統からの放水による溢水</p>	<p>3. 使用済燃料ピットの溢水評価</p> <p>3.1 溢水源及び溢水量の想定                      溢水源としては、2.1項の原子炉施設の溢水源及び溢水量の想定と同じ溢水源と溢水量を想定した。</p> <p>3.1.1 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水                      破損を想定する機器はガイド付録Aに従い、配管の破損は内包する流体のエネルギーに応じて高エネルギー配管と低エネルギー配管に分類し破損を想定した。高エネルギー配管の破損形状については、完全全周破断を想定し、一部の高エネルギー配管（補助蒸気系統配管）については、ガイドに従い応力評価を実施し、評価結果に基づき貫通クラックを想定した。低エネルギー配管の破損形状については、貫通クラックを想定した。</p>	<p>記載方針の相違                      ガイドの記載に倣い、当該記載を記載している。（大坂と同様）</p> <p>設計方針の相違                      泊泊では評価ガイドに従い、高エネルギー配管である補助蒸気系統の応力評価を実施し、応力評価の結果により破損形態を低エネルギー配管相当である貫通クラックとして想定している。</p> <p>【大坂】                      記載方針の相違                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>る溢水は、2. 1. 2項の原子炉施設と同じように以下の2項目を想定する。</p> <p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p>	<p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p> <p>防護対象設備に設置されている建屋に自動起動及び手動起動するスプリンクラーを設置していることから、その起動による放水を想定して評価する。</p> <p>また、溢水防護区画外のスプリンクラーが起動し、溢水防護区画に消火水が流入する可能性も考慮しても、防護対象設備の機能に影響を与えるものでないことを確認する。溢水量は、火災防護において設計上考慮する放水流量、放水時間及びスプリンクラー設置個数を考慮して算出している。</p> <p>なお、以下の設計により、複数区画でのスプリンクラーからの同時放水は想定しない。</p> <p>○地震時に火災源になるおそれがあるB、Cクラス機器（油内包機器及び電気盤）について、火災の発生防止対策を講じる設計としている。具体的には、油内包機器について、基準地震動S<sub>s</sub>による地震力に対して、当該機器が損壊し内包している油が外部へ漏えいしないことを確認し、その結果、損壊する機器に対しては、損壊しないような改良、もしくはガス式消火装置を設置する設計としている。電気盤については、火災の発生に備えて、ハロンガス消火装置、もしくは盤内にエアゾル消火装置を設置し、早期に自動消火できる設計としている。</p> <p>○高エネルギー配管破損時の誤動作を防止するため、スプリンクラーヘッドの開放温度は、高エネルギー配管破損時の室内温度の評価値を上回る設計としている。</p>	<p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p> <p>女川2号炉においては、防護対象設備が設置されている建屋に自動作動するスプリンクラーは設置されていないことから、これによる放水は想定していない。</p>	<p>a. 火災検知により自動作動するスプリンクラーからの放水</p> <p>泊発電所3号炉においては、防護対象設備が設置されている建屋に自動作動するスプリンクラーは設置されていないことから、これによる放水は想定していない。</p>	<p>【大阪】  <u>設計方針の相違</u>                  大阪にはスプリンクラーが設置されているのに対し、泊及び女川には自動作動するスプリンクラーは設置されていない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大坂発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p>	<p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p> <p>建屋内での消火栓による消火活動を想定し、消火活動が連続して実施される時間を見込んで溢水量を算出している。具体的には原則として3時間の消火活動を想定して溢水量を算出するが、火災源が小さいエリアについては、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）」解説-4-5(1)の規定による「火災荷重」及び「等価火災時間」を考慮し算出している。なお、消火活動における消火栓からのホース引き回し経路から、扉の開放が想定される場合には、隣接エリアについても滞留エリアとして考慮して評価している。</p>	<p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p> <p>火災発生時に消火栓による消火活動が想定される区画における放水を想定し、放水箇所を起点とした溢水の伝播についても考慮した評価を実施した。</p> <p>溢水量は、建屋内での消火栓による消火活動を想定し、消火活動が連続して実施される時間(3時間)を見込んで算定した。</p>	<p>b. 建屋内の消火活動のために設置される消火栓からの放水</p> <p>火災発生時に消火栓による消火活動が想定される区画における放水を想定し、放水箇所を起点とした溢水の伝播についても考慮した評価を実施した。</p> <p>溢水量は、建屋内での消火栓による消火活動を想定し、消火活動が連続して実施される時間を見込んで算定した。</p> <p>具体的には原則として3時間の消火活動を想定して溢水量を算出するが、火災源が小さいエリアについては、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針（JEAG4607-2010）」解説-4-5(1)の規定による「火災荷重」及び「等価時間」を考慮し算出した。</p>	<p><u>設計方針の相違</u></p> <p>女川は消火栓からの放水量は一律3時間の放水を想定しているのに対し、泊はガイドの規定に則り、火災源が小さいエリアについては火災荷重及び「等価時間」を考慮して放水量を算出している。(大坂と同様)</p> <p>【大坂】 <u>設計方針の相違</u> 女川審査実績の反映</p>
<p>3. 1. 3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>流体を内包する機器（配管、容器）のうち、基準地震動による地震力によって、破損が生じるとされる機器について、2. 1. 3 (1) 項の原子炉施設と同じように破損による溢水を想定する。</p>	<p>3.1.3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>流体を内包する機器（配管、機器）のうち、基準地震動による地震力によって、破損が生じる機器について、2.1.3(1)項の原子炉施設と同様に、基準地震動に対する地震力に対して評価を実施し、耐震性が確保されているものは溢水源から除外する。</p>	<p>3. 1. 3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>耐震Sクラスの機器については、基準地震動による地震力によって破損が生じないことから、溢水源として想定しない。</p> <p>また、耐震B、Cクラスの機器のうち、耐震Sクラスの機器と同様に基準地震動<math>S_s</math>による地震力に対して構造強度評価により耐震性が確保されるもの、又は耐震対策工事により耐震性を確保するものは溢水源としない。</p>	<p>3. 1. 3 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水</p> <p>(1) 発電所内に設置された機器の破損による漏水</p> <p>耐震Sクラスの機器については、基準地震動による地震力によって破損が生じないことから、溢水源として想定しない。</p> <p>また、耐震B、Cクラスの機器のうち、耐震Sクラスの機器と同様に基準地震動による地震力に対して構造強度評価により耐震性が確保されるもの、又は耐震対策工事により耐震性を確保するものは溢水源としない。</p>	<p>【大坂】 <u>設計方針の相違</u> 女川審査実績の反映</p>
<p>(2) 使用済燃料貯蔵プールのスロッシングによる溢水</p> <p>使用済燃料貯蔵プール水が、地震に伴うスロッシングによってプール外へ漏水する可能性のある場合は、2. 1. 3 (2) 項の原子炉施設と同じように溢水源として想定する。</p>	<p>(2) 使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水</p> <p>基準地震動による使用済燃料ピットのスロッシング評価を行い、ピットからの溢水量を評価している。なお、使用済燃料ピットの初期水位は、保守的となる条件で評価する。</p>	<p>(2) 使用済燃料プールのスロッシングによる溢水</p> <p>基準地震動<math>S_s</math>による使用済燃料プールのスロッシング評価を行い、使用済燃料プールからの溢水量を評価した。</p>	<p>(2) 使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水</p> <p>基準地震動による使用済燃料ピットのスロッシング評価を行い、使用済燃料ピットからの溢水量を評価した。</p>	<p>【大坂】 <u>設計方針の相違</u> 女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>3.2 溢水影響評価</b></p> <p><b>3.2.1 使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）に対する溢水影響評価</b></p> <p>溢水に対する使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）の安全確保の考え方は、以下のとおりとする。</p> <p>溢水の影響評価にあたっては、発電所内で発生した溢水に対して、使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）設備が、「プール冷却」及び「プールへの給水」ができることを確認する。</p> <p>プール冷却にあたっては、想定される溢水により通常運転中の使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）冷却系に外乱が生じ、冷却を維持する必要が生じた場合、使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）を保安規定で定めた水温（65℃以下）以下に維持できること。</p> <p>プールへの給水にあたっては、想定される溢水により通常運転中の使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）補給水系に外乱が生じ、給水を維持する必要が生じた場合、使用済燃料貯蔵プール（使用済燃料ピット）を燃料の放射線を遮へいするために必要な量の水を維持できること。</p> <p><b>3.2.2 溢水から防護すべき対象設備</b></p> <p>3.1項の溢水源及び溢水量の想定にあたっては発生要因別に分類したが、溢水から防護すべき対象設備は、溢水の発生場所毎に「プール冷却」及び「プールへの給水」の機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象設備とする。</p> <p><b>3.2.3 溢水防護区画の設定</b></p> <p>溢水防護に対する評価対象区画は、3.2.2項に該当する溢水防護対象設備が設置されている全ての区画、中央制御室及び現場操作が必要な設備へのアクセス通路について設定すること。</p> <p>全ての防護対象設備が対象となっていることを確認するために、3.2.2項に該当する防</p>	<p>3.2 溢水影響評価</p> <p>3.2.1 使用済燃料ピットに対する溢水影響評価</p> <p>基準地震動におけるスロッシングによる使用済燃料ピットからの溢水量がピット外に流出した際の使用済燃料ピット水位を求め、ピット冷却（保安規定で定められた水温 65℃以下）及び使用済燃料からの遮へいに必要な量の水が確保されていることを確認している。</p> <p>3.2.2 溢水から防護すべき対象設備</p> <p>「ピット冷却」及び「ピットへの給水」の機能を適切に判断するために必要な設備を抽出し、防護対象設備としている。</p> <p>3.2.3 溢水防護区画の設定</p> <p>溢水防護に対す溢水防護区画を設定し、防護対象設備の系統図及び配置図の照合により、すべての防護対象設備が対象となっていることを確認している。</p> <p>また、溢水評価において、現場操作が必要な設備に対しては、必要に応じて環境の温度、放</p>	<p>3.2 溢水影響評価</p> <p>3.2.1 使用済燃料プールに対する溢水影響評価</p> <p>基準地震動 Ss におけるスロッシングによる使用済燃料プールからの溢水量がプール外に流出した際の使用済燃料プール水位を求め、プール冷却（保安規定で定めた水温 65℃以下）及び使用済燃料の遮蔽に必要な量の水が確保されていることを確認した。</p> <p>3.2.2 溢水から防護すべき対象設備</p> <p>使用済燃料プールの「冷却」及び「給水」に必要な設備を抽出し、防護対象設備とした。</p> <p>3.2.3 溢水防護区画の設定</p> <p>溢水防護に対する評価対象区画は、3.2.2項に該当する溢水防護対象設備が設置されているすべての区画、中央制御室及び現場操作が必要な設備へのアクセス通路について設定している。</p>	<p>3.2 溢水影響評価</p> <p>3.2.1 使用済燃料ピットに対する溢水影響評価</p> <p>基準地震動におけるスロッシングによる使用済燃料ピットからの溢水量がピット外に流出した際の使用済燃料ピット水位を求め、ピット冷却（保安規定で定めた水温 65℃以下）及び使用済燃料からの遮蔽に必要な量の水が確保されていることを確認した。</p> <p>3.2.2 溢水から防護すべき対象設備</p> <p>使用済燃料ピットの「冷却」及び「給水」に必要な設備を抽出し、防護対象設備とした。</p> <p>3.2.3 溢水防護区画の設定</p> <p>溢水防護に対する評価対象区画は、3.2.2項に該当する溢水防護対象設備が設置されているすべての区画、中央制御室及び現場操作が必要な設備へのアクセス通路について設定している。</p>	<p>【大阪】  <a href="#">設計方針の相違</a>                  女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

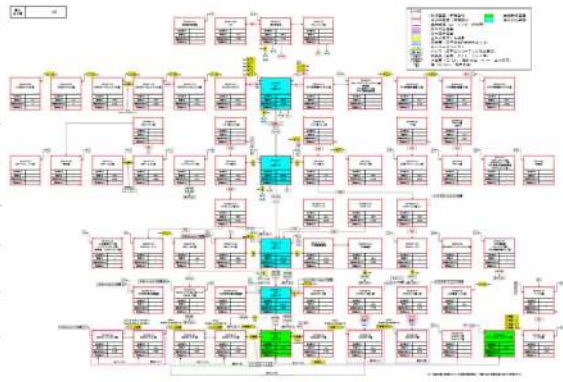

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>護対象設備の系統図及び配置図とを照合しなければならない。</p> <p>また、アクセス通路については、図面等により図示されていることを確認する。</p> <p>なお、同じ部屋であっても、溢水による影響を考慮した堰等で区切られている場合には、区切られた区画を溢水防護区画として取り扱うことができる。</p> <p><b>3.2.4 溢水影響評価</b></p> <p>溢水影響評価においては、評価対象区画で想定される溢水事象に対し、その防護対象設備が没水、被水又は蒸気の影響を受けず、その機能が確保されるか否かを評価する。（図-8）</p> <p>評価対象区画は、漏えい想定箇所を起点とした溢水経路上に存在する全ての溢水防護区画を対象とする。</p> <p>溢水影響評価方法は、原子炉施設と同様の方法を用いる。</p> <p><b>(1) 溢水経路の設定</b></p> <p>流水経路の設定にあたっては、以下の経路を考慮して設定する。溢水経路の設定方法は、2.2.4(1)の原子炉施設の溢水経路の設定と同じ方法を用いる。</p> <p>a. 溢水防護区画内漏えいでの溢水経路                  b. 溢水防護区画外漏えいでの溢水経路</p> <p><b>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算定</b></p> <p>溢水防護区画の評価に用いる以下の各項目の算出は、2.2.4(2)の原子炉施設の算出方法と同じ算出方法を用いる。</p> <p>a. 没水評価に用いる水位の算出方法                  b. 被水評価に用いる飛散距離の算出方法                  c. 蒸気評価に用いる拡散範囲の算出方法</p>	<p>射線量、薬品等による影響を考慮しても運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認している。</p> <p><b>3.2.4 溢水影響評価</b></p> <p>溢水影響評価においては、防護対象設備が没水、被水又は蒸気の影響に対しその機能が確保されていることを確認している。</p> <p>溢水防護区画は、漏えい想定箇所を起点とした溢水経路上に存在するすべての溢水防護区画を対象としている。</p> <p><b>(1) 溢水経路の設定</b></p> <p>溢水経路の設定にあたっては、2.2.4(1)項の原子炉施設の溢水経路の設定と同じ方法を用いている。</p> <p><b>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算定</b></p> <p>溢水防護区画の評価に用いる各項目の算出は、2.2.4(2)項の原子炉施設の算出方法と同じ算出方法を用いている。</p>	<p><b>3.2.4 溢水影響評価</b></p> <p>溢水影響評価においては、評価対象区画で想定される溢水事象に対し、その防護対象設備が没水、被水又は蒸気の影響を受けず、その機能が確保されることを確認した。</p> <p>評価対象区画は、漏えい想定箇所を起点とした溢水経路上に存在するすべての溢水防護区画を対象とした。</p> <p><b>(1) 溢水経路の設定</b></p> <p>溢水経路の設定にあたっては、2.2.4(1)の原子炉施設の溢水経路の設定と同じ方法を用いた。</p> <p><b>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算出</b></p> <p>溢水防護区画の評価に用いる各項目の算出は、2.2.4(2)の原子炉施設の算出方法と同じ算出方法を用いた。</p>	<p><b>3.2.4 溢水影響評価</b></p> <p>溢水影響評価においては、評価対象区画で想定される溢水事象に対し、その防護対象設備が没水、被水又は蒸気の影響を受けず、その機能が確保されることを確認した。</p> <p>溢水防護区画は、漏えい想定箇所を起点とした溢水経路上に存在するすべての溢水防護区画を対象とした。</p> <p><b>(1) 溢水経路の設定</b></p> <p>溢水経路の設定にあたっては、2.2.4(1)の原子炉施設の溢水経路の設定と同じ方法を用いた。</p> <p><b>(2) 溢水防護区画の評価に用いる各項目の算定</b></p> <p>溢水防護区画の評価に用いる各項目の算出は、2.2.4(2)の原子炉施設の算出方法と同じ算出方法を用いた。</p>	<p>記載表現の相違                  泊は評価ガイドと同様の記載としている。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

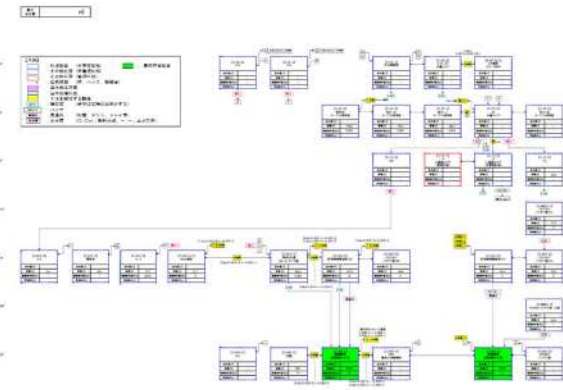
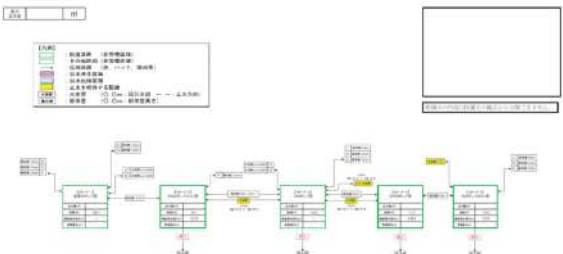
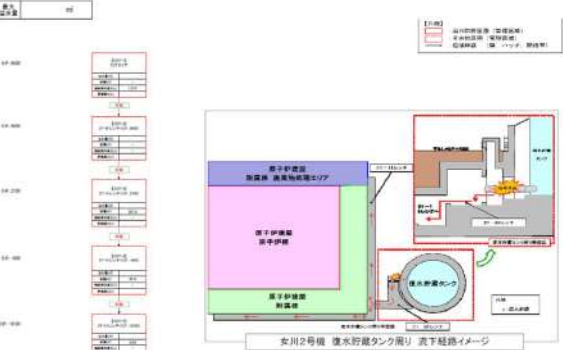
第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料30）

原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド	大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) 影響評価</p> <p>原子力発電所内で発生する溢水に対して、防護すべき対象機器が、以下に示す没水、被水及び蒸気の要求を満足しているか確認する。確認方法は、2. 2. 4 (3) の原子炉施設の影響評価と同じ。</p> <p>a. 没水による影響評価                      b. 被水による影響評価                      c. 蒸気による影響評価</p> <p>(4) 溢水による影響評価の判定</p> <p>(3) の影響評価の結果から内部溢水に対して、使用済燃料貯蔵プールの冷却及び給水機能が失われないこと。</p>	<p>(3) 影響評価</p> <p>防護すべき対象設備が没水、被水及び蒸気の要求を満足しているかの確認は、2. 2. 4(3)項の原子炉施設の影響評価と同じ方法を用いている。</p> <p>(4) 溢水による影響評価の判定</p> <p>内部溢水に対して、使用済燃料ピットの冷却及び給水機能が失われないことを確認している。</p>	<p>(3) 影響評価</p> <p>防護すべき対象機器が、没水、被水及び蒸気の要求を満足しているかの確認は、2. 2. 4 (3) の原子炉施設の影響評価と同じ方法を用いて確認した。</p> <p>(4) 溢水による影響評価の判定</p> <p>想定される内部溢水に対して、使用済燃料プールの冷却及び給水機能が失われないことを確認した。</p>	<p>(3) 影響評価</p> <p>防護すべき対象機器が、没水、被水及び蒸気の要求を満足しているかの確認は、2. 2. 4 (3) の原子炉施設の影響評価と同じ方法を用いて確認した。</p> <p>(4) 溢水による影響評価の判定</p> <p>想定される内部溢水に対して、使用済燃料ピットの冷却及び給水機能が失われないことを確認した。</p>	

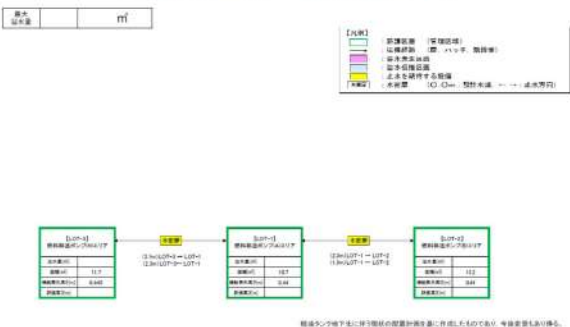
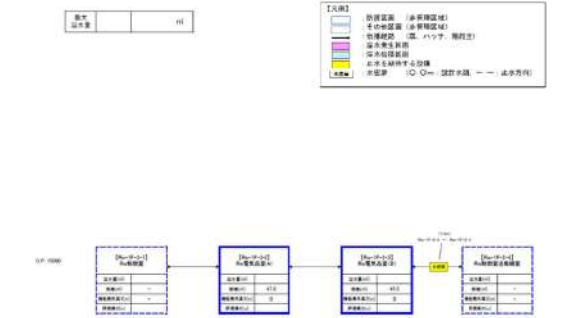
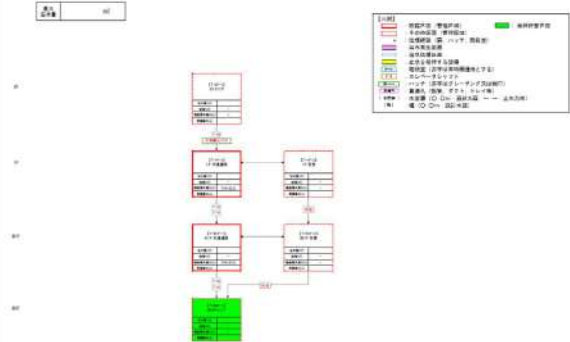
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: center;">添付資料 11</p> <p style="text-align: center;">原子炉建屋原子炉棟 溢水伝播フロー図</p>  <p style="text-align: center;">原子炉建屋付属棟 溢水伝播フロー図</p> 		<p><b>設計方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PWRは、地震・想定破損・消火水の評価ケースごとに溢水伝播経路図を作成することで溢水経路を特定し、没水影響評価結果整理表にて没水評価を実施している。</li> <li>・BWRの溢水伝播フロー図で整理される溢水評価に必要な情報（滞留面積、滞留エリア、溢水量、隣接区画での伝播有無等）は、PWRは溢水伝播経路図と没水影響評価結果整理表にてすべて整理できていることから、溢水伝播フロー図は作成しない。（PWR共通）</li> <li>・なお、BWRでは単一機器の破損による溢水源から最終貯留区画に到達するまでを一つの評価ケースとして評価しており、PWRと比べて評価ケースが多く、積極的な流下経路（開口部、機器ハッチ等）に期待することで溢水の主経路を設定している。また、他区画への伝播の有無について、貫通部等の開口高さに応じて伝播有無を判断していることから、溢水伝播フロー図による整理が有効である。</li> <li>・一方PWRは、想定破損評価においても応力評価による破損想定除外の適用により評価ケースが少なく（泊の評価対象は6ケース）、破損を想定する系統ごとに溢水伝播経路図を作成することで伝播経路を特定可能である。また、BWRのように開口高さに応じた伝播有無の判定はしていないことから、平面図による整理が可能である。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: center;">制御建屋 溢水伝播フロー図</p>  <p style="text-align: center;">海水ポンプ室 溢水伝播フロー図</p>  <p style="text-align: center;">復水貯蔵タンクエリア 溢水伝播フロー図</p> 		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: center;">軽油タンクエリア 溢水伝播フロー図</p>  <p style="text-align: center;">原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（非管理区域）） 溢水伝播フロー図</p>  <p style="text-align: center;">タービン建屋（管理区域） 溢水伝播フロー図</p> 		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																										
	<p>添付資料19                      想定破損による没水影響評価結果から必要となる設備対策について</p> <p>表1 設備対策一覧（没水対策）（1/2）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">フロア</th> <th colspan="2">対象機器</th> <th rowspan="2">区画番号</th> <th rowspan="2">対策内容</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>機器番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">原子炉建屋</td> <td rowspan="6">B3F</td> <td>BHRダンプ(C)出口圧力伝送器</td> <td>E11-PT004C-1</td> <td rowspan="6">R-B3F-7</td> <td rowspan="6">区画(R-B3F-1)から区画(R-B3F-7)へ移設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>E11-PT004C-2</td> </tr> <tr> <td>BHR(C)系LPCI往入隔離弁差圧伝送器</td> <td>E11-dPT008C</td> </tr> <tr> <td>BHRダンプ(C)出口流量差圧伝送器</td> <td>E11-FT006C</td> </tr> <tr> <td>FFMUWダンプ入口圧力伝送器</td> <td>F15-FT001</td> </tr> <tr> <td>FFMUWダンプ出口流量差圧伝送器</td> <td>F15-FT005</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">B3F</td> <td>RCICダンプ出口流量差圧伝送器</td> <td>E51-FT004</td> <td rowspan="4">R-B3F-2</td> <td rowspan="4">区画(R-B3F-1)から区画(R-B3F-2)へ移設</td> </tr> <tr> <td>RCICダンプ入口圧力伝送器</td> <td>E51-PT001B</td> </tr> <tr> <td>RCICダンプ出口圧力伝送器</td> <td>E51-PT003</td> </tr> <tr> <td>RCICダンプ駆動用サクション入口蒸気圧力伝送器</td> <td>E51-PT007</td> </tr> <tr> <td>B1F</td> <td>CAMS配管バルブ(B)</td> <td>D23-HB1, HB2</td> <td>R-B1F-1</td> <td>配管バルブの延長</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">原子炉棟</td> <td rowspan="3">1F</td> <td>HPCWダンプ水位差圧伝送器</td> <td>F47-LT008</td> <td>R-1F-5</td> <td>設置バルブの見直し</td> </tr> <tr> <td>CAMS(A)室空調機</td> <td>V10-D112</td> <td rowspan="2">R-2F-3</td> <td rowspan="2">周囲への搬設置※1</td> </tr> <tr> <td>CAMS(B)室空調機</td> <td>V10-D113</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2F</td> <td>FCS除湿バルブ(A)用変圧器</td> <td>E47-TR008</td> <td>R-2F-2-2</td> <td>区画(R-2F-3)から区画(R-2F-2-2)へ移設</td> </tr> <tr> <td>FCS除湿バルブ(B)用変圧器</td> <td>E47-TR009</td> <td>R-2F-2-3</td> <td>区画(R-2F-3)から区画(R-2F-2-3)へ移設</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">3F</td> <td>RCWダンプ(A)水位差圧伝送器</td> <td>F42-LT011A</td> <td rowspan="6">R-3F-1</td> <td rowspan="6">設置バルブの見直し</td> </tr> <tr> <td>RCWダンプ(A)水位差圧伝送器</td> <td>F42-LT011C</td> </tr> <tr> <td>RCWダンプ(A)水位差圧伝送器</td> <td>F42-LT011E</td> </tr> <tr> <td>RCWダンプ(B)水位差圧伝送器</td> <td>F42-LT011B</td> </tr> <tr> <td>RCWダンプ(B)水位差圧伝送器</td> <td>F42-LT011D</td> </tr> <tr> <td>RCWダンプ(B)水位差圧伝送器</td> <td>F42-LT011F</td> </tr> </tbody> </table> <p>表1 設備対策一覧（没水対策）（2/2）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">フロア</th> <th colspan="2">対象機器</th> <th rowspan="2">区画番号</th> <th rowspan="2">対策内容</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>機器番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御建屋</td> <td>B2F</td> <td>中央制御室再循環バルブ装置</td> <td>V30-D201</td> <td>C-B2F-1</td> <td>周囲への搬設置※2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 区画番号R-2F-3には積極的に流下させる開口があり、搬設置による没水高さへの影響はない。（添付資料12参照）                      ※2 搬設置により滞留面積の見直しが必要となる場合には、詳細への反映を実施する。</p>	建屋	フロア	対象機器		区画番号	対策内容	名称	機器番号	原子炉建屋	B3F	BHRダンプ(C)出口圧力伝送器	E11-PT004C-1	R-B3F-7	区画(R-B3F-1)から区画(R-B3F-7)へ移設		E11-PT004C-2	BHR(C)系LPCI往入隔離弁差圧伝送器	E11-dPT008C	BHRダンプ(C)出口流量差圧伝送器	E11-FT006C	FFMUWダンプ入口圧力伝送器	F15-FT001	FFMUWダンプ出口流量差圧伝送器	F15-FT005	B3F	RCICダンプ出口流量差圧伝送器	E51-FT004	R-B3F-2	区画(R-B3F-1)から区画(R-B3F-2)へ移設	RCICダンプ入口圧力伝送器	E51-PT001B	RCICダンプ出口圧力伝送器	E51-PT003	RCICダンプ駆動用サクション入口蒸気圧力伝送器	E51-PT007	B1F	CAMS配管バルブ(B)	D23-HB1, HB2	R-B1F-1	配管バルブの延長	原子炉棟	1F	HPCWダンプ水位差圧伝送器	F47-LT008	R-1F-5	設置バルブの見直し	CAMS(A)室空調機	V10-D112	R-2F-3	周囲への搬設置※1	CAMS(B)室空調機	V10-D113	2F	FCS除湿バルブ(A)用変圧器	E47-TR008	R-2F-2-2	区画(R-2F-3)から区画(R-2F-2-2)へ移設	FCS除湿バルブ(B)用変圧器	E47-TR009	R-2F-2-3	区画(R-2F-3)から区画(R-2F-2-3)へ移設	3F	RCWダンプ(A)水位差圧伝送器	F42-LT011A	R-3F-1	設置バルブの見直し	RCWダンプ(A)水位差圧伝送器	F42-LT011C	RCWダンプ(A)水位差圧伝送器	F42-LT011E	RCWダンプ(B)水位差圧伝送器	F42-LT011B	RCWダンプ(B)水位差圧伝送器	F42-LT011D	RCWダンプ(B)水位差圧伝送器	F42-LT011F	建屋	フロア	対象機器		区画番号	対策内容	名称	機器番号	制御建屋	B2F	中央制御室再循環バルブ装置	V30-D201	C-B2F-1	周囲への搬設置※2		<p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川では、添付資料18「想定破損による没水影響評価結果」及び添付資料26「消火水の放水による溢水影響評価結果」にて、多重性を有する設備が同時に機能喪失するケースがいくつか存在し、それらに対する対策内容を本資料にてまとめている。</li> <li>一方、泊では多重性を有する設備が同時に機能喪失するケース（評価結果の判定でCに該当するもの）はなく、女川の表1に記載されているような対策が生じることがないことから、本資料の作成は不要と判断する。</li> </ul>
建屋	フロア			対象機器				区画番号	対策内容																																																																																				
		名称	機器番号																																																																																										
原子炉建屋	B3F	BHRダンプ(C)出口圧力伝送器	E11-PT004C-1	R-B3F-7	区画(R-B3F-1)から区画(R-B3F-7)へ移設																																																																																								
			E11-PT004C-2																																																																																										
		BHR(C)系LPCI往入隔離弁差圧伝送器	E11-dPT008C																																																																																										
		BHRダンプ(C)出口流量差圧伝送器	E11-FT006C																																																																																										
		FFMUWダンプ入口圧力伝送器	F15-FT001																																																																																										
		FFMUWダンプ出口流量差圧伝送器	F15-FT005																																																																																										
	B3F	RCICダンプ出口流量差圧伝送器	E51-FT004	R-B3F-2	区画(R-B3F-1)から区画(R-B3F-2)へ移設																																																																																								
		RCICダンプ入口圧力伝送器	E51-PT001B																																																																																										
		RCICダンプ出口圧力伝送器	E51-PT003																																																																																										
		RCICダンプ駆動用サクション入口蒸気圧力伝送器	E51-PT007																																																																																										
B1F	CAMS配管バルブ(B)	D23-HB1, HB2	R-B1F-1	配管バルブの延長																																																																																									
原子炉棟	1F	HPCWダンプ水位差圧伝送器	F47-LT008	R-1F-5	設置バルブの見直し																																																																																								
		CAMS(A)室空調機	V10-D112	R-2F-3	周囲への搬設置※1																																																																																								
		CAMS(B)室空調機	V10-D113																																																																																										
	2F	FCS除湿バルブ(A)用変圧器	E47-TR008	R-2F-2-2	区画(R-2F-3)から区画(R-2F-2-2)へ移設																																																																																								
		FCS除湿バルブ(B)用変圧器	E47-TR009	R-2F-2-3	区画(R-2F-3)から区画(R-2F-2-3)へ移設																																																																																								
	3F	RCWダンプ(A)水位差圧伝送器	F42-LT011A	R-3F-1	設置バルブの見直し																																																																																								
		RCWダンプ(A)水位差圧伝送器	F42-LT011C																																																																																										
		RCWダンプ(A)水位差圧伝送器	F42-LT011E																																																																																										
		RCWダンプ(B)水位差圧伝送器	F42-LT011B																																																																																										
		RCWダンプ(B)水位差圧伝送器	F42-LT011D																																																																																										
RCWダンプ(B)水位差圧伝送器		F42-LT011F																																																																																											
建屋	フロア	対象機器		区画番号	対策内容																																																																																								
		名称	機器番号																																																																																										
制御建屋	B2F	中央制御室再循環バルブ装置	V30-D201	C-B2F-1	周囲への搬設置※2																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																						
	<p style="text-align: right;">添付資料21</p> <p>想定破損による被水影響評価結果から必要となる設備対策について</p> <p style="text-align: center;">表1 設備対策一覧（被水対策）（1/2）</p> <table border="1" data-bbox="698 323 1270 1110"> <thead> <tr> <th colspan="2">対象機器</th> <th rowspan="2">対策内容</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>機器番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁(B)</td><td>T46-F003B</td><td rowspan="27">電線管接続部等にコーキング処理</td></tr> <tr><td>HPCS 注入隔離弁</td><td>E22-F003</td></tr> <tr><td>FCS A系出口隔離弁</td><td>T49-F003A</td></tr> <tr><td>FCS B系出口隔離弁</td><td>T49-F003B</td></tr> <tr><td>RHR ポンプ(A) S/C 吸込弁</td><td>E11-F001A</td></tr> <tr><td>RHR A系 S/C スプレー隔離弁</td><td>E11-F011A</td></tr> <tr><td>RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁</td><td>E11-F016A</td></tr> <tr><td>RHR A系停止時冷却注入隔離弁</td><td>E11-F018A</td></tr> <tr><td>RHR ポンプ(A) ミニマムフロー弁</td><td>E11-F024A</td></tr> <tr><td>RHR ポンプ(B) S/C 吸込弁</td><td>E11-F001B</td></tr> <tr><td>RHR B系 S/C スプレー隔離弁</td><td>E11-F011B</td></tr> <tr><td>RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁</td><td>E11-F016B</td></tr> <tr><td>RHR B系停止時冷却注入隔離弁</td><td>E11-F018B</td></tr> <tr><td>RHR ポンプ(B) ミニマムフロー弁</td><td>E11-F024B</td></tr> <tr><td>RHR ポンプ(C) S/C 吸込弁</td><td>E11-F001C</td></tr> <tr><td>LPCS ポンプ S/C 吸込弁</td><td>E21-F001</td></tr> <tr><td>HPCS ポンプ CST 側ミニマムフロー第一弁</td><td>E22-F011</td></tr> <tr><td>HPCS ポンプ CST 側ミニマムフロー第二弁</td><td>E22-F012</td></tr> <tr><td>HPCS ポンプ S/C 側ミニマムフロー弁</td><td>E22-F013</td></tr> <tr><td>RCIC 注入弁</td><td>E51-F003</td></tr> <tr><td>RCIC タービン排気ライン隔離弁</td><td>E51-F011</td></tr> <tr><td>RCIC ポンプミニマムフロー弁</td><td>E51-F015</td></tr> <tr><td>非常用ガス処理系フィルタ装置</td><td>T46-D002</td></tr> <tr><td>中央制御室再循環フィルタ装置</td><td>V30-D201</td></tr> <tr><td>CAMS (A) 室空調機</td><td>V10-D112</td></tr> <tr><td>CAMS (B) 室空調機</td><td>V10-D113</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表1 設備対策一覧（被水対策）（2/2）</p> <table border="1" data-bbox="698 1236 1270 1390"> <thead> <tr> <th colspan="2">対象機器</th> <th rowspan="2">対策内容</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>機器番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>中央制御室少量外気取入ダンパ(B)</td><td>V30-D301B</td><td rowspan="3">電線管接続部等へのコーキング処理又は被水防護用カバー設置</td></tr> <tr><td>中央制御室再循環フィルタ装置入口ダンパ(B)</td><td>V30-D302B</td></tr> <tr><td>中央制御室外気取入ダンパ(後)</td><td>V30-D304</td></tr> </tbody> </table>	対象機器		対策内容	名称	機器番号	非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁(B)	T46-F003B	電線管接続部等にコーキング処理	HPCS 注入隔離弁	E22-F003	FCS A系出口隔離弁	T49-F003A	FCS B系出口隔離弁	T49-F003B	RHR ポンプ(A) S/C 吸込弁	E11-F001A	RHR A系 S/C スプレー隔離弁	E11-F011A	RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁	E11-F016A	RHR A系停止時冷却注入隔離弁	E11-F018A	RHR ポンプ(A) ミニマムフロー弁	E11-F024A	RHR ポンプ(B) S/C 吸込弁	E11-F001B	RHR B系 S/C スプレー隔離弁	E11-F011B	RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁	E11-F016B	RHR B系停止時冷却注入隔離弁	E11-F018B	RHR ポンプ(B) ミニマムフロー弁	E11-F024B	RHR ポンプ(C) S/C 吸込弁	E11-F001C	LPCS ポンプ S/C 吸込弁	E21-F001	HPCS ポンプ CST 側ミニマムフロー第一弁	E22-F011	HPCS ポンプ CST 側ミニマムフロー第二弁	E22-F012	HPCS ポンプ S/C 側ミニマムフロー弁	E22-F013	RCIC 注入弁	E51-F003	RCIC タービン排気ライン隔離弁	E51-F011	RCIC ポンプミニマムフロー弁	E51-F015	非常用ガス処理系フィルタ装置	T46-D002	中央制御室再循環フィルタ装置	V30-D201	CAMS (A) 室空調機	V10-D112	CAMS (B) 室空調機	V10-D113	対象機器		対策内容	名称	機器番号	中央制御室少量外気取入ダンパ(B)	V30-D301B	電線管接続部等へのコーキング処理又は被水防護用カバー設置	中央制御室再循環フィルタ装置入口ダンパ(B)	V30-D302B	中央制御室外気取入ダンパ(後)	V30-D304		<p><u>設計方針の相違</u></p> <p>泊は被水影響評価結果（添付資料18）から必要となる設備対策は無いことから、女川の添付資料21に該当する資料は作成していない。</p> <p>なお、防護対象設備の防滴仕様等の詳細については、補足説明資料16に示している。</p>
対象機器		対策内容																																																																							
名称	機器番号																																																																								
非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁(B)	T46-F003B	電線管接続部等にコーキング処理																																																																							
HPCS 注入隔離弁	E22-F003																																																																								
FCS A系出口隔離弁	T49-F003A																																																																								
FCS B系出口隔離弁	T49-F003B																																																																								
RHR ポンプ(A) S/C 吸込弁	E11-F001A																																																																								
RHR A系 S/C スプレー隔離弁	E11-F011A																																																																								
RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁	E11-F016A																																																																								
RHR A系停止時冷却注入隔離弁	E11-F018A																																																																								
RHR ポンプ(A) ミニマムフロー弁	E11-F024A																																																																								
RHR ポンプ(B) S/C 吸込弁	E11-F001B																																																																								
RHR B系 S/C スプレー隔離弁	E11-F011B																																																																								
RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁	E11-F016B																																																																								
RHR B系停止時冷却注入隔離弁	E11-F018B																																																																								
RHR ポンプ(B) ミニマムフロー弁	E11-F024B																																																																								
RHR ポンプ(C) S/C 吸込弁	E11-F001C																																																																								
LPCS ポンプ S/C 吸込弁	E21-F001																																																																								
HPCS ポンプ CST 側ミニマムフロー第一弁	E22-F011																																																																								
HPCS ポンプ CST 側ミニマムフロー第二弁	E22-F012																																																																								
HPCS ポンプ S/C 側ミニマムフロー弁	E22-F013																																																																								
RCIC 注入弁	E51-F003																																																																								
RCIC タービン排気ライン隔離弁	E51-F011																																																																								
RCIC ポンプミニマムフロー弁	E51-F015																																																																								
非常用ガス処理系フィルタ装置	T46-D002																																																																								
中央制御室再循環フィルタ装置	V30-D201																																																																								
CAMS (A) 室空調機	V10-D112																																																																								
CAMS (B) 室空調機	V10-D113																																																																								
対象機器			対策内容																																																																						
名称	機器番号																																																																								
中央制御室少量外気取入ダンパ(B)	V30-D301B	電線管接続部等へのコーキング処理又は被水防護用カバー設置																																																																							
中央制御室再循環フィルタ装置入口ダンパ(B)	V30-D302B																																																																								
中央制御室外気取入ダンパ(後)	V30-D304																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																	
	<p style="text-align: right;">添付資料 23</p> <p>想定破損による蒸気影響評価結果から必要となる設備対策について</p> <p>想定破損による蒸気影響評価結果から必要となる設備対策について表1に示す。</p> <p>表1 蒸気影響評価結果（想定破損）から必要となる設備対策一覧</p> <table border="1" data-bbox="698 518 1267 1252"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建屋</th> <th rowspan="2">7F</th> <th colspan="2">対象機器</th> <th rowspan="2">区画番号</th> <th rowspan="2">対策内容</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>機器番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="16">原子炉建屋 原子炉棟</td> <td rowspan="16">2F</td> <td>FCS 除湿ヒータ(A)用変圧器</td> <td>E47-TB008</td> <td>R-2F-3</td> <td>R-2F-2-2へ移設、隔離ダンパ等による閉止</td> </tr> <tr> <td>FCS 除湿ヒータ(B)用変圧器</td> <td>E47-TB009</td> <td>R-2F-3</td> <td>R-2F-2-3へ移設、隔離ダンパ等による閉止</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系排風機(A)</td> <td>T46-C001A</td> <td>R-2F-1-2</td> <td rowspan="10">隔離ダンパ等による閉止</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系排風機(B)</td> <td>T46-C001B</td> <td>R-2F-1-3</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系空気乾燥装置(A)</td> <td>T46-D001A</td> <td>R-2F-1-2</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系空気乾燥装置(B)</td> <td>T46-D001B</td> <td>R-2F-1-3</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系フィルタ装置</td> <td>T46-D002</td> <td>R-2F-1-1</td> </tr> <tr> <td>空気乾燥装置(A)電気ヒータ入口温度</td> <td>T46-TE003A</td> <td>R-2F-1-2</td> </tr> <tr> <td>空気乾燥装置(B)電気ヒータ入口温度</td> <td>T46-TE003B</td> <td>R-2F-1-3</td> </tr> <tr> <td>フィルタ装置チャコールエアフィルタ入口温度(A)(B)</td> <td>T46-TE006A/B</td> <td rowspan="4">R-2F-1-1</td> </tr> <tr> <td>フィルタ装置チャコールエアフィルタ入口温度(A)(B)</td> <td>T46-TE008A/B</td> </tr> <tr> <td>フィルタ装置チャコールエアフィルタ温度(A)(B)</td> <td>T46-TE009A/B</td> </tr> <tr> <td>フィルタ装置チャコールエアフィルタ出口温度(A)(B)</td> <td>T46-TE011A/B</td> </tr> <tr> <td>フィルタ装置チャコールエアフィルタ出口温度(A)(B)</td> <td>T46-TE012A/B</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3F</td> <td>原子炉建屋外気間窓圧(北側、西側、東側)</td> <td>T46-aPT014A/B/D</td> <td>R-3F-1</td> <td>副環境仕様品への取替</td> </tr> <tr> <td>燃料プール状態表示盤</td> <td>H21-F577</td> <td></td> <td>現場表示機能を不使用化</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋外気間窓圧(南側)</td> <td>T46-aPT014C</td> <td>R-3F-3-2</td> <td>副環境仕様品への取替</td> </tr> </tbody> </table>	建屋	7F	対象機器		区画番号	対策内容	名称	機器番号	原子炉建屋 原子炉棟	2F	FCS 除湿ヒータ(A)用変圧器	E47-TB008	R-2F-3	R-2F-2-2へ移設、隔離ダンパ等による閉止	FCS 除湿ヒータ(B)用変圧器	E47-TB009	R-2F-3	R-2F-2-3へ移設、隔離ダンパ等による閉止	非常用ガス処理系排風機(A)	T46-C001A	R-2F-1-2	隔離ダンパ等による閉止	非常用ガス処理系排風機(B)	T46-C001B	R-2F-1-3	非常用ガス処理系空気乾燥装置(A)	T46-D001A	R-2F-1-2	非常用ガス処理系空気乾燥装置(B)	T46-D001B	R-2F-1-3	非常用ガス処理系フィルタ装置	T46-D002	R-2F-1-1	空気乾燥装置(A)電気ヒータ入口温度	T46-TE003A	R-2F-1-2	空気乾燥装置(B)電気ヒータ入口温度	T46-TE003B	R-2F-1-3	フィルタ装置チャコールエアフィルタ入口温度(A)(B)	T46-TE006A/B	R-2F-1-1	フィルタ装置チャコールエアフィルタ入口温度(A)(B)	T46-TE008A/B	フィルタ装置チャコールエアフィルタ温度(A)(B)	T46-TE009A/B	フィルタ装置チャコールエアフィルタ出口温度(A)(B)	T46-TE011A/B	フィルタ装置チャコールエアフィルタ出口温度(A)(B)	T46-TE012A/B		3F	原子炉建屋外気間窓圧(北側、西側、東側)	T46-aPT014A/B/D	R-3F-1	副環境仕様品への取替	燃料プール状態表示盤	H21-F577		現場表示機能を不使用化	原子炉建屋外気間窓圧(南側)	T46-aPT014C	R-3F-3-2	副環境仕様品への取替		<p><u>設計方針の相違</u></p> <p>泊は蒸気影響評価結果（添付資料19）から、防護対象設備に対して必要となる設備対策は無いことから、女川の添付資料23に該当する資料は作成していない。</p>
建屋	7F			対象機器				区画番号	対策内容																																																											
		名称	機器番号																																																																	
原子炉建屋 原子炉棟	2F	FCS 除湿ヒータ(A)用変圧器	E47-TB008	R-2F-3	R-2F-2-2へ移設、隔離ダンパ等による閉止																																																															
		FCS 除湿ヒータ(B)用変圧器	E47-TB009	R-2F-3	R-2F-2-3へ移設、隔離ダンパ等による閉止																																																															
		非常用ガス処理系排風機(A)	T46-C001A	R-2F-1-2	隔離ダンパ等による閉止																																																															
		非常用ガス処理系排風機(B)	T46-C001B	R-2F-1-3																																																																
		非常用ガス処理系空気乾燥装置(A)	T46-D001A	R-2F-1-2																																																																
		非常用ガス処理系空気乾燥装置(B)	T46-D001B	R-2F-1-3																																																																
		非常用ガス処理系フィルタ装置	T46-D002	R-2F-1-1																																																																
		空気乾燥装置(A)電気ヒータ入口温度	T46-TE003A	R-2F-1-2																																																																
		空気乾燥装置(B)電気ヒータ入口温度	T46-TE003B	R-2F-1-3																																																																
		フィルタ装置チャコールエアフィルタ入口温度(A)(B)	T46-TE006A/B	R-2F-1-1																																																																
		フィルタ装置チャコールエアフィルタ入口温度(A)(B)	T46-TE008A/B																																																																	
		フィルタ装置チャコールエアフィルタ温度(A)(B)	T46-TE009A/B																																																																	
		フィルタ装置チャコールエアフィルタ出口温度(A)(B)	T46-TE011A/B																																																																	
		フィルタ装置チャコールエアフィルタ出口温度(A)(B)	T46-TE012A/B																																																																	
		3F	原子炉建屋外気間窓圧(北側、西側、東側)	T46-aPT014A/B/D	R-3F-1	副環境仕様品への取替																																																														
			燃料プール状態表示盤	H21-F577		現場表示機能を不使用化																																																														
原子炉建屋外気間窓圧(南側)	T46-aPT014C		R-3F-3-2	副環境仕様品への取替																																																																



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																								
	<p style="text-align: center;">補足説明資料 27</p> <p>内部溢水影響評価における評価の保守性について</p> <p>内部溢水影響評価において考慮している保守性について、表1に整理する。</p> <p style="text-align: center;">表1 内部溢水影響評価における評価の保守性(1/3)</p> <table border="1" data-bbox="705 379 1267 1058"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>項目</th> <th>算出式又は設定値</th> <th>評価における保守性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">溢水量</td> <td>保有水量</td> <td>配管施工図又は平面図より配管長を算出</td> <td>・平面図を使用した場合は、計算値に50%を加味し保有水量を設定 ・計算結果を10m<sup>2</sup>単位で切り上げ処理</td> <td>補足説明資料7</td> </tr> <tr> <td>系統溢水量</td> <td>Q=A×C×√(2×g×H) Q:流出流量(m<sup>3</sup>/h) A:断面積(m<sup>2</sup>) C:損失係数 H:水頭(m)</td> <td>・すべての区画に対して最高使用圧力・最大口径から算出した系統の溢水量を使用 ・自動隔離の場合、インターロック作動までの時間に余裕を考慮(C<sub>FDW</sub>系の場合、9秒→20秒、C<sub>W</sub>系の場合、30秒→60秒)</td> <td>補足説明資料7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>隔離時間</td> <td>想定破損評価における手動隔離時間は基本80分を使用</td> <td>・隔離時間80分未満の系統についても80分を使用</td> <td>補足説明資料8</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">溢水水位</td> <td>滞留面積</td> <td>・床躯体図から躯体寸法を読み取り、床面積を算出し、算出した床面積を0.7倍にした値を使用 ・機器占有率が30%以上となる区画は、占有率に応じた係数を使用</td> <td>・アクセス開口及び通路等は床面積から除外 ・サンブ等、基準床面より掘り込んでいる部分の容積は考慮しない ・床面積算出後に切り捨てを実施し、更に0.7倍後に切り捨てを実施</td> <td>添付資料8</td> </tr> <tr> <td>溢水水位(評価高さ)</td> <td>H=Q/A H:溢水水位(m) Q:流入量(m<sup>3</sup>) A:滞留面積(m<sup>2</sup>)</td> <td>・計算値は0.1m単位で切り上げを実施</td> <td>補足説明資料13</td> </tr> </tbody> </table>	評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考	溢水量	保有水量	配管施工図又は平面図より配管長を算出	・平面図を使用した場合は、計算値に50%を加味し保有水量を設定 ・計算結果を10m <sup>2</sup> 単位で切り上げ処理	補足説明資料7	系統溢水量	Q=A×C×√(2×g×H) Q:流出流量(m <sup>3</sup> /h) A:断面積(m <sup>2</sup> ) C:損失係数 H:水頭(m)	・すべての区画に対して最高使用圧力・最大口径から算出した系統の溢水量を使用 ・自動隔離の場合、インターロック作動までの時間に余裕を考慮(C <sub>FDW</sub> 系の場合、9秒→20秒、C <sub>W</sub> 系の場合、30秒→60秒)	補足説明資料7		隔離時間	想定破損評価における手動隔離時間は基本80分を使用	・隔離時間80分未満の系統についても80分を使用	補足説明資料8	溢水水位	滞留面積	・床躯体図から躯体寸法を読み取り、床面積を算出し、算出した床面積を0.7倍にした値を使用 ・機器占有率が30%以上となる区画は、占有率に応じた係数を使用	・アクセス開口及び通路等は床面積から除外 ・サンブ等、基準床面より掘り込んでいる部分の容積は考慮しない ・床面積算出後に切り捨てを実施し、更に0.7倍後に切り捨てを実施	添付資料8	溢水水位(評価高さ)	H=Q/A H:溢水水位(m) Q:流入量(m <sup>3</sup> ) A:滞留面積(m <sup>2</sup> )	・計算値は0.1m単位で切り上げを実施	補足説明資料13	<p style="text-align: center;">補足説明資料 1</p> <p>内部溢水影響評価における評価の保守性について</p> <p>内部溢水影響評価において考慮している保守性について、表1に整理する。</p> <p style="text-align: center;">表1 内部溢水影響評価における評価の保守性(1/2)</p> <table border="1" data-bbox="1288 395 1850 1074"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>項目</th> <th>算出式又は設定値</th> <th>評価における保守性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">溢水量</td> <td>保有水量</td> <td>・配管施工図又は平面図より配管長を算出 ・機器構造図より機器(タンク、熱交換器、フィルタ、配管等、装置)保有水量を算出</td> <td>・平面図を使用した場合は、配管が建屋外部の3辺(縦、横、高さ)にルートされ、かつ迂復していることと仮定し配管長を算出し、配管径は系統の最大径として保有水量を算出 ・図面より算出した配管の容積を1.1倍し保有水量を設定 ・計算結果を10m<sup>2</sup>単位で切り上げ処理</td> <td>補足説明資料2</td> </tr> <tr> <td>系統溢水量</td> <td>・Q=A×C×√(2×g×H) Q:流出流量(m<sup>3</sup>/h) A:断面積(m<sup>2</sup>) C:損失係数 H:水頭(m)</td> <td>・すべての区画に対して最高使用圧力・最大口径から算出した系統の溢水量を使用 ・臨界流量はLBB規格に規定される算出式に基づき算出 ・自動隔離の場合、隔離時間は秒単位を切り上げ、分単位で設定(主蒸気系統の場合、11秒→1分)</td> <td>補足説明資料2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>隔離時間</td> <td>想定破損評価における手動隔離時間は基本80分を使用</td> <td>・隔離時間80分未満の系統についても80分を使用</td> <td>補足説明資料12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">溢水水位</td> <td>滞留面積</td> <td>・区画の全面積から機器等の欠損面積を差し引くことで滞留面積を算出 ・常設機器、現場資材等の欠損面積は現場調査により算出</td> <td>・欠損面積の現場測定結果を一律係数倍することで裕度を確保 ・欠損面積となる部分が最大となるよう、設置物の投影面積を欠損面積として測定 ・床面積算出後に小数第2位を切り捨て処理</td> <td>添付資料8</td> </tr> <tr> <td>溢水水位(評価高さ)</td> <td>H=Q/A H:溢水水位(m) Q:流入量(m<sup>3</sup>) A:滞留面積(m<sup>2</sup>)</td> <td>・計算値は整数を切り上げ</td> <td>補足説明資料45</td> </tr> </tbody> </table>	評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考	溢水量	保有水量	・配管施工図又は平面図より配管長を算出 ・機器構造図より機器(タンク、熱交換器、フィルタ、配管等、装置)保有水量を算出	・平面図を使用した場合は、配管が建屋外部の3辺(縦、横、高さ)にルートされ、かつ迂復していることと仮定し配管長を算出し、配管径は系統の最大径として保有水量を算出 ・図面より算出した配管の容積を1.1倍し保有水量を設定 ・計算結果を10m <sup>2</sup> 単位で切り上げ処理	補足説明資料2	系統溢水量	・Q=A×C×√(2×g×H) Q:流出流量(m <sup>3</sup> /h) A:断面積(m <sup>2</sup> ) C:損失係数 H:水頭(m)	・すべての区画に対して最高使用圧力・最大口径から算出した系統の溢水量を使用 ・臨界流量はLBB規格に規定される算出式に基づき算出 ・自動隔離の場合、隔離時間は秒単位を切り上げ、分単位で設定(主蒸気系統の場合、11秒→1分)	補足説明資料2		隔離時間	想定破損評価における手動隔離時間は基本80分を使用	・隔離時間80分未満の系統についても80分を使用	補足説明資料12	溢水水位	滞留面積	・区画の全面積から機器等の欠損面積を差し引くことで滞留面積を算出 ・常設機器、現場資材等の欠損面積は現場調査により算出	・欠損面積の現場測定結果を一律係数倍することで裕度を確保 ・欠損面積となる部分が最大となるよう、設置物の投影面積を欠損面積として測定 ・床面積算出後に小数第2位を切り捨て処理	添付資料8	溢水水位(評価高さ)	H=Q/A H:溢水水位(m) Q:流入量(m <sup>3</sup> ) A:滞留面積(m <sup>2</sup> )	・計算値は整数を切り上げ	補足説明資料45	<p>相違理由</p> <p>【保有水量】  <u>記載方針の相違</u>          泊は溢水源としている容器についても記載している。容器は機器構造図から容量を読み取ることで保有水量を算出している。  <u>設計方針の相違</u>          平面図を使用した場合の保守性の考慮方法が女川と異なるが、実際よりも配管長を保守的に設定し、更に配管径を系統の最大径とすることで、十分な保守性を確保している。</p> <p>【系統溢水量】  <u>設計方針の相違</u>          ・泊は高エネルギー配管からの流出流量の算定において、臨界流量を用いている。          ・自動隔離の場合の時間余裕の考慮の仕方が異なる(泊は秒単位であっても分単位で設定)が、隔離時間に保守性を考慮して設定していることは同じ。</p> <p>【滞留面積】  <u>設計方針の相違</u>          女川は床躯体図から滞留面積を算出しているのに対し、泊は区画全体の面積から機器等の欠損面積を差し引くことで滞留面積を算出している。保守性については、女川は滞留面積の算出時に係数を乗じているのに対し、泊は全区画の欠損面積を一律に係数倍増しすることで保守性を確保している。</p>
評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考																																																							
溢水量	保有水量	配管施工図又は平面図より配管長を算出	・平面図を使用した場合は、計算値に50%を加味し保有水量を設定 ・計算結果を10m <sup>2</sup> 単位で切り上げ処理	補足説明資料7																																																							
	系統溢水量	Q=A×C×√(2×g×H) Q:流出流量(m <sup>3</sup> /h) A:断面積(m <sup>2</sup> ) C:損失係数 H:水頭(m)	・すべての区画に対して最高使用圧力・最大口径から算出した系統の溢水量を使用 ・自動隔離の場合、インターロック作動までの時間に余裕を考慮(C <sub>FDW</sub> 系の場合、9秒→20秒、C <sub>W</sub> 系の場合、30秒→60秒)	補足説明資料7																																																							
	隔離時間	想定破損評価における手動隔離時間は基本80分を使用	・隔離時間80分未満の系統についても80分を使用	補足説明資料8																																																							
溢水水位	滞留面積	・床躯体図から躯体寸法を読み取り、床面積を算出し、算出した床面積を0.7倍にした値を使用 ・機器占有率が30%以上となる区画は、占有率に応じた係数を使用	・アクセス開口及び通路等は床面積から除外 ・サンブ等、基準床面より掘り込んでいる部分の容積は考慮しない ・床面積算出後に切り捨てを実施し、更に0.7倍後に切り捨てを実施	添付資料8																																																							
	溢水水位(評価高さ)	H=Q/A H:溢水水位(m) Q:流入量(m <sup>3</sup> ) A:滞留面積(m <sup>2</sup> )	・計算値は0.1m単位で切り上げを実施	補足説明資料13																																																							
評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考																																																							
溢水量	保有水量	・配管施工図又は平面図より配管長を算出 ・機器構造図より機器(タンク、熱交換器、フィルタ、配管等、装置)保有水量を算出	・平面図を使用した場合は、配管が建屋外部の3辺(縦、横、高さ)にルートされ、かつ迂復していることと仮定し配管長を算出し、配管径は系統の最大径として保有水量を算出 ・図面より算出した配管の容積を1.1倍し保有水量を設定 ・計算結果を10m <sup>2</sup> 単位で切り上げ処理	補足説明資料2																																																							
	系統溢水量	・Q=A×C×√(2×g×H) Q:流出流量(m <sup>3</sup> /h) A:断面積(m <sup>2</sup> ) C:損失係数 H:水頭(m)	・すべての区画に対して最高使用圧力・最大口径から算出した系統の溢水量を使用 ・臨界流量はLBB規格に規定される算出式に基づき算出 ・自動隔離の場合、隔離時間は秒単位を切り上げ、分単位で設定(主蒸気系統の場合、11秒→1分)	補足説明資料2																																																							
	隔離時間	想定破損評価における手動隔離時間は基本80分を使用	・隔離時間80分未満の系統についても80分を使用	補足説明資料12																																																							
溢水水位	滞留面積	・区画の全面積から機器等の欠損面積を差し引くことで滞留面積を算出 ・常設機器、現場資材等の欠損面積は現場調査により算出	・欠損面積の現場測定結果を一律係数倍することで裕度を確保 ・欠損面積となる部分が最大となるよう、設置物の投影面積を欠損面積として測定 ・床面積算出後に小数第2位を切り捨て処理	添付資料8																																																							
	溢水水位(評価高さ)	H=Q/A H:溢水水位(m) Q:流入量(m <sup>3</sup> ) A:滞留面積(m <sup>2</sup> )	・計算値は整数を切り上げ	補足説明資料45																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																							
	<p>表1 内部溢水影響評価における評価の保守性(2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>項目</th> <th>算出式又は設定値</th> <th>評価における保守性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>溢水水位</td> <td>排水</td> <td>—</td> <td>・床ドレン系による排水には期待せず、溢水量全量が伝播するものとして評価（カーブで囲まれた区画内へ貯留される分を考慮しない）</td> <td>別添1-4 補足説明資料13</td> </tr> <tr> <td>流下開口からの流出量</td> <td>扉からの流出量 ハッチ・吹抜けからの流出量</td> <td>・開口部からの越流水深 0.17mを考慮し、溢水水位を設定 ・越流量算出には、実験により求められた長方形の流量算出式を使用 <math>Q=C \times B \times h^{\frac{3}{2}}</math> Q:越流量(m<sup>3</sup>/s) C:流量係数(m<sup>3/2</sup>/s) h:越流水深(m)</td> <td>・原子炉建屋原子炉棟では、最大漏えい流量 263 m<sup>3</sup>/h (HPCS系) 原子炉建屋付属棟では、最大漏えい流量 201 m<sup>3</sup>/h (RCW系) に対して扉1箇所からの流出量は331 m<sup>3</sup>/h ・原子炉建屋原子炉棟では、流下経路として扉2箇所を設定 ・ハッチについては、開口4辺のうち、小さい2辺から流出するものとして算出 ・開口が2辺の吹抜けについては、小さい1辺から流出するものとして算出 ・開口が3辺の吹抜けについては、大きい1辺から流出するものとして算出</td> <td>添付資料12</td> </tr> <tr> <td>床開口からの流出量</td> <td></td> <td><math>Q = A \sqrt{\frac{2gH}{1 + \frac{L}{d} + \xi}}</math> Q: 流量(m<sup>3</sup>/s) A: 断面積(m<sup>2</sup>) H: 落差(m) d: 内径(m) L: 直管長(m) ξ: 損失係数 λ: 摩擦係数</td> <td>・流量は落差が大きいほど大きくなるため、スラブ上の滞留深さは考慮せず、落差としてはスラブ厚さのみを考慮 ・摩擦係数の算出は、最も粗度の高いコンクリート管を考慮 ・管路入口の損失係数は、最も損失が大きい角型を考慮</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>表1 内部溢水影響評価における評価の保守性(3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>項目</th> <th>算出式又は設定値</th> <th>評価における保守性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機能喪失高さ</td> <td>機能喪失高さ(設定位置)</td> <td>・弁類 弁が設置されている配管の中心レベル、又は弁軸のレベル ・ポンプ類、ファン類 コンクリート基礎の高さ ・電気盤類 対象機器の設置レベル ・計器関係 計器下端レベル</td> <td>・弁類、ポンプ類、ファン類であれば、駆動部の設置高さが実際の機能喪失高さとなる ・電気盤類については、盤内配置状況に基づき個別に設定できるが、設置床レベルで設定 ・計器関係では、計器の接点部分について個別に評価し設定できるが、計器下端レベルで設定</td> <td>添付資料5</td> </tr> <tr> <td>機能喪失高さ</td> <td>機能喪失高さ(評価で使用する値)</td> <td>設計値と実測値を比較し、より低い(小さい)方を溢水影響を判定する際の機能喪失高さとして設定</td> <td>・設計値、実測値ともに最大水上高さである55mmを差し引いた値として設定 ・水面のゆらぎによる影響を考慮し、機能喪失高さの裕度が小さい場合、ゆらぎ対策を実施</td> <td>補足説明資料26</td> </tr> </tbody> </table>	評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考	溢水水位	排水	—	・床ドレン系による排水には期待せず、溢水量全量が伝播するものとして評価（カーブで囲まれた区画内へ貯留される分を考慮しない）	別添1-4 補足説明資料13	流下開口からの流出量	扉からの流出量 ハッチ・吹抜けからの流出量	・開口部からの越流水深 0.17mを考慮し、溢水水位を設定 ・越流量算出には、実験により求められた長方形の流量算出式を使用 $Q=C \times B \times h^{\frac{3}{2}}$ Q:越流量(m <sup>3</sup> /s) C:流量係数(m <sup>3/2</sup> /s) h:越流水深(m)	・原子炉建屋原子炉棟では、最大漏えい流量 263 m <sup>3</sup> /h (HPCS系) 原子炉建屋付属棟では、最大漏えい流量 201 m <sup>3</sup> /h (RCW系) に対して扉1箇所からの流出量は331 m <sup>3</sup> /h ・原子炉建屋原子炉棟では、流下経路として扉2箇所を設定 ・ハッチについては、開口4辺のうち、小さい2辺から流出するものとして算出 ・開口が2辺の吹抜けについては、小さい1辺から流出するものとして算出 ・開口が3辺の吹抜けについては、大きい1辺から流出するものとして算出	添付資料12	床開口からの流出量		$Q = A \sqrt{\frac{2gH}{1 + \frac{L}{d} + \xi}}$ Q: 流量(m <sup>3</sup> /s) A: 断面積(m <sup>2</sup> ) H: 落差(m) d: 内径(m) L: 直管長(m) ξ: 損失係数 λ: 摩擦係数	・流量は落差が大きいほど大きくなるため、スラブ上の滞留深さは考慮せず、落差としてはスラブ厚さのみを考慮 ・摩擦係数の算出は、最も粗度の高いコンクリート管を考慮 ・管路入口の損失係数は、最も損失が大きい角型を考慮		評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考	機能喪失高さ	機能喪失高さ(設定位置)	・弁類 弁が設置されている配管の中心レベル、又は弁軸のレベル ・ポンプ類、ファン類 コンクリート基礎の高さ ・電気盤類 対象機器の設置レベル ・計器関係 計器下端レベル	・弁類、ポンプ類、ファン類であれば、駆動部の設置高さが実際の機能喪失高さとなる ・電気盤類については、盤内配置状況に基づき個別に設定できるが、設置床レベルで設定 ・計器関係では、計器の接点部分について個別に評価し設定できるが、計器下端レベルで設定	添付資料5	機能喪失高さ	機能喪失高さ(評価で使用する値)	設計値と実測値を比較し、より低い(小さい)方を溢水影響を判定する際の機能喪失高さとして設定	・設計値、実測値ともに最大水上高さである55mmを差し引いた値として設定 ・水面のゆらぎによる影響を考慮し、機能喪失高さの裕度が小さい場合、ゆらぎ対策を実施	補足説明資料26	<p>表1 内部溢水影響評価における評価の保守性(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>項目</th> <th>算出式又は設定値</th> <th>評価における保守性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>溢水水位</td> <td>排水</td> <td>—</td> <td>・床ドレンによる排水には期待せず、溢水量全量が伝播するものとして評価（段差等で囲まれた区画内へ貯留される分を考慮しない）</td> <td>別添1-4</td> </tr> <tr> <td>流下開口からの流出量</td> <td>グレーチング・吹抜けからの流出量</td> <td><math>Q=C \times B \times h^{\frac{3}{2}}</math> Q: 越流量(m<sup>3</sup>/s) C: 流量係数(m<sup>3/2</sup>/s) h: 越流水深(m) B: 開口の幅(m)</td> <td>・流出を期待できる開口の幅の50%として設定 ・開口周辺に膜が無い場合でも、膜があるものとして流出量を算出</td> <td>添付資料11</td> </tr> <tr> <td>機能喪失高さ</td> <td>機能喪失高さ(基本設定箇所)</td> <td>機能喪失高さは「基本設定箇所」を基本とし、溢水水位に応じて機能喪失高さの実力値である「個別測定箇所」に見直す。「基本設定箇所」は以下の通りとする。 ・弁類 弁が設置されている配管の中心レベル ・ポンプ類、ファン類 コンクリート基礎の高さ ・電気盤類 対象機器の設置レベル ・計器関係 計器下端レベル</td> <td>・「基本設定箇所」又は「個別測定箇所」のどちらの場合であっても、最大水上高さである50mmを差し引いた値として設定 ・水面のゆらぎによる影響を考慮し、溢水水位に対して機能喪失高さが一律10mm以上となるよう裕度を確保</td> <td>添付資料5</td> </tr> </tbody> </table>	評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考	溢水水位	排水	—	・床ドレンによる排水には期待せず、溢水量全量が伝播するものとして評価（段差等で囲まれた区画内へ貯留される分を考慮しない）	別添1-4	流下開口からの流出量	グレーチング・吹抜けからの流出量	$Q=C \times B \times h^{\frac{3}{2}}$ Q: 越流量(m <sup>3</sup> /s) C: 流量係数(m <sup>3/2</sup> /s) h: 越流水深(m) B: 開口の幅(m)	・流出を期待できる開口の幅の50%として設定 ・開口周辺に膜が無い場合でも、膜があるものとして流出量を算出	添付資料11	機能喪失高さ	機能喪失高さ(基本設定箇所)	機能喪失高さは「基本設定箇所」を基本とし、溢水水位に応じて機能喪失高さの実力値である「個別測定箇所」に見直す。「基本設定箇所」は以下の通りとする。 ・弁類 弁が設置されている配管の中心レベル ・ポンプ類、ファン類 コンクリート基礎の高さ ・電気盤類 対象機器の設置レベル ・計器関係 計器下端レベル	・「基本設定箇所」又は「個別測定箇所」のどちらの場合であっても、最大水上高さである50mmを差し引いた値として設定 ・水面のゆらぎによる影響を考慮し、溢水水位に対して機能喪失高さが一律10mm以上となるよう裕度を確保	添付資料5	<p>相違理由</p> <p>【流下開口からの流出量】  <u>設計方針の相違</u>          ・泊は扉及び機器ハッチからの流出に期待した評価は実施しておらず、定量的に流出を考慮している開口部としてはグレーチング開口及び吹抜けがある。          ・当該開口の位置が部屋の端にあることや開口の幅が1辺のみであることを踏まえ、開口幅は流出を期待できる開口の幅の50%として設定している。(島根2号炉と同様)</p> <p>【機能喪失高さ】  <u>設計方針の相違</u>          ・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「実力高さ(基本設定箇所)」を標準としているが、基本設定箇所で没水してしまう機器については「評価高さ(個別測定箇所)」を適用している。(柏崎6、7号炉及び島根2号炉と同様)          ・評価の保守性として、最大水上高さと水面のゆらぎに対する裕度を考慮している点は同じである。</p>
評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考																																																						
溢水水位	排水	—	・床ドレン系による排水には期待せず、溢水量全量が伝播するものとして評価（カーブで囲まれた区画内へ貯留される分を考慮しない）	別添1-4 補足説明資料13																																																						
流下開口からの流出量	扉からの流出量 ハッチ・吹抜けからの流出量	・開口部からの越流水深 0.17mを考慮し、溢水水位を設定 ・越流量算出には、実験により求められた長方形の流量算出式を使用 $Q=C \times B \times h^{\frac{3}{2}}$ Q:越流量(m <sup>3</sup> /s) C:流量係数(m <sup>3/2</sup> /s) h:越流水深(m)	・原子炉建屋原子炉棟では、最大漏えい流量 263 m <sup>3</sup> /h (HPCS系) 原子炉建屋付属棟では、最大漏えい流量 201 m <sup>3</sup> /h (RCW系) に対して扉1箇所からの流出量は331 m <sup>3</sup> /h ・原子炉建屋原子炉棟では、流下経路として扉2箇所を設定 ・ハッチについては、開口4辺のうち、小さい2辺から流出するものとして算出 ・開口が2辺の吹抜けについては、小さい1辺から流出するものとして算出 ・開口が3辺の吹抜けについては、大きい1辺から流出するものとして算出	添付資料12																																																						
床開口からの流出量		$Q = A \sqrt{\frac{2gH}{1 + \frac{L}{d} + \xi}}$ Q: 流量(m <sup>3</sup> /s) A: 断面積(m <sup>2</sup> ) H: 落差(m) d: 内径(m) L: 直管長(m) ξ: 損失係数 λ: 摩擦係数	・流量は落差が大きいほど大きくなるため、スラブ上の滞留深さは考慮せず、落差としてはスラブ厚さのみを考慮 ・摩擦係数の算出は、最も粗度の高いコンクリート管を考慮 ・管路入口の損失係数は、最も損失が大きい角型を考慮																																																							
評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考																																																						
機能喪失高さ	機能喪失高さ(設定位置)	・弁類 弁が設置されている配管の中心レベル、又は弁軸のレベル ・ポンプ類、ファン類 コンクリート基礎の高さ ・電気盤類 対象機器の設置レベル ・計器関係 計器下端レベル	・弁類、ポンプ類、ファン類であれば、駆動部の設置高さが実際の機能喪失高さとなる ・電気盤類については、盤内配置状況に基づき個別に設定できるが、設置床レベルで設定 ・計器関係では、計器の接点部分について個別に評価し設定できるが、計器下端レベルで設定	添付資料5																																																						
機能喪失高さ	機能喪失高さ(評価で使用する値)	設計値と実測値を比較し、より低い(小さい)方を溢水影響を判定する際の機能喪失高さとして設定	・設計値、実測値ともに最大水上高さである55mmを差し引いた値として設定 ・水面のゆらぎによる影響を考慮し、機能喪失高さの裕度が小さい場合、ゆらぎ対策を実施	補足説明資料26																																																						
評価対象	項目	算出式又は設定値	評価における保守性	備考																																																						
溢水水位	排水	—	・床ドレンによる排水には期待せず、溢水量全量が伝播するものとして評価（段差等で囲まれた区画内へ貯留される分を考慮しない）	別添1-4																																																						
流下開口からの流出量	グレーチング・吹抜けからの流出量	$Q=C \times B \times h^{\frac{3}{2}}$ Q: 越流量(m <sup>3</sup> /s) C: 流量係数(m <sup>3/2</sup> /s) h: 越流水深(m) B: 開口の幅(m)	・流出を期待できる開口の幅の50%として設定 ・開口周辺に膜が無い場合でも、膜があるものとして流出量を算出	添付資料11																																																						
機能喪失高さ	機能喪失高さ(基本設定箇所)	機能喪失高さは「基本設定箇所」を基本とし、溢水水位に応じて機能喪失高さの実力値である「個別測定箇所」に見直す。「基本設定箇所」は以下の通りとする。 ・弁類 弁が設置されている配管の中心レベル ・ポンプ類、ファン類 コンクリート基礎の高さ ・電気盤類 対象機器の設置レベル ・計器関係 計器下端レベル	・「基本設定箇所」又は「個別測定箇所」のどちらの場合であっても、最大水上高さである50mmを差し引いた値として設定 ・水面のゆらぎによる影響を考慮し、溢水水位に対して機能喪失高さが一律10mm以上となるよう裕度を確保	添付資料5																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

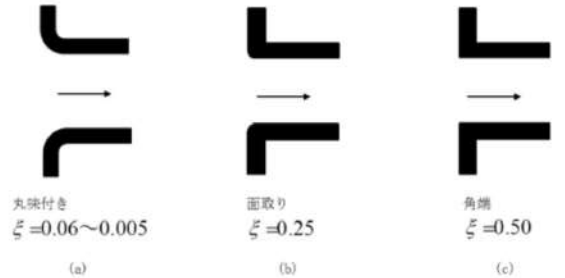
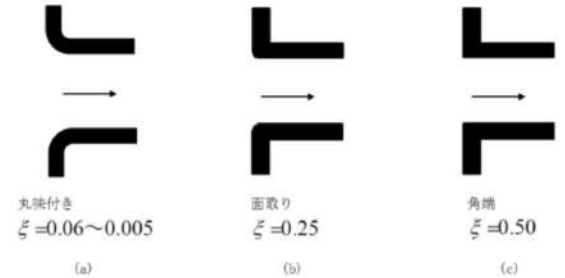
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料</p> <p>3-1 想定破損における溢水量の算出について</p> <p>1. はじめに</p> <p>溢水量は隔離が完了するまでの時間と漏えい箇所からの流量の積に配管保有水量を加えたものである。想定破損において溢水量を算出するために、以下の考え方に基づき検討した。</p> <p>(1) 検知、判断、隔離の方法及び手順について、統一的な考え方を整理し、また、それに基づき漏えいを停止するまでの時間の積上げを行うこと。</p> <p>(2) 漏えい停止までの時間に漏えい流量を乗じて溢水量を算出すること。</p> <p>2. 統一的な考え方</p> <p>「統一的な考え方」とは時間、流量等に関するもので保守的な評価をするための考え方である。時間に関するものは以下の4項目である。</p> <p>(1)原子炉手動トリップを行う場合は、事象の検知、判断及び漏えい箇所の特定のための時間を考慮する。</p> <p>(2)原子炉手動トリップを行った場合、状況の確認の時間5分を確保する<sup>※1</sup>。</p> <p>(3)隔離時間は、操作にかかる時間（以下、操作時間）と停止にかかる時間（以下、停止時間）の合計とする。</p> <p>(4)操作時間は、通常1操作1分とする。ポンプを停止する場合、停止時間を考慮し操作時間に加える。<sup>※2</sup></p> <p>なお、溢水量が保守的になるように漏えい停止までの隔離時間を確保するために、安全解析を実施しているケースでは、保守性のために運転操作余裕（10分）を確保している。また、安全解析を実施していないケースに対しても原子炉手動トリップさせる場合には、運転操作余裕（10分）以外に原子炉手動トリップ操作後の確認時間（5分）を保守的に設定している。</p> <p>※1 「原子炉手動トリップを行った場合、状況の確認の時間5分を確保する。」とは、運転員が「事象の判断及び漏えい箇所を特定」するまでの時間10分の後に、隔離すべきループを確定するために原子炉手動トリップ操作を行い、原子炉手動トリップ後の状況確認に必要な時間を確保することである。これは、確実にプラント停止が行われていることを確認するために必要な時間であり、訓練等において、原子炉手動トリップ後の確認に要する実績時間が2分であったことから余裕をもって5分と設定している。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料7</p> <p>保有水量・系統別溢水量算出要領</p> <p>1. 対象範囲</p> <p>(1) 水系及び油系配管系統のすべてを保有水量算出対象とする。</p> <p>(2) A系、B系など複数に分割されている場合は、各々の系統について算出する。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料2</p> <p>保有水量・系統別溢水量算出要領</p> <p>1. 対象範囲</p> <p>(1) 水系及び油系配管系統のすべてを保有水量算出対象とする。</p> <p>(2) A系、B系など複数に分割されている場合は、各々の系統について算出する。</p>	<p>【大阪】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>※2 「操作時間は、通常1操作1分とする。」とは、操作はすべて中央制御室にて実施することから、運転シミュレータを用いて検証したところ模擬事象での収束に要する実績時間は1分以内であったこと（操作時間は20秒、弁閉止時間は20秒）による。</p> <p>また、「ポンプを停止する場合、停止するまでの時間を考慮し操作時間に加える。」とは、ポンプを停止する場合は、充てんポンプについては空転時間を考慮し1分とし主給水ポンプは出口弁閉止までの5分としたことによる。</p> <p>流量、保有水量に関して以下のとおり考えた。</p> <p>2. 系統漏えい量 (W1) 算出要領</p> <p>溢水量は溢水ガイドに基づき算出した。考慮する条件等を以下に示す。</p> <p>(1) 隔離時間 (自動)：自動隔離を期待できる場合は、インターロックを考慮した隔離時間とする。</p> <p>(2) 隔離時間 (手動/単一破損)：手動隔離の場合、隔離時間は基本 80 分を使用する。</p> <p>(3) 破損想定箇所：「破損想定箇所の最高使用圧力」, 「破損想定箇所の口径」とし、系統で漏えい量が最も厳しい箇所を破損想定とし、建屋毎には算出しない。</p> <p>(4) 破損形状は内包する流体のエネルギーに応じて、原則、高エネルギー配管は完全全周破断、低エネルギー配管は、配管内径の1/2の長さで配管肉厚1/2の幅を有する貫通クラックを想定する。</p> <p>(5) 数値処理：保守的に算出した漏えい量的小数点以下第1位を切り上げた値とする。</p> <p>(6) ポンプ運転流量：「定格流量」とする。</p> <p>(7) 配管内圧：「最高使用圧力」とする。</p> <p>(8) 停止系統の配管内圧：停止中の配管内圧とし、接続される系統の「最高使用圧力」等を用いる。(残留熱除去系の封水系統など)</p> <p>以上を踏まえ、当該系統に対して他系統との接続、大容量水源及び補給の何れかが存在する場合、系統漏えい量を以下のとおり算出した。</p> <p>W1(系統漏えい量 (m<sup>3</sup>))=Q (流出流量(m<sup>3</sup>/h)) × t (隔離時間(h))</p>	<p>2. 系統漏えい量 (W1) 算出要領</p> <p>溢水量は溢水ガイドに基づき算出した。考慮する条件等を以下に示す。</p> <p>(1) 隔離時間 (自動)：自動隔離を期待できる場合は、インターロックを考慮した隔離時間とする。</p> <p>(2) 隔離時間 (手動/単一破損)：手動隔離の場合、隔離時間は基本 80 分を使用する。</p> <p>(3) 破損想定箇所：「破損想定箇所の最高使用圧力」, 「破損想定箇所の口径」とし、系統で漏えい量が最も厳しい箇所を破損想定とし、建屋ごとには算出しない。</p> <p>(4) 破損形状は内包する流体のエネルギーに応じて、原則、高エネルギー配管は完全全周破断、低エネルギー配管は、配管内径の1/2の長さで配管肉厚1/2の幅を有する貫通クラックを想定する。</p> <p>(5) 数値処理：保守的に算出した漏えい量的小数点以下第1位を切り上げた値とする。</p> <p>(6) ポンプ運転流量：「定格流量」とする。</p> <p>(7) 配管内圧：「最高使用圧力」とする。</p> <p>以上を踏まえ、当該系統に対して他系統との接続、大容量水源及び補給の何れかが存在する場合、系統漏えい量を以下のとおり算出した。</p> <p>W1(系統漏えい量 (m<sup>3</sup>))=Q (流出流量 (m<sup>3</sup>/h)) × t (隔離時間(h))</p>	<p>2. 系統漏えい量 (W1) 算出要領</p> <p>溢水量は溢水ガイドに基づき算出した。考慮する条件等を以下に示す。</p> <p>(1) 隔離時間 (自動)：自動隔離を期待できる場合は、インターロックを考慮した隔離時間とする。</p> <p>(2) 隔離時間 (手動/単一破損)：手動隔離の場合、隔離時間は基本 80 分を使用する。</p> <p>(3) 破損想定箇所：「破損想定箇所の最高使用圧力」, 「破損想定箇所の口径」とし、系統で漏えい量が最も厳しい箇所を破損想定とし、建屋ごとには算出しない。</p> <p>(4) 破損形状は内包する流体のエネルギーに応じて、原則、高エネルギー配管は完全全周破断、低エネルギー配管は、配管内径の1/2の長さで配管肉厚1/2の幅を有する貫通クラックを想定する。</p> <p>(5) 数値処理：保守的に算出した漏えい量的小数点以下第1位を切り上げた値とする。</p> <p>(6) ポンプ運転流量：「定格流量」とする。</p> <p>(7) 配管内圧：「最高使用圧力」とする。</p> <p>以上を踏まえ、当該系統に対して他系統との接続、大容量水源及び補給の何れかが存在する場合、系統漏えい量を以下のとおり算出した。</p> <p>W1(系統漏えい量 (m<sup>3</sup>)) =Q (流出流量 (m<sup>3</sup>/h)) × t (隔離時間(h))</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では、停止系統の配管は低エネルギー配管であり、応力評価にて想定破損除外されているため、溢水量の要領には記載しない。</p>

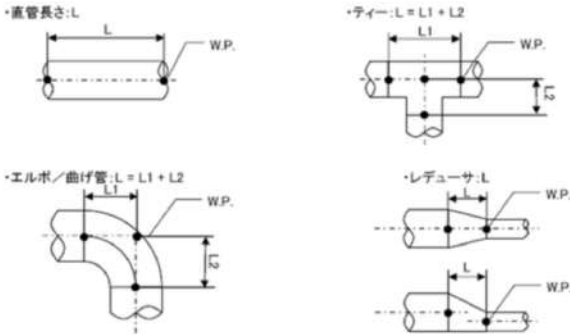
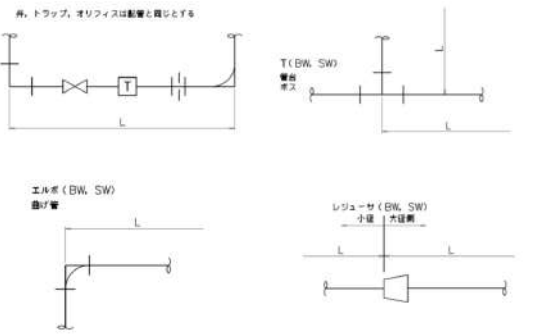
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(5) 漏えい流量の考え方</p> <p>配管破断箇所より系統の運転流量等で漏えいが発生するものとする。具体的には、以下のとおりである。</p> <p>a. 安全解析の設定が適用できる場合は、その解析で使用される流量を用いた。</p> <p>b. 配管の圧力、温度、口径等から算出される臨界流量を用い、臨界流量算出に当たっては流量が保守的になるように加速損失、摩擦損失を無視し入口損失だけを考慮した。(別紙16参照)</p> <p>c. ポンプ出口の配管の破断では、ポンプのランナウト流量を適用した。</p> <p>d. 補助給水配管からの漏えい流量は、1箇所から全流量が流出すると設定した(ポンプは4台の蒸気発生器に水を送水するため配管は4本あり、そのうち1本が破断する)。</p> <p>ここで、貫通クラックの場合は、以下の計算式より求める。  <math>Q</math> (流出流量) = <math>A \times C \times \sqrt{(2 \times g \times H) \times 3600}</math>                  (A: 破断面積(m<sup>2</sup>), C: 流出流量損失係数(0.82)<sup>※1</sup>, g: 重力加速度(m/s<sup>2</sup>), H: 水頭(m))                  ※1 流出流量損失係数Cについて                  流出流量損失係数Cは次式により算出される。  <math display="block">C = \sqrt{\frac{1}{1+\xi}}</math> <math>\xi</math>: 損失係数                  損失係数 <math>\xi</math> は、破損部の入口形状により決定する係数であるが、貫通クラックを想定するため、図1(c)が最も近い形状であり、損失係数は0.50を使用した。</p>  <p>図1 管路の入口形状と損失形状</p>	<p>高エネルギー配管の完全全周破断の場合、配管破断箇所より系統の運転流量等で漏えいが発生するものとする。具体的には、以下のとおりである。</p> <p>a. 安全解析の設定が適用できる場合は、その解析で使用される流量を用いた。</p> <p>b. 配管の圧力、温度、口径等から算出される臨界流量を用い、臨界流量算出に当たっては流量が保守的になるように加速損失、摩擦損失を無視し入口損失だけを考慮した(詳細は、別紙1「臨界流量について」を参照)。</p> <p>c. ポンプ出口の配管の破断では、ポンプのランナウト流量を適用した。</p> <p>d. 補助給水配管からの漏えい流量は、1箇所から全流量が流出するとした(ポンプは3台の蒸気発生器に水を送水するため、配管は3本あり、そのうち1本が破断する)。</p> <p>これらの考え方を用いて、高エネルギー配管の溢水量を算出した結果を別紙2「高エネルギー配管の溢水量算出結果」に示す。                  低エネルギー配管の貫通クラックの場合は、以下の計算式より求める。  <math>Q</math> (流出流量) = <math>A \times C \times \sqrt{(2 \times g \times H) \times 3600}</math>                  (A: 破断面積(m<sup>2</sup>), C: 流出流量損失係数(0.82)<sup>※1</sup>, g: 重力加速度(m/s<sup>2</sup>), H: 水頭(m))                  ※1 流出流量損失係数Cについて                  流出流量損失係数Cは次式により算出される。  <math display="block">C = \sqrt{\frac{1}{1+\xi}}</math> <math>\xi</math>: 損失係数                  損失係数 <math>\xi</math> は、破損部の入口形状により決定する係数であるが、貫通クラックを想定するため、図1(c)が最も近い形状であり、損失係数は0.50を使用した。</p>  <p>図1 管路の入口形状と損失形状</p>	<p>設計方針の相違</p> <p>泊では、完全全周破断の場合は、左記のとおり漏えい流量を設定し、系統漏えい量を算出している。結果を別紙2として記載する。</p> <p>【大阪】                  記載表現の相違</p> <p>【大阪】                  設計方針の相違</p> <p>大阪は4ループであり、泊は3ループであることによる相違。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>高エネルギー配管についても記載を行っているため、低エネルギー配管について明記することにして</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(6) 保有水量の考え方</p> <p>破損箇所の隔離範囲内の系統の保有水がすべて漏えいするものとして設定した。</p> <p>さらに、サンプル水位については、警報が遅く発信するように水位計の誤差を考慮した。また、漏えい箇所特定に要する時間は、充てんポンプのミニマムフローラインの場合、体積制御タンクの水位の減少等から現場確認する範囲を予め絞り込めることから、溢水ガイドに定める30分は必要ないものの保守的に評価するためガイドの規定の30分を用いた。（別紙6参照）</p>	<p>3. 系統保有水量 (W2) の算出要領</p> <p>(1) 溢水ガイドにおいて破損を想定する機器及び呼び径 25A を超える配管に対し、<b>配管計装線図 (P &amp; I D)</b> にて、保有水量を算出する範囲を抽出する。</p> <p>(2) 抽出した範囲について、配管施工図を準備する。</p> <p>(3) 配管施工図より配管長を算出する。</p> <p>a. 配管施工図がない場合は、平面図を使用する。</p> <p>b. エルボ、ティー等の管継手部は保守的に配管長を算出する。（図2参照）</p> <p>c. レデューサは大口径側の口径を使用する。</p> <p>d. バルブ、スペシャリティ、フランジは接続配管の内径面積×面間寸法により算出するものとする。</p> <p>(4) 配管長×内径面積により、保有水量を算出する（内径面積は、公称肉厚にて算出）。</p> <p>(5) 機器保有水量は「<b>運転時重量</b>」と「<b>乾燥重量</b>」の差等とする。</p> <p>(6) 保有水量の算出に当たっては、評価に保守性を確保する観点から、以下のとおり取り扱う。（いずれの場合も、10m<sup>3</sup>単位で切り上げ処理）</p> <p>a. 配管保有水量の算出において配管施工図を使用した場合は、呼び径 25A 以下の小口径配管等の保有水量を考慮し、計算値に10%<sup>*2</sup>を加味し評価上の保有水量と設定する。</p> <p>b. 配管保有水量の算出において平面図を使用した場合は、<b>配管の立上り等の据付状態及び、呼び径 25A 以下の小口径配管等の保有水量を考慮し、計算値に50%<sup>*3</sup>加味し評価上の保有水量と設定する。</b></p> <p>c. 機器に接続されている呼び径 25A 以下の小口径配管等の保有水量を考慮し、算出した機器保有水量に10%<sup>*2</sup>を加味し評価上の保有水量と設定する。</p>	<p>これらの考え方をを用いて、低エネルギー配管の溢水量を算出した結果を算出した結果を別紙3「<b>低エネルギー配管の流量算出結果</b>」に示す。</p> <p>3. 系統保有水量 (W2) の算出要領</p> <p>(1) 溢水ガイドにおいて破損を想定する機器及び呼び径 25A を超える配管に対し、<b>系統図</b>にて、保有水量を算出する範囲を抽出する。</p> <p>(2) 抽出した範囲について、配管施工図を準備する。</p> <p>(3) 配管施工図より配管長を算出する。</p> <p>a. 配管施工図がない場合は、平面図を使用する。</p> <p>b. エルボ、ティー等の管継手部は保守的に配管長を算出する（図2参照）。</p> <p>c. レデューサは大口径側の口径を使用する。</p> <p>d. バルブ、スペシャリティ、フランジは接続配管の内径面積×面間寸法により算出するものとする。</p> <p>(4) 配管長×内径面積により、保有水量を算出する（内径面積は、公称肉厚にて算出）。</p> <p>(5) 機器保有水量は、<b>建設工認資料添付図に記載されている値又は構造図等に記載されている容量値を用いる。容量値の記載がない場合は「滴液重量」と「空流量」の差等とする。</b></p> <p>(6) 保有水量の算出に当たっては、評価に保守性を確保する観点から、以下のとおり取り扱う（いずれの場合も、10m<sup>3</sup>単位で切り上げ処理）。</p> <p>a. 配管の保有水量の算出において配管施工図を用いた場合は、呼び径 25A 以下の小口径配管等の保有水量を考慮し、計算値に10%<sup>*2</sup>を加味し評価上の保有水量と設定する。</p> <p>b. 配管保有水量の算出において平面図を使用した場合は、<b>建屋外郭の3辺（縦、横、高さ）にルートされ、かつ往復していると仮定し、また配管サイズを系統の最大径として保有水量を設定する。</b></p> <p>c. 機器に接続されている呼び径 25A 以下の小口径配管等の保有水量を考慮し、算出した機器保有水量に10%<sup>*2</sup>を加味し評価上の保有水量と設定する。</p>	<p><b>記載方針の相違</b></p> <p>泊では、低エネルギー配管について、流量計計算を実施した結果を本資料において記載する。</p> <p><b>記載表現の相違</b></p> <p><b>設計方針の相違</b></p> <p>泊では、建設工認資料添付図に記載されている値又は構造図に記載されている容量値を用いている。容量値の記載がない場合は、図面に記載の「滴液重量」と「空重量」の差等を算出している。</p> <p><b>設計方針の相違</b></p> <p>泊では、保有水量の算出において機器配置図を使用した場合は、建屋の縦横上下に往復していると仮定して、さらに配管サイズも系統の最大径とすることで、保守性を十分に確保している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>※2 機器の据付公差による配管長への影響や製作公差による配管断面積への影響、ドレン・ベントライン等の小口径配管、微量の保有水を有するラック内等の保有水量の影響を考慮し、算出した配管保有水量に10%加味する。</p> <p>※3 配管の立上り等の据付状態は平面図上に記載がないものと想定し、算出した配管保有水量に50%加味することとしているが、今回保有水量の算出に用いた平面図においては、配管の立上り等の据付状態が記載されており、据付状態を考慮した保有水量を算出していることから、十分な余裕を確保できていると考えられる</p>  <p>図2 管継手の配管長L</p>	<p>※2 機器の据付公差による配管長への影響や製作公差による配管断面積への影響、ドレン・ベントライン等の小口径配管、微量の保有水を有するラック内等の保有水量の影響を考慮し、算出した配管保有水量に10%加味する。</p>  <p>図2 管継手の配管長L</p>	<p>設計方針の相違</p> <p>泊では、今回保有水量の算出に用いた平面図において、配管の立上り等の据え付け状態の記載がないが、建屋外郭の縦横上下に往復していると仮定して、さらに配管サイズも系統の最大径とすることで、保守性を十分に確保していると考えている。</p>
<p>4. 溢水量 (W) 算出要領</p> <p>(1) 当該系統に対し、他系統との接続、大容量水源及び補給の何れかが存在する場合の溢水量</p> $W(\text{系統溢水量 (m}^3\text{)}) = W1(\text{系統漏えい量 (m}^3\text{)}) + W2(\text{系統保有水量 (m}^3\text{)})$ <p>(2) 当該系統のみで、他系統との接続、大容量水源及び補給の何れも無い場合の溢水量</p> $W(\text{系統溢水量 (m}^3\text{)}) = W2(\text{系統保有水量 (m}^3\text{)})$	<p>4. 溢水量 (W) 算出要領</p> <p>(1) 当該系統に対し、他系統との接続、大容量水源及び補給のいずれかが存在する場合の溢水量</p> $W(\text{系統溢水量 (m}^3\text{)}) = W1(\text{系統漏えい量 (m}^3\text{)}) + W2(\text{系統保有水量 (m}^3\text{)})$ <p>(2) 当該系統のみで、他系統との接続、大容量水源及び補給の何れも無い場合の溢水量</p> $W(\text{系統溢水量 (m}^3\text{)}) = W2(\text{系統保有水量 (m}^3\text{)})$	<p>4. 溢水量 (W) 算出要領</p> <p>(1) 当該系統に対し、他系統との接続、大容量水源及び補給のいずれかが存在する場合の溢水量</p> $W(\text{系統溢水量 (m}^3\text{)}) = W1(\text{系統漏えい量 (m}^3\text{)}) + W2(\text{系統保有水量 (m}^3\text{)})$ <p>(2) 当該系統のみで、他系統との接続、大容量水源及び補給の何れも無い場合の溢水量</p> $W(\text{系統溢水量 (m}^3\text{)}) = W2(\text{系統保有水量 (m}^3\text{)})$	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙 16</p> <p>臨界流量について</p> <p>臨界流量は、破断箇所からの溢水流量を最も保守的に評価するために用いる流量である。保守的な設定をするための考え方を以下に整理した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算定に用いた臨界流量は、「JSME S ND1-2002 発電用原子力設備規格 配管破損防護設計規格」（以降、LBB 規格と称す）で規定されたもの。</li> <li>・LBB 規格では、臨界流評価モデルとして「Henry のサブクール水モデル」と「Moody のスリップモデル」が規定。加圧水の流出に対しては「Henry のサブクール水モデル」を適用。 （飽和水、飽和蒸気については、「Moody のスリップモデル」を用いる）</li> <li>・臨界流量を算出するためには、系統圧力、温度、配管口径、長さ、圧力損失等が必要。</li> <li>・LBB 規格では、臨界流量評価において以下の圧力損失を考慮することが記載されているが、保守的に臨界流量を大きくするため、加速損失および摩擦損失を考慮しなかった。</li> </ul> <p>①入口損失： 主給水管から補助給水への流入部等、破断点へ向かう流れが分岐管へ流入する際に生じる損失                  ②加速損失： 破断点へ向かう流れの中で加圧水が気液2相流となる過程で起こる密度変化により生じる損失                  ③摩擦損失： 配管壁面との摩擦により生じる損失</p> <p>加速損失及び摩擦損失は入口から破断点までの配管長さに依存し、破断点までが長くなればこれらの圧力損失が大きくなるため、臨界流量が小さくなり流出流量が制限される。</p>		<p style="text-align: right;">別紙 1</p> <p>臨界流量について</p> <p>臨界流量は、破断箇所からの溢水流量を最も保守的に評価するために用いる流量である。保守的な設定をするための考え方を以下に整理した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算定に用いた臨界流量は、「JSME S ND1-2002 発電用原子力設備規格 配管破損防護設計規格」（以降、LBB 規格と称す）で規定されたもの。</li> <li>・LBB 規格では、臨界流評価モデルとして「Henry のサブクール水モデル」と「Moody のスリップモデル」が規定。加圧水の流出に対しては「Henry のサブクール水モデル」を適用。 （飽和水、飽和蒸気については、「Moody のスリップモデル」を用いる）</li> <li>・臨界流量を算出するためには、系統圧力、温度、配管口径、長さ、圧力損失等が必要。</li> <li>・LBB 規格では、臨界流量評価において以下の圧力損失を考慮することが記載されているが、保守的に臨界流量を大きくするため、加速損失及び摩擦損失を考慮しなかった。</li> </ul> <p>①入口損失： 主給水管から補助給水への流入部等、破断点へ向かう流れが分岐管へ流入する際に生じる損失                  ②加速損失： 破断点へ向かう流れの中で加圧水が気液二相流となる過程で起こる密度変化により生じる損失                  ③摩擦損失： 配管壁面との摩擦により生じる損失</p> <p>加速損失及び摩擦損失は入口から破断点までの配管長さに依存し、破断点までが長くなればこれらの圧力損失が大きくなるため、臨界流量が小さくなり流出流量が制限される。</p>	<p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に高圧の配管においては、現実的な流出流量になるように臨界流量を用いている。（大阪と同様）</li> <li>・別紙1においては、大阪との相違箇所にも、マーキングを実施する。</li> </ul> <p>記載表現の相違</p> <p>記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">添付資料 1.4.1-2</p> <p style="text-align: center;">想定破損による溢水影響評価(没水影響評価)</p> <p>高エネルギー配管は、ターミナルエンド部と一般部の完全全周破断を想定し隔離までの時間を適切に設定することで溢水量を算出する。具体的には破損を想定する系統、箇所に対し、異常の検知方法や運転員が事象を判断する際のパラメータ等を整理し、隔離により漏えいを停止するまでの時間の積み上げを行なう。その後、各系統の漏えい流量を乗じて溢水量を算出する。この溢水量に基づき溢水経路図を作成し防護対象設備の機能喪失高さと比較することで没水影響評価を行う。隔離までの時間設定については、異常の検知、事象の判断、漏えい箇所の隔離の3つのステップにおいて一連の隔離シナリオを統一した考え方に基づき定める。</p>		<p style="text-align: right;">別紙2</p> <p style="text-align: center;">高エネルギー配管の溢水量算出結果</p> <p>高エネルギー配管は、ターミナルエンド部と一般部の完全全周判断を想定し隔離までの時間を適切に設定することで溢水量を算出する。具体的には破損を想定する系統、箇所に対し、異常の検知方法や運転員が事象を判断する際のパラメータ等を整理し、隔離により漏えいを停止するまでの時間の積み上げを行う。その後、各系統の漏えい流量を乗じて溢水量を算出する。</p> <p>高エネルギー配管の系統別溢水量算出結果を表1~6に示す。</p>	<p><u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高エネルギー配管については、女川と同様に自動隔離としている系統もあるが、先行PWRと同様に中央制御室内での手動隔離に期待している系統があるため、大阪の添付資料1.4.1-2の該当箇所を抜粋することで、PWRと同様の手法で高エネルギー配管の溢水量を算出していることを説明する。</li> <li>・別紙2においては、大阪との相違箇所につきのみ、マーキングを実施する。</li> </ul> <p><b>【大阪】</b></p> <p><u>記載方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪の資料は没水評価を含めた資料構成となっており、本資料では溢水量の算出が目的であるため、没水影響評価に関する記載は反映しない。</li> <li>・隔離時間の設定については、補足説明資料12「想定破損評価における隔離時間の妥当性について」にて記載しているため、隔離までの時間設定の考え方については、本資料には反映しない。</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表2 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（化学体積制御系） その2						
想定範囲	①異常の検知	②事故の相違及び漏えい箇所の特徴	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	
充てん配管～流 量計	<システム検知> 配管破損により、充てん流量が上昇し、充てん流量高警報が受信 0.5分 (通常の充てん流量 25m <sup>3</sup> /h に対して高警報 28m <sup>3</sup> /h であるため、速やかに警報が受信する)	以下のパラメータから充てん配管からの漏えいと同時10.5分 VCT 水位、充てん流量、原子炉周辺建屋サンプリング水位、RCS 測定値(22A)相当	中央制御室において、充てんポンプ1台を速隔手動停止又は、充てんポンプ1台を速隔手動停止 2分 (操作1分、停止1分、合わせて2分)	13.5分	充てんポンプのランナウト流量 56.8m <sup>3</sup> /h 12分/60分×56.8m <sup>3</sup> /h = 11.4m <sup>3</sup> 配管保有水量20.4m <sup>3</sup> 11.4m <sup>3</sup> +20.4m <sup>3</sup> =31.8m <sup>3</sup>	
充てん配管 (流量計～ 充てんポン プ)	<システム検知> 配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が受信 0.5分 (通常の充てん流量 25m <sup>3</sup> /h に対して低警報 8m <sup>3</sup> /h であるため、速やかに警報が受信する)	現場バトロールによる現場確認を行い、ミニマムフローラインからの漏えいと判断 50.5分	中央制御室において、充てんポンプ1台を速隔手動停止 2分 (操作1分、停止1分、合わせて2分)	107.5分	充てんポンプのミニマムフローライン流量 13.6m <sup>3</sup> /h 107分/60分×13.6m <sup>3</sup> /h = 24.3m <sup>3</sup> 24.3m <sup>3</sup> +20.4m <sup>3</sup> =44.7m <sup>3</sup>	
充てん配管 (ミニマムフ ローライン)	<システム検知> 配管破損により床ドレン系を越出し(10m <sup>3</sup> )に侵入 サンプリング水位低(20%±1.5%)からポンプ起動水位(90%±1.5%)まで水位が上昇し、その後ポンプによる排水を伴ってサンプリング水位高警報水位(90%±1.5%)まで水位が上昇し、サンプリング水位高警報が受信 10m <sup>3</sup> ×(91.5%-18.5%)/100%+13.6m <sup>3</sup> /h×60分/h+10m <sup>3</sup> ×(96.5%-88.5%)/100%+(13.6m <sup>3</sup> /h-11.4m <sup>3</sup> /h)×60分/h=54.1=55.5分					

記載方針の相違  
 ・泊の表1内で充てんラインについて記載しているため、大阪の表2の内容は表1に包絡される。  
 ・女川を踏襲し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義しているため、系統溢水量の欄内でW、W1、W2を使用している。

設計方針の相違  
 泊では、ミニマムフローラインからの漏えいについて、充てん流量低警報により検知し、中央制御室からの隔離操作を実施している。  
 （伊方、川内、玄海と同様）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
<p>表3 漏えい停止までの時間の設定および漏えい量（化学体積制御系） その3</p>						
想定範囲	抽出配管/非再生冷却器入口 (貫通部～非再生冷却器)	①異常の検知 ＜システム検知＞ 配管破損によりVCT(11.3m <sup>3</sup> )の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT水位高警報(55%±1.5%)から原子炉補給開始水位(24%±1.5%)まで水位が低下し原子炉補給水開始音が発信 11.3m <sup>3</sup> ×(56.5%-22.5%)/100%÷32.0m <sup>3</sup> /h×60分=7.2-8.2分	②事象の判断及び漏えい箇所の特定 以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 温度センサ高警報、充てんポンプトリップ、加圧器水位、VCT水位、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値(R-21A/B)、漏水注意等	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、抽出オリファイス出口格納容器第1隔離弁を遠隔手動閉止 1分	合計時間 (①+②+③) 19分	漏えい量 漏えい量21.0m <sup>3</sup> オリファイスによる制限流量32.0m <sup>3</sup> /h 19分/60分×32.0m <sup>3</sup> /h=10.2m <sup>3</sup> 配管保有水量10.8m <sup>3</sup> 10.2m <sup>3</sup> +10.8m <sup>3</sup> =21.0m <sup>3</sup>
建屋	原子炉建屋	①異常の検知 5分 配管破損によりVCT(0.0780m <sup>3</sup> /%)の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT最高水位(60±5%)から原子炉補給開始水位(36±5%)まで水位が低下し、原子炉補給水開始音が自動の場合、原子炉補給水開始音が自動以外の場合、原子炉補給水開始音が自動以外の場合、(自動以外)0.0780m <sup>3</sup> /%×(65%-31%)÷32.0m <sup>3</sup> /h×60min=5min (※計算誤差に余裕を考慮した量)	②事象の判断及び漏えい箇所の特定 10分 以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 加圧器水位、VCT水位、原子炉補助建屋サンプ水位等	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 1分 中央制御室において、抽出オリファイス出口の1分間隔離弁を手動閉止する	合計 (①+②+③) 16分	系統溢水量 (W=W1+W2) 系統溢水量W=20.5m <sup>3</sup> オリファイスによる制限流量32.0m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量W1=10m <sup>3</sup> →60min×32.0m <sup>3</sup> /h=8.6m <sup>3</sup> 系統保有水量W2=11.9m <sup>3</sup>
<p>表2 化学体積制御系統（抽出系統）溢水量</p>						
<p>記載表現の相違 記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川を踏襲し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義しているため、系統溢水量の欄内でW、W1、W2を使用している。</li> <li>・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。</li> </ul>						

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1補足説明資料2)

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉	
表4 漏えい停止までの時間の時間の設定及び漏えい量 (主蒸気系)			
想定範囲 主蒸気管	①異常の検知 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報が発信 また、主蒸気ライン圧力低(S-RT)により、主給水制御弁が自動閉止 10秒	②事業の相違及び漏えい箇所の特定 以下のパラメータから漏洩する蒸気発生器を特定 10分 SC 本位偏差、SG 液漏漏差、主蒸気ライン圧力低、主蒸気・主給水配管室温異常等	③漏えい箇所の隔離等 中央制御室において、電動補助給水ライン流断閉弁、タービン補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止する。 2分(1分/個)
漏えい量	漏えい量 172.7m <sup>3</sup> 主給水流量 200m <sup>3</sup> /h 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 10分/3600秒×230m <sup>3</sup> /h + 12分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 91.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 91.7+15+66=172.7m <sup>3</sup> 漏えい量 280.1m <sup>3</sup> 添付「蒸気負荷の異常な増加」(200m <sup>3</sup> /h×4ルーブ×10%=812m <sup>3</sup> /h)では、2次蒸弁 (主蒸気連がし弁、タービンバイパス弁等) の1弁の閉鎖を包括しているので、812m <sup>3</sup> を保守的に使用 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 199.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 199.1+15+66=280.1m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+40秒)	合計時間 (①+②+③) 12分2位 17分	

泊発電所3号炉		相違理由	
表3 主蒸気系統 (主蒸気管内) 溢水量			
想定範囲 主蒸気管	①異常の検知 主蒸気ライン圧力低(KCS)作動による原子炉トリップ、2秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水制御弁が自動閉止する。3秒	②事業の相違及び漏えい箇所の特定 以下のパラメータから漏洩する蒸気発生器を特定する 10分 SC 本位偏差、SG 液漏漏差、主蒸気ライン圧力低等	記載表現の相違 記載方針の相違 ・女川を踏襲し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義しているため、系統溢水量の欄内でW、W1、W2を使用している。 ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。
漏えい量	漏えい量 172.7m <sup>3</sup> 主給水流量 200m <sup>3</sup> /h 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 10分/3600秒×230m <sup>3</sup> /h + 12分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 91.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 91.7+15+66=172.7m <sup>3</sup> 漏えい量 280.1m <sup>3</sup> 添付「蒸気負荷の異常な増加」(200m <sup>3</sup> /h×4ルーブ×10%=812m <sup>3</sup> /h)では、2次蒸弁 (主蒸気連がし弁、タービンバイパス弁等) の1弁の閉鎖を包括しているので、812m <sup>3</sup> を保守的に使用 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 199.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 199.1+15+66=280.1m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+40秒)	合計 (①+②+③) 13分 35分 39分 35分	

泊発電所3号炉		相違理由	
想定範囲 主蒸気管	①異常の検知 主蒸気ライン圧力低(KCS)作動による原子炉トリップ、2秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水制御弁が自動閉止する。3秒	②事業の相違及び漏えい箇所の特定 以下のパラメータから漏洩する蒸気発生器を特定する 10分 SC 本位偏差、SG 液漏漏差、主蒸気ライン圧力低等	記載表現の相違 記載方針の相違 ・女川を踏襲し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義しているため、系統溢水量の欄内でW、W1、W2を使用している。 ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。
漏えい量	漏えい量 172.7m <sup>3</sup> 主給水流量 200m <sup>3</sup> /h 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 10分/3600秒×230m <sup>3</sup> /h + 12分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 91.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 91.7+15+66=172.7m <sup>3</sup> 漏えい量 280.1m <sup>3</sup> 添付「蒸気負荷の異常な増加」(200m <sup>3</sup> /h×4ルーブ×10%=812m <sup>3</sup> /h)では、2次蒸弁 (主蒸気連がし弁、タービンバイパス弁等) の1弁の閉鎖を包括しているので、812m <sup>3</sup> を保守的に使用 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 199.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 199.1+15+66=280.1m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+40秒)	合計 (①+②+③) 13分 35分 39分 35分	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
<p>表5 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（主給水系）                      (2/2)</p>						
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	
主給水バイパス配管（下流分岐～制御弁）	<p>&lt;システム検知&gt;                      主給水流量と主蒸気流量の不一致                      警報が中央制御室に発信                      0分</p>	<p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等</p>	<p>中央制御室において、原子炉トリップ操作を行いトリップ後の状況を確認                      5分                      また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップし、断器開+Tagg 低により主給水制御弁は自動閉止                      60秒</p>	11分	<p>漏えい量 387.2m<sup>3</sup>                      主給水流量 2030m<sup>3</sup>/h                      11分/60分×2030m<sup>3</sup>/h = 372.2m<sup>3</sup>                      配管保有水 15m<sup>3</sup>                      372.2m<sup>3</sup>+15m<sup>3</sup>=387.2m<sup>3</sup></p>	
主給水バイパス配管（制御弁～上流分岐）	<p>&lt;システム検知&gt;                      SG 水位低による原子炉トリップ                      50秒                      また、Tagg 低による自動閉止                      110秒</p>	<p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等</p>	<p>中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止                      7分                      （操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分）</p>	17分50秒	<p>漏えい量 618.4m<sup>3</sup>                      主給水流量 2030m<sup>3</sup>/h                      1070秒/3600秒×2030m<sup>3</sup>/h = 603.4m<sup>3</sup>                      配管保有水 15m<sup>3</sup>                      603.4m<sup>3</sup>+15m<sup>3</sup>=618.4m<sup>3</sup></p>	<p>記載方針の相違                      女川を踏襲し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義しているため、系統溢水量の欄内でW、W1、W2を使用している。</p>

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1補足説明資料2)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表6 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量 (蒸気発生器ブローダウン系)				表5 蒸気発生器ブローダウン系統 (主蒸気管内) 溢水量		記載表現の相違 記載方針の相違
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	
蒸気発生器ブローダウン配管 (貫通部～隔離弁)	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 0分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気、主給水配管至温度等	中央制御室において原子がトリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認、その後、電動補助給水ライン流量調節弁、タービン駆動補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止 7分 (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/根)合わせて7分) また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップし、断器間+1avg 低により主給水制御弁は自動閉止 60秒	17分	漏えい量247.5m <sup>3</sup> 境界流量 70m <sup>3</sup> /h (口後 3B、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 上り) 補助給水流量 43m <sup>3</sup> /h + 11分* (60分×70m <sup>3</sup> /h + 7分* (60分×43m <sup>3</sup> /h) = 179.5m <sup>3</sup> 配管保有水量 2.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 179.5m <sup>3</sup> + 2.0m <sup>3</sup> + 66m <sup>3</sup> = 247.5m <sup>3</sup> ※会社時間(10分+60秒) 漏えい量 23.6m <sup>3</sup> 境界流量 70m <sup>3</sup> /h (口後 3B、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 上り) 107秒/3600秒×70m <sup>3</sup> /h = 21.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 2.5m <sup>3</sup> 21.1m <sup>3</sup> + 2.5m <sup>3</sup> = 23.6m <sup>3</sup>	
蒸気発生器ブローダウン配管 (隔離弁～アンダール弁)	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 100秒 また、SG 水位低によるブローダウンライン格納容器隔離弁自動閉止 107秒	自動隔離のため判断時間なし 0分	自動隔離のため操作時間なし 0分	107秒		
建屋	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計 (①+②+③)	系統溢水量 (W+W2)	
原子炉建屋	2分~5分 SG 水位低による原子炉トリップ 114秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定する。10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差等	中央制御室において、主給水隔離弁、主給水隔離弁を手動閉止する。2分~5分 また、主給水ライン隔離弁を自動閉止する。2分~4分 ※1 主給水ライン隔離弁閉止までの時間 14分 (a~cまでの合計) ※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ライン隔離弁閉止までの時間 14分 (b~dまでの合計)	16分	系統原水量 W=297.5m <sup>3</sup> 境界流量 68m <sup>3</sup> /h (口後 3B×Sch40、圧力 68.7kg/cm <sup>2</sup> 、温度 282℃ 上り) 補助給水流量 240m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 14m <sup>3</sup> 、W2 = 60m <sup>3</sup> × 2.4kg/h = 21.6. 5m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W2 = 15.0 + 66.0 = 81.0m <sup>3</sup>	・女川を踏襲し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義しているため、系統溢水量の欄内で W、W1、W2 を使用している。 ・添付資料 16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 設計方針の相違 泊では、隔離弁下流のラインは、想定破損除外を適用している範囲としている。



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>表7 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（補助給水系）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">漏えい量</td> <td>                     漏えい量 294.7m<sup>3</sup>                      臨界流量 892m<sup>3</sup>/h                      （口径3B、SG圧力 61.5kg/cm<sup>2</sup>より）                      補助給水流量 430m<sup>3</sup>/h                      11分<sup>※</sup>/60分×892m<sup>3</sup>/h+                      7分/60分×430m<sup>3</sup>/h                      =213.7m<sup>3</sup>                      配管保有水量 15.0m<sup>3</sup>                      蒸気発生器保有水量 66m<sup>3</sup>                      213.7m<sup>3</sup>+15m<sup>3</sup>+66m<sup>3</sup>                      =294.7m<sup>3</sup>                      ※合計時間(10分+60秒)                 </td> </tr> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">合計時間 (①+②+③)</td> <td style="text-align: center;">17分</td> </tr> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止</td> <td>                     中央制御室において原                      子炉トリップ操作を行                      い、トリップ後の状況                      を確認 その後、電動                      補助給水ライオン流量調                      節弁、タービン動調節弁                      給水ライオン流量調節弁                      を遠隔手動閉止                      7分                      （トリップ後の状況確                      認5分、操作2分(1分                      /個)合わせて7分)                      また、原子炉手動トリ                      ップ操作後約60秒で                      原子炉トリップし、断                      器開+Tavg低により主                      給水制御弁は自動閉止                      60秒                 </td> </tr> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">②事象の判断及び 漏えい箇所の特定</td> <td>                     以下のパラメータから隔                      離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位偏差、SG 流量偏                      差、主蒸気・主給水配管                      室温度等                 </td> </tr> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">①異常の検知</td> <td>                     &lt;システム検知&gt;                      主給水流量と主蒸気流量の不                      一致警報が中央制御室に発信                      0分                 </td> </tr> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">想定範囲</td> <td>                     補助給水配管                      （主給水管分岐                      ～逆止弁）                 </td> </tr> </table>	漏えい量	漏えい量 294.7m <sup>3</sup> 臨界流量 892m <sup>3</sup> /h （口径3B、SG圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> より） 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分 <sup>※</sup> /60分×892m <sup>3</sup> /h+ 7分/60分×430m <sup>3</sup> /h =213.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 213.7m <sup>3</sup> +15m <sup>3</sup> +66m <sup>3</sup> =294.7m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+60秒)	合計時間 (①+②+③)	17分	③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止	中央制御室において原 子炉トリップ操作を行 い、トリップ後の状況 を確認 その後、電動 補助給水ライオン流量調 節弁、タービン動調節弁 給水ライオン流量調節弁 を遠隔手動閉止 7分 （トリップ後の状況確 認5分、操作2分(1分 /個)合わせて7分) また、原子炉手動トリ ップ操作後約60秒で 原子炉トリップし、断 器開+Tavg低により主 給水制御弁は自動閉止 60秒	②事象の判断及び 漏えい箇所の特定	以下のパラメータから隔 離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏 差、主蒸気・主給水配管 室温度等	①異常の検知	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不 一致警報が中央制御室に発信 0分	想定範囲	補助給水配管 （主給水管分岐 ～逆止弁）			<p>記載表現の相違          記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川を踏襲し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義しているため、系統溢水量の欄内でW、W1、W2を使用している。</li> <li>・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。</li> <li>・補助給水系統は、泊では主給水系統と併せて表4に記載する。</li> </ul>
漏えい量	漏えい量 294.7m <sup>3</sup> 臨界流量 892m <sup>3</sup> /h （口径3B、SG圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> より） 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分 <sup>※</sup> /60分×892m <sup>3</sup> /h+ 7分/60分×430m <sup>3</sup> /h =213.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 213.7m <sup>3</sup> +15m <sup>3</sup> +66m <sup>3</sup> =294.7m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+60秒)														
合計時間 (①+②+③)	17分														
③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止	中央制御室において原 子炉トリップ操作を行 い、トリップ後の状況 を確認 その後、電動 補助給水ライオン流量調 節弁、タービン動調節弁 給水ライオン流量調節弁 を遠隔手動閉止 7分 （トリップ後の状況確 認5分、操作2分(1分 /個)合わせて7分) また、原子炉手動トリ ップ操作後約60秒で 原子炉トリップし、断 器開+Tavg低により主 給水制御弁は自動閉止 60秒														
②事象の判断及び 漏えい箇所の特定	以下のパラメータから隔 離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏 差、主蒸気・主給水配管 室温度等														
①異常の検知	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不 一致警報が中央制御室に発信 0分														
想定範囲	補助給水配管 （主給水管分岐 ～逆止弁）														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大阪発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
<p>表8 漏えい停止までの設定及び漏えい量（補助蒸気系）</p>						
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間	漏えい量	
補助蒸気供給配管	<温度検知> 温度センサー(60℃)の検知により補助蒸気遮断弁が自動閉止 5分	なし 自動隔離のため判断時間なし 0分	自動隔離のため判断時間なし 0分	5分	3.7m <sup>3</sup> スチームコンバータ容量 31.3m <sup>3</sup> /h(定格発生蒸気量 30t/hより)5分/60分× 31.3m <sup>3</sup> /h=2.7m <sup>3</sup> 配管保有水量1.0m <sup>3</sup> 2.7m <sup>3</sup> +1.0m <sup>3</sup> =3.7m <sup>3</sup>	
<p>表6 補助蒸気系統溢水量</p>						
建屋	想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計	系統 溢水量 (W1+W2)
原子炉建屋 原子炉 補助建屋	【補助蒸気ライン】 T/B境界～スチーム トラップ	5分 潤滑油汚染(60℃)の検知により補助蒸気遮断弁が自動閉止。5分(潤滑油汚染体の検知時間は区画に依存する。補助蒸気遮断弁の閉止時間は約25秒、検知遅れ10秒を想定。)	10分※ 温度異常高の警報により、漏えい箇所を特定、判断 ※隔離弁自動閉止のため、事象判断時間は考慮しない。	0分 自動隔離のため 操作時間なし	5分	系統溢水量W=3.7m <sup>3</sup> ※容量31.3m <sup>3</sup> /h の定格発生蒸気量30t/hより) 系統保有水量W2=2.7m <sup>3</sup> =5m <sup>3</sup> ×31.3m <sup>3</sup> /h=2.7m <sup>3</sup> 系統保有水量W2=1.0m <sup>3</sup>
<p>相違理由</p> <p>記載表現の相違                  記載方針の相違                  ・女川を踏襲し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義しているため、系統溢水量の欄内でW、W1、W2を使用している。                  ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。</p>						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																							
		<p>別紙3</p> <p>低エネルギー配管の流量算出結果</p> <p>低エネルギー配管の流量算出結果を表1に示す。</p> <p>表1 低エネルギー配管の流量算出結果</p> <table border="1" data-bbox="1285 384 1856 703"> <thead> <tr> <th>建屋</th> <th>系統</th> <th>直径 D[mm]</th> <th>肉厚 t[mm]</th> <th>系統圧力[MPa] 又は 水頭[m]</th> <th>流出流量 [m³/h]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出入管理建屋 電気建屋</td> <td>水消火系統</td> <td>114.3</td> <td>3.5</td> <td>1.8[MPa]</td> <td>30.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">出入管理建屋</td> <td>原子炉補給水系統（脱塩水）</td> <td>60.5</td> <td>3.6</td> <td>1.4[MPa]</td> <td>10.1</td> </tr> <tr> <td>飲料水系統</td> <td>114.3</td> <td>4.5</td> <td>12.3[m]</td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">タービン建屋</td> <td>循環水系統</td> <td>2,700</td> <td>20.0</td> <td>21.6[m]</td> <td>830</td> </tr> <tr> <td>海水淡水化設備系統</td> <td>207.4</td> <td>6.6</td> <td>60[m]</td> <td>44.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">循環水ポンプ建屋</td> <td>循環水系統</td> <td>3,800</td> <td>28.0</td> <td>11.95[m]</td> <td>1,300</td> </tr> <tr> <td>所内用水系統</td> <td>48.6</td> <td>2.8</td> <td>4.2[MPa]</td> <td>4.9</td> </tr> <tr> <td>軸受冷却系統 （原子炉補機冷却海水ポンプ室）</td> <td>89.1</td> <td>5.5</td> <td>1[MPa]</td> <td>16.2</td> </tr> <tr> <td>軸受冷却系統 （循環水ポンプエリア）</td> <td>216.3</td> <td>8.2</td> <td>1[MPa]</td> <td>58.5</td> </tr> </tbody> </table>	建屋	系統	直径 D[mm]	肉厚 t[mm]	系統圧力[MPa] 又は 水頭[m]	流出流量 [m³/h]	出入管理建屋 電気建屋	水消火系統	114.3	3.5	1.8[MPa]	30.0	出入管理建屋	原子炉補給水系統（脱塩水）	60.5	3.6	1.4[MPa]	10.1	飲料水系統	114.3	4.5	12.3[m]	9.8	タービン建屋	循環水系統	2,700	20.0	21.6[m]	830	海水淡水化設備系統	207.4	6.6	60[m]	44.7	循環水ポンプ建屋	循環水系統	3,800	28.0	11.95[m]	1,300	所内用水系統	48.6	2.8	4.2[MPa]	4.9	軸受冷却系統 （原子炉補機冷却海水ポンプ室）	89.1	5.5	1[MPa]	16.2	軸受冷却系統 （循環水ポンプエリア）	216.3	8.2	1[MPa]	58.5	<p>記載方針の相違</p> <p>泊では、低エネルギー配管について、流量計計算を実施した結果を本資料において記載する。</p>
建屋	系統	直径 D[mm]	肉厚 t[mm]	系統圧力[MPa] 又は 水頭[m]	流出流量 [m³/h]																																																					
出入管理建屋 電気建屋	水消火系統	114.3	3.5	1.8[MPa]	30.0																																																					
出入管理建屋	原子炉補給水系統（脱塩水）	60.5	3.6	1.4[MPa]	10.1																																																					
	飲料水系統	114.3	4.5	12.3[m]	9.8																																																					
タービン建屋	循環水系統	2,700	20.0	21.6[m]	830																																																					
	海水淡水化設備系統	207.4	6.6	60[m]	44.7																																																					
循環水ポンプ建屋	循環水系統	3,800	28.0	11.95[m]	1,300																																																					
	所内用水系統	48.6	2.8	4.2[MPa]	4.9																																																					
	軸受冷却系統 （原子炉補機冷却海水ポンプ室）	89.1	5.5	1[MPa]	16.2																																																					
	軸受冷却系統 （循環水ポンプエリア）	216.3	8.2	1[MPa]	58.5																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足説明資料 25</p> <p>内部溢水により想定される事象の確認及び解析確認結果</p> <p>女川2号炉では、内部溢水の影響軽減対策として、原子炉の安全停止を達成し、維持するために必要な系統は、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じており、安全停止パスを確保することとしている。</p> <p>その上で、内部溢水により原子炉に外乱が及ぶ場合について、重畳事象を含めどのような事象が起こる可能性があるかを分析し、内部溢水による影響範囲を評価し、緩和設備に対する機能維持状態を確認し、低温停止が可能であることを確認する。</p> <p>以下に、事象の抽出プロセス、解析前提条件及び解析結果を示す。</p> <p>1. 想定される事象の評価プロセス                      (1) 前提条件                      次の事項を前提とし、評価を行うこととする。</p> <p>・内部溢水発生を想定する区画及びその影響範囲の防護対象設備は内部溢水発生により機能が喪失するが、それ以外の区画の防護対象設備は機能が維持される。</p> <p>・原子炉建屋又はタービン建屋において内部溢水が発生することを仮定し、当該建屋内の防護対象設備以外のものは機能喪失を仮定する。(溢水により機能を喪失する設備は機能喪失を仮定する。)</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 3</p> <p>内部溢水により想定される事象の確認及び解析確認結果</p> <p>泊発電所3号炉では、内部溢水の影響軽減対策として、原子炉の安全停止を達成し、維持するために必要な系統は、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じており、安全停止パスを確保することとしている。</p> <p>その上で、内部溢水により原子炉に外乱が及ぶ場合について、重畳事象を含めどのような事象が起こる可能性があるかを分析し、内部溢水による影響範囲を評価し、緩和設備に対する機能維持状態を確認し、低温停止が可能であることを確認する。</p> <p>以下に、事象の抽出プロセス、解析前提条件及び解析結果を示す。</p> <p>1. 想定される事象の評価プロセス                      (1) 前提条件                      次の事項を前提とし、評価を行うこととする。</p> <p>・内部溢水が発生した場合、原子炉の安全停止ならびに外乱事象の対処に必要な設備は、その機能が維持されることを確認していることから、溢水防護対象設備は機能喪失しないものとする。</p> <p>・原子炉建屋及び原子炉補助建屋（以下「1次系建屋」という）又はタービン建屋（以下「2次系建屋」という）において内部溢水が発生することを仮定し、当該建屋内の防護対象設備以外のものは機能喪失を仮定する。(溢水により機能を喪失する設備は機能喪失を仮定する)。</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>女川では「多重性又は多様性を有する防護対象設備は、同時に機能を喪失させない」方針としているが、泊では「原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する防護対象設備は、多重性又は多様性を有していても溢水により機能を喪失させない」方針としている。</p> <p>機能喪失しないことの確認結果については、溢水影響評価結果（添付資料17, 18, 19）を参照。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>建屋名称の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊は建屋名称の読み替えを行う。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>・原子炉建屋又はタービン建屋において発生した内部溢水は、当該の建屋以外に影響は及ばない。</p> <p>(2) 抽出プロセスの考え方</p> <p>内部溢水に起因して様々な機器の故障や誤動作に伴う外乱の発生が想定され、また、幾つかの外乱が同時に発生することも考えられる。</p> <p>発生する事象の抽出に当たっては、ある溢水区画において溢水が発生した場合に溢水影響を受ける設備を抽出し、どのような外乱が発生し得るのか、外乱発生後に事象がどのように進展するののかについて、安全停止バスの確認と同様にすべての溢水区画について評価することが考えられる。</p> <p>そのためには、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備に対してそれらの配置を網羅的に整理し、溢水区画ごとに溢水影響を詳細に分析することが必要である。しかしながら、このような詳細な分析を実施することは現実的でないことから、防護対象設備に該当しない常用系設備等は、設置された溢水区画によらず溢水影響を受ける可能性があるという保守的な仮定を用いた代替の評価手法により評価することとする。以上を踏まえ、原子炉建屋及びタービン建屋で内部溢水により発生すると考えられる外乱の抽出を行い、内部溢水により誘発される過渡事象等の起因事象（以下「代表事象」という。）を特定する。更に代表事象が重畳することも考慮する。</p> <p>また、代表事象の重畳の組み合わせの評価については、代表事象の事象進展の特徴から重畳した場合の事象進展を定性的に推定することにより、より厳しい評価結果となりうる組み合わせを選定し、選定した重畳事象の収束が可能であるかについて解析的に確認を行う。</p> <p>以下に、内部溢水により想定される事象の抽出から解析評価までのプロセス及びプロセスの各ステップの概要を示す。(図 1.1)</p> <p>【ステップ1】</p> <p>評価事象を網羅的に抽出するため、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」（以下「安全評価審査指針」という。）の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える要因を抽出する。(図 2.1)</p>	<p>・1次系建屋内において発生した内部溢水は、1次系建屋間で影響を及ぼすが、2次系建屋には影響は及ばない。また、2次系建屋において発生した内部溢水は、当該の建屋以外に影響は及ばない。</p> <p>(2) 抽出プロセスの考え方</p> <p>内部溢水に起因して様々な機器の故障や誤動作に伴う外乱の発生が想定され、また、幾つかの外乱が同時に発生することも考えられる。</p> <p>発生する事象の抽出に当たっては、ある溢水区画において溢水が発生した場合に溢水影響を受ける設備を抽出し、どのような外乱が発生し得るのか、外乱発生後に事象がどのように進展するののかについて、想定された事象に対処するための安全機能の確認と同様にすべての溢水区画について評価することが考えられる。</p> <p>そのためには、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備に対してそれらの配置を網羅的に整理し、溢水区画ごとに溢水影響を詳細に分析することが必要である。しかしながら、このような詳細な分析を実施することは現実的でないことから、防護対象設備に該当しない常用系設備等は、設置された溢水区画によらず溢水影響を受ける可能性があるという保守的な仮定を用いた代替の評価手法により評価することとする。以上を踏まえ、1次系建屋及び2次系建屋で内部溢水により発生すると考えられる外乱の抽出を行い、内部溢水により誘発される過渡事象等の起因事象（以下「代表事象」という。）を特定する。更に代表事象が重畳することも考慮する。</p> <p>また、代表事象の重畳の組み合わせの評価については、代表事象の事象進展の特徴から重畳した場合の事象進展を定性的に推定することにより、より厳しい評価結果となりうる組み合わせを選定し、選定した重畳事象の収束が可能であるかについて解析的に確認を行う。</p> <p>以下に、内部溢水により想定される事象の抽出から解析評価までのプロセス及びプロセスの各ステップの概要を示す。(図 1.1)</p> <p>【ステップ1】</p> <p>評価事象を網羅的に抽出するため、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」（以下「安全評価審査指針」という。）の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える要因を抽出する。(図 2.1)</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では安全停止バスという文言を使用していないため、設置許可添付書類十「1.2.5 解析に当たって考慮する事項」の記載を参考にして表現を見直した。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【ステップ2】                      原子炉に有意な影響を与える要因を誘発する故障を抽出する。                      (図2.1)</p> <p>【ステップ3】                      ステップ2で抽出した故障が発生し得る溢水区画を分析する。                      ここでは、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備は、設置された溢水区画によらず、溢水影響を受ける可能性があるとして仮定する。その際、<b>原子炉建屋及びタービン建屋</b>の一方の建屋における溢水の影響は他方の建屋に及ばないとする。(図2.1)</p> <p>【ステップ4】                      ステップ2及び3での分析を踏まえ、各建屋で発生する代表事象として扱う事象を特定する。代表事象の特定に当たっては、溢水影響により発生する可能性のある事象の中から最も厳しい事象を想定する。(例えば、<b>原子炉再循環ポンプ</b>（以下「再循環ポンプ」という。）のトリップについては、溢水の規模により1台トリップから全台トリップまで考えられるが、最も厳しくなる全台トリップを想定する。(図2.1)</p> <p>【ステップ5】                      各建屋で発生する代表事象の解析結果等を踏まえ、代表事象の組み合わせ毎に、重量を考慮した場合にプラントに与える影響が厳しくなるか否かの分析を行い、解析の要否を整理する。</p> <p>【ステップ6】                      各建屋での内部溢水の発生を想定した場合においても動作を期待できる緩和系を確認する。</p>	<p>【ステップ2】                      原子炉に有意な影響を与える要因を誘発する故障を抽出する。                      (図2.1)</p> <p>【ステップ3】                      ステップ2で抽出した故障が発生し得る溢水区画を分析する。                      ここでは、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備は、設置された溢水区画によらず、溢水影響を受ける可能性があるとして仮定する。その際、<b>1次系建屋及び2次系建屋</b>の溢水の影響は当該の建屋以外に影響が及ばないとする。(図2.1)</p> <p>【ステップ4】                      ステップ2及び3での分析を踏まえ、各建屋で発生する代表事象として扱う事象を特定する。代表事象の特定に当たっては、溢水影響により発生する可能性のある事象の中から最も厳しい事象を想定する。(例えば、<b>1次冷却材ポンプ</b>のトリップについては、溢水の規模により1台トリップから全台トリップまで考えられるが、最も厳しくなる全台トリップを想定する。)(図2.1)</p> <p>【ステップ5】                      各建屋で発生する代表事象の解析結果等を踏まえ、代表事象の組み合わせごとに、重量を考慮した場合にプラントに与える影響が厳しくなるか否かの分析を行い、解析の要否を整理する。</p> <p>【ステップ6】                      各建屋での内部溢水の発生を想定した場合においても動作を期待できる緩和系を確認する。</p>	<p>記載方針の相違                      女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載表現の相違                      設備名称の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【ステップ7】                      原子炉停止機能及び炉心冷却機能に単一故障を想定する。                      なお、ここでは、内部溢水により溢水影響を受ける設備が機能喪失していることを前提に、溢水影響を受けない溢水区画にある設備に単一故障を更に重ねる。                      ※：別添資料1「女川原子力発電所2号炉 内部溢水の影響評価について」にて評価されている設備の機能喪失が発生することを前提としている。</p> <p>【ステップ8】                      ステップ7までの分析結果等を踏まえ、抽出した事象の解析を実施し、事象の収束ができることを確認する。</p> <div data-bbox="696 662 1256 1460"> <pre>                     graph TD                         S1[ステップ1: 安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因を抽出(図2.1参照)] --&gt; S2[ステップ2: 主要な要因に対する故障を抽出(図2.1参照)]                         S2 --&gt; S3[ステップ3: 抽出された故障が各建屋において発生し得るかを分析(図2.1参照)]                         S3 --&gt; S4[ステップ4: 各建屋について、分析結果を踏まえ代表事象を特定(図2.1参照)]                         S4 --&gt; S5[ステップ5: 代表事象の重畳を抽出(結果を厳しくする事象の組み合わせ)(本文3.(1)(2)参照)]                         S5 --&gt; S6[ステップ6: 内部溢水においても動作を期待できる緩和系の確認(表4.2.1,表5.1参照)]                         S6 --&gt; S7[ステップ7: 事象毎に単一故障想定を割り当てる(表5.2参照)]                         S7 --&gt; S8[ステップ8: 解析実施]                     </pre> </div> <p>図1.1 評価プロセス</p>	<p>【ステップ7】                      原子炉停止機能及び炉心冷却機能に単一故障を想定する。                      なお、原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する設備は、溢水防護対象設備として溢水により機能喪失しないことを確認しているため、多重化された設備の一方が単一故障するものとする。</p> <p>【ステップ8】                      ステップ7までの分析結果等を踏まえ、抽出した事象の解析を実施し、事象の収束ができることを確認する。</p> <div data-bbox="1285 662 1845 1460"> <pre>                     graph TD                         S1[ステップ1: 安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因を抽出(図2.1参照)] --&gt; S2[ステップ2: 主要な要因に対する故障を抽出(図2.1参照)]                         S2 --&gt; S3[ステップ3: 抽出された故障が各建屋において発生し得るかを分析(図2.1参照)]                         S3 --&gt; S4[ステップ4: 各建屋について、分析結果を踏まえ代表事象を特定(図2.1参照)]                         S4 --&gt; S5[ステップ5: 代表事象の重畳を抽出(結果を厳しくする事象の組み合わせ)(本文3.(1)(2)参照)]                         S5 --&gt; S6[ステップ6: 内部溢水においても動作を期待できる緩和系の確認(表4.2.1,表5.1参照)]                         S6 --&gt; S7[ステップ7: 事象ごとに単一故障想定を割り当てる(表5.2参照)]                         S7 --&gt; S8[ステップ8: 解析実施]                     </pre> </div> <p>図1.1 評価プロセス</p>	<p>設計方針の相違                      女川では「多重性又は多様性を有する防護対象設備は、同時に機能を喪失させない」方針としているが、泊では「原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する防護対象設備は、多重性又は多様性を有していても溢水により機能を喪失させない」方針としている。                      機能喪失しないことの確認結果については、溢水影響評価結果（添付資料17,18,19）を参照。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																										
	<p>2. 代表事象の抽出</p> <p>安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因及びその要因に対する故障の抽出結果を図2.1に示す。また、同図において、抽出した故障が、<b>原子炉建屋及びタービン建屋</b>において発生し得るかを分析し、各建屋において抽出した代表事象を示す。</p> <p>図2.1において抽出された、<b>原子炉建屋及びタービン建屋</b>における内部溢水により発生する可能性のある代表事象を表2.1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 2.1 抽出された代表事象</p> <table border="1" data-bbox="696 587 1272 951"> <thead> <tr> <th>抽出された代表事象</th> <th>R/B</th> <th>T/B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量の喪失</td><td>○</td><td>○<sup>※1</sup></td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量制御系の誤動作</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>給水流量の全喪失+タービントリップ</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>主蒸気隔離弁の誤閉止</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>逃がし弁開放</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>給水制御系の故障（流量減少）</td><td>○</td><td>—<sup>※2</sup></td></tr> <tr><td>給水制御系の故障<sup>※3</sup></td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>高圧炉心スプレイ系の誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉隔離時冷却系の誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>給水加熱喪失</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>負荷の喪失</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉圧力制御系の故障</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>給水流量の全喪失</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 R/Bでは再循環ポンプ全台トリップ、T/Bでは部分台数トリップを想定                  ※2 T/Bではより厳しい給水流量の全喪失を想定                  ※3 原子炉給水制御系の誤信号等により、給水流量が増加する事象は、原子炉設置変更許可申請書に依り、単に「給水制御系の故障」という。</p>	抽出された代表事象	R/B	T/B	原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—	原子炉冷却材流量の喪失	○	○ <sup>※1</sup>	原子炉冷却材流量制御系の誤動作	○	—	給水流量の全喪失+タービントリップ	○	—	主蒸気隔離弁の誤閉止	○	○	逃がし弁開放	○	—	給水制御系の故障（流量減少）	○	— <sup>※2</sup>	給水制御系の故障 <sup>※3</sup>	○	○	高圧炉心スプレイ系の誤起動	○	—	原子炉隔離時冷却系の誤起動	○	—	給水加熱喪失	—	○	負荷の喪失	—	○	原子炉圧力制御系の故障	—	○	給水流量の全喪失	—	○	<p>2. 代表事象の抽出</p> <p>安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因及びその要因に対する故障の抽出結果を図2.1に示す。また、同図において、抽出した故障が、<b>1次系建屋及び2次系建屋</b>において発生し得るかを分析し、各建屋において抽出した代表事象を示す。</p> <p>図2.1において抽出された、<b>1次系建屋及び2次系建屋</b>における内部溢水により発生する可能性のある代表事象を表2.1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 2.1 抽出された代表事象</p> <table border="1" data-bbox="1285 587 1861 995"> <thead> <tr> <th>抽出された代表事象</th> <th>1次系建屋</th> <th>2次系建屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>蒸気負荷の異常な増加</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>蒸気発生器への過剰給水</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>制御棒の落下及び不整合</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>2次冷却系の異常な減圧</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>主給水流量喪失</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>外部電源喪失</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量の喪失</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>負荷の喪失</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td><td>○</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	抽出された代表事象	1次系建屋	2次系建屋	蒸気負荷の異常な増加	—	○	原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—	蒸気発生器への過剰給水	○	○	原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○	—	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○	○	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	○	制御棒の落下及び不整合	○	○	2次冷却系の異常な減圧	—	○	主給水流量喪失	○	○	外部電源喪失	○	○	原子炉冷却材流量の部分喪失	○	—	原子炉冷却材流量の喪失	○	—	負荷の喪失	○	○	原子炉冷却材系の異常な減圧	○	—	<p>相違理由</p> <p>記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載方針の相違                  女川は安全評価審査指針のBWRの評価事象から選定しているが、泊はPWRの評価事象から選定した。</p>
抽出された代表事象	R/B	T/B																																																																																											
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—																																																																																											
原子炉冷却材流量の喪失	○	○ <sup>※1</sup>																																																																																											
原子炉冷却材流量制御系の誤動作	○	—																																																																																											
給水流量の全喪失+タービントリップ	○	—																																																																																											
主蒸気隔離弁の誤閉止	○	○																																																																																											
逃がし弁開放	○	—																																																																																											
給水制御系の故障（流量減少）	○	— <sup>※2</sup>																																																																																											
給水制御系の故障 <sup>※3</sup>	○	○																																																																																											
高圧炉心スプレイ系の誤起動	○	—																																																																																											
原子炉隔離時冷却系の誤起動	○	—																																																																																											
給水加熱喪失	—	○																																																																																											
負荷の喪失	—	○																																																																																											
原子炉圧力制御系の故障	—	○																																																																																											
給水流量の全喪失	—	○																																																																																											
抽出された代表事象	1次系建屋	2次系建屋																																																																																											
蒸気負荷の異常な増加	—	○																																																																																											
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—																																																																																											
蒸気発生器への過剰給水	○	○																																																																																											
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○	—																																																																																											
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○	○																																																																																											
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	○																																																																																											
制御棒の落下及び不整合	○	○																																																																																											
2次冷却系の異常な減圧	—	○																																																																																											
主給水流量喪失	○	○																																																																																											
外部電源喪失	○	○																																																																																											
原子炉冷却材流量の部分喪失	○	—																																																																																											
原子炉冷却材流量の喪失	○	—																																																																																											
負荷の喪失	○	○																																																																																											
原子炉冷却材系の異常な減圧	○	—																																																																																											



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>ステップ1</p> <p>ステップ2</p> <p>ステップ3, 4</p>	<p>ステップ1</p> <p>ステップ2</p> <p>ステップ3, 4</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>
<p>図 2.1 外乱分析図(1/3)</p>		<p>図 2.1 外乱分析図 (1/3)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">ステップ1</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">ステップ2</p> <table border="1"> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> </table> </div> </div> <p style="text-align: center;">ステップ3, 4</p> <table border="1"> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> </table>	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">ステップ1</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">ステップ2</p> <table border="1"> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> </table> </div> </div> <p style="text-align: center;">ステップ3, 4</p> <table border="1"> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> <td>燃料棒位置の低下</td> </tr> <tr> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> <td>燃料棒位置の増加</td> </tr> </table>	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	<p>記載方針の相違</p> <p>女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																
燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下	燃料棒位置の低下																																																																																																																																
燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加	燃料棒位置の増加																																																																																																																																

図 2.1 外乱分析図 (2/3)

図 2.1 外乱分析図 (2/3)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>記載方針の相違                  女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>
<p>図 2.1 外乱分析図 (3/3)</p>		<p>図 2.1 外乱分析図 (3/3)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																														
	<p>3. 重畳を考慮した内部溢水影響評価事象の抽出【ステップ5】</p> <p>(1) 重畳を考慮すべき事象の分析</p> <p>2. にて抽出した原子炉建屋及びタービン建屋における内部溢水により発生する可能性のある代表事象について、重畳を考慮した場合に、事象を厳しくする可能性について検討した。結果を表3.1及び表3.2に示す。</p> <p>重畳を考慮すべき事象として抽出された代表事象の概要を表3.3に示す。</p> <p>表3.1 原子炉建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="696 518 1272 901"> <thead> <tr> <th>抽出された事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>—</td> <td>部分出力状態での発生事象であり重畳による影響が小さい</td> </tr> <tr> <td>II 原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>—</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>III 原子炉冷却材流量制御系の誤動作</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 給水流量の全喪失+タービントリップ</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 主蒸気隔離弁の誤閉止</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VI 逃がし弁開放</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VII 給水制御系の故障（流量減少）</td> <td>—</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>VIII 給水制御系の故障（流量増加）</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IX HPCSの誤起動</td> <td>—</td> <td>②（上部プレナムへの注水）</td> </tr> <tr> <td>X RCICの誤起動</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>表3.2 タービン建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="696 957 1272 1157"> <thead> <tr> <th>代表事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 給水加熱喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>II 原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>—</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>III 負荷の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 主蒸気隔離弁の誤閉止</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 原子炉圧力制御系の故障</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VI 給水流量の全喪失</td> <td>—</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>VII 給水制御系の故障（流量増加）</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 重畳を考慮しない理由</p> <p>① 西館降流量が減少する事象は、BWR-5では再蒸発ポンプの慣性が大きく、炉心流量の減少による炉心の冷却能力低下に対し、原子炉出力の減少が早めに作用するため、重畳しても結果は厳しくならない。</p> <p>② 圧力が低下する事象は重畳しても結果は厳しくならない。</p> <p>③ 出力低下する事象は重畳しても結果は厳しくならない。</p>	抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由*	I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	部分出力状態での発生事象であり重畳による影響が小さい	II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①	III 原子炉冷却材流量制御系の誤動作	考慮	—	IV 給水流量の全喪失+タービントリップ	考慮	—	V 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—	VI 逃がし弁開放	—	②	VII 給水制御系の故障（流量減少）	—	③	VIII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—	IX HPCSの誤起動	—	②（上部プレナムへの注水）	X RCICの誤起動	考慮	—	代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由*	I 給水加熱喪失	考慮	—	II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①	III 負荷の喪失	考慮	—	IV 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—	V 原子炉圧力制御系の故障	—	②	VI 給水流量の全喪失	—	③	VII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—	<p>3. 重畳を考慮した内部溢水影響評価事象の抽出【ステップ5】</p> <p>(1) 重畳を考慮すべき事象の分析</p> <p>2. にて抽出した1次系建屋及び2次系建屋における内部溢水により発生する可能性のある代表事象について、重畳を考慮した場合に、事象を厳しくする可能性について検討した。結果を表3.1及び表3.2に示す。</p> <p>重畳を考慮すべき事象として抽出された代表事象の概要を表3.3に示す。</p> <p>表3.1 1次系建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="1279 518 1861 901"> <thead> <tr> <th>抽出された事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>—</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>II 蒸気発生器への過剰給水</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>III 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VI 制御棒の落下及び不整合</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VII 主給水流量喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VIII 外部電源喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IX 原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>X 原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>XI 負荷の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>XII 原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>表3.2 2次系建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="1279 957 1861 1204"> <thead> <tr> <th>代表事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 蒸気負荷の異常な増加</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>II 蒸気発生器への過剰給水</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>III 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 制御棒の落下及び不整合</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VI 2次冷却系の異常な減圧</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VII 主給水流量喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VIII 外部電源喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IX 負荷の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 重畳を考慮しない理由</p> <p>① 計画的なN-1ループ運転は想定していないため、重畳は考慮しない。</p> <p>② 溢水により制御棒の落下が生じる場合、全制御棒が落下する。この場合、原子炉出力は低下するのみであり、重畳は考慮しない。なお、溢水により制御棒の不整合は生じない。</p>	抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由	I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	①	II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—	III 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	考慮	—	IV 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	V 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	VI 制御棒の落下及び不整合	—	②	VII 主給水流量喪失	考慮	—	VIII 外部電源喪失	考慮	—	IX 原子炉冷却材流量の部分喪失	考慮	—	X 原子炉冷却材流量の喪失	考慮	—	XI 負荷の喪失	考慮	—	XII 原子炉冷却材系の異常な減圧	考慮	—	代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由	I 蒸気負荷の異常な増加	考慮	—	II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—	III 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	IV 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	V 制御棒の落下及び不整合	—	②	VI 2次冷却系の異常な減圧	考慮	—	VII 主給水流量喪失	考慮	—	VIII 外部電源喪失	考慮	—	IX 負荷の喪失	考慮	—	<p>記載方針の相違</p> <p>女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>
抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由*																																																																																																																															
I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	部分出力状態での発生事象であり重畳による影響が小さい																																																																																																																															
II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①																																																																																																																															
III 原子炉冷却材流量制御系の誤動作	考慮	—																																																																																																																															
IV 給水流量の全喪失+タービントリップ	考慮	—																																																																																																																															
V 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—																																																																																																																															
VI 逃がし弁開放	—	②																																																																																																																															
VII 給水制御系の故障（流量減少）	—	③																																																																																																																															
VIII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—																																																																																																																															
IX HPCSの誤起動	—	②（上部プレナムへの注水）																																																																																																																															
X RCICの誤起動	考慮	—																																																																																																																															
代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由*																																																																																																																															
I 給水加熱喪失	考慮	—																																																																																																																															
II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①																																																																																																																															
III 負荷の喪失	考慮	—																																																																																																																															
IV 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—																																																																																																																															
V 原子炉圧力制御系の故障	—	②																																																																																																																															
VI 給水流量の全喪失	—	③																																																																																																																															
VII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—																																																																																																																															
抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由																																																																																																																															
I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	①																																																																																																																															
II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—																																																																																																																															
III 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	考慮	—																																																																																																																															
IV 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																															
V 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																															
VI 制御棒の落下及び不整合	—	②																																																																																																																															
VII 主給水流量喪失	考慮	—																																																																																																																															
VIII 外部電源喪失	考慮	—																																																																																																																															
IX 原子炉冷却材流量の部分喪失	考慮	—																																																																																																																															
X 原子炉冷却材流量の喪失	考慮	—																																																																																																																															
XI 負荷の喪失	考慮	—																																																																																																																															
XII 原子炉冷却材系の異常な減圧	考慮	—																																																																																																																															
代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由																																																																																																																															
I 蒸気負荷の異常な増加	考慮	—																																																																																																																															
II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—																																																																																																																															
III 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																															
IV 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																															
V 制御棒の落下及び不整合	—	②																																																																																																																															
VI 2次冷却系の異常な減圧	考慮	—																																																																																																																															
VII 主給水流量喪失	考慮	—																																																																																																																															
VIII 外部電源喪失	考慮	—																																																																																																																															
IX 負荷の喪失	考慮	—																																																																																																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
	<p>表 3.3 抽出された代表事象の概要</p> <table border="1" data-bbox="696 209 1272 738"> <thead> <tr> <th>抽出事象</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材流量制御系の誤動作</td> <td>原子炉の出力運転中に、再循環流量制御系の誤動作により再循環流量（炉心流量）が増加し、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>給水流量の全喪失+タービントリップ</td> <td>原子炉の出力運転中に、原子炉水位高（レベル8）信号の誤発生によりタービンがトリップするとともに、原子炉給水ポンプがトリップする事象。</td> </tr> <tr> <td>主蒸気隔離弁の誤閉止</td> <td>原子炉の出力運転中に、主蒸気隔離弁が閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>給水制御系の故障</td> <td>原子炉の出力運転中に、給水流量が急激に増加し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>RCICの誤起動</td> <td>原子炉の出力運転中に、原子炉隔離時冷却系が誤起動し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>給水加熱喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、給水加熱器への蒸気流量が喪失して、給水温度が徐々に低下し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、発電機負荷遮断により蒸気加減弁が急速に閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。</td> </tr> </tbody> </table>	抽出事象	概要	原子炉冷却材流量制御系の誤動作	原子炉の出力運転中に、再循環流量制御系の誤動作により再循環流量（炉心流量）が増加し、原子炉出力が上昇する事象。	給水流量の全喪失+タービントリップ	原子炉の出力運転中に、原子炉水位高（レベル8）信号の誤発生によりタービンがトリップするとともに、原子炉給水ポンプがトリップする事象。	主蒸気隔離弁の誤閉止	原子炉の出力運転中に、主蒸気隔離弁が閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。	給水制御系の故障	原子炉の出力運転中に、給水流量が急激に増加し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。	RCICの誤起動	原子炉の出力運転中に、原子炉隔離時冷却系が誤起動し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。	給水加熱喪失	原子炉の出力運転中に、給水加熱器への蒸気流量が喪失して、給水温度が徐々に低下し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。	負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、発電機負荷遮断により蒸気加減弁が急速に閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。	<p>表 3.3 抽出された代表事象の概要</p> <table border="1" data-bbox="1285 209 1854 738"> <thead> <tr> <th>抽出事象</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>原子炉の出力運転中に、タービンバイパス弁、蒸気加減弁又は主蒸気加減弁の誤開放により主蒸気流量が異常増加し、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>原子炉の出力運転中に給水制御系の故障等により、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>原子炉の起動時又は出力運転中に、化学体積補給装置の故障等により、1次冷却材中に純水が注入され、1次冷却材中のほう素濃度が低下して反応度が追加される事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>原子炉の起動時に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>原子炉の出力運転中に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>原子炉の高圧停止中に、タービンバイパス弁、主蒸気減圧弁等の2次冷却系の弁が誤開放し、1次冷却材の温度が低下して、反応度が追加される事象。</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、主給水ポンプ、復水ポンプ又は給水制御系の故障等により、すべての蒸気発生器への給水が停止し、原子炉からの除熱能力が低下する事象。</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、送電系統又は所内主発電設備の故障等により外部電源が喪失する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、1次冷却材を駆動する1次冷却材ポンプの故障等により、炉心の冷却材流量が減少する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、1次冷却材の流量が定格出力時の流量から自然循環流量にまで大幅に減少する事象。</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、外部送電系統又は蒸気タービンの故障等により、蒸気タービンへの蒸気流量が急減し原子炉圧力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>原子炉の出力運転中に、1次冷却系の圧力制御系の故障等により、原子炉圧力が低下する事象。</td> </tr> </tbody> </table>	抽出事象	概要	蒸気負荷の異常な増加	原子炉の出力運転中に、タービンバイパス弁、蒸気加減弁又は主蒸気加減弁の誤開放により主蒸気流量が異常増加し、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。	蒸気発生器への過剰給水	原子炉の出力運転中に給水制御系の故障等により、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。	原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	原子炉の起動時又は出力運転中に、化学体積補給装置の故障等により、1次冷却材中に純水が注入され、1次冷却材中のほう素濃度が低下して反応度が追加される事象。	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	原子炉の起動時に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	原子炉の出力運転中に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。	2次冷却系の異常な減圧	原子炉の高圧停止中に、タービンバイパス弁、主蒸気減圧弁等の2次冷却系の弁が誤開放し、1次冷却材の温度が低下して、反応度が追加される事象。	主給水流量喪失	原子炉の出力運転中に、主給水ポンプ、復水ポンプ又は給水制御系の故障等により、すべての蒸気発生器への給水が停止し、原子炉からの除熱能力が低下する事象。	外部電源喪失	原子炉の出力運転中に、送電系統又は所内主発電設備の故障等により外部電源が喪失する事象。	原子炉冷却材流量の部分喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材を駆動する1次冷却材ポンプの故障等により、炉心の冷却材流量が減少する事象。	原子炉冷却材流量の喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材の流量が定格出力時の流量から自然循環流量にまで大幅に減少する事象。	負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、外部送電系統又は蒸気タービンの故障等により、蒸気タービンへの蒸気流量が急減し原子炉圧力が上昇する事象。	原子炉冷却材系の異常な減圧	原子炉の出力運転中に、1次冷却系の圧力制御系の故障等により、原子炉圧力が低下する事象。	<p>記載方針の相違          女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p> <p>記載表現の相違          BWRとPWRの表現の相違</p> <p>設計方針の相違          女川では3つ以上の事象の重畳がなかったが、泊では3つ以上の事象の重畳があった。</p>
抽出事象	概要																																												
原子炉冷却材流量制御系の誤動作	原子炉の出力運転中に、再循環流量制御系の誤動作により再循環流量（炉心流量）が増加し、原子炉出力が上昇する事象。																																												
給水流量の全喪失+タービントリップ	原子炉の出力運転中に、原子炉水位高（レベル8）信号の誤発生によりタービンがトリップするとともに、原子炉給水ポンプがトリップする事象。																																												
主蒸気隔離弁の誤閉止	原子炉の出力運転中に、主蒸気隔離弁が閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。																																												
給水制御系の故障	原子炉の出力運転中に、給水流量が急激に増加し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。																																												
RCICの誤起動	原子炉の出力運転中に、原子炉隔離時冷却系が誤起動し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。																																												
給水加熱喪失	原子炉の出力運転中に、給水加熱器への蒸気流量が喪失して、給水温度が徐々に低下し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。																																												
負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、発電機負荷遮断により蒸気加減弁が急速に閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。																																												
抽出事象	概要																																												
蒸気負荷の異常な増加	原子炉の出力運転中に、タービンバイパス弁、蒸気加減弁又は主蒸気加減弁の誤開放により主蒸気流量が異常増加し、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。																																												
蒸気発生器への過剰給水	原子炉の出力運転中に給水制御系の故障等により、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。																																												
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	原子炉の起動時又は出力運転中に、化学体積補給装置の故障等により、1次冷却材中に純水が注入され、1次冷却材中のほう素濃度が低下して反応度が追加される事象。																																												
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	原子炉の起動時に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。																																												
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	原子炉の出力運転中に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。																																												
2次冷却系の異常な減圧	原子炉の高圧停止中に、タービンバイパス弁、主蒸気減圧弁等の2次冷却系の弁が誤開放し、1次冷却材の温度が低下して、反応度が追加される事象。																																												
主給水流量喪失	原子炉の出力運転中に、主給水ポンプ、復水ポンプ又は給水制御系の故障等により、すべての蒸気発生器への給水が停止し、原子炉からの除熱能力が低下する事象。																																												
外部電源喪失	原子炉の出力運転中に、送電系統又は所内主発電設備の故障等により外部電源が喪失する事象。																																												
原子炉冷却材流量の部分喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材を駆動する1次冷却材ポンプの故障等により、炉心の冷却材流量が減少する事象。																																												
原子炉冷却材流量の喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材の流量が定格出力時の流量から自然循環流量にまで大幅に減少する事象。																																												
負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、外部送電系統又は蒸気タービンの故障等により、蒸気タービンへの蒸気流量が急減し原子炉圧力が上昇する事象。																																												
原子炉冷却材系の異常な減圧	原子炉の出力運転中に、1次冷却系の圧力制御系の故障等により、原子炉圧力が低下する事象。																																												
	<p>(2) 抽出事象に対する重畳の分析結果</p> <p>(1) で抽出された重畳を考慮した場合に事象を厳しくする可能性のある事象について、スクラムのタイミング等のプラント挙動について整理し、これらの観点から、重畳の組み合わせを考慮した場合に事象を厳しくする可能性があるかについて、更なる検討を行う。</p> <p>この検討においては、2つの事象の組み合わせについて、重畳を考慮したとしてもどちらか1つの事象に包絡される、重畳を考慮した場合には厳しい評価となる可能性がある、又は、重畳を考慮しない（単独の事象）方が厳しい評価となるかについて、定性的に評価を行う。</p> <p>なお、重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組み合わせが複数同定される場合には、更なる重畳を検討することが必要となるが、次に示すとおり、厳しくなる組み合わせが2つ以上はなかったことから、3つ以上の事象の重畳についても2つの事象の重畳に包含されることを確認した。</p>	<p>(2) 抽出事象に対する重畳の分析結果</p> <p>(1) で抽出された重畳を考慮した場合に事象を厳しくする可能性のある事象について、原子炉トリップのタイミング等のプラント挙動について整理し、これらの観点から、重畳の組み合わせを考慮した場合に事象を厳しくする可能性があるかについて、更なる検討を行う。</p> <p>この検討においては、2つの事象の組み合わせについて、重畳を考慮したとしてもどちらか1つの事象に包絡される、重畳を考慮した場合には厳しい評価となる可能性がある、又は、重畳を考慮しない（単独の事象）方が厳しい評価となるかについて、定性的に評価を行う。</p> <p>なお、重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組み合わせが複数同定される場合には、更なる重畳を検討することが必要となる。</p>																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>表 3.1 に抽出した重畳を考慮すべき事象について、スクラムのタイミング、蒸気遮断のタイミング等について表 3.4 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重畳考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.6 に示す。</p> <p>以下に表 3.6 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「給水流量の全喪失+タービントリップ」、「主蒸気隔離弁の誤閉止」、「給水制御系の故障（流量増加）」はいずれも主要弁の閉止を伴う圧力上昇事象である。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「主蒸気隔離弁の誤閉止」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁の閉止速度が速いため、厳しい結果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「給水流量の全喪失+タービントリップ」を比較すると「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁閉止時の出力が高くなるため厳しい結果となる。</p> <p>これらの事象のうち、「給水制御系の故障（流量増加）」が最もスクラム信号発生が遅い事象であるため、「主蒸気隔離弁の誤閉止」と「給水流量の全喪失+タービントリップ」とは組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が厳しい結果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」が重畳した場合、炉心流量の増加による出力上昇に伴い、タービントリップする前に短時間で中性子束高スクラムに至るため、「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」とほぼ同様の事象になるため、組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「RCIC の誤起動」による注水流量の増加分は定格給水流量に対して約 2%程度であり、「給水制御系の故障（流量増加）」による外乱としての増加分である約 36%と比べると、注入量が小さいため、結果に大きな影響はない。</p> <p>以上より、原子炉建屋における内部溢水により発生する可能性</p>	<p>a. 原子炉建屋における代表事象の重畳</p> <p>表 3.1 に抽出した重畳を考慮すべき事象について、スクラムのタイミング、蒸気遮断のタイミング等について表 3.4 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重畳考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.6 に示す。</p> <p>以下に表 3.6 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「給水流量の全喪失+タービントリップ」、「主蒸気隔離弁の誤閉止」、「給水制御系の故障（流量増加）」はいずれも主要弁の閉止を伴う圧力上昇事象である。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「主蒸気隔離弁の誤閉止」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁の閉止速度が速いため、厳しい結果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「給水流量の全喪失+タービントリップ」を比較すると「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁閉止時の出力が高くなるため厳しい結果となる。</p> <p>これらの事象のうち、「給水制御系の故障（流量増加）」が最もスクラム信号発生が遅い事象であるため、「主蒸気隔離弁の誤閉止」と「給水流量の全喪失+タービントリップ」とは組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が厳しい結果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」が重畳した場合、炉心流量の増加による出力上昇に伴い、タービントリップする前に短時間で中性子束高スクラムに至るため、「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」とほぼ同様の事象になるため、組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「RCIC の誤起動」による注水流量の増加分は定格給水流量に対して約 2%程度であり、「給水制御系の故障（流量増加）」による外乱としての増加分である約 36%と比べると、注入量が小さいため、結果に大きな影響はない。</p> <p>以上より、原子炉建屋における内部溢水により発生する可能性</p>	<p>a. 1次系建屋における代表事象の重畳</p> <p>表 3.1 に抽出した重畳を考慮すべき事象について、原子炉トリップのタイミング等について表 3.4 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重畳考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.6 に示す。</p> <p>以下に表 3.6 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「蒸気発生器への過剰給水」は蒸気発生器による除熱が過大となり 1次冷却材温度が低下する事象であり、「主給水流量喪失」及び「負荷の喪失」は蒸気発生器による除熱が喪失して 1次冷却材温度が上昇する事象である。これらの外乱が同時に生じた場合、温度低下又は上昇を緩和する働きをするため、組み合わせない方が結果を厳しくする。「外部電源喪失」、「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」は外乱発生後早期に原子炉トリップする事象であり、他の外乱が同時に生じた場合でも事象進展に大きな影響を受けないため、単独事象で代表できる。</p> <p>「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」は原子炉起動時を想定している事象であるため、原子炉運転中を想定している他の外乱との組み合わせは考慮する必要がない。また、外乱発生後早期に原子炉トリップする事象であり、他の外乱が同時に生じた場合でも事象進展に大きな影響を受けないことから他の外乱との組み合わせは考慮する必要がない。</p> <p>以上の分析の結果、二つの事象の重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組み合わせが複数同定されたため、評価パラメータごとに更なる重畳を検討した結果を表 3.8 に示す。</p> <p>原子炉圧力の観点では、抽出された事象のうち、「負荷の喪失」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「蒸気発生器への過剰給水」及び「原子炉冷却材系の異常な減圧」は原子炉圧力を低下させる外乱であり、圧力上昇の観点で厳しくならないため、組み合わせを考慮しない。「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「主給水流量喪失」は 1次冷却材温度の上昇により原子炉圧力上昇をもたらすため、組み合わせを考慮する。な</p>	<p>記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載表現の相違                  BWRとPWRの表現の相違</p> <p>設計方針の相違                  女川は、蒸気遮断のタイミングも重畳事象の分析に使っているが、泊は使っていない。</p> <p>設計方針の相違                  女川では、弁の閉止速度、スクラム信号発生のタイミングを事象ごとに比較して厳しい事象、重畳事象を選定しているが、泊では 1次冷却材の温度、圧力、反応度添加率を事象ごとに比較して厳しい事象、重畳事象を選定している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>のある事象の評価事象として、「給水制御系の故障（流量増加）」を評価する。</p> <p>b. タービン建屋における代表事象の重量</p> <p>表 3.2 に抽出した重量を考慮すべき事象について、スクラムのタイミング、蒸気遮断のタイミング等について表 3.5 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重量考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.7 に示す。</p> <p>以下に表 3.7 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「負荷の喪失」、「主蒸気隔離弁の誤閉止」、「給水制御系の故障（流量増加）」はいずれも主要弁の閉止を伴う圧力上昇事象である。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「主蒸気隔離弁の誤閉止」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が厳しい結</p>	<p>のある事象の評価事象として、「給水制御系の故障（流量増加）」を評価する。</p> <p>b. タービン建屋における代表事象の重量</p> <p>表 3.2 に抽出した重量を考慮すべき事象について、スクラムのタイミング、蒸気遮断のタイミング等について表 3.5 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重量考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.7 に示す。</p> <p>以下に表 3.7 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「蒸気負荷の異常な増加」及び「蒸気発生器への過剰給水」は蒸気発生器による除熱が過大となり1次冷却材温度が低下する事象であり、「主給水流量喪失」及び「負荷の喪失」は蒸気発生器による除熱が喪失して1次冷却材温度が上昇する事象である。これらの外乱が同時に生じた場合、温度低下又は上昇を緩和する働</p>	<p>お、「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」は反応度添加率（約 <math>2 \times 10^{-5} (\Delta k/k)/s</math>）が「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」で想定する反応度添加率の範囲（<math>\sim 8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s</math>）に包絡されるため、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される。</p> <p>DNBR の観点では、抽出された事象のうち、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「負荷の喪失」は原子炉圧力が上昇すること、及び、早期に原子炉トリップすることから、DNBR 低下の観点で厳しくならないため、組み合わせを考慮しない。なお、「蒸気発生器への過剰給水」の反応度添加率（最大で <math>2 \times 10^{-5} (\Delta k/k)/s</math> 程度）、及び、「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」の反応度添加率（約 <math>2.0 \times 10^{-5} (\Delta k/k)/s</math>）は、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」で想定する反応度添加率の範囲（<math>\sim 8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s</math>）に包絡されるため、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される。</p> <p>以上より、1次系建屋溢水発生時に想定する重量事象の評価ケースを表 3.10 に示す。</p> <p>b. 2次系建屋における代表事象の重量</p> <p>表 3.2 に抽出した重量を考慮すべき事象について、原子炉トリップのタイミング等について表 3.5 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重量考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.7 に示す。</p> <p>以下に表 3.7 に記載の分析結果について示す。</p>	<p>相違理由</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a>                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>                  BWRとPWRの表現の相違</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a>                  女川は、蒸気遮断のタイミングも重量事象の分析に使っているが、泊は蒸気遮断のタイミングが事象進展に与える影響が支配的ではないため使っていない。</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a>                  女川では、弁の閉止速度、スクラム信号発生のタイミングを事象ごとに比較して厳しい事象、重量事象を選定しているが、泊では1次</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「負荷の喪失」を比較すると、タービンバイパス弁の不作動を仮定した場合、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁閉止時の出力が高くなるため厳しい結果となる。</p> <p>これらの事象のうち、「給水制御系の故障（流量増加）」が最もスクラム信号発生が遅い事象であるため、「負荷の喪失」と「主蒸気隔離弁の誤閉止」とは組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「給水加熱喪失」は事象開始時に同時に発生すると、「給水制御系の故障（流量増加）」が単独で発生した場合よりは出力が高い状態でタービントリップに至ると考えられる。</p> <p>以上から、タービン建屋における内部溢水により発生する可能性のある事象の評価事象として、「給水制御系の故障（流量増加）」と「給水加熱喪失」の重畳事象を評価する。</p>	<p>きをするため、組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「外部電源喪失」は外乱発生後早期に原子炉トリップする事象であり、他の外乱が同時に生じた場合でも事象進展に大きな影響を受けないため、単独事象で代表できる。</p> <p>「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」及び「2次冷却系の異常な減圧」は原子炉起動時又は停止時を想定している事象であるため、原子炉の出力運転中を想定している他の外乱との組み合わせは考慮する必要がない。</p> <p>以上の分析の結果、二つの事象の重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組み合わせが複数同定されたため、評価パラメータごとに更なる重畳を検討した結果を表3.9に示す。</p> <p>原子炉圧力の観点では、抽出された事象のうち、「負荷の喪失」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「蒸気負荷の異常な増加」及び「蒸気発生器への過剰給水」は原子炉圧力を低下させる外乱であり、圧力上昇の観点で厳しくならないため、組み合わせを考慮しない。「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「主給水流量喪失」は1次冷却材温度の上昇により原子炉圧力上昇をもたらすため、組み合わせを考慮する。</p> <p>DNBRの観点では、抽出された事象のうち、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「負荷の喪失」は原子炉圧力が上昇すること、及び、早期に原子炉トリップすることから、DNBR低下の観点で厳しくならないため、組み合わせを考慮しない。なお、「蒸気負荷の異常な増加」の反応度添加率（最大で<math>3 \times 10^{-5} (\Delta k/k)/s</math>程度）及び「蒸気発生器への過剰給水」による反応度添加率（最大で<math>2 \times 10^{-5} (\Delta k/k)/s</math>程度）は、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」で想定する反応度添加率の範囲（<math>\sim 8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s</math>）に包絡されるため、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される。</p> <p>以上より、2次系建屋溢水発生時に想定する重畳事象の評価ケースを表3.11に示す。なお、抽出された重畳事象は1次系建屋溢水発生時に想定する重畳事象に包絡されるため、評価は不要である。</p>	<p>冷却材の温度、圧力、反応度添加率を事象ごとに比較して厳しい事象、重畳事象を選定している。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																											
	<p>表 3.4 想定される代表事象（単独事象）の解析結果（<b>原子炉建屋溢水発生時を想定</b>）</p> <table border="1" data-bbox="696 252 1189 1289"> <thead> <tr> <th>スクラムタイミング</th> <th>蒸気遮断タイミング及び弁の閉止速度</th> <th>蒸気遮断時の出力</th> <th>原子炉圧力ピーク値</th> <th>中性子束ピーク値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材流量制御系の起動作 約7.2秒後 (中性子束高)</td> <td>原子炉停止手順に従い隔離</td> <td>—</td> <td>約6.8MPa[cause]</td> <td>約127%</td> </tr> <tr> <td>給水流量の全喪失 + タービントリップ*</td> <td>TBトリップ (MSV閉) 0.1秒</td> <td>約105%</td> <td>約7.7MPa[cause]</td> <td>約118%</td> </tr> <tr> <td>主蒸気隔離弁の閉止</td> <td>0秒後 (MSIV閉(制御止)) 3秒</td> <td>約105%</td> <td>約7.8MPa[cause]</td> <td>制御値を超えない</td> </tr> <tr> <td>給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td>約9秒後 (MSV閉) 0.1秒</td> <td>約115%</td> <td>約7.81MPa[cause]</td> <td>約131%</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：タービントリップが単独で発生した場合とは異なる事象となるため、負荷の喪失事象の解析結果を参考に記載</p>	スクラムタイミング	蒸気遮断タイミング及び弁の閉止速度	蒸気遮断時の出力	原子炉圧力ピーク値	中性子束ピーク値	原子炉冷却材流量制御系の起動作 約7.2秒後 (中性子束高)	原子炉停止手順に従い隔離	—	約6.8MPa[cause]	約127%	給水流量の全喪失 + タービントリップ*	TBトリップ (MSV閉) 0.1秒	約105%	約7.7MPa[cause]	約118%	主蒸気隔離弁の閉止	0秒後 (MSIV閉(制御止)) 3秒	約105%	約7.8MPa[cause]	制御値を超えない	給水制御系の故障 (流量増加)	約9秒後 (MSV閉) 0.1秒	約115%	約7.81MPa[cause]	約131%	<p>表 3.4 想定される代表事象（単独事象）の解析結果（<b>1次系建屋溢水発生時を想定</b>）</p> <table border="1" data-bbox="1285 252 1861 1145"> <thead> <tr> <th>蒸気発生器への過剰給水</th> <th>原子炉トリップタイミング</th> <th>原子炉圧力ピーク値</th> <th>DNBR最小値</th> <th>燃料エンタルピーピーク値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>約55秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ)</td> <td>圧力上昇幅 約0.2MPa</td> <td>約2.03</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>原子炉トリップしない</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>約9.5秒後 (出力領域中性子束高(低設定))</td> <td>約17.4 MPa[cause]</td> <td>—</td> <td>約344 kJ/kg</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>約60秒後 (漏入温度ΔT高) 約27秒後 (原子炉圧力高)</td> <td>圧力上昇幅 約0.8MPa 約17.3 MPa[cause]</td> <td>約1.56</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>「主給水流量喪失」、「原子炉冷却材流量喪失」解析で含まれる</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>約2.7秒後 (1次冷却材流量低)</td> <td>圧力上昇幅 約0.3MPa</td> <td>約1.99</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>約1.8秒後 (1次冷却材ポンプ電源電圧低)</td> <td>圧力上昇幅 約0.6MPa</td> <td>約1.75</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>約8秒後 (原子炉圧力高)</td> <td>約17.8 MPa[cause]</td> <td>約2.02</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>約64秒後 (原子炉圧力低)</td> <td>—</td> <td>約1.86</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	蒸気発生器への過剰給水	原子炉トリップタイミング	原子炉圧力ピーク値	DNBR最小値	燃料エンタルピーピーク値	原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	約55秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ)	圧力上昇幅 約0.2MPa	約2.03	—	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	原子炉トリップしない	—	—	—	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	約9.5秒後 (出力領域中性子束高(低設定))	約17.4 MPa[cause]	—	約344 kJ/kg	主給水流量喪失	約60秒後 (漏入温度ΔT高) 約27秒後 (原子炉圧力高)	圧力上昇幅 約0.8MPa 約17.3 MPa[cause]	約1.56	—	外部電源喪失	「主給水流量喪失」、「原子炉冷却材流量喪失」解析で含まれる	—	—	—	原子炉冷却材流量の部分喪失	約2.7秒後 (1次冷却材流量低)	圧力上昇幅 約0.3MPa	約1.99	—	原子炉冷却材流量の喪失	約1.8秒後 (1次冷却材ポンプ電源電圧低)	圧力上昇幅 約0.6MPa	約1.75	—	負荷の喪失	約8秒後 (原子炉圧力高)	約17.8 MPa[cause]	約2.02	—	原子炉冷却材系の異常な減圧	約64秒後 (原子炉圧力低)	—	約1.86	—	<p>記載方針の相違          女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>設計方針の相違          女川は、蒸気遮断のタイミング等も重要事象の分析に使っているが、泊は蒸気遮断のタイミングが事象進展に与える影響が支配的ではないため使っていない。</p>
スクラムタイミング	蒸気遮断タイミング及び弁の閉止速度	蒸気遮断時の出力	原子炉圧力ピーク値	中性子束ピーク値																																																																										
原子炉冷却材流量制御系の起動作 約7.2秒後 (中性子束高)	原子炉停止手順に従い隔離	—	約6.8MPa[cause]	約127%																																																																										
給水流量の全喪失 + タービントリップ*	TBトリップ (MSV閉) 0.1秒	約105%	約7.7MPa[cause]	約118%																																																																										
主蒸気隔離弁の閉止	0秒後 (MSIV閉(制御止)) 3秒	約105%	約7.8MPa[cause]	制御値を超えない																																																																										
給水制御系の故障 (流量増加)	約9秒後 (MSV閉) 0.1秒	約115%	約7.81MPa[cause]	約131%																																																																										
蒸気発生器への過剰給水	原子炉トリップタイミング	原子炉圧力ピーク値	DNBR最小値	燃料エンタルピーピーク値																																																																										
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	約55秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ)	圧力上昇幅 約0.2MPa	約2.03	—																																																																										
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	原子炉トリップしない	—	—	—																																																																										
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	約9.5秒後 (出力領域中性子束高(低設定))	約17.4 MPa[cause]	—	約344 kJ/kg																																																																										
主給水流量喪失	約60秒後 (漏入温度ΔT高) 約27秒後 (原子炉圧力高)	圧力上昇幅 約0.8MPa 約17.3 MPa[cause]	約1.56	—																																																																										
外部電源喪失	「主給水流量喪失」、「原子炉冷却材流量喪失」解析で含まれる	—	—	—																																																																										
原子炉冷却材流量の部分喪失	約2.7秒後 (1次冷却材流量低)	圧力上昇幅 約0.3MPa	約1.99	—																																																																										
原子炉冷却材流量の喪失	約1.8秒後 (1次冷却材ポンプ電源電圧低)	圧力上昇幅 約0.6MPa	約1.75	—																																																																										
負荷の喪失	約8秒後 (原子炉圧力高)	約17.8 MPa[cause]	約2.02	—																																																																										
原子炉冷却材系の異常な減圧	約64秒後 (原子炉圧力低)	—	約1.86	—																																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																													
	<p>表 3.5 想定される代表事象（単独事象）の解析結果（タービン建屋溢水発生時を想定）</p> <table border="1" data-bbox="703 240 1272 1321"> <thead> <tr> <th>スクラムタイミング</th> <th>蒸気遮断タイミング及び弁の閉止速度</th> <th>蒸気遮断時の出力</th> <th>原子炉圧力ピーク値</th> <th>中性子束ピーク値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約92秒 (TPM)</td> <td>原子炉停止手順に従い、隔離</td> <td>—</td> <td>約7.11MPa [gauge]</td> <td>約122%</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失 (約0.1秒後 (蒸気加減弁急閉))</td> <td>負荷遮断 (蒸気加減弁急閉)</td> <td>約105%</td> <td>約7.79MPa [gauge]</td> <td>約118%</td> </tr> <tr> <td>主蒸気隔離弁の閉閉止 (約0.3秒後 (MSIV閉))</td> <td>0秒後 (MSIV閉 (隔離止))</td> <td>約105%</td> <td>約7.84MPa [gauge]</td> <td>初期値を超えない</td> </tr> <tr> <td>給水制御系の故障 (流量増加) (約9秒後 (MSIV閉))</td> <td>約9秒後 (MSIV閉 (0.8 TBトリップ))</td> <td>約113%</td> <td>約7.81MPa [gauge]</td> <td>約131%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 給水加熱器1段の喪失を想定。複数段の機能喪失時には、炉心入口サブコールドの増加量が大きくなり、スクラム時間は早くなるが、スクラムする出力点は変わらず、スクラム後の評価は同様となると考えられる。</p>	スクラムタイミング	蒸気遮断タイミング及び弁の閉止速度	蒸気遮断時の出力	原子炉圧力ピーク値	中性子束ピーク値	約92秒 (TPM)	原子炉停止手順に従い、隔離	—	約7.11MPa [gauge]	約122%	負荷の喪失 (約0.1秒後 (蒸気加減弁急閉))	負荷遮断 (蒸気加減弁急閉)	約105%	約7.79MPa [gauge]	約118%	主蒸気隔離弁の閉閉止 (約0.3秒後 (MSIV閉))	0秒後 (MSIV閉 (隔離止))	約105%	約7.84MPa [gauge]	初期値を超えない	給水制御系の故障 (流量増加) (約9秒後 (MSIV閉))	約9秒後 (MSIV閉 (0.8 TBトリップ))	約113%	約7.81MPa [gauge]	約131%	<p>表 3.5 想定される代表事象（単独事象）の解析結果（2次系建屋溢水発生時を想定）</p> <table border="1" data-bbox="1292 240 1861 1209"> <thead> <tr> <th></th> <th>原子炉トリップタイミング</th> <th>原子炉圧力ピーク値</th> <th>DNR 最小値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>原子炉トリップしない</td> <td>圧力上昇幅 約0.2MPa</td> <td>約1.88</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>約56秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ)</td> <td>圧力上昇幅 約0.2MPa</td> <td>約2.03</td> </tr> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>約9.5秒後 (出力領域中性子束高 (低設定))</td> <td>約17.4 MPa [gauge]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>約60秒後 (過大温度ΔT高)</td> <td>圧力上昇幅 約0.8MPa</td> <td>約1.56</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>— (高温停止状態)</td> <td>—</td> <td>臨界に至らない</td> </tr> <tr> <td>主給水流路流量喪失</td> <td>約27秒後 (原子炉圧力高)</td> <td>約17.3 MPa [gauge]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>「主給水流路流量喪失」, 「原子炉冷却材流量の喪失 (表3.4)」 解析で包含される</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>約8秒後 (原子炉圧力高)</td> <td>約17.8 MPa [gauge]</td> <td>約2.02</td> </tr> </tbody> </table>		原子炉トリップタイミング	原子炉圧力ピーク値	DNR 最小値	蒸気負荷の異常な増加	原子炉トリップしない	圧力上昇幅 約0.2MPa	約1.88	蒸気発生器への過剰給水	約56秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ)	圧力上昇幅 約0.2MPa	約2.03	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	約9.5秒後 (出力領域中性子束高 (低設定))	約17.4 MPa [gauge]	—	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	約60秒後 (過大温度ΔT高)	圧力上昇幅 約0.8MPa	約1.56	2次冷却系の異常な減圧	— (高温停止状態)	—	臨界に至らない	主給水流路流量喪失	約27秒後 (原子炉圧力高)	約17.3 MPa [gauge]	—	外部電源喪失	「主給水流路流量喪失」, 「原子炉冷却材流量の喪失 (表3.4)」 解析で包含される			負荷の喪失	約8秒後 (原子炉圧力高)	約17.8 MPa [gauge]	約2.02	<p>記載方針の相違          女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で及ぼさないこととした。</p> <p>設計方針の相違          女川は、蒸気遮断のタイミング等も重畳事象の分析に使っているが、泊は蒸気遮断のタイミングが事象進展に与える影響が支配的ではないため使っていない。</p>
スクラムタイミング	蒸気遮断タイミング及び弁の閉止速度	蒸気遮断時の出力	原子炉圧力ピーク値	中性子束ピーク値																																																												
約92秒 (TPM)	原子炉停止手順に従い、隔離	—	約7.11MPa [gauge]	約122%																																																												
負荷の喪失 (約0.1秒後 (蒸気加減弁急閉))	負荷遮断 (蒸気加減弁急閉)	約105%	約7.79MPa [gauge]	約118%																																																												
主蒸気隔離弁の閉閉止 (約0.3秒後 (MSIV閉))	0秒後 (MSIV閉 (隔離止))	約105%	約7.84MPa [gauge]	初期値を超えない																																																												
給水制御系の故障 (流量増加) (約9秒後 (MSIV閉))	約9秒後 (MSIV閉 (0.8 TBトリップ))	約113%	約7.81MPa [gauge]	約131%																																																												
	原子炉トリップタイミング	原子炉圧力ピーク値	DNR 最小値																																																													
蒸気負荷の異常な増加	原子炉トリップしない	圧力上昇幅 約0.2MPa	約1.88																																																													
蒸気発生器への過剰給水	約56秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ)	圧力上昇幅 約0.2MPa	約2.03																																																													
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	約9.5秒後 (出力領域中性子束高 (低設定))	約17.4 MPa [gauge]	—																																																													
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	約60秒後 (過大温度ΔT高)	圧力上昇幅 約0.8MPa	約1.56																																																													
2次冷却系の異常な減圧	— (高温停止状態)	—	臨界に至らない																																																													
主給水流路流量喪失	約27秒後 (原子炉圧力高)	約17.3 MPa [gauge]	—																																																													
外部電源喪失	「主給水流路流量喪失」, 「原子炉冷却材流量の喪失 (表3.4)」 解析で包含される																																																															
負荷の喪失	約8秒後 (原子炉圧力高)	約17.8 MPa [gauge]	約2.02																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																						
	<p>表 3.6 重畳事象の分析 (原子炉建屋溢水発生時)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="689 215 757 391">①給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td data-bbox="757 215 929 391">④給水制御系の故障 (流量増加) スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べて、④により代表できる。</td> <td data-bbox="929 215 1086 391">X</td> <td data-bbox="1086 215 1279 391">スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="689 391 757 518">②主蒸気発生機の新閉止</td> <td data-bbox="757 391 929 518">X</td> <td data-bbox="929 391 1086 518">X</td> <td data-bbox="1086 391 1279 518">スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="689 518 757 646">③給水流量の全喪失 + タービントリップ</td> <td data-bbox="757 518 929 646">X</td> <td data-bbox="929 518 1086 646">X</td> <td data-bbox="1086 518 1279 646">スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="689 646 757 774">④原子炉冷却材流量制御系の動作</td> <td data-bbox="757 646 929 774">-</td> <td data-bbox="929 646 1086 774">-</td> <td data-bbox="1086 646 1279 774">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="689 774 757 901">①蒸気発生機の新閉止</td> <td data-bbox="757 774 929 901">-</td> <td data-bbox="929 774 1086 901">-</td> <td data-bbox="1086 774 1279 901">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="689 901 757 1029">②給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td data-bbox="757 901 929 1029">-</td> <td data-bbox="929 901 1086 1029">-</td> <td data-bbox="1086 901 1279 1029">-</td> </tr> </table>	①給水制御系の故障 (流量増加)	④給水制御系の故障 (流量増加) スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べて、④により代表できる。	X	スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。	②主蒸気発生機の新閉止	X	X	スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。	③給水流量の全喪失 + タービントリップ	X	X	スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。	④原子炉冷却材流量制御系の動作	-	-	-	①蒸気発生機の新閉止	-	-	-	②給水制御系の故障 (流量増加)	-	-	-	<p>表 3.6 重畳事象の分析 (1次系建屋溢水発生時) (1/5)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1279 215 1355 391">①蒸気発生機の新閉止</td> <td data-bbox="1355 215 1422 391">X</td> <td data-bbox="1422 215 1601 391">X</td> <td data-bbox="1601 215 1758 391">X</td> <td data-bbox="1758 215 1868 391">X</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 391 1355 518">②給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td data-bbox="1355 391 1422 518">X</td> <td data-bbox="1422 391 1601 518">X</td> <td data-bbox="1601 391 1758 518">X</td> <td data-bbox="1758 391 1868 518">X</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 518 1355 646">③給水流量の全喪失 + タービントリップ</td> <td data-bbox="1355 518 1422 646">X</td> <td data-bbox="1422 518 1601 646">X</td> <td data-bbox="1601 518 1758 646">X</td> <td data-bbox="1758 518 1868 646">X</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 646 1355 774">④原子炉冷却材流量制御系の動作</td> <td data-bbox="1355 646 1422 774">-</td> <td data-bbox="1422 646 1601 774">-</td> <td data-bbox="1601 646 1758 774">-</td> <td data-bbox="1758 646 1868 774">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 774 1355 901">①蒸気発生機の新閉止</td> <td data-bbox="1355 774 1422 901">-</td> <td data-bbox="1422 774 1601 901">-</td> <td data-bbox="1601 774 1758 901">-</td> <td data-bbox="1758 774 1868 901">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 901 1355 1029">②給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td data-bbox="1355 901 1422 1029">-</td> <td data-bbox="1422 901 1601 1029">-</td> <td data-bbox="1601 901 1758 1029">-</td> <td data-bbox="1758 901 1868 1029">-</td> </tr> </table>	①蒸気発生機の新閉止	X	X	X	X	②給水制御系の故障 (流量増加)	X	X	X	X	③給水流量の全喪失 + タービントリップ	X	X	X	X	④原子炉冷却材流量制御系の動作	-	-	-	-	①蒸気発生機の新閉止	-	-	-	-	②給水制御系の故障 (流量増加)	-	-	-	-	<p>記載方針の相違          女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
①給水制御系の故障 (流量増加)	④給水制御系の故障 (流量増加) スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べて、④により代表できる。	X	スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。																																																						
②主蒸気発生機の新閉止	X	X	スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。																																																						
③給水流量の全喪失 + タービントリップ	X	X	スクラムタイミンが④の方が出力上昇が速い。かつ、④は主蒸気発生機がスクラム解除時に閉止するため蒸気発生機がスクラム解除後、④に比べ原子炉圧力の低下による出力上昇に伴う重要事象は中心循環の増大による出力上昇に伴う重要事象に比べて発生しにくい。また、④は主蒸気発生機がスクラム解除後、④により代表できる。																																																						
④原子炉冷却材流量制御系の動作	-	-	-																																																						
①蒸気発生機の新閉止	-	-	-																																																						
②給水制御系の故障 (流量増加)	-	-	-																																																						
①蒸気発生機の新閉止	X	X	X	X																																																					
②給水制御系の故障 (流量増加)	X	X	X	X																																																					
③給水流量の全喪失 + タービントリップ	X	X	X	X																																																					
④原子炉冷却材流量制御系の動作	-	-	-	-																																																					
①蒸気発生機の新閉止	-	-	-	-																																																					
②給水制御系の故障 (流量増加)	-	-	-	-																																																					



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																														
		<p>表 3.6 重畳事象の分析（1次系建屋溢水発生時）(3/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1285 217 1346 320">⑨原子炉冷却材中の異常な増圧</th> <th data-bbox="1352 217 1413 320">⑩負荷の喪失</th> <th data-bbox="1420 217 1480 320">⑪原子炉冷却材流量の喪失</th> <th data-bbox="1487 217 1547 320">⑫原子炉冷却材流量の減少</th> <th data-bbox="1554 217 1615 320">⑬外部電源喪失</th> <th data-bbox="1621 217 1682 320">⑭主給水流断喪失</th> <th data-bbox="1688 217 1749 320">⑮出力減転中の制御棒の異常な引き抜き</th> <th data-bbox="1756 217 1816 320">⑯原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き</th> <th data-bbox="1823 217 1883 320">⑰原子炉冷却材中のほう素の異常な増収</th> <th data-bbox="1890 217 1951 320">⑱蒸気発生器への過剰給水</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1285 325 1346 445">X</td> <td data-bbox="1352 325 1413 445">X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】</td> <td data-bbox="1420 325 1480 445">X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1487 325 1547 445">X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1554 325 1615 445">X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1621 325 1682 445">-</td> <td data-bbox="1688 325 1749 445">-</td> <td data-bbox="1756 325 1816 445">-</td> <td data-bbox="1823 325 1883 445">-</td> <td data-bbox="1890 325 1951 445">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 450 1346 569">X</td> <td data-bbox="1352 450 1413 569">X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】</td> <td data-bbox="1420 450 1480 569">X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1487 450 1547 569">X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1554 450 1615 569">X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1621 450 1682 569">-</td> <td data-bbox="1688 450 1749 569">-</td> <td data-bbox="1756 450 1816 569">-</td> <td data-bbox="1823 450 1883 569">-</td> <td data-bbox="1890 450 1951 569">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 574 1346 694">X</td> <td data-bbox="1352 574 1413 694">X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】</td> <td data-bbox="1420 574 1480 694">X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1487 574 1547 694">X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1554 574 1615 694">X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】</td> <td data-bbox="1621 574 1682 694">-</td> <td data-bbox="1688 574 1749 694">-</td> <td data-bbox="1756 574 1816 694">-</td> <td data-bbox="1823 574 1883 694">-</td> <td data-bbox="1890 574 1951 694">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 699 1346 818">-</td> <td data-bbox="1352 699 1413 818">-</td> <td data-bbox="1420 699 1480 818">-</td> <td data-bbox="1487 699 1547 818">-</td> <td data-bbox="1554 699 1615 818">-</td> <td data-bbox="1621 699 1682 818">-</td> <td data-bbox="1688 699 1749 818">-</td> <td data-bbox="1756 699 1816 818">-</td> <td data-bbox="1823 699 1883 818">-</td> <td data-bbox="1890 699 1951 818">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 823 1346 943">-</td> <td data-bbox="1352 823 1413 943">-</td> <td data-bbox="1420 823 1480 943">-</td> <td data-bbox="1487 823 1547 943">-</td> <td data-bbox="1554 823 1615 943">-</td> <td data-bbox="1621 823 1682 943">-</td> <td data-bbox="1688 823 1749 943">-</td> <td data-bbox="1756 823 1816 943">-</td> <td data-bbox="1823 823 1883 943">-</td> <td data-bbox="1890 823 1951 943">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 948 1346 1067">-</td> <td data-bbox="1352 948 1413 1067">-</td> <td data-bbox="1420 948 1480 1067">-</td> <td data-bbox="1487 948 1547 1067">-</td> <td data-bbox="1554 948 1615 1067">-</td> <td data-bbox="1621 948 1682 1067">-</td> <td data-bbox="1688 948 1749 1067">-</td> <td data-bbox="1756 948 1816 1067">-</td> <td data-bbox="1823 948 1883 1067">-</td> <td data-bbox="1890 948 1951 1067">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1072 1346 1192">-</td> <td data-bbox="1352 1072 1413 1192">-</td> <td data-bbox="1420 1072 1480 1192">-</td> <td data-bbox="1487 1072 1547 1192">-</td> <td data-bbox="1554 1072 1615 1192">-</td> <td data-bbox="1621 1072 1682 1192">-</td> <td data-bbox="1688 1072 1749 1192">-</td> <td data-bbox="1756 1072 1816 1192">-</td> <td data-bbox="1823 1072 1883 1192">-</td> <td data-bbox="1890 1072 1951 1192">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1197 1346 1316">-</td> <td data-bbox="1352 1197 1413 1316">-</td> <td data-bbox="1420 1197 1480 1316">-</td> <td data-bbox="1487 1197 1547 1316">-</td> <td data-bbox="1554 1197 1615 1316">-</td> <td data-bbox="1621 1197 1682 1316">-</td> <td data-bbox="1688 1197 1749 1316">-</td> <td data-bbox="1756 1197 1816 1316">-</td> <td data-bbox="1823 1197 1883 1316">-</td> <td data-bbox="1890 1197 1951 1316">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1321 1346 1441">-</td> <td data-bbox="1352 1321 1413 1441">-</td> <td data-bbox="1420 1321 1480 1441">-</td> <td data-bbox="1487 1321 1547 1441">-</td> <td data-bbox="1554 1321 1615 1441">-</td> <td data-bbox="1621 1321 1682 1441">-</td> <td data-bbox="1688 1321 1749 1441">-</td> <td data-bbox="1756 1321 1816 1441">-</td> <td data-bbox="1823 1321 1883 1441">-</td> <td data-bbox="1890 1321 1951 1441">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1445 1346 1565">-</td> <td data-bbox="1352 1445 1413 1565">-</td> <td data-bbox="1420 1445 1480 1565">-</td> <td data-bbox="1487 1445 1547 1565">-</td> <td data-bbox="1554 1445 1615 1565">-</td> <td data-bbox="1621 1445 1682 1565">-</td> <td data-bbox="1688 1445 1749 1565">-</td> <td data-bbox="1756 1445 1816 1565">-</td> <td data-bbox="1823 1445 1883 1565">-</td> <td data-bbox="1890 1445 1951 1565">-</td> </tr> </tbody> </table>	⑨原子炉冷却材中の異常な増圧	⑩負荷の喪失	⑪原子炉冷却材流量の喪失	⑫原子炉冷却材流量の減少	⑬外部電源喪失	⑭主給水流断喪失	⑮出力減転中の制御棒の異常な引き抜き	⑯原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き	⑰原子炉冷却材中のほう素の異常な増収	⑱蒸気発生器への過剰給水	X	X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】	X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	-	-	-	-	-	X	X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】	X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	-	-	-	-	-	X	X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】	X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	<p>記載方針の相違          女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
⑨原子炉冷却材中の異常な増圧	⑩負荷の喪失	⑪原子炉冷却材流量の喪失	⑫原子炉冷却材流量の減少	⑬外部電源喪失	⑭主給水流断喪失	⑮出力減転中の制御棒の異常な引き抜き	⑯原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き	⑰原子炉冷却材中のほう素の異常な増収	⑱蒸気発生器への過剰給水																																																																																																								
X	X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】	X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	-	-	-	-	-																																																																																																								
X	X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】	X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	-	-	-	-	-																																																																																																								
X	X ⑩は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑩】	X ⑪は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑬は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	X ⑭は⑫の外乱を包摂しており、プラント挙動として影響が大きいため、単独事象として代表できる。【抽出事象：⑫】	-	-	-	-	-																																																																																																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																	
		<p>表 3.6 重畳事象の分析（1次系建屋溢水発生時）(4/5)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1285 217 1346 408">②原子炉格納容器の喪失</td> <td data-bbox="1352 217 1413 408">                     ②原子炉格納容器の喪失                      原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】                 </td> <td data-bbox="1420 217 1480 408">                     ②原子炉格納容器の喪失                      原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1487 217 1547 408">③原子炉格納容器の破損</td> <td data-bbox="1554 217 1615 408">                     ③原子炉格納容器の破損                      原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】                 </td> <td data-bbox="1621 217 1682 408">                     ③原子炉格納容器の破損                      原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1688 217 1749 408">④原子炉格納容器の破損</td> <td data-bbox="1756 217 1816 408">                     ④原子炉格納容器の破損                      原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】                 </td> <td data-bbox="1823 217 1883 408">                     ④原子炉格納容器の破損                      原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1890 217 1951 408">⑤外部電源喪失</td> <td data-bbox="1957 217 2018 408">-</td> <td data-bbox="2024 217 2085 408">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="2092 217 2152 408">⑥主給水流断</td> <td data-bbox="2159 217 2219 408">-</td> <td data-bbox="2226 217 2240 408">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="2293 217 2240 408">⑦出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="2360 217 2240 408">-</td> <td data-bbox="2428 217 2240 408">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="2495 217 2240 408">⑧原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="2562 217 2240 408">-</td> <td data-bbox="2629 217 2240 408">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="2696 217 2240 408">⑨原子炉格納容器中心のほうまの異常な蒸気</td> <td data-bbox="2764 217 2240 408">-</td> <td data-bbox="2831 217 2240 408">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="2898 217 2240 408">⑩蒸気発生器への冷却水供給</td> <td data-bbox="2965 217 2240 408">-</td> <td data-bbox="3032 217 2240 408">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="3100 217 2240 408">⑪原子炉格納容器の破損</td> <td data-bbox="3167 217 2240 408">-</td> <td data-bbox="3234 217 2240 408">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="3301 217 2240 408">⑫原子炉格納容器の破損</td> <td data-bbox="3368 217 2240 408">-</td> <td data-bbox="3436 217 2240 408">-</td> </tr> </table>	②原子炉格納容器の喪失	②原子炉格納容器の喪失 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	②原子炉格納容器の喪失 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	③原子炉格納容器の破損	③原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	③原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	④原子炉格納容器の破損	④原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	④原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	⑤外部電源喪失	-	-	⑥主給水流断	-	-	⑦出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-	⑧原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き	-	-	⑨原子炉格納容器中心のほうまの異常な蒸気	-	-	⑩蒸気発生器への冷却水供給	-	-	⑪原子炉格納容器の破損	-	-	⑫原子炉格納容器の破損	-	-	<p>記載方針の相違                      女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
②原子炉格納容器の喪失	②原子炉格納容器の喪失 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	②原子炉格納容器の喪失 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】																																		
③原子炉格納容器の破損	③原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	③原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】																																		
④原子炉格納容器の破損	④原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】	④原子炉格納容器の破損 原因は①の外部を包囲しているが、②が圧力上昇の要因として影響が大きい。【抽出事象：②】																																		
⑤外部電源喪失	-	-																																		
⑥主給水流断	-	-																																		
⑦出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-																																		
⑧原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き	-	-																																		
⑨原子炉格納容器中心のほうまの異常な蒸気	-	-																																		
⑩蒸気発生器への冷却水供給	-	-																																		
⑪原子炉格納容器の破損	-	-																																		
⑫原子炉格納容器の破損	-	-																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
		<p>表 3.6 重畳事象の分析（1次系建屋溢水発生時）(5/5)</p> <table border="1" data-bbox="1283 225 1865 1461"> <tr> <td data-bbox="1283 225 1400 363">⑩原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td data-bbox="1404 225 1686 363">                     ×                      減圧によるDNBR低下の観点では⑩が厳しいが、負荷の喪失による圧力上昇の観点では⑩が厳しい。阿事象はお互いの外相による影響を相殺するため、重畳は考慮しない                      【抽出事象：ー】                 </td> <td data-bbox="1691 225 1865 363"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 365 1400 480">⑨負荷の喪失</td> <td data-bbox="1404 365 1686 480"></td> <td data-bbox="1691 365 1865 480">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 481 1400 596">⑧原子炉冷却材流量の喪失</td> <td data-bbox="1404 481 1686 596">-</td> <td data-bbox="1691 481 1865 596">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 598 1400 713">⑦原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td data-bbox="1404 598 1686 713">-</td> <td data-bbox="1691 598 1865 713">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 715 1400 829">⑥外部電源喪失</td> <td data-bbox="1404 715 1686 829">-</td> <td data-bbox="1691 715 1865 829">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 831 1400 946">⑤主給水流路喪失</td> <td data-bbox="1404 831 1686 946">-</td> <td data-bbox="1691 831 1865 946">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 948 1400 1062">④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1404 948 1686 1062">-</td> <td data-bbox="1691 948 1865 1062">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 1064 1400 1179">③原子炉起動時に おける制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1404 1064 1686 1179">-</td> <td data-bbox="1691 1064 1865 1179">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 1181 1400 1295">②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td data-bbox="1404 1181 1686 1295">-</td> <td data-bbox="1691 1181 1865 1295">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 1297 1400 1442">①蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1404 1297 1686 1442">-</td> <td data-bbox="1691 1297 1865 1442">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 1444 1400 1498">⑨負荷の喪失</td> <td data-bbox="1404 1444 1686 1498"></td> <td data-bbox="1691 1444 1865 1498">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1283 1500 1400 1554"></td> <td data-bbox="1404 1500 1686 1554"></td> <td data-bbox="1691 1500 1865 1554">⑩原子炉冷却材系の異常な減圧</td> </tr> </table> <p data-bbox="1787 1150 1809 1442">○：重畳事象が厳しい X：単独事象が厳しい</p>	⑩原子炉冷却材系の異常な減圧	× 減圧によるDNBR低下の観点では⑩が厳しいが、負荷の喪失による圧力上昇の観点では⑩が厳しい。阿事象はお互いの外相による影響を相殺するため、重畳は考慮しない 【抽出事象：ー】		⑨負荷の喪失		-	⑧原子炉冷却材流量の喪失	-	-	⑦原子炉冷却材流量の部分喪失	-	-	⑥外部電源喪失	-	-	⑤主給水流路喪失	-	-	④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-	③原子炉起動時に おける制御棒の異常な引き抜き	-	-	②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	-	-	①蒸気発生器への過剰給水	-	-	⑨負荷の喪失		-			⑩原子炉冷却材系の異常な減圧	<p>記載方針の相違</p> <p>女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
⑩原子炉冷却材系の異常な減圧	× 減圧によるDNBR低下の観点では⑩が厳しいが、負荷の喪失による圧力上昇の観点では⑩が厳しい。阿事象はお互いの外相による影響を相殺するため、重畳は考慮しない 【抽出事象：ー】																																						
⑨負荷の喪失		-																																					
⑧原子炉冷却材流量の喪失	-	-																																					
⑦原子炉冷却材流量の部分喪失	-	-																																					
⑥外部電源喪失	-	-																																					
⑤主給水流路喪失	-	-																																					
④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-																																					
③原子炉起動時に おける制御棒の異常な引き抜き	-	-																																					
②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	-	-																																					
①蒸気発生器への過剰給水	-	-																																					
⑨負荷の喪失		-																																					
		⑩原子炉冷却材系の異常な減圧																																					





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																								
<p>表 3.7 重畳事象の分析（2次系建屋溢水発生時）(2/4)</p>																																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1288 213 1368 248">①出力運転中の異常な引き抜き</th> <th data-bbox="1373 213 1453 248">②蒸気発生部への運転給水</th> <th data-bbox="1458 213 1538 248">③原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</th> <th data-bbox="1543 213 1624 248">④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</th> <th data-bbox="1628 213 1709 248">⑤主給水流量喪失</th> <th data-bbox="1713 213 1794 248">⑥二次冷却水の異常な漏圧</th> <th data-bbox="1798 213 1879 248">⑦外部電源喪失</th> <th data-bbox="1883 213 1964 248">⑧負荷の喪失</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1288 252 1368 319">③原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1373 252 1453 319">-</td> <td data-bbox="1458 252 1538 319">-</td> <td data-bbox="1543 252 1624 319">-</td> <td data-bbox="1628 252 1709 319">-</td> <td data-bbox="1713 252 1794 319">-</td> <td data-bbox="1798 252 1879 319">-</td> <td data-bbox="1883 252 1964 319">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 322 1368 389">④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1373 322 1453 389">-</td> <td data-bbox="1458 322 1538 389">-</td> <td data-bbox="1543 322 1624 389">-</td> <td data-bbox="1628 322 1709 389">-</td> <td data-bbox="1713 322 1794 389">-</td> <td data-bbox="1798 322 1879 389">-</td> <td data-bbox="1883 322 1964 389">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 392 1368 459">⑤主給水流量喪失</td> <td data-bbox="1373 392 1453 459">-</td> <td data-bbox="1458 392 1538 459">-</td> <td data-bbox="1543 392 1624 459">-</td> <td data-bbox="1628 392 1709 459">-</td> <td data-bbox="1713 392 1794 459">-</td> <td data-bbox="1798 392 1879 459">-</td> <td data-bbox="1883 392 1964 459">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 462 1368 529">⑥二次冷却水の異常な漏圧</td> <td data-bbox="1373 462 1453 529">-</td> <td data-bbox="1458 462 1538 529">-</td> <td data-bbox="1543 462 1624 529">-</td> <td data-bbox="1628 462 1709 529">-</td> <td data-bbox="1713 462 1794 529">-</td> <td data-bbox="1798 462 1879 529">-</td> <td data-bbox="1883 462 1964 529">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 533 1368 600">⑦外部電源喪失</td> <td data-bbox="1373 533 1453 600">-</td> <td data-bbox="1458 533 1538 600">-</td> <td data-bbox="1543 533 1624 600">-</td> <td data-bbox="1628 533 1709 600">-</td> <td data-bbox="1713 533 1794 600">-</td> <td data-bbox="1798 533 1879 600">-</td> <td data-bbox="1883 533 1964 600">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1288 603 1368 670">⑧負荷の喪失</td> <td data-bbox="1373 603 1453 670">-</td> <td data-bbox="1458 603 1538 670">-</td> <td data-bbox="1543 603 1624 670">-</td> <td data-bbox="1628 603 1709 670">-</td> <td data-bbox="1713 603 1794 670">-</td> <td data-bbox="1798 603 1879 670">-</td> <td data-bbox="1883 603 1964 670">-</td> </tr> </tbody> </table>	①出力運転中の異常な引き抜き	②蒸気発生部への運転給水	③原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	⑤主給水流量喪失	⑥二次冷却水の異常な漏圧	⑦外部電源喪失	⑧負荷の喪失	③原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	-	-	-	-	-	-	-	④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-	-	-	-	-	-	⑤主給水流量喪失	-	-	-	-	-	-	-	⑥二次冷却水の異常な漏圧	-	-	-	-	-	-	-	⑦外部電源喪失	-	-	-	-	-	-	-	⑧負荷の喪失	-	-	-	-	-	-	-	<p>記載方針の相違                  女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
①出力運転中の異常な引き抜き	②蒸気発生部への運転給水	③原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	⑤主給水流量喪失	⑥二次冷却水の異常な漏圧	⑦外部電源喪失	⑧負荷の喪失																																																				
③原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	-	-	-	-	-	-	-																																																				
④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-	-	-	-	-	-																																																				
⑤主給水流量喪失	-	-	-	-	-	-	-																																																				
⑥二次冷却水の異常な漏圧	-	-	-	-	-	-	-																																																				
⑦外部電源喪失	-	-	-	-	-	-	-																																																				
⑧負荷の喪失	-	-	-	-	-	-	-																																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																												
		<p>表 3.7 重畳事象の分析（2次系建屋溢水発生時）(3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①停止時を想定としており、設定されるべき内容が、小容量は異なるが、相違はない。【抽出事象：①】</th> <th>②は①の外形を包み込んでおり、ブランチ運動として影響が大きい。【抽出事象：②】</th> <th>③は①の外形を包み込んでおり、ブランチ運動として影響が大きい。【抽出事象：③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①立込水位が異常な高水位</td> <td>X</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②立込水位の異常な増加</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③立込水位の異常な減少</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑪立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑬立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑭立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑮立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑯立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑰立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑱立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑲立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑳立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉑立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉒立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉓立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉔立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉕立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉖立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉗立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉘立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉙立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉚立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉛立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉜立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉝立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉞立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㉟立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊱立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊲立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊳立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊴立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊵立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊶立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊷立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊸立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊹立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊺立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊻立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊼立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊽立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊾立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>㊿立込水位の異常な変動</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		①停止時を想定としており、設定されるべき内容が、小容量は異なるが、相違はない。【抽出事象：①】	②は①の外形を包み込んでおり、ブランチ運動として影響が大きい。【抽出事象：②】	③は①の外形を包み込んでおり、ブランチ運動として影響が大きい。【抽出事象：③】	①立込水位が異常な高水位	X			②立込水位の異常な増加				③立込水位の異常な減少				④立込水位の異常な変動				⑤立込水位の異常な変動				⑥立込水位の異常な変動				⑦立込水位の異常な変動				⑧立込水位の異常な変動				⑨立込水位の異常な変動				⑩立込水位の異常な変動				⑪立込水位の異常な変動				⑫立込水位の異常な変動				⑬立込水位の異常な変動				⑭立込水位の異常な変動				⑮立込水位の異常な変動				⑯立込水位の異常な変動				⑰立込水位の異常な変動				⑱立込水位の異常な変動				⑲立込水位の異常な変動				⑳立込水位の異常な変動				㉑立込水位の異常な変動				㉒立込水位の異常な変動				㉓立込水位の異常な変動				㉔立込水位の異常な変動				㉕立込水位の異常な変動				㉖立込水位の異常な変動				㉗立込水位の異常な変動				㉘立込水位の異常な変動				㉙立込水位の異常な変動				㉚立込水位の異常な変動				㉛立込水位の異常な変動				㉜立込水位の異常な変動				㉝立込水位の異常な変動				㉞立込水位の異常な変動				㉟立込水位の異常な変動				㊱立込水位の異常な変動				㊲立込水位の異常な変動				㊳立込水位の異常な変動				㊴立込水位の異常な変動				㊵立込水位の異常な変動				㊶立込水位の異常な変動				㊷立込水位の異常な変動				㊸立込水位の異常な変動				㊹立込水位の異常な変動				㊺立込水位の異常な変動				㊻立込水位の異常な変動				㊼立込水位の異常な変動				㊽立込水位の異常な変動				㊾立込水位の異常な変動				㊿立込水位の異常な変動				<p>記載方針の相違                  女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
	①停止時を想定としており、設定されるべき内容が、小容量は異なるが、相違はない。【抽出事象：①】	②は①の外形を包み込んでおり、ブランチ運動として影響が大きい。【抽出事象：②】	③は①の外形を包み込んでおり、ブランチ運動として影響が大きい。【抽出事象：③】																																																																																																																																																																																																												
①立込水位が異常な高水位	X																																																																																																																																																																																																														
②立込水位の異常な増加																																																																																																																																																																																																															
③立込水位の異常な減少																																																																																																																																																																																																															
④立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑤立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑥立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑦立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑧立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑨立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑩立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑪立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑫立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑬立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑭立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑮立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑯立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑰立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑱立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑲立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
⑳立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉑立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉒立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉓立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉔立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉕立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉖立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉗立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉘立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉙立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉚立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉛立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉜立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉝立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉞立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㉟立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊱立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊲立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊳立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊴立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊵立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊶立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊷立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊸立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊹立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊺立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊻立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊼立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊽立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊾立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															
㊿立込水位の異常な変動																																																																																																																																																																																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料3）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
		<p>表 3.7 重畳事象の分析（2次系建屋溢水発生時）(4/4)</p> <table border="1" data-bbox="1332 220 1720 1471"> <tr> <td data-bbox="1458 1358 1543 1458">⑤負荷の喪失</td> <td data-bbox="1543 1358 1653 1458">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 1214 1543 1353">⑦外部電源喪失</td> <td data-bbox="1543 1214 1653 1353">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 1070 1543 1209">⑥主給水流量喪失</td> <td data-bbox="1543 1070 1653 1209">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 927 1543 1066">⑤2次冷却系の異常な減圧</td> <td data-bbox="1543 927 1653 1066">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 783 1543 922">④出力運転中の制御体の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1543 783 1653 922">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 639 1543 778">⑤原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1543 639 1653 778">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 496 1543 635">②蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1543 496 1653 635">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 352 1543 491">①蒸気負荷の異常な増加</td> <td data-bbox="1543 352 1653 491">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 209 1543 347">⑤負荷の喪失</td> <td data-bbox="1543 209 1653 347">○</td> </tr> </table> <p>○：重畳事象が厳しい ×：単独事象が厳しい</p>	⑤負荷の喪失	○	⑦外部電源喪失	-	⑥主給水流量喪失	-	⑤2次冷却系の異常な減圧	-	④出力運転中の制御体の異常な引き抜き	-	⑤原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き	-	②蒸気発生器への過剰給水	-	①蒸気負荷の異常な増加	-	⑤負荷の喪失	○	<p>記載方針の相違                      女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
⑤負荷の喪失	○																				
⑦外部電源喪失	-																				
⑥主給水流量喪失	-																				
⑤2次冷却系の異常な減圧	-																				
④出力運転中の制御体の異常な引き抜き	-																				
⑤原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き	-																				
②蒸気発生器への過剰給水	-																				
①蒸気負荷の異常な増加	-																				
⑤負荷の喪失	○																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																					
		<p>表 3.8 重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組み合わせ（1次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>組み合わせを考慮する事象</th> <th>圧力</th> <th>DNBR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>—</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>—※1</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>◎</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：反応度添加率の観点で「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される                      ◎：評価パラメータの観点で最も厳しい事象                      ○：重畳を考慮した場合に評価パラメータを厳しくする事象                      —：重畳を考慮しない事象</p>	組み合わせを考慮する事象	圧力	DNBR	蒸気発生器への過剰給水	—	—※1	原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	—※1	—※1	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎	主給水流量喪失	○	○	負荷の喪失	◎	—	原子炉冷却材系の異常な減圧	—	○	<p>設計方針の相違</p> <p>女川では3つ以上の事象の重畳がなかったが、泊では3つ以上の事象の重畳があったため、評価パラメータの観点で最も厳しい事象を選定し、その結果を示した。</p>
組み合わせを考慮する事象	圧力	DNBR																						
蒸気発生器への過剰給水	—	—※1																						
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	—※1	—※1																						
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎																						
主給水流量喪失	○	○																						
負荷の喪失	◎	—																						
原子炉冷却材系の異常な減圧	—	○																						
		<p>表 3.9 重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組み合わせ（2次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>組み合わせを考慮する事象</th> <th>圧力</th> <th>DNBR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>—</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>—</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>◎</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：反応度添加率の観点で「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される                      ◎：評価パラメータの観点で最も厳しい事象                      ○：重畳を考慮した場合に評価パラメータを厳しくする事象                      —：重畳を考慮しない事象</p>	組み合わせを考慮する事象	圧力	DNBR	蒸気負荷の異常な増加	—	—※1	蒸気発生器への過剰給水	—	—※1	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎	主給水流量喪失	○	○	負荷の喪失	◎	—				
組み合わせを考慮する事象	圧力	DNBR																						
蒸気負荷の異常な増加	—	—※1																						
蒸気発生器への過剰給水	—	—※1																						
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎																						
主給水流量喪失	○	○																						
負荷の喪失	◎	—																						
		<p>表 3.10 抽出された重畳事象（1次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>評価項目</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース：1次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 負荷の喪失</td> <td>圧力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケース：1次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>DNBR</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	重畳事象	評価項目	備考	ケース：1次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 負荷の喪失	圧力		ケース：1次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 原子炉冷却材系の異常な減圧	DNBR		<p>設計方針の相違</p> <p>泊では重畳事象に対し評価項目の選定を行い、更に1次系建屋と2次系建屋のそれぞれで溢水発生時した場合の条件や包絡性に対して、その結果を示した。</p>												
重畳事象	評価項目	備考																						
ケース：1次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 負荷の喪失	圧力																							
ケース：1次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 原子炉冷却材系の異常な減圧	DNBR																							
		<p>表 3.11 抽出された重畳事象（2次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>評価項目</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース：2次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 負荷の喪失 主給水流量喪失</td> <td>圧力</td> <td>1次系建屋-Iと同一条件となる。</td> </tr> <tr> <td>ケース：2次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失</td> <td>DNBR</td> <td>1次系の減圧によるDNBR悪化の観点で1次系建屋-IIに包絡される（1次系建屋-IIのケースで代表する）。</td> </tr> </tbody> </table>	重畳事象	評価項目	備考	ケース：2次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 負荷の喪失 主給水流量喪失	圧力	1次系建屋-Iと同一条件となる。	ケース：2次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失	DNBR	1次系の減圧によるDNBR悪化の観点で1次系建屋-IIに包絡される（1次系建屋-IIのケースで代表する）。													
重畳事象	評価項目	備考																						
ケース：2次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 負荷の喪失 主給水流量喪失	圧力	1次系建屋-Iと同一条件となる。																						
ケース：2次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失	DNBR	1次系の減圧によるDNBR悪化の観点で1次系建屋-IIに包絡される（1次系建屋-IIのケースで代表する）。																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 内部溢水発生時に期待できる緩和系の整理【ステップ6】</p> <p>4.1 内部溢水による緩和設備に対する機能維持状態</p> <p>内部溢水の影響軽減対策として、原子炉の安全停止を達成し、維持するために必要な系統は、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じており、安全停止パスが確保可能であることについては、別添資料1 補足説明資料14「内部溢水影響評価における判定表」において詳細を説明している。</p> <p>その上で、除熱機能の2区分のうち、1区分は機能を維持するよう対策を実施しているものの、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に除熱機能（残留熱除去系停止時冷却モード）が喪失した場合、さらに、単一故障を想定すると、除熱機能が喪失する可能性がある。</p> <p>このため、残留熱除去系の制御系から実際の機器配置場所までを以下の区画及び建屋を対象に調査することで「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に除熱機能が同時に喪失する状況にあるかについて網羅的に確認した。</p> <p>①中央制御室</p> <p>②電気品室</p> <p>③ケーブル処理室</p> <p>④建屋内（原子炉建屋/タービン建屋）溢水</p> <p>①中央制御室</p> <p>中央制御室については、中央制御室内に溢水源となりうる系統がなく、また、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水がないため、緩和設備である除熱機能の喪失は発生しない。</p> <p>別添資料1 補足説明資料1「防護区画内の溢水源となりうる系統」において、溢水源となりうる系統がないこと、また、別添資料1 添付資料18, 20, 22, 26, 28において、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水がないことを確認している。</p> <p>②電気品室</p> <p>電気品室については、電気品室内に溢水源となりうる系統はないが、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性がある。しかしながら、想定される浸水により、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」は発生しないため、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に緩和設備である除熱機能が喪失することはない。</p> <p>別添資料1 補足説明資料1「防護区画内の溢水源となりうる系統」において、溢水源となりうる系統がないこと、また、別添資料</p>	<p>4. 内部溢水発生時に期待できる緩和系の整理【ステップ6】</p>	<p><u>設計方針の相違</u></p> <p>女川では、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じているが、除熱機能が喪失する可能性があるため、網羅的に確認する方針としている。泊では「原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する防護対象設備は、（多重性又は多様性を有していても）溢水により機能を喪失させない」方針としているため、網羅的に確認する必要はない。</p> <p>（9-別添1-補3-48まで相違理由は同じ）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>料1 添付資料 18, 20, 22, 26, 28 において、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性があることを確認している。</p> <p>表 4.1.1 に溢水により発生の可能性のある事象を抽出し、事象発生の原因となりうる設備及びその設置場所（溢水防護区画）を整理し、溢水防護区画及び溢水の流下経路における「残留熱除去系関連機器」の設置有無を確認することで、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に残留熱除去系の機能喪失が発生することがなく、加えて、残留熱除去系に単一故障を想定した場合においても、低温停止が可能であることを確認した。</p> <p>事象発生の原因となりうる設備と「残留熱除去系関連機器」が同一区画又は溢水の流下経路に存在するが、個別に発生する事象の詳細確認を行い、スクラムしない事象であること、溢水を起因とした「原子炉冷却材流量の部分喪失」は発生しないことを確認しており、低温停止に対して影響はない。</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
表 4.1.1 「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係			
場所 R-BIF-6	発生の可能性 がある事案 原子炉冷却材 流量の部分喪 失	場所① R-BIF-11 R-BIF-6 R-2IF-6	RBRの同時 機能喪失は ○
	事業発生の起因 となりうる装置 原子炉再循環ポン プ(A)吐出弁 原子炉再循環ポン プ(A)吸込弁	関係 関連機器 原子炉再循環冷却水ポンプ(A)(C) R/W 船型熱源(A)(C)冷却水出口弁 R/W 常月冷却水供給側分岐弁(A) R/W A主 冷却水供給能力 R/W 冷却水供給側熱交換器(A)側調整弁 R/W 冷却水供給側調整ポンプ(A)側調整弁 R/W A主 冷却水供給温度 R/W ストレージ(A)(C)ブロー弁 400V RB MCC 2S-1 6.9kV P/C 4-2C 非常用 D/G(A)冷却水出口弁(A)(C) R/W 冷却機(A)(C)冷却水圧力調整弁 原子炉再循環冷却水ポンプ(B)(D) R/W 船型熱源(B)(D)冷却水出口弁 R/W B主 冷却水供給能力 R/W 冷却水供給側熱交換器(B)側調整弁 R/W 冷却水供給側調整ポンプ(B)側調整弁 R/W B主 冷却水供給温度 R/W ストレージ(B)(D)ブロー弁 非常用 D/G(B)冷却水出口弁(B)(D) 400V RB MCC 2D-1 400V P/C 4-2D 6.9kV P/C 4-2D	備考 ・本過渡事象はスク ラムしない事象であ る。加えて MCC 2C-4 が溢水影響を受けた 電源を喪失した場合 においては、弁の状 態は維持されるた め、原子炉冷却材流 量の部分喪失は発生 しない ・本過渡事象はスク ラムしない事象であ る。加えて MCC 2D-4 が溢水影響を受けた 電源を喪失した場合 においては、弁の状 態は維持されるた め、原子炉冷却材流 量の部分喪失は発生 しない
③ケーブル処理室 電気品室については、電気品室内に溢水源となりうる系統はないが、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性がある。しかしながら、ケーブル処理室には、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生の起因となる設備及び動力ケーブルが配置されていないため、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」は発生しない。	※1 溢水の成下経路を含め配置確認 ※2 ○：機能喪失無、×：機能喪失有		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>別添資料1 補足説明資料1「防護区画内の溢水源となりうる系統」において、溢水源となりうる系統がないこと、また、別添資料1 添付資料18, 20, 22, 26, 28において、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性があることを確認している。</p> <p>④建屋内（原子炉建屋/タービン建屋）溢水</p> <p>建屋内（原子炉建屋/タービン建屋）の各区画については、溢水源となる系統があり、また、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性があるため、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に緩和設備である除熱機能が喪失することがないか確認する。</p> <p>表 4.1.2 に残留熱除去系による原子炉低温停止の可否を確認する観点から、残留熱除去系の機能のうち、停止時冷却モードに必要な主要なフロント系及びサポート系機器を抽出した。</p> <p>表 4.1.3 に溢水により発生の可能性がある事象を抽出し、事象発生の起因となりうる設備及びその設置場所（溢水防護区画）を整理し、溢水防護区画及び溢水の流下経路における「残留熱除去系関連機器」の設置有無を確認することで、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に残留熱除去系の機能喪失が発生することがなく、加えて、残留熱除去系に単一故障を想定した場合においても、低温停止が可能であることを確認した。</p> <p>事象発生の起因となりうる設備と「残留熱除去系関連機器」が同一区画又は溢水の流下経路に存在する場合もあるが、個別に発生する事象の詳細確認を行い、スクラムしない事象であること、原子炉格納容器内で発生する溢水としては原子炉冷却材喪失事故が考えられるが、溢水を起因とした原子炉冷却材喪失事故は想定されないこと等を確認しており、低温停止に対して影響はない。</p> <p>図 4.1.1～図 4.1.10 において、溢水防護区画の設定の状況を示す。</p> <p>以上より、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に残留熱除去系が機能喪失する事象がないことを確認した。この結果より、主要建屋における溢水において、単一故障を想定した場合においても残留熱除去系停止時冷却モードにより、原子炉の低温停止が可能であることを確認した。</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																										
	<p style="text-align: center;">表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(1/4)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">系統</th> <th style="width: 50%;">機器</th> <th style="width: 20%;">設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td rowspan="20">フロント系</td><td>RHR A系 S/C スプレイ隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系 S/C スプレイ隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系試験用調整弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系試験用調整弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系停止時冷却注入隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系停止時冷却注入隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)ミニマムフロー弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)ミニマムフロー弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系 RW 連絡第一弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系 RW 連絡第一弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系系統暖機弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系系統暖機弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ(B)</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)S/C 吸込弁</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)停止時冷却吸込弁</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ(A)</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)S/C 吸込弁</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)停止時冷却吸込弁</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)出口流量</td><td>R-B2F-1</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)出口流量</td><td>R-B2F-1</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系 LPCI 注入隔離弁</td><td>R-MB1F-1</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※別添資料1 添付7に記載の区画番号</p>		系統	機器	設置場所*		フロント系	RHR A系 S/C スプレイ隔離弁	R-B3F-10		RHR B系 S/C スプレイ隔離弁	R-B3F-10		RHR A系試験用調整弁	R-B3F-10		RHR B系試験用調整弁	R-B3F-10		RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10		RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10		RHR A系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10		RHR B系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10		RHR ポンプ(A)ミニマムフロー弁	R-B3F-10		RHR ポンプ(B)ミニマムフロー弁	R-B3F-10		RHR A系 RW 連絡第一弁	R-B3F-10		RHR B系 RW 連絡第一弁	R-B3F-10		RHR A系系統暖機弁	R-B3F-10		RHR B系系統暖機弁	R-B3F-10		残留熱除去系ポンプ(B)	R-B3F-6		RHR ポンプ(B)S/C 吸込弁	R-B3F-6		RHR ポンプ(B)停止時冷却吸込弁	R-B3F-6		残留熱除去系ポンプ(A)	R-B3F-3		RHR ポンプ(A)S/C 吸込弁	R-B3F-3		RHR ポンプ(A)停止時冷却吸込弁	R-B3F-3		RHR ポンプ(A)出口流量	R-B2F-1		RHR ポンプ(B)出口流量	R-B2F-1		RHR A系 LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-1		
	系統	機器	設置場所*																																																																										
	フロント系	RHR A系 S/C スプレイ隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系 S/C スプレイ隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系試験用調整弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系試験用調整弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR ポンプ(A)ミニマムフロー弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR ポンプ(B)ミニマムフロー弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系 RW 連絡第一弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系 RW 連絡第一弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系系統暖機弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系系統暖機弁	R-B3F-10																																																																										
		残留熱除去系ポンプ(B)	R-B3F-6																																																																										
		RHR ポンプ(B)S/C 吸込弁	R-B3F-6																																																																										
		RHR ポンプ(B)停止時冷却吸込弁	R-B3F-6																																																																										
		残留熱除去系ポンプ(A)	R-B3F-3																																																																										
		RHR ポンプ(A)S/C 吸込弁	R-B3F-3																																																																										
		RHR ポンプ(A)停止時冷却吸込弁	R-B3F-3																																																																										
	RHR ポンプ(A)出口流量	R-B2F-1																																																																											
	RHR ポンプ(B)出口流量	R-B2F-1																																																																											
	RHR A系 LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-1																																																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																													
	表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(2/4)																																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器</th> <th>設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="14">フロント系</td><td>RHR B系 LPCI 注入隔離弁</td><td>R-MB1F-3</td></tr> <tr><td>RHR A系格納容器スプレイ流量調整弁</td><td>R-1F-9</td></tr> <tr><td>RHR B系格納容器スプレイ流量調整弁</td><td>R-M2F-6</td></tr> <tr><td>RHR ヘッドスプレイ注入隔離弁</td><td>R-1F-9</td></tr> <tr><td>RHR 熱交換器(A)バイパス弁</td><td>R-1F-1</td></tr> <tr><td>RHR 熱交換器(B)バイパス弁</td><td>R-1F-11</td></tr> <tr><td>RHR 熱交換器(A)出口弁</td><td>R-1F-1</td></tr> <tr><td>RHR 熱交換器(B)出口弁</td><td>R-1F-11</td></tr> <tr><td>RHR A系試料採取第一弁</td><td>R-1F-1</td></tr> <tr><td>RHR B系試料採取第一弁</td><td>R-1F-11</td></tr> <tr><td>事故後 RHR サンプリング第一弁</td><td>R-1F-1</td></tr> <tr><td>RHR A系停止時冷却噴込第一隔離弁</td><td>PCV 内</td></tr> <tr><td>RHR B系停止時冷却噴込第一隔離弁</td><td>PCV 内</td></tr> <tr><td rowspan="14">サポート系</td><td>原子炉補機冷却水ポンプ(A)</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却水ポンプ(C)</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RCW 熱交換器(A)冷却水出口弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RCW 熱交換器(C)冷却水出口弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RCW 常用冷却水供給側分継弁(A)</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RCW A系 冷却水供給圧力</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RCW A系 冷却水供給温度</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>非常用 D/G(A)冷却水出口弁(A)</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>非常用 D/G(A)冷却水出口弁(C)</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>RHR 熱交換器(A)冷却水出口弁</td><td>R-1F-1</td></tr> <tr><td>HECW 冷凍機(A)冷却水圧力調節弁</td><td>R-2F-5</td></tr> <tr><td>HECW 冷凍機(C)冷却水圧力調節弁</td><td>R-2F-5</td></tr> <tr><td>RCW サージタンク(A)水位</td><td>R-3F-1</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器	設置場所*	フロント系	RHR B系 LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-3	RHR A系格納容器スプレイ流量調整弁	R-1F-9	RHR B系格納容器スプレイ流量調整弁	R-M2F-6	RHR ヘッドスプレイ注入隔離弁	R-1F-9	RHR 熱交換器(A)バイパス弁	R-1F-1	RHR 熱交換器(B)バイパス弁	R-1F-11	RHR 熱交換器(A)出口弁	R-1F-1	RHR 熱交換器(B)出口弁	R-1F-11	RHR A系試料採取第一弁	R-1F-1	RHR B系試料採取第一弁	R-1F-11	事故後 RHR サンプリング第一弁	R-1F-1	RHR A系停止時冷却噴込第一隔離弁	PCV 内	RHR B系停止時冷却噴込第一隔離弁	PCV 内	サポート系	原子炉補機冷却水ポンプ(A)	R-B3F-11	原子炉補機冷却水ポンプ(C)	R-B3F-11	RCW 熱交換器(A)冷却水出口弁	R-B3F-11	RCW 熱交換器(C)冷却水出口弁	R-B3F-11	RCW 常用冷却水供給側分継弁(A)	R-B3F-11	RCW A系 冷却水供給圧力	R-B3F-11	RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁	R-B3F-11	RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁	R-B3F-11	RCW A系 冷却水供給温度	R-B3F-11	非常用 D/G(A)冷却水出口弁(A)	R-B1F-6	非常用 D/G(A)冷却水出口弁(C)	R-B1F-6	RHR 熱交換器(A)冷却水出口弁	R-1F-1	HECW 冷凍機(A)冷却水圧力調節弁	R-2F-5	HECW 冷凍機(C)冷却水圧力調節弁	R-2F-5	RCW サージタンク(A)水位	R-3F-1		
系統	機器	設置場所*																																																														
フロント系	RHR B系 LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-3																																																														
	RHR A系格納容器スプレイ流量調整弁	R-1F-9																																																														
	RHR B系格納容器スプレイ流量調整弁	R-M2F-6																																																														
	RHR ヘッドスプレイ注入隔離弁	R-1F-9																																																														
	RHR 熱交換器(A)バイパス弁	R-1F-1																																																														
	RHR 熱交換器(B)バイパス弁	R-1F-11																																																														
	RHR 熱交換器(A)出口弁	R-1F-1																																																														
	RHR 熱交換器(B)出口弁	R-1F-11																																																														
	RHR A系試料採取第一弁	R-1F-1																																																														
	RHR B系試料採取第一弁	R-1F-11																																																														
	事故後 RHR サンプリング第一弁	R-1F-1																																																														
	RHR A系停止時冷却噴込第一隔離弁	PCV 内																																																														
	RHR B系停止時冷却噴込第一隔離弁	PCV 内																																																														
	サポート系	原子炉補機冷却水ポンプ(A)	R-B3F-11																																																													
原子炉補機冷却水ポンプ(C)		R-B3F-11																																																														
RCW 熱交換器(A)冷却水出口弁		R-B3F-11																																																														
RCW 熱交換器(C)冷却水出口弁		R-B3F-11																																																														
RCW 常用冷却水供給側分継弁(A)		R-B3F-11																																																														
RCW A系 冷却水供給圧力		R-B3F-11																																																														
RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁		R-B3F-11																																																														
RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁		R-B3F-11																																																														
RCW A系 冷却水供給温度		R-B3F-11																																																														
非常用 D/G(A)冷却水出口弁(A)		R-B1F-6																																																														
非常用 D/G(A)冷却水出口弁(C)		R-B1F-6																																																														
RHR 熱交換器(A)冷却水出口弁		R-1F-1																																																														
HECW 冷凍機(A)冷却水圧力調節弁		R-2F-5																																																														
HECW 冷凍機(C)冷却水圧力調節弁		R-2F-5																																																														
RCW サージタンク(A)水位	R-3F-1																																																															
	※別添資料1 添付7に記載の区画番号																																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																															
	表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(3/4)																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器</th> <th>設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="14">RCW</td><td>原子炉補機冷却水ポンプ(B)</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却水ポンプ(D)</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 熱交換器(B)冷却水出口弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 熱交換器(D)冷却水出口弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 常用冷却水供給側分離弁(B)</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW B系 冷却水供給圧力</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW B系 冷却水供給温度</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>非常用 D(G)(B)冷却水出口弁(B)</td><td>R-B1F-11</td></tr> <tr><td>非常用 D(G)(B)冷却水出口弁(D)</td><td>R-B1F-11</td></tr> <tr><td>RHR 熱交換器(B)冷却水出口弁</td><td>R-1F-11</td></tr> <tr><td>HECW 冷凍機(B)冷却水圧力調節弁</td><td>R-2F-4</td></tr> <tr><td>HECW 冷凍機(D)冷却水圧力調節弁</td><td>R-2F-4</td></tr> <tr><td>RCW サージタンク(B)水位</td><td>R-3F-1</td></tr> <tr><td rowspan="10">サポート系</td><td>RSW ストレーナ(A)ブロー弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RSW ストレーナ(B)ブロー弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RSW ストレーナ(C)ブロー弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RSW ストレーナ(D)ブロー弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(A)</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(B)</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(C)</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(D)</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(A)吐出弁</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(B)吐出弁</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(C)吐出弁</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(D)吐出弁</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ吐出連絡管(A)止め弁</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ吐出連絡管(B)止め弁</td><td>SW-1F-5</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※別添資料1 添付7に記載の区画番号</p>	系統	機器	設置場所*	RCW	原子炉補機冷却水ポンプ(B)	R-B3F-14	原子炉補機冷却水ポンプ(D)	R-B3F-14	RCW 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-B3F-14	RCW 熱交換器(D)冷却水出口弁	R-B3F-14	RCW 常用冷却水供給側分離弁(B)	R-B3F-14	RCW B系 冷却水供給圧力	R-B3F-14	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	R-B3F-14	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	R-B3F-14	RCW B系 冷却水供給温度	R-B3F-14	非常用 D(G)(B)冷却水出口弁(B)	R-B1F-11	非常用 D(G)(B)冷却水出口弁(D)	R-B1F-11	RHR 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-1F-11	HECW 冷凍機(B)冷却水圧力調節弁	R-2F-4	HECW 冷凍機(D)冷却水圧力調節弁	R-2F-4	RCW サージタンク(B)水位	R-3F-1	サポート系	RSW ストレーナ(A)ブロー弁	R-B3F-11	RSW ストレーナ(B)ブロー弁	R-B3F-14	RSW ストレーナ(C)ブロー弁	R-B3F-11	RSW ストレーナ(D)ブロー弁	R-B3F-14	原子炉補機冷却海水ポンプ(A)	SW-1F-2	原子炉補機冷却海水ポンプ(B)	SW-1F-5	原子炉補機冷却海水ポンプ(C)	SW-1F-2	原子炉補機冷却海水ポンプ(D)	SW-1F-5	RSW ポンプ(A)吐出弁	SW-1F-2	RSW ポンプ(B)吐出弁	SW-1F-5	RSW ポンプ(C)吐出弁	SW-1F-2	RSW ポンプ(D)吐出弁	SW-1F-5	RSW ポンプ吐出連絡管(A)止め弁	SW-1F-2	RSW ポンプ吐出連絡管(B)止め弁	SW-1F-5		
系統	機器	設置場所*																																																																
RCW	原子炉補機冷却水ポンプ(B)	R-B3F-14																																																																
	原子炉補機冷却水ポンプ(D)	R-B3F-14																																																																
	RCW 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-B3F-14																																																																
	RCW 熱交換器(D)冷却水出口弁	R-B3F-14																																																																
	RCW 常用冷却水供給側分離弁(B)	R-B3F-14																																																																
	RCW B系 冷却水供給圧力	R-B3F-14																																																																
	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	R-B3F-14																																																																
	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	R-B3F-14																																																																
	RCW B系 冷却水供給温度	R-B3F-14																																																																
	非常用 D(G)(B)冷却水出口弁(B)	R-B1F-11																																																																
	非常用 D(G)(B)冷却水出口弁(D)	R-B1F-11																																																																
	RHR 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-1F-11																																																																
	HECW 冷凍機(B)冷却水圧力調節弁	R-2F-4																																																																
	HECW 冷凍機(D)冷却水圧力調節弁	R-2F-4																																																																
RCW サージタンク(B)水位	R-3F-1																																																																	
サポート系	RSW ストレーナ(A)ブロー弁	R-B3F-11																																																																
	RSW ストレーナ(B)ブロー弁	R-B3F-14																																																																
	RSW ストレーナ(C)ブロー弁	R-B3F-11																																																																
	RSW ストレーナ(D)ブロー弁	R-B3F-14																																																																
	原子炉補機冷却海水ポンプ(A)	SW-1F-2																																																																
	原子炉補機冷却海水ポンプ(B)	SW-1F-5																																																																
	原子炉補機冷却海水ポンプ(C)	SW-1F-2																																																																
	原子炉補機冷却海水ポンプ(D)	SW-1F-5																																																																
	RSW ポンプ(A)吐出弁	SW-1F-2																																																																
	RSW ポンプ(B)吐出弁	SW-1F-5																																																																
RSW ポンプ(C)吐出弁	SW-1F-2																																																																	
RSW ポンプ(D)吐出弁	SW-1F-5																																																																	
RSW ポンプ吐出連絡管(A)止め弁	SW-1F-2																																																																	
RSW ポンプ吐出連絡管(B)止め弁	SW-1F-5																																																																	
	表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(4/4)																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器</th> <th>設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="2">HVAC</td><td>RHR ポンプ(A)室空調機</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td>RHR ポンプ(B)室空調機</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td rowspan="9">サポート系</td><td>460V R/B MCC 2C-1</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>460V R/B MCC 2D-1</td><td>R-B1F-12</td></tr> <tr><td>460V P/C 4-2C</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>460V P/C 4-2D</td><td>R-B1F-10</td></tr> <tr><td>6.9kV メタクラ 6-2C</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>6.9kV メタクラ 6-2D</td><td>R-B1F-10</td></tr> <tr><td>125V 直流分電盤 2A-1</td><td>C-B1F-3</td></tr> <tr><td>125V 直流分電盤 2B-1</td><td>C-B1F-5</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※別添資料1 添付7に記載の区画番号</p>	系統	機器	設置場所*	HVAC	RHR ポンプ(A)室空調機	R-B3F-3	RHR ポンプ(B)室空調機	R-B3F-6	サポート系	460V R/B MCC 2C-1	R-B1F-6	460V R/B MCC 2D-1	R-B1F-12	460V P/C 4-2C	R-B1F-6	460V P/C 4-2D	R-B1F-10	6.9kV メタクラ 6-2C	R-B1F-6	6.9kV メタクラ 6-2D	R-B1F-10	125V 直流分電盤 2A-1	C-B1F-3	125V 直流分電盤 2B-1	C-B1F-5																																								
系統	機器	設置場所*																																																																
HVAC	RHR ポンプ(A)室空調機	R-B3F-3																																																																
	RHR ポンプ(B)室空調機	R-B3F-6																																																																
サポート系	460V R/B MCC 2C-1	R-B1F-6																																																																
	460V R/B MCC 2D-1	R-B1F-12																																																																
	460V P/C 4-2C	R-B1F-6																																																																
	460V P/C 4-2D	R-B1F-10																																																																
	6.9kV メタクラ 6-2C	R-B1F-6																																																																
	6.9kV メタクラ 6-2D	R-B1F-10																																																																
	125V 直流分電盤 2A-1	C-B1F-3																																																																
	125V 直流分電盤 2B-1	C-B1F-5																																																																







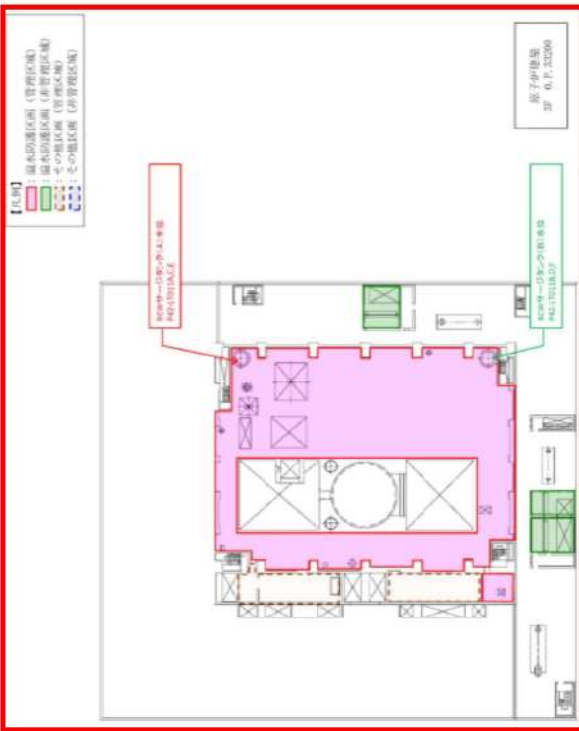




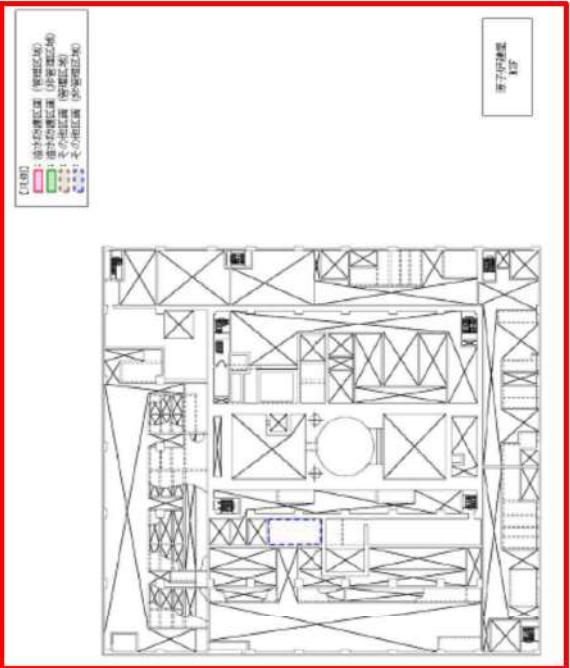




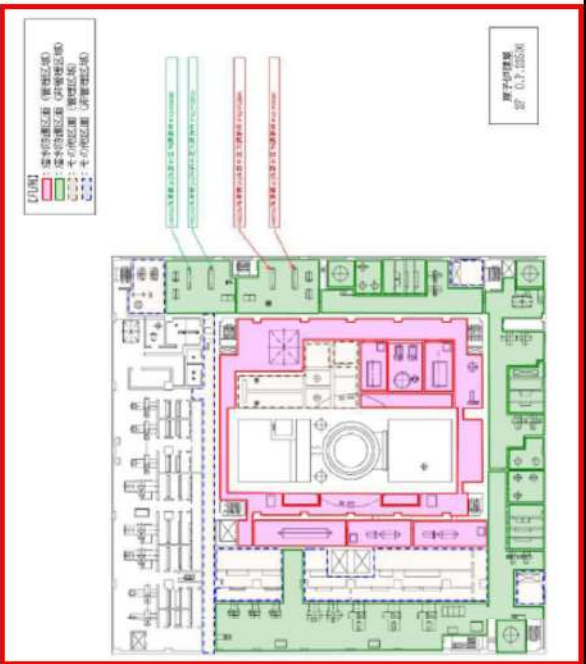
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="750 927 1211 954">図 4.1.1 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その1）</p>		

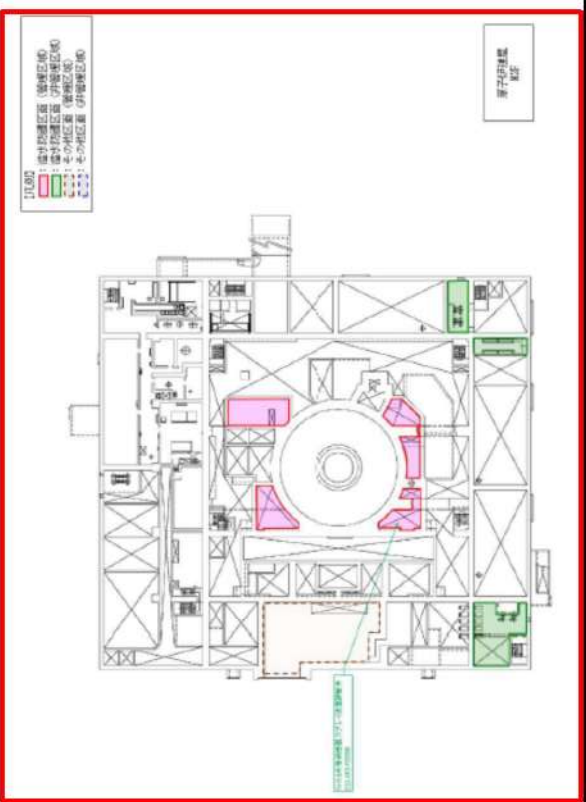
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図 4.1.2 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その2）</p>		

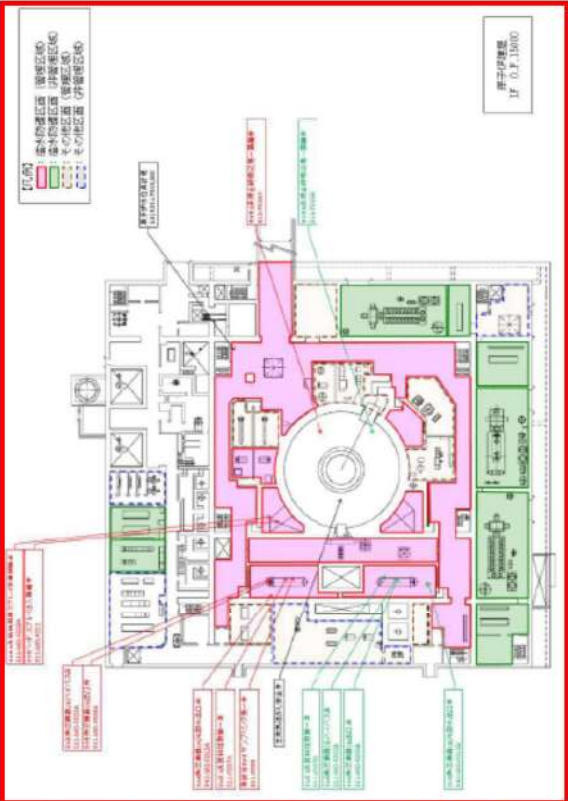
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="750 858 1209 885">図 4.1.3 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その3）</p>		

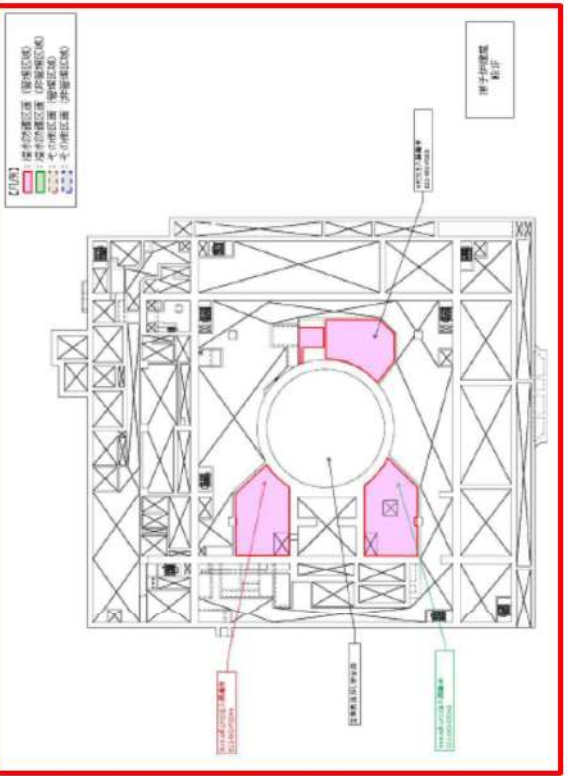
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="750 997 1220 1029">図 4.1.4 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その4）</p>		

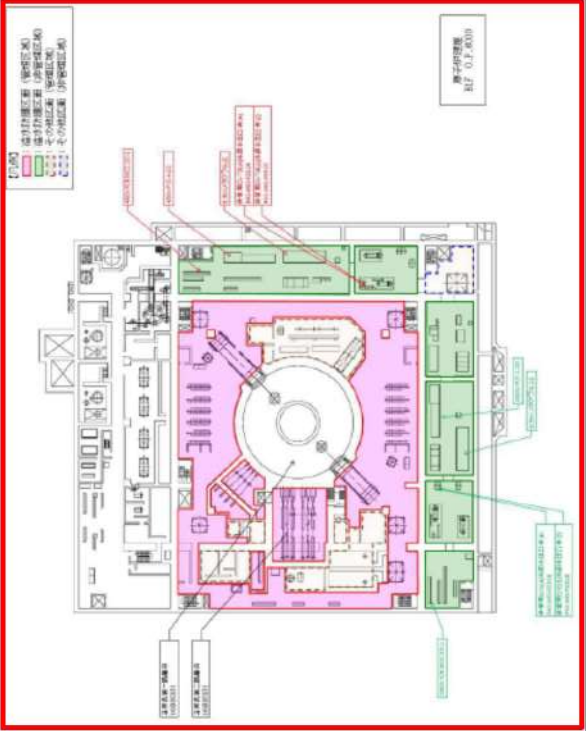
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="752 995 1211 1023">図 4.1.5 溢水防護区画の設定 (原子炉建屋 その5)</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

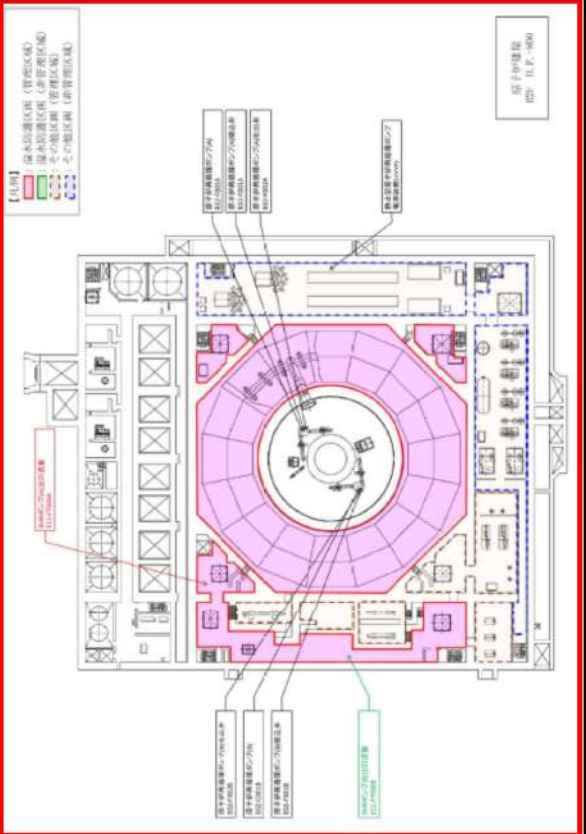
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="752 967 1209 989">図 4.1.6 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その6）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

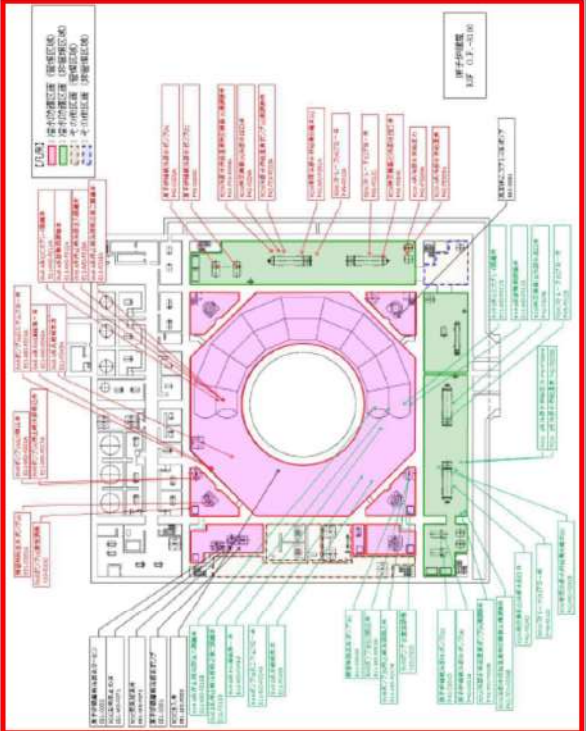
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="750 925 1220 957">図 4.1.7 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その7）</p>		



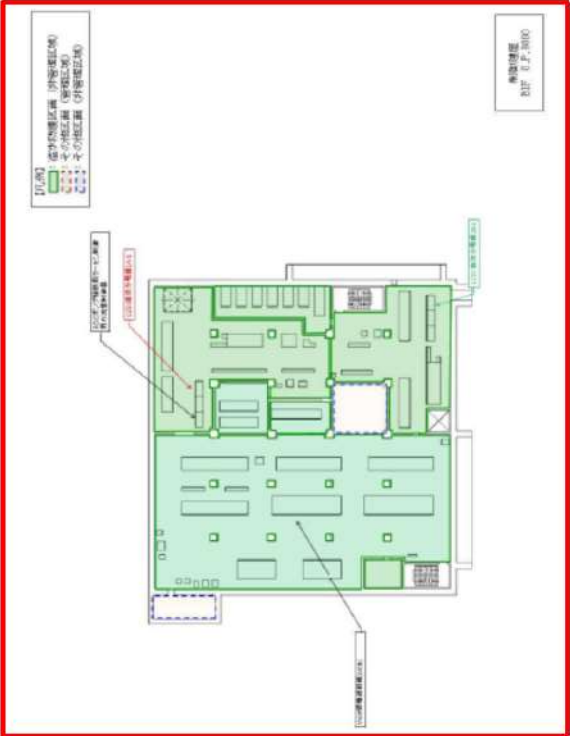
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="750 1029 1209 1061">図 4.1.8 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その8）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="750 925 1220 949">図 4.1.9 溢水防護区画の設定 (原子炉建屋 その9)</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="786 927 1169 954">図 4.1.10 溢水防護区画の設定（制御建屋）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																															
	<p>4.2 内部溢水発生時に期待できる緩和設備</p> <p>原子炉建屋又はタービン建屋における内部溢水において、動作を期待できる緩和機能を表4.2.1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4.2.1 内部溢水発生時に期待できる緩和系</p> <table border="1" data-bbox="696 480 1272 938"> <thead> <tr> <th rowspan="2">緩和機能</th> <th colspan="2">溢水発生建屋</th> </tr> <tr> <th>R/B</th> <th>T/B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉停止機能</td> <td>原子炉保護系 (中性子束高等のスクラム機能は多重化され、かつ2区分機能維持できる設計としている。また、T/B側RPSは機能喪失しない)</td> <td>原子炉保護系 (R/B側RPS)</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>RCIC及びECCS (3区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても2区分は機能維持される) RHR(停止時冷却モード) (2区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても1区分は機能維持される)</td> <td>RCIC及びECCS (3区分とも機能維持) RHR(停止時冷却モード) (2区分とも機能維持)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">その他機能</td> <td>主蒸気隔離弁</td> <td>主蒸気隔離弁</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁(安全弁)</td> <td>逃がし安全弁(安全弁)</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁</td> <td>逃がし安全弁(逃がし弁機能)</td> </tr> </tbody> </table> <p>5. 解析における機能喪失の仮定</p> <p>(1) 内部溢水による機能喪失の仮定</p> <p>4.で示した動作を期待できる緩和機能を前提に、溢水影響により解析において機能喪失を仮定する緩和系を表5.1に示す。MS-3機能については、内部溢水が発生する建屋ごとに機能喪失を仮定する。タービン系の原子炉保護系(RPS)(主蒸気止め弁閉スクラム・加減弁急閉スクラム)については、タービン建屋における内部溢水に対して機能喪失すると仮定する。</p> <p style="text-align: center;">表 5.1 機能喪失を仮定する緩和機能</p> <table border="1" data-bbox="696 1294 1272 1481"> <thead> <tr> <th>緩和機能</th> <th>R/B内で内部溢水</th> <th>T/B内で内部溢水</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再循環ポンプトリップ</td> <td>喪失を仮定</td> <td>喪失を仮定</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁 (逃がし弁機能)</td> <td>喪失を仮定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁</td> <td>—</td> <td>喪失を仮定</td> </tr> <tr> <td>タービン系RPS</td> <td>—</td> <td>喪失を仮定</td> </tr> </tbody> </table>	緩和機能	溢水発生建屋		R/B	T/B	原子炉停止機能	原子炉保護系 (中性子束高等のスクラム機能は多重化され、かつ2区分機能維持できる設計としている。また、T/B側RPSは機能喪失しない)	原子炉保護系 (R/B側RPS)	炉心冷却機能	RCIC及びECCS (3区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても2区分は機能維持される) RHR(停止時冷却モード) (2区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても1区分は機能維持される)	RCIC及びECCS (3区分とも機能維持) RHR(停止時冷却モード) (2区分とも機能維持)	その他機能	主蒸気隔離弁	主蒸気隔離弁	逃がし安全弁(安全弁)	逃がし安全弁(安全弁)	タービンバイパス弁	逃がし安全弁(逃がし弁機能)	緩和機能	R/B内で内部溢水	T/B内で内部溢水	再循環ポンプトリップ	喪失を仮定	喪失を仮定	逃がし安全弁 (逃がし弁機能)	喪失を仮定	—	タービンバイパス弁	—	喪失を仮定	タービン系RPS	—	喪失を仮定	<p>1次系建屋又は2次系建屋における内部溢水において、動作を期待できる緩和機能を表4に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4 内部溢水発生時に期待できる緩和系</p> <table border="1" data-bbox="1285 480 1861 810"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th rowspan="2">機能</th> <th>系統及び機器 (すべて1次系建屋に設置)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置(トリップ機能)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MS-1</td> <td rowspan="2">原子炉停止機能</td> <td>制御棒 非常用炉心冷却設備(高圧注入系)</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>原子炉停止後の除熱機能</td> <td>安全保護系 補助給水設備 主蒸気安全弁</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能</td> <td>加圧器安全弁(開機能)</td> </tr> </tbody> </table> <p>5. 解析における機能喪失の仮定</p> <p>(1) 内部溢水による機能喪失の仮定</p> <p>溢水影響による解析において事象収束に期待する緩和系は、4.で示すとおり健全であり、緩和系の機能喪失を考慮する必要はない。</p>	分類	機能	系統及び機器 (すべて1次系建屋に設置)	制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置(トリップ機能)	MS-1	原子炉停止機能	制御棒 非常用炉心冷却設備(高圧注入系)	工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能	炉心冷却機能	原子炉停止後の除熱機能	安全保護系 補助給水設備 主蒸気安全弁	その他	原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能	加圧器安全弁(開機能)	<p>記載方針の相違</p> <p>女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川はBWRの緩和機能を整理しており、泊はPWRの緩和機能を整理した。</p> <p>設計方針の相違</p> <p>女川では、MS-3設備について機能喪失を仮定しているが、泊はMS-3設備に溢水影響による解析において事象収束に期待する緩和系がないため、仮定は不要である。</p>
緩和機能	溢水発生建屋																																																	
	R/B	T/B																																																
原子炉停止機能	原子炉保護系 (中性子束高等のスクラム機能は多重化され、かつ2区分機能維持できる設計としている。また、T/B側RPSは機能喪失しない)	原子炉保護系 (R/B側RPS)																																																
炉心冷却機能	RCIC及びECCS (3区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても2区分は機能維持される) RHR(停止時冷却モード) (2区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても1区分は機能維持される)	RCIC及びECCS (3区分とも機能維持) RHR(停止時冷却モード) (2区分とも機能維持)																																																
その他機能	主蒸気隔離弁	主蒸気隔離弁																																																
	逃がし安全弁(安全弁)	逃がし安全弁(安全弁)																																																
	タービンバイパス弁	逃がし安全弁(逃がし弁機能)																																																
緩和機能	R/B内で内部溢水	T/B内で内部溢水																																																
再循環ポンプトリップ	喪失を仮定	喪失を仮定																																																
逃がし安全弁 (逃がし弁機能)	喪失を仮定	—																																																
タービンバイパス弁	—	喪失を仮定																																																
タービン系RPS	—	喪失を仮定																																																
分類	機能	系統及び機器 (すべて1次系建屋に設置)																																																
		制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置(トリップ機能)																																																
MS-1	原子炉停止機能	制御棒 非常用炉心冷却設備(高圧注入系)																																																
		工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能																																																
炉心冷却機能	原子炉停止後の除熱機能	安全保護系 補助給水設備 主蒸気安全弁																																																
その他	原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能	加圧器安全弁(開機能)																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																									
<p>（2）単一故障の仮定【ステップ7】</p> <p>解析を行うに際し、安全評価審査指針に従い、想定した事象に加え、原子炉停止、炉心冷却及び放射能閉じ込めの各基本的安全機能別に、解析の結果を厳しくする機器の単一故障を仮定する。具体的な単一故障の想定と解析への影響を表5.2に示す。なお、<a href="#">原子炉建屋</a>、<a href="#">タービン建屋</a>での解析を実施する事象発生時に期待する緩和系は表4.2.1のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表5.2 単一故障の仮定と解析への影響</p> <table border="1" data-bbox="698 628 1270 874"> <thead> <tr> <th>単一故障を仮定する機能</th> <th>解析への影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉停止機能</td> <td>・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>[RCIC及びECCS] ・内部溢水により1区分、単一故障により更に1区分喪失しても、残りの区分により炉心冷却可能[RHR（停止時冷却モード）] ・単一故障により1区分喪失しても、残りの区分により除熱が可能（溢水により過渡事象の発生とRHRの機能喪失は同時に発生しない）</td> </tr> <tr> <td>放射能閉じ込め機能</td> <td>・評価事象において燃料は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>6. 解析コード及び解析条件</p> <p>（1）使用する解析コード</p> <p>解析に当たっては、表6.1に示すとおり、設置許可申請解析において使用しているプラント動特性解析コード（REDY）及び単チャンネル熱水力学解析コード（SCAT）を使用している。</p> <p style="text-align: center;">表6.1 解析コード</p> <table border="1" data-bbox="698 1171 1270 1353"> <thead> <tr> <th>解析項目</th> <th>コード名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プラント動特性挙動 ・中性子束 ・原子炉圧力 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ圧力</td> <td>REDY</td> </tr> <tr> <td>単チャンネル熱水力学挙動 ・燃料被覆管温度</td> <td>SCAT</td> </tr> </tbody> </table>	単一故障を仮定する機能	解析への影響	原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）	炉心冷却機能	[RCIC及びECCS] ・内部溢水により1区分、単一故障により更に1区分喪失しても、残りの区分により炉心冷却可能[RHR（停止時冷却モード）] ・単一故障により1区分喪失しても、残りの区分により除熱が可能（溢水により過渡事象の発生とRHRの機能喪失は同時に発生しない）	放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない。	解析項目	コード名	プラント動特性挙動 ・中性子束 ・原子炉圧力 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ圧力	REDY	単チャンネル熱水力学挙動 ・燃料被覆管温度	SCAT	<p>（2）単一故障の仮定【ステップ7】</p> <p>解析を行うに際し、安全評価審査指針に従い、想定した事象に加え、原子炉停止、炉心冷却及び放射能閉じ込めの各基本的安全機能別に、解析の結果を厳しくする機器の単一故障を仮定する。具体的な単一故障の想定と解析への影響を表5.2に示す。なお、<a href="#">1次系建屋</a>、<a href="#">2次系建屋</a>での解析を実施する事象発生時に期待する緩和系は表4のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表5.2 単一故障の仮定と解析への影響</p> <table border="1" data-bbox="1288 628 1859 743"> <thead> <tr> <th>単一故障を仮定する機能</th> <th>解析への影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉停止機能</td> <td>・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>・補助給水に単一故障を仮定する</td> </tr> <tr> <td>放射能閉じ込め機能</td> <td>・評価事象において燃料は破損しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>6. 解析コード及び解析条件</p> <p>（1）使用する解析コード</p> <p>解析に当たっては、表6.1に示すとおり、設置許可申請解析において使用しているプラント動特性解析コード（MARVEL）を使用している。</p> <p style="text-align: center;">表6.1 解析コード</p> <table border="1" data-bbox="1288 1171 1859 1286"> <thead> <tr> <th>解析項目</th> <th>コード名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プラント動特性挙動 ・中性子束 ・1次冷却材温度 ・原子炉圧力</td> <td>MARVEL</td> </tr> </tbody> </table>	単一故障を仮定する機能	解析への影響	原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）	炉心冷却機能	・補助給水に単一故障を仮定する	放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない	解析項目	コード名	プラント動特性挙動 ・中性子束 ・1次冷却材温度 ・原子炉圧力	MARVEL	<p>記載方針の相違</p> <p>女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>設計方針の相違</p> <p>女川は、炉心冷却機能として3区分あるが、泊は炉心冷却機能として補助給水系に期待しているため、補助給水系の単一故障を仮定した。</p> <p>設計方針の相違</p> <p>安全解析における解析項目の違いによる解析コードの相違</p>
単一故障を仮定する機能	解析への影響																											
原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）																											
炉心冷却機能	[RCIC及びECCS] ・内部溢水により1区分、単一故障により更に1区分喪失しても、残りの区分により炉心冷却可能[RHR（停止時冷却モード）] ・単一故障により1区分喪失しても、残りの区分により除熱が可能（溢水により過渡事象の発生とRHRの機能喪失は同時に発生しない）																											
放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない。																											
解析項目	コード名																											
プラント動特性挙動 ・中性子束 ・原子炉圧力 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ圧力	REDY																											
単チャンネル熱水力学挙動 ・燃料被覆管温度	SCAT																											
単一故障を仮定する機能	解析への影響																											
原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）																											
炉心冷却機能	・補助給水に単一故障を仮定する																											
放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない																											
解析項目	コード名																											
プラント動特性挙動 ・中性子束 ・1次冷却材温度 ・原子炉圧力	MARVEL																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																											
	<p>(2) 解析条件                      プラントの初期状態等を設計基準事象である過渡事象における前提条件を踏襲する。主な解析条件を表6.2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 6.2 主な解析条件</p> <table border="1" data-bbox="696 359 1272 497"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>解析条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉熱出力</td> <td>2,540 MW</td> </tr> <tr> <td>炉心入口流量</td> <td><math>30.3 \times 10^3</math> t/h</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力</td> <td>7.03 MPa [gage]</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位</td> <td>通常水位</td> </tr> <tr> <td>外部電源</td> <td>あり</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 判断基準                      内部溢水を起因として発生する代表事象に対して、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束することを確認する。</p>	項目	解析条件	原子炉熱出力	2,540 MW	炉心入口流量	$30.3 \times 10^3$ t/h	原子炉圧力	7.03 MPa [gage]	原子炉水位	通常水位	外部電源	あり	<p>(2) 解析条件                      プラントの初期状態等を設計基準事象である過渡事象における前提条件を踏襲する。主な解析条件を表6.2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 6.2 主な解析条件</p> <table border="1" data-bbox="1279 343 1861 715"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">解析条件</th> </tr> <tr> <th>DNR評価</th> <th>圧力評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">初期条件</td> <td>原子炉出力</td> <td>2660MWt (100%)</td> <td>2660MWt (100%) +2%</td> </tr> <tr> <td>1次冷却材平均温度</td> <td>306.6℃</td> <td>306.6℃+2.2℃</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">外乱条件</td> <td>原子炉圧力</td> <td>15.41MPa [gage]</td> <td>15.41MPa [gage] - 0.21MPa</td> </tr> <tr> <td>制御棒の異常な引き抜き</td> <td><math>8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k) / s</math> を最大反応度添加率とし、結果が最も厳しくなる値を考慮</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>加圧器逃がし弁1弁誤開</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>すべての蒸気発生器への給水停止</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>-</td> <td>蒸気タービンへの蒸気流量がゼロ</td> </tr> <tr> <td>外部電源</td> <td>あり</td> <td>あり</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 判断基準                      内部溢水を起因として発生する代表事象に対して、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束することを確認する。</p>	項目	解析条件		DNR評価	圧力評価	初期条件	原子炉出力	2660MWt (100%)	2660MWt (100%) +2%	1次冷却材平均温度	306.6℃	306.6℃+2.2℃	外乱条件	原子炉圧力	15.41MPa [gage]	15.41MPa [gage] - 0.21MPa	制御棒の異常な引き抜き	$8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k) / s$ を最大反応度添加率とし、結果が最も厳しくなる値を考慮	同左	原子炉冷却材系の異常な減圧	加圧器逃がし弁1弁誤開	-	主給水流量喪失	すべての蒸気発生器への給水停止	同左	負荷の喪失	-	蒸気タービンへの蒸気流量がゼロ	外部電源	あり	あり	<p>設計方針の相違                      BWRとPWRの解析条件の相違</p>
項目	解析条件																																													
原子炉熱出力	2,540 MW																																													
炉心入口流量	$30.3 \times 10^3$ t/h																																													
原子炉圧力	7.03 MPa [gage]																																													
原子炉水位	通常水位																																													
外部電源	あり																																													
項目	解析条件																																													
	DNR評価	圧力評価																																												
初期条件	原子炉出力	2660MWt (100%)	2660MWt (100%) +2%																																											
	1次冷却材平均温度	306.6℃	306.6℃+2.2℃																																											
外乱条件	原子炉圧力	15.41MPa [gage]	15.41MPa [gage] - 0.21MPa																																											
	制御棒の異常な引き抜き	$8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k) / s$ を最大反応度添加率とし、結果が最も厳しくなる値を考慮	同左																																											
	原子炉冷却材系の異常な減圧	加圧器逃がし弁1弁誤開	-																																											
	主給水流量喪失	すべての蒸気発生器への給水停止	同左																																											
	負荷の喪失	-	蒸気タービンへの蒸気流量がゼロ																																											
外部電源	あり	あり																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>7. 解析結果</p> <p>解析を実施する事象について、解析結果を表 7.1～表 7.2 表及び図 7.1～図 7.4、図 7.6～図 7.9 に、事象の推移を図 7.5 及び図 7.10 に示す。</p> <p>(1) 原子炉建屋での内部溢水に起因する事象</p> <p>原子炉建屋での内部溢水に起因する事象の解析結果について以下に示す。</p> <p>給水制御系の故障</p> <p>a. 原子炉停止状態</p> <p>給水流量の増加による炉心入口サブクールの増加によってボイドが減少し、原子炉出力が上昇する。原子炉水位が上昇し、原子炉水位高（レベル8）に達するとタービントリップし、主蒸気止め弁閉信号が発生する。主蒸気止め弁の閉止により、原子炉はスクラムする。</p> <p>b. 炉心冷却状態</p> <p>原子炉水位高（レベル8）到達により、給水ポンプがトリップするため、原子炉水位は徐々に低下するが、高圧炉心スプレイ系等により注水は維持される。また、原子炉圧力はタービントリップに伴う主蒸気止め弁閉止とともに上昇するが、逃がし安全弁（安全弁機能）の作動により抑制が可能である。</p> <p>c. 安全停止状態</p> <p>原子炉スクラム及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p>	<p>7. 解析結果</p> <p>解析を実施する事象について、解析結果を表 7.1～表 7.2 表及び図 7.1、図 7.3 に、事象の推移を図 7.2 及び図 7.4 に示す。</p> <p>(1) 1次系建屋での内部溢水に起因する事象</p> <p>1次系建屋での内部溢水に起因する事象の解析結果について以下に示す。</p> <p>a. 圧力評価（負荷の喪失+出力運転中の制御棒の異常な引き抜き）</p> <p>(a) 原子炉停止状態</p> <p>制御棒の引き抜きにより原子炉出力が上昇し、負荷の喪失による2次側除熱の悪化も相まって、1次冷却材温度、原子炉圧力も上昇する。原子炉圧力が上昇し、「原子炉圧力高」の設定値に到達して原子炉トリップする。</p> <p>(b) 炉心冷却状態</p> <p>原子炉トリップにより原子炉出力が低下し、主蒸気安全弁作動による2次側除熱促進により1次冷却材温度、原子炉圧力は低下に転じる。解析上は仮定していないが、その後補助給水ポンプが起動し、炉心崩壊熱を除熱し炉心冷却を継続する。</p> <p>(c) 安全停止状態</p> <p>原子炉トリップ及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>重畳事象が異なるため解析結果に相違があるが、原子炉の安全停止の維持は可能であることに相違はない。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>BWRとPWRの表現の相違</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) タービン建屋での内部溢水に起因する事象                      タービン建屋での内部溢水に起因する事象の解析結果について以下に示す。</p> <p>給水加熱喪失+給水制御系の故障</p> <p>a. 原子炉停止状態                      給水流量の増加と給水加熱喪失による炉心入口サブクールの増加によってボイドが減少し、原子炉出力が上昇する。また、給水流量の増加により原子炉水位が上昇し、原子炉水位高（レベル8）に達するとタービントリップし、主蒸気止め弁閉信号が発生するが、タービン系 RPS の機能喪失を仮定するため、この時点ではスクラムしない。主蒸気止め弁の閉止により原子炉圧力が上昇し、炉心内のボイドの減少により原子炉出力が上昇するため、中性子束高信号が発生し、原子炉はスクラムする。</p>	<p>b. DNBR 評価（出力運転中の制御棒の異常な引き抜き+原子炉冷却材系の異常な減圧+主給水流量喪失）</p> <p>(a) 原子炉停止状態                      制御棒の引き抜きにより原子炉出力が上昇し、主給水流量喪失による2次側除熱の悪化も相まって、1次冷却材温度も上昇する。また、原子炉冷却材系の異常な減圧により、1次冷却材温度上昇による圧力上昇効果を打ち消して、原子炉圧力は低下する。原子炉出力及び1次冷却材温度が上昇し、「過大温度 ΔT 高」の設定値に到達すると原子炉トリップする。</p> <p>(b) 炉心冷却状態                      原子炉トリップにより原子炉出力が低下し、1次冷却材温度は低下に転じる。解析上は仮定していないが、その後補助給水ポンプが起動し、炉心崩壊熱を除熱し炉心冷却を継続する。</p> <p>(c) 安全停止状態                      原子炉トリップ及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p> <p>(2) 2次系建屋での内部溢水に起因する事象                      2次系建屋での内部溢水に起因する事象は1次系建屋での内部溢水に起因する事象で代表できる。</p>	<p>記載方針の相違                      重要事象が異なるため解析結果に相違があるが、原子炉の安全停止の維持は可能であることに相違はない。</p> <p>記載方針の相違                      女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>記載方針の相違                      泊は表3.11で2次系建屋での内部溢水に起因する事象は1次系建屋での内部溢水に起因する事象で代表できることを示したため、記載しない。</p>



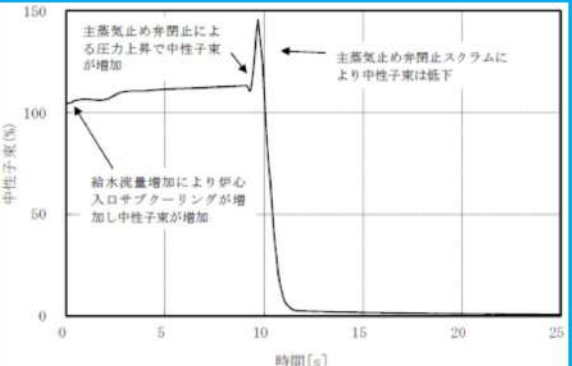
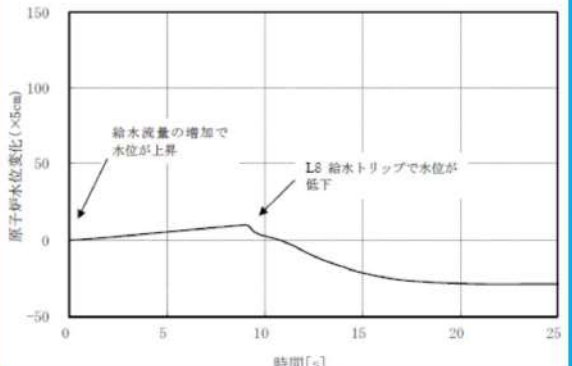
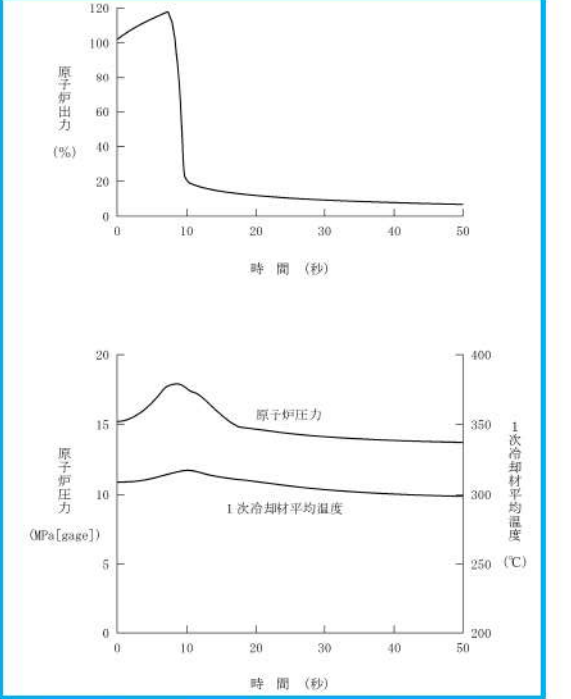
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																										
	<p>b. 炉心冷却状態</p> <p>原子炉水位高（レベル8）到達により、給水ポンプがトリップするため、原子炉水位は徐々に低下するが、高圧炉心スプレイ系等により注水は維持される。また、原子炉圧力はタービントリップに伴う主蒸気止め弁閉止とともに上昇するが、逃がし安全弁（逃がし弁機能）の作動により抑制が可能である。</p> <p>c. 安全停止状態</p> <p>原子炉スクラム及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p> <p>以上より、内部溢水を起因として発生する可能性のある過渡的な事象に対して、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束し、原子炉が安全停止を維持できることを確認した。</p> <p>表7.1 解析結果まとめ表（原子炉建屋）</p> <table border="1" data-bbox="696 821 1272 1117"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 ( ) 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">給水制御系の故障（主蒸気止め弁閉スクラム）</td> <td>中性子束 (%)</td> <td>146 (-)</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力 (MPa[gage])</td> <td>8.29 (10.34)</td> </tr> <tr> <td>燃料被覆管温度 (°C)</td> <td>沸騰遷移しない (1200)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">発生事象</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">給水制御系故障発生</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉スクラム（主蒸気止め弁閉）</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">安全弁閉開始</td> <td>10.8</td> </tr> </tbody> </table>	重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安	給水制御系の故障（主蒸気止め弁閉スクラム）	中性子束 (%)	146 (-)	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.29 (10.34)	燃料被覆管温度 (°C)	沸騰遷移しない (1200)	発生事象		時刻 (秒)	給水制御系故障発生		0	原子炉スクラム（主蒸気止め弁閉）		9.0	安全弁閉開始		10.8	<p>以上より、内部溢水を起因として発生する可能性のある過渡的な事象に対して、プラントパラメータの悪化を顕著にする傾向があるものの、パラメータ悪化を検知して影響緩和系が自動動作し、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束し、原子炉が安全停止を維持できることを確認した。</p> <p>表7.1 解析結果まとめ表（1次系建屋/2次系建屋共通 圧力評価）</p> <table border="1" data-bbox="1279 821 1861 1220"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 ( ) 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>負荷の喪失 +主給水流量喪失 +出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>原子炉圧力 (MPa[gage])</td> <td>17.91 (20.592)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事象発生</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">負荷の喪失 制御棒引き抜き<sup>※1</sup></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「原子炉圧力高」原子炉トリップ限界値到達</td> <td>5.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">加圧器安全弁作動</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「出力領域中性子束高」原子炉トリップ限界値到達</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td colspan="2">制御棒クラスタ落下開始</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉出力最大（約118%）</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主蒸気安全弁作動</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉圧力最大（約17.91 MPa[gage]）</td> <td>8.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1次冷却材平均温度最大（約317.2°C）</td> <td>10.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 反応度添加率：2.2×10<sup>-4</sup>(Δk/k)/s</p>	重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安	負荷の喪失 +主給水流量喪失 +出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	原子炉圧力 (MPa[gage])	17.91 (20.592)	事象発生		時刻 (秒)	負荷の喪失 制御棒引き抜き <sup>※1</sup>		0	「原子炉圧力高」原子炉トリップ限界値到達		5.3	加圧器安全弁作動		6.5	「出力領域中性子束高」原子炉トリップ限界値到達		6.9	制御棒クラスタ落下開始		7.3	原子炉出力最大（約118%）		7.3	主蒸気安全弁作動		8.4	原子炉圧力最大（約17.91 MPa[gage]）		8.6	1次冷却材平均温度最大（約317.2°C）		10.2	<p>記載方針の相違</p> <p>泊はプラントパラメータの挙動に対して考察した内容を追記した。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>
重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安																																																											
給水制御系の故障（主蒸気止め弁閉スクラム）	中性子束 (%)	146 (-)																																																											
	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.29 (10.34)																																																											
	燃料被覆管温度 (°C)	沸騰遷移しない (1200)																																																											
発生事象		時刻 (秒)																																																											
給水制御系故障発生		0																																																											
原子炉スクラム（主蒸気止め弁閉）		9.0																																																											
安全弁閉開始		10.8																																																											
重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安																																																											
負荷の喪失 +主給水流量喪失 +出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	原子炉圧力 (MPa[gage])	17.91 (20.592)																																																											
事象発生		時刻 (秒)																																																											
負荷の喪失 制御棒引き抜き <sup>※1</sup>		0																																																											
「原子炉圧力高」原子炉トリップ限界値到達		5.3																																																											
加圧器安全弁作動		6.5																																																											
「出力領域中性子束高」原子炉トリップ限界値到達		6.9																																																											
制御棒クラスタ落下開始		7.3																																																											
原子炉出力最大（約118%）		7.3																																																											
主蒸気安全弁作動		8.4																																																											
原子炉圧力最大（約17.91 MPa[gage]）		8.6																																																											
1次冷却材平均温度最大（約317.2°C）		10.2																																																											

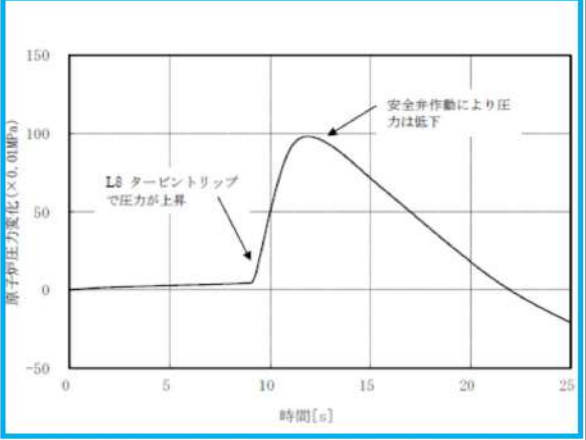
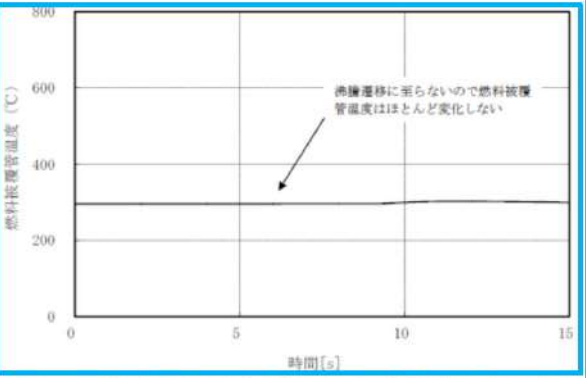
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
	<p>表 7.2 解析結果まとめ表（タービン建屋）</p> <table border="1" data-bbox="703 245 1265 576"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 ( ) 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">給水加熱喪失+給水制御系の故障</td> <td>中性子束 (%)</td> <td>369 (-)</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力 (MPa[gage])</td> <td>8.38 (10.34)</td> </tr> <tr> <td>燃料被覆管温度 (°C)</td> <td>615 (1200)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">発生事象</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">給水加熱喪失+給水制御系の故障発生</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉水位LS (給水ポンプトリップ)</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉スタラム (中性子束高)</td> <td>9.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">逃がし弁開開始</td> <td>9.8</td> </tr> </tbody> </table>	重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安	給水加熱喪失+給水制御系の故障	中性子束 (%)	369 (-)	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.38 (10.34)	燃料被覆管温度 (°C)	615 (1200)	発生事象		時刻 (秒)	給水加熱喪失+給水制御系の故障発生		0	原子炉水位LS (給水ポンプトリップ)		9.0	原子炉スタラム (中性子束高)		9.4	逃がし弁開開始		9.8	<p>表 7.2 解析結果まとめ表（1次系建屋/2次系建屋共通 DNB<sub>R</sub> 評価）</p> <table border="1" data-bbox="1330 245 1832 592"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 ( ) 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き +原子炉冷却材系の異常な漏洩 +主給水流量喪失</td> <td>最小 DNB<sub>R</sub></td> <td>1.53 (1.42)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事象発生</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">制御棒引き抜き<sup>※2</sup> 主給水流量喪失 加圧器逃がし弁1割全開</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「過大温度ΔT高」原子炉トリップ限界値到達</td> <td>18.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉出力最大 (約118%)</td> <td>24.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">制御棒クラスタ落下開始</td> <td>24.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">DNB<sub>R</sub> 最小 (約1.53)</td> <td>24.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1次冷却材平均温度最大 (約313.2°C)</td> <td>26.9</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※2 反応度係数: <math>5.4 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s</math></p>	重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き +原子炉冷却材系の異常な漏洩 +主給水流量喪失	最小 DNB <sub>R</sub>	1.53 (1.42)	事象発生		時刻 (秒)	制御棒引き抜き <sup>※2</sup> 主給水流量喪失 加圧器逃がし弁1割全開		0	「過大温度ΔT高」原子炉トリップ限界値到達		18.6	原子炉出力最大 (約118%)		24.6	制御棒クラスタ落下開始		24.6	DNB <sub>R</sub> 最小 (約1.53)		24.7	1次冷却材平均温度最大 (約313.2°C)		26.9	<p>記載方針の相違                  女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>
重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安																																																					
給水加熱喪失+給水制御系の故障	中性子束 (%)	369 (-)																																																					
	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.38 (10.34)																																																					
	燃料被覆管温度 (°C)	615 (1200)																																																					
発生事象		時刻 (秒)																																																					
給水加熱喪失+給水制御系の故障発生		0																																																					
原子炉水位LS (給水ポンプトリップ)		9.0																																																					
原子炉スタラム (中性子束高)		9.4																																																					
逃がし弁開開始		9.8																																																					
重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安																																																					
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き +原子炉冷却材系の異常な漏洩 +主給水流量喪失	最小 DNB <sub>R</sub>	1.53 (1.42)																																																					
事象発生		時刻 (秒)																																																					
制御棒引き抜き <sup>※2</sup> 主給水流量喪失 加圧器逃がし弁1割全開		0																																																					
「過大温度ΔT高」原子炉トリップ限界値到達		18.6																																																					
原子炉出力最大 (約118%)		24.6																																																					
制御棒クラスタ落下開始		24.6																																																					
DNB <sub>R</sub> 最小 (約1.53)		24.7																																																					
1次冷却材平均温度最大 (約313.2°C)		26.9																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図 7.1 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（中性子束）</p>  <p>図 7.2 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（原子炉水位）</p>	 <p>図 7.1 1次系建屋/2次系建屋における溢水による事象変化（圧力評価）</p>	<p>記載方針の相違                  女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>

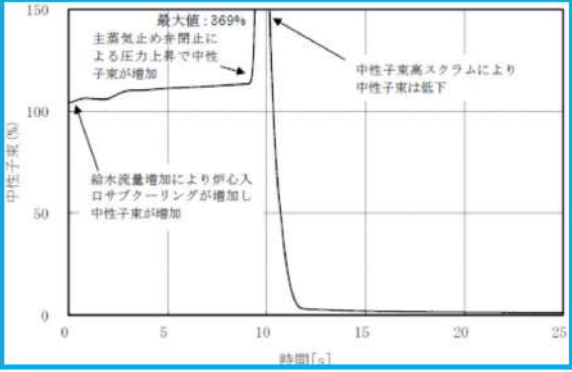
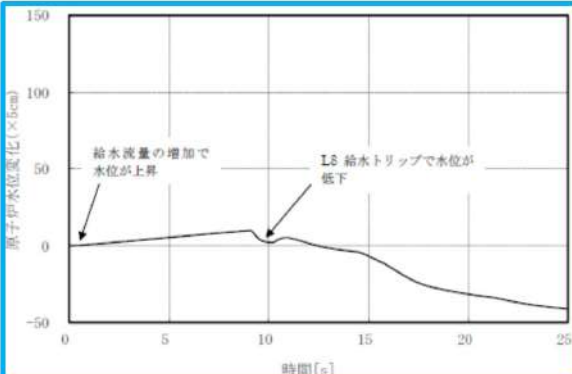
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="696 624 1279 683">図 7.3 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（原子炉圧力）</p>  <p data-bbox="696 1102 1279 1161">図 7.4 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（燃料被覆管温度）</p>		<p data-bbox="1874 177 2132 213">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1874 218 2132 304">女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>

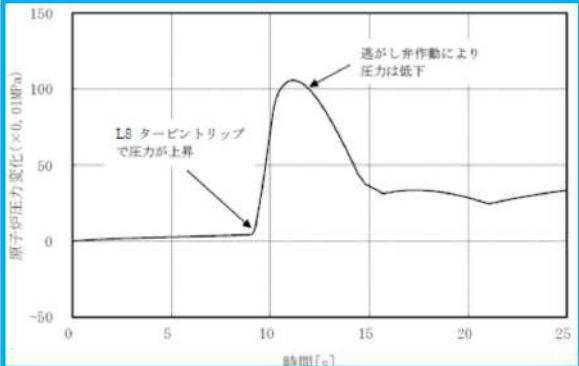
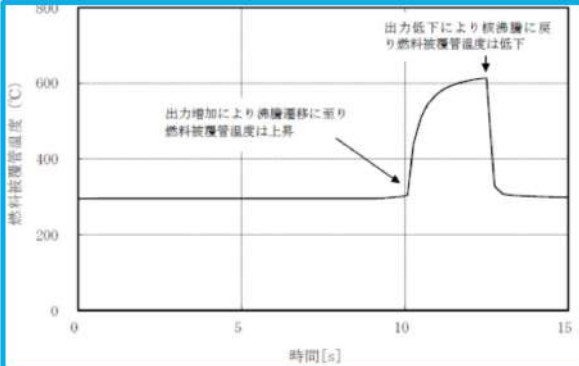
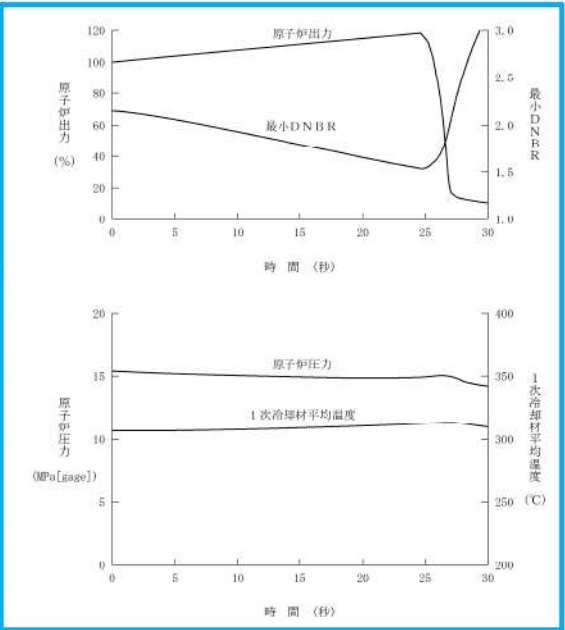
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>図 7.5 原子炉建屋における事象推移のフローチャート</p>	<p>図 7.2 1次系建屋/2次系建屋における事象推移のフローチャート（圧力評価）</p>	<p>記載方針の相違                      重要事象の相違により事象推移が異なる。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="696 555 1265 614">図 7.6 タービン建屋における内部溢水による事象変化（中性子束）</p>  <p data-bbox="696 1061 1265 1125">図 7.7 タービン建屋における内部溢水による事象変化（原子炉水位）</p>		<p data-bbox="1874 177 2130 303">記載方針の相違                  女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="696 826 1272 885">図 7.8 タービン建屋における内部溢水による事象変化（原子炉圧力）</p>  <p data-bbox="696 1372 1272 1431">図 7.9 タービン建屋における内部溢水による事象変化（燃料被覆管温度）</p>	 <p data-bbox="1285 826 1848 885">図 7.3 1次系建屋/2次系建屋における溢水による事象変化（DNBR 評価）</p>	<p data-bbox="1870 177 2114 304">記載方針の相違                  女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>記載方針の相違                  重畳事象の相違により事象推移が異なる。</p>
	<p>図 7.10 タービン建屋における事象推移のフローチャート</p>	<p>図 7.4 1次系建屋/2次系建屋における事象推移のフローチャート (DNBR 評価)</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足説明資料 1-1</p> <p>防護対象設備の選定について</p> <p>1. はじめに</p> <p>溢水の影響評価に当たっては、発電所内で発生した溢水に対して技術基準規則第12条に定める重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を適切に維持すること並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を適切に維持すること(多重化又は多様化された系統が同時にその機能を失わないこと)を確認することとしているが、原子炉に外乱が生じ、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合には、その影響(溢水)を考慮する必要がある。</p> <p>本資料は「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づく評価を実施するにあたり防護対象設備の具体的な選定方針についてまとめたものである。</p> <p>2. 防護対象設備の選定方針について</p> <p>「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づき、技術基準規則第12条に定める重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を適切に維持するために必要な設備並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を適切に維持するために必要な設備についても防護対象設備とする。</p> <p>また、防護対象設備は重要度の特に高い安全機能を有する設備が内部溢水により原子炉に外乱が生じ、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合に、それを達成するために必要な設備についても抽出する。</p>		<p style="text-align: right;">補足説明資料 4</p> <p>防護対象設備の選定について</p> <p>1. はじめに</p> <p>本資料は「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づく評価を実施するにあたり防護対象設備の具体的な選定方針についてまとめたものである。</p> <p>2. 防護対象設備の選定方針について</p> <p>「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づき、溢水防護上必要な機能を有する系統として、安全施設のうち、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止、及び放射性物質の閉じ込め機能を維持するため、また、停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持するため、並びに使用済燃料ピットにおいてはピット冷却機能及びピットへの給水機能を維持するために必要となる、発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針(以下「重要度分類審査指針」という)における分類でクラス1及び2に属する構築物、系統及び機器に加え、安全評価上その機能を期待するクラス3に属する構築物、系統及び機器を抽出する。</p> <p>抽出した結果は、「3. 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な設備」、「4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備」、「5. 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な系統」に記載する。</p> <p>また、内部溢水により原子炉に外乱が生じ、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合には、その溢水の影響を考慮した上で、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」(以下「安全評価審査指針」という)に基づき発生が予想される運転時の異常な過渡変化又は設計基準事故について安全解析を行い、炉心が損傷に至ることなく当該事象を収束できる設計とするため、それを達成するために必要な設備についても抽出する必要がある。</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>泊の防護対象設備の選定は、先行PWRと同等であることから、評価実績のある大阪の補足資料と比較した上で相違理由を明確にする。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>溢水の影響評価の考慮については、別添1に示されていることから省略した。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>溢水影響評価ガイドの要求を踏まえ、記載を充実した。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>次に、溢水影響により機能喪失する可能性があるか否かについて「5. 溢水影響評価の対象のスクリーニングについて」により抽出する。なお、電気、計装設備等の関連系の設備のスクリーニングの考え方については、「6. 計装設備」、「7. 電気設備」に記載する。</p> <p>3. 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な設備</p> <p>図1に原子炉を低温停止に移行する際のフローを示す。原子炉の高温停止及び低温停止に必要な機能、系統は以下のとおりであり、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉停止：原子炉停止系</li> <li>・ほう酸添加：原子炉停止系 (化学体積制御系のほう酸水注入機能等)</li> <li>・崩壊熱除去：補助給水系、主蒸気系、余熱除去系</li> <li>・1次系減圧：1次冷却系統の減圧機能</li> <li>・上記系統の関連系 ：原子炉補機冷却系、制御用空気系、換気空調系、非常用電源系、冷水系、電気盤</li> </ul>	<p>そのため、内部溢水により原子炉に外乱が及ぶ場合について、安全評価審査指針に基づく運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故の重畳事象を含め、どのような事象が起こる可能性があるかを分析し、その重畳事象が発生した場合に「4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備」で整理した防護対象設備にて事象が収束できることを確認する。(確認結果については補足説明資料3に示す。)</p> <p>次に、溢水影響により機能喪失する可能性があるか否かについて「6. 溢水影響評価の対象のスクリーニングについて」により抽出する。なお、電気、計装設備等の関連系の設備のスクリーニングの考え方については、「7. 計装設備の選定の考え方について」、「8. 電気設備の選定の考え方について」に記載する。</p> <p>選定された防護対象設備の機能要求を整理した結果については、「9. 防護対象設備の機能要求について」に記載する。</p> <p>3. 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な設備</p> <p>図1に原子炉を低温停止に移行する際のフローを示す。原子炉の高温停止及び低温停止に必要な機能、系統は以下のとおりであり、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉停止：原子炉停止系</li> <li>・ほう酸添加：原子炉停止系 (化学体積制御系統のほう酸注入機能等)</li> <li>・崩壊熱除去：補助給水系統、主蒸気系統、余熱除去系統</li> <li>・1次系減圧：1次冷却系統の減圧機能</li> <li>・上記系統の関連系： 原子炉補機冷却水系統、原子炉補機冷却海水系統、制御用空気系統、換気空調系統、非常用所内電源系統、空調用冷水系統、電気盤</li> </ul>	<p>設計方針の相違                  女川審査実績の反映                  (内部溢水により原子炉外乱が発生するかどうか重畳事象を含めて分析し、その重畳事象が原子炉外乱に対処するために必要な設備(防護対象設備)にて収束可能か確認する方針とした。)</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載箇所の相違</p> <p>記載表現の相違</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>大飯発電所3/4号炉</p> <p>図1 プラントの停止の流れ</p> <p>※1 以下の事象による溢水を考慮              ・地震による（その際は地震を起因とする外乱（主給水喪失、外部電源喪失等）発生と溢水）              ・断水による溢水              ・断水後復旧（断水によるタービン駆動による溢水）</p> <p>※2 断水の種内は溢水影響評価にて、高圧停止達成のために期待する範囲              ①1次冷却系の異常な減圧              ②主蒸気管破断              ③主蒸気管破断によるLOCA              ④断水発生時の断水発生は、高圧注入系等も設備が必要。</p> <p>※3 原子炉保護系による原子炉トリップ</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>図1 プラントの停止の流れ</p> <p>※1 以下の事象による溢水を考慮              ・地震による（その際は地震を起因とする外乱（主給水喪失、外部電源喪失等）発生と溢水）              ・断水による溢水              ・断水後復旧（断水によるタービン駆動による溢水）</p> <p>※2 断水の種内は溢水影響評価にて、高圧停止達成のために期待する範囲              ①1次冷却系の異常な減圧              ②主蒸気管破断              ③主蒸気管破断によるLOCA              ④断水発生時の断水発生は、高圧注入系等も設備が必要。</p> <p>※3 原子炉保護系による原子炉トリップ</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>図1 プラントの停止の流れ</p> <p>※1 以下の事象による溢水を考慮              ・地震による（その際は地震を起因とする外乱（主給水喪失、外部電源喪失等）発生と溢水）              ・断水による溢水              ・断水後復旧（断水によるタービン駆動による溢水）</p> <p>※2 断水の種内は溢水影響評価にて、高圧停止達成のために期待する範囲              ①1次冷却系の異常な減圧              ②主蒸気管破断              ③主蒸気管破断によるLOCA              ④断水発生時の断水発生は、高圧注入系等も設備が必要。</p> <p>※3 原子炉保護系による原子炉トリップ</p>	<p>相違理由</p> <p>記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備</p> <p>(1) 原子炉外乱</p> <p>原子炉施設の安全評価に関する審査指針に基づき、運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故を対象として、原子炉外乱を表1及び表2に整理する。</p> <p>(2) 原子炉外乱に対処するための設備</p> <p>表1及び表2に示す事象と溢水の関係から溢水影響評価上想定する事象とその対処系統を表3に示す。</p> <p>表3の①～⑨の起因事象で原子炉が自動停止する場合は通常の高温停止に必要な系統（安全保護系、原子炉停止系及び補助給水系）により原子炉を冷却していくため、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <p>一方、⑩～⑬のような過冷却事象及び1次系の減圧事象では1次系の圧力低下等を伴うため、高圧注入系が自動で動作する可能性があり前述の原子炉を高温停止まで冷却する系統に高圧注入系を加えて防護対象設備に選定する。</p> <p>また、⑭原子炉冷却材喪失（以下、「LOCA」という）等では、炉心の冷却並びに原子炉格納容器の冷却、減圧及び隔離のため、低圧注入系、格納容器スプレイ系及び原子炉格納容器隔離弁を加えて防護対象設備に選定する。なお、これらの系統により事象を収束させた後にはLOCA等1次冷却系の健全性が損なわれる事象を除き、余熱除去系を用いて低温停止に移行する（図1参照）。</p> <p>この一連の対応により原子炉を「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の機能が果たされる。</p>		<p>4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備</p> <p>(1) 原子炉外乱</p> <p>安全評価審査指針に基づき、運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故を対象として、原子炉外乱を表1及び表2に整理する。</p> <p>(2) 原子炉外乱に対処するための設備</p> <p>表1及び表2に示す事象と溢水の関係から溢水影響評価上想定する事象とその対処系統を表3に示す。</p> <p>表3の①～⑨の起因事象で原子炉が自動停止する場合は通常の高温停止に必要な系統（安全保護系、原子炉停止系及び補助給水系）により原子炉を冷却していくため、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <p>一方、⑩～⑬のような過冷却事象及び1次系の減圧事象では1次系の圧力低下等を伴うため、高圧注入系統が自動で動作する可能性があり前述の原子炉を高温停止まで冷却する系統に高圧注入系統を加えて防護対象設備に選定する。</p> <p>また、⑭原子炉冷却材喪失（以下「LOCA」という）等では、炉心の冷却並びに原子炉格納容器の冷却、減圧及び隔離のため、低圧注入系統、原子炉格納容器スプレイ系統及び原子炉格納容器隔離弁を加えて防護対象設備に選定する。なお、これらの系統により事象を収束させた後にはLOCA等1次冷却系の健全性が損なわれる事象を除き、余熱除去系統を用いて低温停止に移行する（図1参照）。</p> <p>この一連の対応により原子炉を「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の機能が果たされる。</p>	<p>記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																										
<p>表1 運転時の異常な過渡変化と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒の落下及び不整合</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>-</td> <td>誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>○</td> <td>外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>-</td> <td>蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○		出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○		制御棒の落下及び不整合	○		原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○		原子炉冷却材流量の部分喪失	○		原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡	主給水流量喪失	○		蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	2次冷却系の異常な減圧	○		蒸気発生器への過剰給水	○		負荷の喪失	○		原子炉冷却系の異常な減圧	○		出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○			<p>表1 運転時の異常な過渡変化と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒の落下及び不整合</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>-</td> <td>誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>○</td> <td>外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>-</td> <td>蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○		出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○		制御棒の落下及び不整合	○		原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○		原子炉冷却材流量の部分喪失	○		原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。	主給水流量喪失	○		蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	2次冷却系の異常な減圧	○		蒸気発生器への過剰給水	○		負荷の喪失	○		原子炉冷却系の異常な減圧	○		出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○		
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																											
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																												
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																												
制御棒の落下及び不整合	○																																																																																												
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○																																																																																												
原子炉冷却材流量の部分喪失	○																																																																																												
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																											
外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡																																																																																											
主給水流量喪失	○																																																																																												
蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																											
2次冷却系の異常な減圧	○																																																																																												
蒸気発生器への過剰給水	○																																																																																												
負荷の喪失	○																																																																																												
原子炉冷却系の異常な減圧	○																																																																																												
出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○																																																																																												
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																											
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																												
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																												
制御棒の落下及び不整合	○																																																																																												
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○																																																																																												
原子炉冷却材流量の部分喪失	○																																																																																												
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																											
外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。																																																																																											
主給水流量喪失	○																																																																																												
蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																											
2次冷却系の異常な減圧	○																																																																																												
蒸気発生器への過剰給水	○																																																																																												
負荷の喪失	○																																																																																												
原子炉冷却系の異常な減圧	○																																																																																												
出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○																																																																																												
<p>表2 設計基準事象と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材喪失（LOCA）</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材ポンプの軸固着</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって原子炉冷却材ポンプの回転軸は固着しない。</td> </tr> <tr> <td>主給水管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主蒸気管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒飛び出し</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器伝熱管破損</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※溢水事象であるため対象として考慮する。</p>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*		原子炉冷却材流量の喪失	○		原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって原子炉冷却材ポンプの回転軸は固着しない。	主給水管破断	○*		主蒸気管破断	○*		制御棒飛び出し	○*		蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。		<p>表2 設計基準事故と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材喪失（LOCA）</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材ポンプの軸固着</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。</td> </tr> <tr> <td>主給水管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主蒸気管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒飛び出し</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器伝熱管破損</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 溢水事象であるため対象として考慮する。</p>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*		原子炉冷却材流量の喪失	○		原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。	主給水管破断	○*		主蒸気管破断	○*		制御棒飛び出し	○*		蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。	<p>記載表現の相違                  記載の適正化</p>																																										
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																											
原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*																																																																																												
原子炉冷却材流量の喪失	○																																																																																												
原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって原子炉冷却材ポンプの回転軸は固着しない。																																																																																											
主給水管破断	○*																																																																																												
主蒸気管破断	○*																																																																																												
制御棒飛び出し	○*																																																																																												
蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。																																																																																											
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																											
原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*																																																																																												
原子炉冷却材流量の喪失	○																																																																																												
原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。																																																																																											
主給水管破断	○*																																																																																												
主蒸気管破断	○*																																																																																												
制御棒飛び出し	○*																																																																																												
蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。																																																																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																				
<p>表3 溢水評価上想定する事象とその対処系統</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>溢水評価上想定する事象</th> <th>左記事象に対する対処機能</th> <th>対処系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」「制御棒の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」（ほう素濃度制御系異常）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他<sup>※1</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他<sup>※2</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ 負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他<sup>※3</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦ 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧ 主給水管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨ 外部電源喪失</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩ 2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他<sup>※4</sup>）</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪ 原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他<sup>※5</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫ 主蒸気管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑬ 「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離</td> <td>上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・格納容器スプレイ系 ・アンユラス循環系 ・原子炉格納容器隔離弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁開                  ※2 復水ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁開                  ※3 タービントリップ                  ※4 主蒸気逃がし弁開、タービン蒸気加減弁開                  ※5 加圧器スプレイ弁開、加圧器補助スプレイ弁開</p> <p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な系統                  使用済燃料ピットの冷却機能は燃料ピット冷却浄化系が該当し、保安規定で定めた水温(65℃以下)に維持することが可能である。                  また、使用済燃料ピットの給水機能は燃料取替用水系が該当し、使用済燃料ピットからの放射線を遮蔽するために必要な水量を維持することが可能である。                  選定フローを図2に示す。</p>	溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統	①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」（ほう素濃度制御系異常）			③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）			④ 蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）			⑤ 主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）			⑥ 負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）			⑦ 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動			⑧ 主給水管破断			⑨ 外部電源喪失			⑩ 2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪ 原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）			⑫ 主蒸気管破断			⑬ 「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・格納容器スプレイ系 ・アンユラス循環系 ・原子炉格納容器隔離弁	<p>表3 溢水評価上想定する事象とその対処系統</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>溢水評価上想定する事象</th> <th>左記事象に対する対処機能</th> <th>対処系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>② 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他<sup>※1</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他<sup>※2</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ 負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他<sup>※3</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦ 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧ 主給水管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨ 外部電源喪失</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩ 2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他<sup>※4</sup>）</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪ 原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他<sup>※5</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫ 主蒸気管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑬ 「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離</td> <td>上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系統 （アンユラス空気浄化設備）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁開                  ※2 復水ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁開                  ※3 蒸気タービン停止                  ※4 主蒸気逃がし弁開、タービン蒸気加減弁開                  ※5 加圧器スプレイ弁開、加圧器補助スプレイ弁開</p> <p>5. 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な系統                  使用済燃料ピットの冷却機能は使用済燃料ピット水浄化冷却系統が該当し、保安規定で定めた水温(65℃以下)に維持することが可能である。                  また、使用済燃料ピットの給水機能は燃料取替用水系統が該当し、使用済燃料ピットからの放射線を遮蔽するために必要な水量を維持することが可能である。                  選定フローを図2に示す。</p>	溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統	①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	② 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）			③ 「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）			④ 蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）			⑤ 主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）			⑥ 負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）			⑦ 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動			⑧ 主給水管破断			⑨ 外部電源喪失			⑩ 2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪ 原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）			⑫ 主蒸気管破断			⑬ 「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系統 （アンユラス空気浄化設備）	<p>記載表現の相違</p>	<p>相違理由</p>
溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統																																																																																					
①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																																					
②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」（ほう素濃度制御系異常）																																																																																							
③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）																																																																																							
④ 蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）																																																																																							
⑤ 主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）																																																																																							
⑥ 負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）																																																																																							
⑦ 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動																																																																																							
⑧ 主給水管破断																																																																																							
⑨ 外部電源喪失																																																																																							
⑩ 2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																																					
⑪ 原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）																																																																																							
⑫ 主蒸気管破断																																																																																							
⑬ 「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・格納容器スプレイ系 ・アンユラス循環系 ・原子炉格納容器隔離弁																																																																																					
溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統																																																																																					
①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																																					
② 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）																																																																																							
③ 「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）																																																																																							
④ 蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）																																																																																							
⑤ 主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）																																																																																							
⑥ 負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）																																																																																							
⑦ 出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動																																																																																							
⑧ 主給水管破断																																																																																							
⑨ 外部電源喪失																																																																																							
⑩ 2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																																					
⑪ 原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）																																																																																							
⑫ 主蒸気管破断																																																																																							
⑬ 「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系統 （アンユラス空気浄化設備）																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="224 279 582 542" style="text-align: center;"> <p>使用済燃料ピット冷却機能</p> <p>燃料ピット冷却浄化系*1</p> <p>使用済燃料ピット給水機能</p> <p>燃料取替用水系*2</p> <p>※1 保安規定で定められた水温（65℃以下）に維持可能</p> <p>※2 放射線を遮蔽するために必要な水位を維持することが可能</p> </div> <p>図2 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統</p> <p>5. 溢水影響評価対象のスクリーニングについて</p> <p>(1) 溢水影響評価対象の選定フローについて</p> <p>防護対象設備として選定した以下の設備のうち、溢水影響評価を行う設備のスクリーニングの考え方について図3に溢水影響評価対象の選定フローを、表4に溢水影響評価の対象外とする理由についてまとめた。</p> <p>防護対象設備としては、LOCAのような溢水事象そのものの事象によって安全解析上の事故、過渡変化が発生した場合に、プラントを安全停止させるために必要な設備は、防護対象設備として抽出しているが、LOCAのように原子炉格納容器内で発生した事象についても評価した。</p> <p>なお、防護対象設備リストにはプラント停止の対処設備を明確にするために該当する系統の容器（タンク）、熱交換器、フィルタ等の主要な静的機器についても記載したが、これらの設備は溢水影響を受けないため、機能喪失高さは「-」と記載した。</p>		<div data-bbox="1344 199 1792 542" style="text-align: center;"> <p>使用済燃料ピット冷却機能</p> <p>使用済燃料ピット水浄化冷却系統*1</p> <p>使用済燃料ピット給水機能</p> <p>燃料取替用水系統*2</p> <p>※1 保安規定で定められた水温（65℃以下）に維持可能</p> <p>※2 放射線を遮蔽するために必要な水位を維持することが可能</p> </div> <p>図2 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統</p> <p>6. 溢水影響評価対象のスクリーニングについて</p> <p>3., 4., 5. から選定された防護対象設備から、溢水による設備機能への影響の有無（設備の種別、耐環境仕様等）を考慮したスクリーニングを行い、溢水影響評価上の防護対象設備として選定する。「別添1 3. 3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に従いスクリーニングを実施して溢水影響評価対象外とした設備については、「別添1 添付資料6 表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧」に示す。</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載内容の相違</p> <p>溢水影響評価対象のスクリーニングについて女川のみ資料の構成に合わせ、「別添1 3.3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に示していることから、ここでの記載は割愛した。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由										
<p>図3 防護対象設備のうち溢水影響評価対象の選定フロー</p>			<p>記載箇所の相違</p> <p>「別添1 3.3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に示していることから、ここでの記載は割愛した。</p>										
<p>表4 溢水影響評価の対象外とする理由</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>各ステップの項目</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①フェイルポジションで安全機能に影響しない設備</td> <td>「フェイルアズイズ」でも安全機能に影響しない電動弁、「フェイルポジション」でも安全機能に影響しない空気作動弁等、動作機能喪失によっても安全機能へ影響しない設備は溢水影響がないと評価した。</td> </tr> <tr> <td>②原子炉格納容器内の設置</td> <td>原子炉格納容器内に設置される設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、原子炉冷却材喪失（L O C A）時の原子炉格納容器内の状態（温度、圧力及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様としているため、溢水影響はないと評価した。 又は溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないものは溢水影響がないと評価した。</td> </tr> <tr> <td>③水の影響を受けない設備</td> <td>容器、熱交換器、フィルタ、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、静的機器は溢水影響がないと評価した。</td> </tr> <tr> <td>④他の設備で代替できる設備</td> <td>他の設備により機能が代替できる設備は機能喪失しても安全機能に影響しない。具体的には、補助給水隔離弁が機能喪失しても上流側に設置されている補助給水流量調節弁は補助給水隔離弁と別区画にあり隔離機能を有する。</td> </tr> </tbody> </table>	各ステップの項目	理由	①フェイルポジションで安全機能に影響しない設備	「フェイルアズイズ」でも安全機能に影響しない電動弁、「フェイルポジション」でも安全機能に影響しない空気作動弁等、動作機能喪失によっても安全機能へ影響しない設備は溢水影響がないと評価した。	②原子炉格納容器内の設置	原子炉格納容器内に設置される設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、原子炉冷却材喪失（L O C A）時の原子炉格納容器内の状態（温度、圧力及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様としているため、溢水影響はないと評価した。 又は溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないものは溢水影響がないと評価した。	③水の影響を受けない設備	容器、熱交換器、フィルタ、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、静的機器は溢水影響がないと評価した。	④他の設備で代替できる設備	他の設備により機能が代替できる設備は機能喪失しても安全機能に影響しない。具体的には、補助給水隔離弁が機能喪失しても上流側に設置されている補助給水流量調節弁は補助給水隔離弁と別区画にあり隔離機能を有する。			<p>記載箇所の相違</p> <p>「別添1 3.3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に示していることから、ここでの記載は割愛した。</p>
各ステップの項目	理由												
①フェイルポジションで安全機能に影響しない設備	「フェイルアズイズ」でも安全機能に影響しない電動弁、「フェイルポジション」でも安全機能に影響しない空気作動弁等、動作機能喪失によっても安全機能へ影響しない設備は溢水影響がないと評価した。												
②原子炉格納容器内の設置	原子炉格納容器内に設置される設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、原子炉冷却材喪失（L O C A）時の原子炉格納容器内の状態（温度、圧力及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様としているため、溢水影響はないと評価した。 又は溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないものは溢水影響がないと評価した。												
③水の影響を受けない設備	容器、熱交換器、フィルタ、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、静的機器は溢水影響がないと評価した。												
④他の設備で代替できる設備	他の設備により機能が代替できる設備は機能喪失しても安全機能に影響しない。具体的には、補助給水隔離弁が機能喪失しても上流側に設置されている補助給水流量調節弁は補助給水隔離弁と別区画にあり隔離機能を有する。												



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>6. 計装設備の選定の考え方について</p> <p>サポート系の計装設備については、系統及び設備の状態を監視する設備並びに事故時のプラント状態を把握する設備を防護対象設備とする。</p> <p>ただし、原子炉格納容器内に設置された計器の内、事故時のプラント状態を把握する計器設備（検出器）には耐環境性があることから溢水影響はないと評価した。</p> <p>以下に計装設備（監視パラメータ）の選定結果を示す。なお、原子炉格納容器内の計装設備であっても安全停止の達成に必要な監視パラメータ、事故時監視パラメータを整理した。具体的な方法は、本章の（4）にまとめる。</p> <p>（1）原子炉の高温停止及び低温停止に必要な計装設備</p> <p>高温停止に関して、原子炉トリップ、補助給水、高圧注入及び低圧注入の作動信号を期待するパラメータは以下である。</p> <p>原子炉トリップ：出力領域中性子束、<b>過大温度</b> <math>\Delta T</math>、<b>過大出力</b> <math>\Delta T</math>、加圧器圧力、1次冷却材流量、<b>1次冷却材ポンプ回転数低</b>、蒸気発生器水位（狭域）</p> <p>補助給水：蒸気発生器水位（狭域）、  <b>（復水ビット水位：監視パラメータとして期待）</b></p> <p>高圧注入：加圧器圧力、<b>主蒸気圧力</b>、格納容器圧力、  <b>（格納容器再循環サンプル水位：監視パラメータとして期待）</b></p> <p>また、安全系による低温停止操作を行うための監視パラメータは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次冷却材温度（広域）</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・蒸気発生器水位（広域）</li> <li>・<b>主蒸気圧力</b></li> <li>・<b>蒸気発生器補助給水流量</b></li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・加圧器水位</li> </ul>		<p>7. 計装設備の選定の考え方について</p> <p>サポート系の計装設備については、系統及び設備の状態を監視する設備並びに事故時のプラント状態を把握する設備を防護対象設備とする。</p> <p>ただし、原子炉格納容器内に設置された計器の内、事故時のプラント状態を把握する計器設備（検出器）には耐環境性があることから溢水影響はないと評価した。</p> <p>以下に計装設備（監視パラメータ）の選定結果を示す。なお、原子炉格納容器内の計装設備であっても安全停止の達成に必要な監視パラメータ、事故時監視パラメータを整理した。具体的な方法は、本章の（4）にまとめる。</p> <p>（1）原子炉の高温停止及び低温停止に必要な計装設備</p> <p>高温停止に関して、原子炉トリップ、補助給水、高圧注入及び低圧注入の作動信号を期待するパラメータは以下である。</p> <p>原子炉トリップ：出力領域中性子束、<math>T_{avg}</math>、<math>\Delta T</math>、加圧器圧力、1次冷却材流量、<b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b>、蒸気発生器水位（狭域）</p> <p>補助給水：蒸気発生器水位（狭域）、  <b>（補助給水ビット水位：監視パラメータとして期待）</b></p> <p>高圧注入：加圧器圧力、<b>主蒸気ライン圧力</b>、格納容器圧力、<b>加圧器水位</b>、  <b>（格納容器再循環サンプル水位：監視パラメータとして期待）</b></p> <p>また、安全系による低温停止操作を行うための監視パラメータは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次冷却材温度（広域）</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・蒸気発生器水位（広域）</li> <li>・<b>主蒸気ライン圧力</b></li> <li>・<b>補助給水ライン流量</b></li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・加圧器水位</li> </ul>	<p>相違理由</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載内容の相違</p> <p>採用ロジックの違い</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載内容の相違</p> <p>採用ロジックの違い</p> <p>記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 原子炉外乱への対処に必要な計装設備</p> <p>原子炉外乱への対処機能として、以下のパラメータによる作動信号発信を期待する。</p> <p>原子炉トリップ：(1)と同じ                      補助給水：(1)と同じ                      高圧注入：(1)と同じ                      低圧注入：加圧器圧力、主蒸気圧力、格納容器圧力、</p> <p>(格納容器再循環サンプ水位、余熱除去ポンプ出口流量：監視パラメータとして期待)</p> <p>格納容器スプレイ：格納容器圧力                      格納容器隔離：高圧注入、格納容器スプレイと同じ</p> <p>溢水影響評価上想定する事象は設計想定事故（LOCA及び制御棒飛び出し）を含むことから、以下の事故時監視パラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中性子源領域中性子束</li> <li>・原子炉トリップ遮断器の状態</li> <li>・1次冷却材温度（広域）</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・加圧器水位</li> <li>・蒸気発生器水位（狭域）</li> <li>・蒸気発生器水位（広域）</li> <li>・主蒸気圧力</li> <li>・格納容器圧力</li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・復水ビット水位</li> <li>・格納容器再循環サンプ水位</li> <li>・蒸気発生器補助給水流量</li> <li>・格納容器高レンジエリアモニタ</li> </ul> <p>上記に加え、安全上特に重要な関連機能に必要な情報を監視するパラメータとして、以下のパラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉補機冷却水サージタンク水位</li> <li>・制御用空気供給母管圧力</li> </ul>		<p>(2) 原子炉外乱への対処に必要な計装設備</p> <p>原子炉外乱への対処機能として、以下のパラメータによる作動信号発信を期待する。</p> <p>原子炉トリップ：(1)と同じ                      補助給水：(1)と同じ                      高圧注入：(1)と同じ                      低圧注入：加圧器圧力、主蒸気ライン圧力、格納容器圧力、</p> <p>(格納容器再循環サンプ水位、余熱除去ポンプ出口流量：監視パラメータとして期待)</p> <p>格納容器スプレイ：格納容器圧力                      格納容器隔離：高圧注入、格納容器スプレイと同じ</p> <p>溢水影響評価上想定する事象は設計基準事故（「LOCA」及び「制御棒飛び出し」）を含むことから、以下の事故時監視パラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中性子源領域中性子束</li> <li>・原子炉トリップ遮断器の状態</li> <li>・1次冷却材温度（広域）</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・加圧器水位</li> <li>・蒸気発生器水位（狭域）</li> <li>・蒸気発生器水位（広域）</li> <li>・主蒸気圧力</li> <li>・格納容器圧力</li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・補助給水ビット水位</li> <li>・格納容器再循環サンプ水位</li> <li>・補助給水ライン流量</li> <li>・格納容器高レンジエリアモニタ</li> </ul> <p>上記に加え、安全上特に重要な関連機能に必要な情報を監視するパラメータとして、以下のパラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉補機冷却水サージタンク水位</li> <li>・制御用空気ヘッド圧力</li> </ul>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

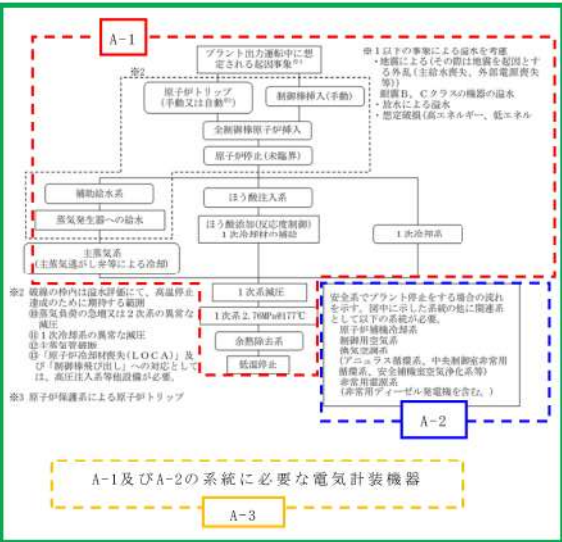
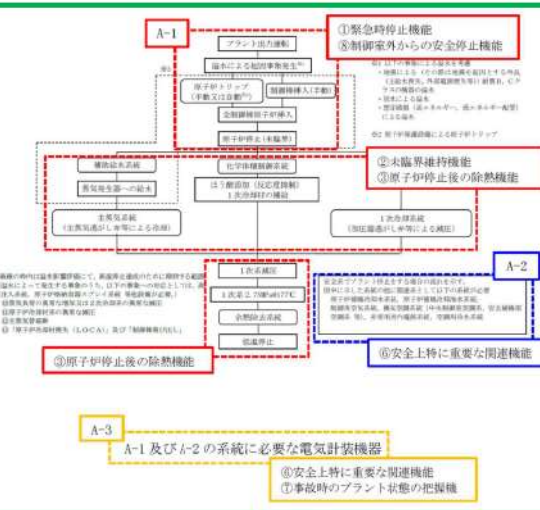
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な計装設備</p> <p>水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p> <p>(4) 溢水影響評価対象計装設備のスクリーニングについて</p> <p>原子炉格納容器内に設置される計装設備(検知器)のうち、L O C A時のみ機能要求がある設備については耐環境性を有しており機能を喪失することはない。一方、原子炉格納容器外の溢水事象においては、図1プラントの停止フローにしたがって高温停止、低温停止に移行するために必ずしも必要とされない設備（例えば、状態監視のみの現場指示計等、溢水により機能喪失しても安全は確保されるもの）については溢水影響はないと評価した。表5に計装設備の考え方を示す</p>		<p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な計装設備</p> <p>水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p> <p>(4) 溢水影響評価対象計装設備のスクリーニングについて</p> <p>原子炉格納容器内に設置される計装設備(検知器)のうち、L O C A時のみ機能要求がある設備については耐環境性を有しており機能を喪失することはない。一方、原子炉格納容器外の溢水事象においては、図1プラントの停止フローにしたがって高温停止、低温停止に移行するために必ずしも必要とされない設備（例えば、状態監視のみの現場指示計等、溢水により機能喪失しても安全は確保されるもの）については溢水影響はないと評価した。表5に計装設備の考え方を示す。</p>													
<p>表5 溢水影響評価対象外とする計装設備</p> <table border="1" data-bbox="112 726 638 1284"> <thead> <tr> <th>溢水影響はないと評価した計装設備</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出力領域中性子束、<b>過大温度</b>ΔT、<b>過大出力</b>ΔT、加圧器圧力、1次冷却材流量、<b>1次冷却材ポンプ回転数低</b>、蒸気発生器水位(狭域)</td> <td>プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである</td> </tr> <tr> <td>加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエリアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束</td> <td>事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、L O C A時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(L O C A)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。</td> </tr> </tbody> </table>	溢水影響はないと評価した計装設備	理由	出力領域中性子束、 <b>過大温度</b> ΔT、 <b>過大出力</b> ΔT、加圧器圧力、1次冷却材流量、 <b>1次冷却材ポンプ回転数低</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである	加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエリアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、L O C A時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(L O C A)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。		<p>表5 溢水影響評価対象外とする計装設備</p> <table border="1" data-bbox="1288 726 1859 1005"> <thead> <tr> <th>溢水影響はないと評価した計装設備</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出力領域中性子束、<b>Tavg</b>、<b>ΔT</b>、加圧器圧力、1次冷却材流量、<b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b>、蒸気発生器水位(狭域)</td> <td>プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである</td> </tr> <tr> <td>加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエリアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束</td> <td>事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、L O C A時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(L O C A)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。</td> </tr> </tbody> </table>	溢水影響はないと評価した計装設備	理由	出力領域中性子束、 <b>Tavg</b> 、 <b>ΔT</b> 、加圧器圧力、1次冷却材流量、 <b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである	加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエリアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、L O C A時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(L O C A)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。	<p>記載表現の相違                  記載内容の相違                  採用ロジックの違い</p>
溢水影響はないと評価した計装設備	理由														
出力領域中性子束、 <b>過大温度</b> ΔT、 <b>過大出力</b> ΔT、加圧器圧力、1次冷却材流量、 <b>1次冷却材ポンプ回転数低</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである														
加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエリアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、L O C A時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(L O C A)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。														
溢水影響はないと評価した計装設備	理由														
出力領域中性子束、 <b>Tavg</b> 、 <b>ΔT</b> 、加圧器圧力、1次冷却材流量、 <b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである														
加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエリアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、L O C A時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(L O C A)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>7. 電気設備の選定の考え方について</p> <p>電気設備は選定された防護対象設備及び計装設備に関連する電気設備（制御盤、電源盤等）を防護対象設備とする。</p> <p style="text-align: right;">補足資料2-2</p> <p>防護対象設備の機能要求について</p> <p>大阪3号炉及び4号炉の内部溢水影響評価においては、防護対象設備として次の設備を抽出している。</p> <p>(1)重要度の特に高い安全機能を有する系統設備                  (2)使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な設備                  (3)電源盤等の関連設備も含む</p> <p>また、前項「2-1 防護対象設備の抽出の考え方」のうち、下記の設備を「添付資料1.2-1のうち防護対象設備リスト」に記載した。</p> <p>「○」：溢水影響評価対象の防護対象設備                  「×*1」：プラントの停止の対処設備を明確にするために防護対象設備リストに追加した設備(溢水影響評価は対象外の設備)</p> <p>以降は、防護対象設備リストに記載された設備の機能要求を明確化するため、高温停止、低温停止及び閉じ込め機能の確保に必要な系統設備について、それぞれに1.（フロント系）直接系、2.（サポート系）間接系、3.（サポート系）電気計装機器が存在することから、下記のフローにて機能区分を整理した。</p> <div data-bbox="134 1149 683 1364" style="border: 2px solid green; padding: 5px;"> </div> <p style="text-align: center;">図1 機能区分の分類フロー</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p>	<p>8. 電気設備の選定の考え方について</p> <p>電気設備は選定された防護対象設備及び計装設備に関連する電気設備（制御盤、電源盤等）を防護対象設備とする。</p> <p>9. 防護対象設備の機能要求について</p> <p>「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に記載された設備の機能要求を明確化するため、高温停止、低温停止及び閉じ込め機能の確保並びに使用済燃料ピットの冷却・給水に必要な系統設備について、それぞれに1.（フロント系）直接系、2.（サポート系）間接系、3.（サポート系）電気計装機器が存在することから、図3のフローにて機能区分を整理した。さらに、機能区分に含まれる安全機能については、表6に整理した。</p> <div data-bbox="1288 1117 1848 1428" style="border: 2px solid green; padding: 5px;"> </div> <p style="text-align: center;">図3 機能区分の分離フロー</p>	<p>相違理由</p> <p><u>記載表現の相違</u></p> <p><u>記載箇所の相違</u></p> <p>大阪では、溢水影響評価は対象外の設備についても機能区分を整理しているが、女川では溢水影響評価対象の防護対象設備の安全機能を整理していることから、泊は女川に合わせることにした。(女川まとめ資料添付資料4)</p> <p><u>記載表現の相違</u></p> <p><u>記載箇所の相違</u></p> <p>図3のフローの記載に合わせた</p> <p><u>記載箇所の相違</u></p> <p>女川では安全機能を整理していることから、大阪の整理方法である機能区分と安全機能との対比をわかりやすくするため整理した</p> <p><u>記載表現の相違</u></p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
<p>上記フローにおける各項目は、「大飯3号炉及び4号炉内部溢水の影響評価について」（以下溢水影響評価書という）添付資料1.2-1の記載から、次のとおり判断できる。</p> <p>① 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な系統設備</p> 		<p>表6 機能区分に含まれる安全機能</p> <table border="1" data-bbox="1355 183 1780 678"> <thead> <tr> <th>機能区分</th> <th>安全機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A-1</td> <td>①緊急時停止機能 ②未臨界維持機能 ③原子炉停止後の除熱機能 ⑧制御室外からの安全停止機能</td> </tr> <tr> <td>A-2</td> <td>⑥安全上特に重要な関連機能</td> </tr> <tr> <td>A-3</td> <td>⑦事故時のプラント状態の把握機能</td> </tr> <tr> <td>B-1</td> <td>④炉心冷却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能 ⑥安全上特に重要な関連機能</td> </tr> <tr> <td>B-2</td> <td>⑥安全上特に重要な関連機能</td> </tr> <tr> <td>B-3</td> <td>⑦事故時のプラント状態の把握機能</td> </tr> <tr> <td>C-1</td> <td>⑨ピット冷却機能 ⑩ピット給水機能</td> </tr> <tr> <td>C-2</td> <td>(A-2 に包絡されている)</td> </tr> <tr> <td>C-3</td> <td>(A-3 に包絡されている)</td> </tr> </tbody> </table> <p>機能区分及び安全機能は、2.～8.の記載から、次のとおり判断できる。</p> <p>①原子炉の高温停止及び低温停止に必要な系統設備</p> 	機能区分	安全機能	A-1	①緊急時停止機能 ②未臨界維持機能 ③原子炉停止後の除熱機能 ⑧制御室外からの安全停止機能	A-2	⑥安全上特に重要な関連機能	A-3	⑦事故時のプラント状態の把握機能	B-1	④炉心冷却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能 ⑥安全上特に重要な関連機能	B-2	⑥安全上特に重要な関連機能	B-3	⑦事故時のプラント状態の把握機能	C-1	⑨ピット冷却機能 ⑩ピット給水機能	C-2	(A-2 に包絡されている)	C-3	(A-3 に包絡されている)	<p>記載箇所の相違                  女川では安全機能を整理していることから、機能区分と安全機能との対比を整理して記載した</p> <p>記載箇所の相違                  女川では安全機能を整理していることから、機能区分と安全機能との対比を整理して記載した</p> <p>記載表現の相違</p>
機能区分	安全機能																						
A-1	①緊急時停止機能 ②未臨界維持機能 ③原子炉停止後の除熱機能 ⑧制御室外からの安全停止機能																						
A-2	⑥安全上特に重要な関連機能																						
A-3	⑦事故時のプラント状態の把握機能																						
B-1	④炉心冷却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能 ⑥安全上特に重要な関連機能																						
B-2	⑥安全上特に重要な関連機能																						
B-3	⑦事故時のプラント状態の把握機能																						
C-1	⑨ピット冷却機能 ⑩ピット給水機能																						
C-2	(A-2 に包絡されている)																						
C-3	(A-3 に包絡されている)																						

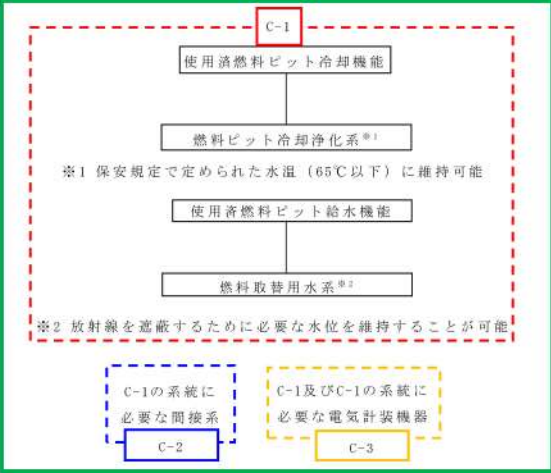
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																				
<p>② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備</p> <table border="1" data-bbox="123 199 660 917"> <thead> <tr> <th>図水評価上想定する事象</th> <th>上記事象に対する対応機能</th> <th>対応系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」（出力運転中の制御棒の異常な引き抜き）「制御棒の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」（ほう素濃度制御異常時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁閉鎖時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥負荷の喪失（主蒸気調整弁閉鎖時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧主給水管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨外部電源喪失</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス閉鎖時）</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪原子炉冷却材系の異常な減圧及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁</td> <td>上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁</td> </tr> <tr> <td>⑫主蒸気管破断</td> <td>上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁</td> <td>上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁</td> </tr> <tr> <td>⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁</td> <td>上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁閉          ※2 蒸気ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁閉          ※3 タービントリップ          ※4 主蒸気透かし弁閉、タービン蒸気加熱弁閉          ※5 加圧器スプレイ弁閉、加圧器補助スプレイ弁閉</p> <p>「② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備」の機能区分となる系統は黄色の四角で囲った系統設備。</p> <p>B-1 B-2 B-3</p>	図水評価上想定する事象	上記事象に対する対応機能	対応系統	①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」（出力運転中の制御棒の異常な引き抜き）「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」（ほう素濃度制御異常時）			③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却ポンプ停止）			④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁閉鎖時）			⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止時）			⑥負荷の喪失（主蒸気調整弁閉鎖時）			⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動			⑧主給水管破断			⑨外部電源喪失			⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス閉鎖時）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪原子炉冷却材系の異常な減圧及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・高圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁	⑫主蒸気管破断	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁	⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁	<p>女川原子力発電所2号炉</p>	<p>② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備</p> <table border="1" data-bbox="1299 199 1836 1005"> <thead> <tr> <th>図水評価上想定する事象</th> <th>上記事象に対する対応機能</th> <th>対応系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御異常時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁閉鎖時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥負荷の喪失（主蒸気調整弁閉鎖時）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧主給水管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨外部電源喪失</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス閉鎖時）</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器透かし弁閉鎖時）</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑫主蒸気管破断</td> <td>上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁</td> <td>上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁</td> </tr> <tr> <td>⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁</td> <td>上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁閉          ※2 蒸気ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁閉          ※3 蒸気タービン停止          ※4 主蒸気透かし弁閉、タービン蒸気加熱弁閉          ※5 加圧器スプレイ弁閉、加圧器補助スプレイ弁閉</p> <p>「② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備」の機能区分となる系統は黄色の四角で囲った系統設備。</p> <p>B-1 B-2 B-3</p> <p>記載表現の相違</p>	図水評価上想定する事象	上記事象に対する対応機能	対応系統	①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御異常時）			③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却ポンプ停止）			④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁閉鎖時）			⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止時）			⑥負荷の喪失（主蒸気調整弁閉鎖時）			⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動			⑧主給水管破断			⑨外部電源喪失			⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス閉鎖時）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器透かし弁閉鎖時）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑫主蒸気管破断	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁	⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁	<p>相違理由</p>
図水評価上想定する事象	上記事象に対する対応機能	対応系統																																																																																					
①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」（出力運転中の制御棒の異常な引き抜き）「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																																					
②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」（ほう素濃度制御異常時）																																																																																							
③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却ポンプ停止）																																																																																							
④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁閉鎖時）																																																																																							
⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止時）																																																																																							
⑥負荷の喪失（主蒸気調整弁閉鎖時）																																																																																							
⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動																																																																																							
⑧主給水管破断																																																																																							
⑨外部電源喪失																																																																																							
⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス閉鎖時）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																																					
⑪原子炉冷却材系の異常な減圧及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・高圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁																																																																																					
⑫主蒸気管破断	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁																																																																																					
⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁																																																																																					
図水評価上想定する事象	上記事象に対する対応機能	対応系統																																																																																					
①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																																					
②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御異常時）																																																																																							
③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却ポンプ停止）																																																																																							
④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁閉鎖時）																																																																																							
⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止時）																																																																																							
⑥負荷の喪失（主蒸気調整弁閉鎖時）																																																																																							
⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動																																																																																							
⑧主給水管破断																																																																																							
⑨外部電源喪失																																																																																							
⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス閉鎖時）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																																					
⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器透かし弁閉鎖時）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																																					
⑫主蒸気管破断	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁																																																																																					
⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・格納容器隔離弁																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>③ 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な設備</p>  <p>※1 保安規定で定められた水温（65℃以下）に維持可能</p> <p>※2 放射線を遮蔽するために必要な水位を維持することが可能</p> <p>C-1の系統に必要な間接系 C-2</p> <p>C-1及びC-1の系統に必要な電気計装機器 C-3</p> <p>次ページ以降に機能要求区分を示した防護対象設備リストを示す。</p>		<p>③使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な設備</p>  <p>※1 保安規定で定められた水温（65℃以下）に維持可能</p> <p>※2 放射線を遮蔽するために必要な水位を維持することが可能</p> <p>C-1の系統に必要な間接系 C-2</p> <p>C-1及びC-2の系統に必要な電気計装機器 C-3</p> <p>安全機能を示した防護対象設備リストは、「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示す。</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載箇所の相違                  女川審査実績の反映                  （女川では安全機能を整理して防護対象設備一覧に記載していることから、泊では「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（1/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
補助給水系	3A, 3B電動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ 起動弁A, B (3V-MS-570A, B)	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ 起動弁A, B (3TOP-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	3A, 3B, 3C, 3D蒸気発生器補助給水流量 (3FT-3716, 3726, 3736, 3746)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	3復水ピット水位Ⅲ, IV (3LT-3760, 3761)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	3復水ピット	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3A, 3B充てんポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3C充てんポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3C充てんポンプ速度制御盤 (3CSC)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3C充てんポンプ速度制御補助盤 (3CSAC)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3A, 3B, 3C1, 3C2充てんポンプ現場操作箱 (3LB-5, 6, 7, 8)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3充てんポンプ入口燃料取替用水ピット側補助弁A, B (3LCV-121B, E)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸ポンプ現場操作箱 (3LB-9, 10)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3充てんライン止め弁 (3V-CS-155)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3体積制御タンク出口第1止め弁 (3LCV-121B)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3体積制御タンク出口第2止め弁 (3LCV-121C)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3緊急ほう酸注入ライン補助弁 (3V-CS-573)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3充てんライン格納容器隔離弁 (3V-CS-157)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3-1次冷却材ポンプ封水戻りライン格納容器第2隔離弁 (3V-CS-312)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
化学体積制御系	3封水冷却器	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3A, 3B封水注入フィルタ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（2/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
化学体積制御系	3封水ストレーナ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3体積制御タンク	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸タンク水位 (3LT-206, 208)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸タンク	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3ほう酸フィルタ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ現場操作箱 (3LB-14, 15)	原子炉周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ出口流量 (3PT-601, 611)	原子炉周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプミニマムフローライン止め弁 (3PCV-601, 611)	原子炉周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去冷却器	原子炉周辺建屋	A-1	余熱除去機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気圧縮機制御盤 (3IAC-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	サポート機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気圧縮機	原子炉周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気乾燥器 (3IAHA, B)	原子炉周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気だめ (3IATA, B)	原子炉周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	3A-C, 3B-C制御用空気母管連絡弁 (3V-1A-501A, B)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気主蒸気逃がし弁等供給ライン止め弁 (3V-1A-505A, B)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	3A, 3B 制御用空気格納容器隔離弁 (3V-1A-508A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気供給母管圧力 (3PI-1800, 1810)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気系統のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B余熱除去冷却器冷却水止め弁 (3V-CC-114A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク水位III, IV (3LT-1200, 1201)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機冷却系	3A, 3B原子炉補機冷却水冷却器	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備 除く）（3/9）							<p>記載箇所の相違</p> <p>泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。</p>
系統	設備	設置建屋	機能区分	機能要求			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C, 3D原子炉補機冷却水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C, 3D原子炉補機冷却水ポンプ現場操作箱 (31B-20, 21, 22, 23)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A・C, 3B・C原子炉補機冷却水戻り母管連絡弁 (3V-CC-043A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A・C, 3B・C原子炉補機冷却水供給母管連絡弁 (3V-CC-056A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	34廃棄物処理建屋冷却水供給ライン第1, 2止め弁 (3号機側) (34V-CC-600, 601)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B格納容器スプレイ冷却器冷却水止め弁 (3V-CC-178A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3-1次冷却材ポンプ冷却水供給ライン格納容器隔離弁 (3V-CC-403)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3-1次冷却材ポンプ冷却水戻りライン格納容器第2隔離弁 (3V-CC-429)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3-CRDM冷却ユニット・余剰抽出冷却器冷却水供給ラインCV隔離弁 (3V-CC-342)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3-CRDM冷却ユニット・余剰抽出冷却器冷却水戻りラインCV隔離弁 (3V-CC-365)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3A・D, 3B・C 格納容器再循環ユニット冷却水供給ライン格納容器隔離弁 (3V-CC-189A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C, 3D 格納容器再循環ユニット冷却水戻りライン格納容器隔離弁 (3V-CC-198A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B原子炉補機冷却水冷却器海水止め弁 (3V-SW-570A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3海水ポンプ出口3A, 3B, 3C, 3D海水ストレーナ (3S-SW-01A, B, C, D)	海水ポンプエリア	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C海水ポンプ	海水ポンプエリア	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B1, 3B2, 3C海水ポンプ現場操作箱 (31B-26, 27, 28, 29)	海水ポンプエリア	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3主盤 (原子炉盤) (3MCB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（4/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
電気盤	3原子炉補助盤 (3RAB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3原子炉安全保護計装盤 I, II, III, IV (3RPR-I, II, III, IV)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D原子炉安全保護ロジック盤 (3RPL-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3安全保護シーケンス盤 AG1, AG2, BG1, BG2 (3SFS-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3所内盤 (3HSB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	事故時放射線監視盤 3RMS (3PRMS-III, IV)	制御建屋	B-3	事故時のプラント状態の把握			
電気盤	3原子炉トリップ遮断器盤 (3RTS)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3A3, 3A4, 3B1, 3B2, 3B3, 3B4ソレノイド分電盤 (3SD-A1, A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3Bドロップ盤 (3BCP-A-DRP, 3BCP-B-DRP)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B直流き電盤 (3DMP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B直流分電盤 (3DDP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B蓄電池	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B充電器盤 (3BCP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2メタルクラッドスイッチギア (3MC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2パワーセンタ (3PC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2原子炉コントロールセンタ (3RCC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D計装用電源盤 (1)~(3) (3IBC-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2, 3C1, 3C2, 3D1, 3D2計装用分電盤 (3IFD-A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D計装用交流電源切替盤 (3ISP-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3AC, 3BD計装用後備分電盤 (3IBD-AC, BD)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機コントロールセンタ (3GCC-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（5/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設 備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル機関	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機制御盤 (3DGC-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイ冷却器	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能 (溢水影響評価対象外)			
格納容器スプレイ系	3よう素除去薬品タンク	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能 (溢水影響評価対象外)			
格納容器スプレイ系	3格納容器圧力 (広域) I, II, III, IV (3PT-950, 951, 952, 953)	原子炉周辺建屋	B-3	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ現場操作箱 (3LB-18, 19)	原子炉周辺建屋	B-3	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ燃料取替用水ビット側入口止め弁 (3V-CP-001A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (3V-CP-003A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイヘッダ冷却器出口格納容器隔離弁 (3V-CP-024A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3Bよう素除去薬品注入ライン第1止め弁 (3V-CP-054A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	3A, 3Bよう素除去薬品注入ライン第2止め弁 (3V-CP-056A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ現場操作箱 (3LB-12, 13)	原子炉周辺建屋	B-3	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ燃料取替用水ビット側入口弁 (3V-SI-002A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプミニマムフローライン第1止め弁 (3V-SI-015A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプミニマムフローライン第2止め弁 (3V-SI-016A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ格納容器再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (3V-SI-093A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（6/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分	機能要求			
安全注入系	3A, 3B余熱除去ポンプRWSピット及び再循環サンプ側入口弁 (3V-101-090A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A高圧注入流量(I), 3B高圧注入流量(II) (3FT-962, 963)	原子炉周辺建屋	B-3	高圧注入機能			
安全注入系	3燃料取替用水ピット水位I, II, III, IV (3LT-1400, 1401, 1402, 1403)	原子炉周辺建屋	B-3 / C-3	高圧注入機能/使用済燃料ピットの冷却機能			
安全注入系、燃料取替用水系	3燃料取替用水ピット	原子炉周辺建屋	B-1 / C-1	高圧注入機能/使用済燃料ピットの冷却機能 (溢水影響評価対象外)			
燃料取替用水系	3A, 3B燃料取替用水ポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料取替用水系	3A, 3B燃料取替用水ポンプ現場操作箱 (3LB-33, 34)	原子炉周辺建屋	C-3	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピット冷却器	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能 (溢水影響評価対象外)			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピット	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能 (溢水影響評価対象外)			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピットポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピットポンプ現場操作箱 (3LB-24, 25)	原子炉周辺建屋	C-3	使用済燃料ピットの冷却機能			
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気逃がし弁 (3PCV-3610, 3620, 3630, 3640)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	I, II, III, IV, 3A, 3B, 3C, 3D主蒸気圧力 (3PT-465, 466, 467, 468, 475, 476, 477, 478, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁 (3V-MS-533A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁 (3V-MS-533A, B, C, D 付属パネル)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷凍機	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷水ポンプ現場操作箱 (3LB-103, 104, 105, 106)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	3空調用冷水Nヘッダ供給、戻りライン止め弁 (3V-CH-032, 033)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（7/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分 <sup>※</sup>	機能要求			
冷水系	3A, 3B中央制御室空調ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2878, 2879)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	34C, 34D安全補機開閉器室空調ユニット冷水温度制御弁 (34TCV-2800, 2801)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3換気空調盤 (3VB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン現場操作箱 (3LB-101, 102)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン出口ダンパ (3D-VS-603A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン出口流量 (3FS-2910, 2911)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3中央制御室温度(1), (2) (3TS-2908, 2909)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン現場操作箱 (3LB-95, 96)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン入口ダンパ (3D-VS-604A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環流量調節ダンパ (3HD-2885, 2886)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ダンパ流量設定 (3HC-2885, 2886)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B, 34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン現場操作箱 (34LB-13, 14, 20, 21)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3安全系電気盤室給気止めダンパA, B (3D-VS-532, 533)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3安全系電気盤室排気止めダンパA (3D-VS-536)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3安全系電気盤室排気止めダンパB (3D-VS-537)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B安全補機開閉器室温度 (3TS-2817, 2818)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B制御用空気圧縮機室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B制御用空気圧縮機室給気ファン現場操作箱 (3LB-90, 91)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3制御用空気圧縮機室排気ダンパA, B (3D-VS-431A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（8/9）							<p>記載箇所の相違</p> <p>泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。</p>
系統	設 備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	3制御用空気圧縮機室温度(1),(2),(3),(4) (3TS-2771,2772,2773,2774)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B電動補助給水ポンプ室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B電動補助給水ポンプ室給気ファン現場操作箱 (3LB-86,87)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3電動補助給水ポンプ室排気タンクA,B (3D-VS-411A,B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B電動補助給水ポンプ室温度(1),(2) (3TS-2741,2742,2743,2744)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A1,3A2,3B1,3B2ディーゼル発電機室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A1・A2,3B1・B2ディーゼル発電機室給気ファン現場操作箱 (3LB-84,85)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3ディーゼル発電機室排気タンクA1,A2,B1,B2 (3D-VS-401A,B,403A,B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3Bディーゼル発電機室温度(1),(2),(3),(4) (3TS-2701,2702,2703,2704,2711,2712,2713,2714)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B安全補機室冷却ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B安全補機室冷却ファン現場操作箱 (3LB-82,83)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B安全補機室温度(1),(2) (3TS-2680,2681,2690,2691)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B安全補機室排気タンク (3D-VS-105A,B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3Bほう酸ポンプ室空調ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3Bほう酸ポンプ室空調ファン現場操作箱 (3LB-77,78)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3Bほう酸ポンプ室空調ファン給気加熱コイル	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3Bほう酸ポンプ室温度調節計 (3TC-2601,2611)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3ほう酸タンク室温度(1),(2),(3),(4) (3TS-2602,2603,2612,2613)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A,3B中央制御室非常用循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（9/9）							<p>記載箇所の相違</p> <p>泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。</p>
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	3A, B中央制御室非常用循環ファン現場操作箱 (3LB-97, 98)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ (3D-VS-602A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室外気取入流量調節ダンパ (3HC-D-2874, 2875)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時外気取入流量調節ダンパ (3HC-D-2889, 2890)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時循環流量調節ダンパ (3HC-D-2891, 2892)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室非常用循環ファン出口流量 (3ES-2904, 2905)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室外気取入調節ダンパ流量設定 (3HC-2874, 2875)	制御建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時外気取入調節ダンパ流量設定 (3HC-2889, 2890)	制御建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時循環ダンパ流量設定 (3HC-2891, 2892)	制御建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス空気浄化ファン (3VSE9A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス空気浄化ファン現場操作箱 (3LB-52, 53)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス排気ダンパ (3D-VS-101A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス展りダンパ (3D-VS-104A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス全量排気弁 (3V-VS-102A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス少量排気弁 (3V-VS-103A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備を除く）（1/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
補助給水系	4A, 4B電動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ起動弁A, B (4V-MS-570A, B)	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ起動弁A, B (4TDF-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	4A, 4B, 4C, 4D蒸気発生器補助給水流量 (4FT-3716, 3726, 3736, 3746)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	4復水ビット水位III, IV (4LI-3760, 3761)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	4復水ビット	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4A, 4B充てんポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4C充てんポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4C充てんポンプ速度制御盤 (4CSC)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4C充てんポンプ速度制御補助盤 (4CSAC)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4B, 4C1, 4C2充てんポンプ現場操作箱 (4LB-5, 6, 7, 8)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4充てんポンプ入口燃料取替用水ビット側補助弁A, B (4LCV-121D, E)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸ポンプ現場操作箱 (4LB-9, 10)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4充てんライン止め弁 (4V-CS-155)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4体積制御タンク出口第1止め弁 (4LCV-121B)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4体積制御タンク出口第2止め弁 (4LCV-121C)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4緊急ほう酸注入ライン補給弁 (4V-CS-573)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4充てんライン格納容器隔離弁 (4V-CS-157)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4-1次冷却材ポンプ封水戻りライン格納容器第2隔離弁 (4V-CS-312)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
化学体積制御系	4封水冷却器	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4A, 4B封水注入フィルタ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（2/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
化学体積制御系	4封水ストレナー	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4体積制御タンク	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸タンク水位 (4LT-206, 208)	原子炉 周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸タンク	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4ほう酸フィルタ	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ	原子炉 周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ現場操作箱 (4LB-14, 15)	原子炉 周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ出口流量 (4FT-601, 611)	原子炉 周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプミニマムフローライン止め弁 (4FCV-601, 611)	原子炉 周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去冷却器	原子炉 周辺建屋	A-1	余熱除去機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気圧縮機制御盤 (4IAC-A, B)	原子炉 周辺建屋	A-3	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気圧縮機	原子炉 周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気乾燥器 (4IAHA, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気ため (4IATA, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	4A-C, 4B-C制御用空気母管連絡弁 (4V-1A-501A, B)	原子炉 周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気主蒸気逃がし弁等供給ライン止め弁 (4V-1A-505A, B)	原子炉 周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B 制御用空気格納容器隔離弁 (4V-1A-508A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気供給母管圧力 (4PT-1800, 1810)	原子炉 周辺建屋	A-3	主蒸気系統のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4A, 4B余熱除去冷却器冷却水止め弁 (4V-CC-114A, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4原子炉補機冷却水サージタンク水位Ⅲ, IV (4LT-1200, 1201)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4原子炉補機冷却水サージタンク	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機冷却系	4A, 4B原子炉補機冷却水冷却器	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備 除く）（3/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防 護対象設備一覧」に示し、ここで の記載は割愛した。
系統	設 備	設置建屋	機能 区分 <sup>※</sup>	機能要求			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D原子炉補機 冷却水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D原子炉補機冷却 水ポンプ現場操作箱 (41B-20, 21, 22, 23)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4A・C, 4B・C原子炉補機冷却水 戻り母管連絡弁 (4V-CC-043A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4A・C, 4B・C原子炉補機冷却水 供給母管連絡弁 (4V-CC-056A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4廃棄物処理建屋冷却水供給 ライン第1, 2止め弁(4号機側) (4V-CC-605, 606)	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B格納容器スプレイ冷却 器冷却水止め弁 (4V-CC-178A, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供 給ライン格納容器隔離弁 (4V-CC-403)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水戻 りライン格納容器第2隔離弁 (4V-CC-429)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機 冷却系	4 CRIM冷却ユニット・余剰抽 出冷却器冷却水供給ラインCV 隔離弁(4V-CC-342)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機 冷却系	4 CRIM冷却ユニット・余剰抽 出冷却器冷却水戻りラインCV 隔離弁(4V-CC-365)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機 冷却系	4A・D, 4B・C 格納容器再循環 ユニット冷却水供給ライン格納 容器隔離弁(4V-CC-189A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D 格納容器再循環 ユニット冷却水戻りライン格 納容器隔離弁 (4V-CC-198A, B, C, D)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B原子炉補機冷却水冷却 器海水止め弁 (4V-SW-570A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4海水ポンプ出口4A, 4B, 4C, 4D 海水ストレーナ (4S-SW-01A, B, C, D)	海水ポン プエリア	A-2	プラント停止に必要な系 統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C海水ポンプ	海水ポン プエリア	A-2	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B1, 4B2, 4C海水ポンプ現 場操作箱 (41B-26, 27, 28, 29)	海水ポン プエリア	A-3	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			
電気盤	4主盤（原子炉盤） (4MCB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な 系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（4/9）							<p>記載箇所の相違</p> <p>泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。</p>
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
電気盤	4原子炉補助盤 (4RAB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4原子炉安全保護計装盤 I, II, III, IV (4RPP-I, II, III, IV)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D原子炉安全保護ロジック盤 (4RPL-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4安全保護シーケンス盤 AG1, AG2, BG1, BG2 (4SFS-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4所内盤 (4HSB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	事故時放射線監視盤 4EMS (4PRMS-III, IV)	制御建屋	B-3	事故時のプラント状態の把握機能			
電気盤	4原子炉トリップ遮断器盤 (4RTS)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4A3, 4A4, 4B1, 4B2, 4B3, 4B4ソレノイド分電盤 (4SD-A1, A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4Bドロップ盤 (4BCP-A-DRP, 4BCP-B-DRP)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B直流分電盤 (4DMP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B直流分電盤 (4DDP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B蓄電池	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B充電器盤 (4DCT-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2メタルクラッドスイッチギア (4MC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2パワーセンタ (4PC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2原子炉コントロールセンタ (4RCC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D計装用電源盤 (1)~(3) (4IBC-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2, 4C1, 4C2, 4D1, 4D2計装用分電盤 (4IPD-A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D計装用交流電源切替盤 (4ISP-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4AC, 4BD計装用後備分電盤 (4IBD-AC, BD)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機コントロールセンタ (4GCC-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（5/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分 <sup>※</sup>	機能要求			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル機関	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機制御盤 (4DG-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイ冷却器	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能（溢水影響評価対象外）			
格納容器スプレイ系	4よう薬除去薬品タンク	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能（溢水影響評価対象外）			
格納容器スプレイ系	4格納容器圧力（広域）I, II, III, IV (4PT-950, 951, 952, 953)	原子炉周辺建屋	B-3	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ現場操作箱 (4LB-18, 19)	原子炉周辺建屋	B-3	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ燃料取替用水ピット側入口止め弁 (4V-CP-001A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (4V-CP-003A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイヘッダ冷却器出口格納容器隔離弁 (4V-CP-024A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4Bよう薬除去薬品注入ライン第1止め弁 (4V-CP-054A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4Bよう薬除去薬品注入ライン第2止め弁 (4V-CP-056A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ現場操作箱 (4LB-12, 13)	原子炉周辺建屋	B-3	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ燃料取替用水ピット側入口弁 (4V-SI-002A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプミニマムフローライン第1止め弁 (4V-SI-015A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプミニマムフローライン第2止め弁 (4V-SI-016A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ格納容器再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (4V-SI-093A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（6/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
安全注入系	4A, 4B 余熱除去ポンプRWSピット及び再循環サンプ側入口弁（4V-S1-099A, B）	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A 高圧注入流量（I）, 4B 高圧注入流量（II）（4PT-962, 963）	原子炉周辺建屋	B-3	高圧注入機能			
安全注入系	4 燃料取替用水ピット水位 I, II, III, IV（4LT-1400, 1401, 1402, 1403）	原子炉周辺建屋	B-3 /C-3	高圧注入機能/SFPの冷却機能			
安全注入系、燃料取替用水系	4 燃料取替用水ピット	原子炉周辺建屋	B-1 /C-1	高圧注入機能/使用済燃料ピットの冷却機能（溢水影響評価対象外）			
燃料取替用水系	4A, 4B 燃料取替用水ポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料取替用水系	4A, 4B 燃料取替用水ポンプ現場操作箱（4LB-33, 34）	原子炉周辺建屋	C-3	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B 使用済燃料ピット冷却器	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能（溢水影響評価対象外）			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B 使用済燃料ピット	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能（溢水影響評価対象外）			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B 使用済燃料ピットポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	SFPの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B 使用済燃料ピットポンプ現場操作箱（4LB-24, 25）	原子炉周辺建屋	C-3	SFPの冷却機能			
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D 主蒸気逃がし弁（4PCV-3610, 3620, 3630, 3640）	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	I, II, III, IV, 4A, 4B, 4C, 4D 主蒸気圧力（4PT-465, 466, 467, 468, 475, 476, 477, 478, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498）	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D 主蒸気隔離弁（4V-MS-533A, B, C, D）	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D 主蒸気隔離弁（4V-MS-533A, B, C, D 付属パネル）	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D 空調用冷凍機	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D 空調用冷水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D 空調用冷水ポンプ現場操作箱（4LB-103, 104, 105, 106）	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	4 空調用冷水Nヘッダ供給、戻りライン止め弁（4V-CH-032, 033）	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（7/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分 <sup>①</sup>	機能要求			
冷水系	4A, 4B中央制御室空調ユニット冷水温度制御弁 (4TCV-2878, 2879)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ユニット冷水温度制御弁 (34TCV-2798, 2799)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4換気空調盤 (4VB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン現場操作箱 (4LB-101, 102)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン出口ダンパ (4D-VS-603A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン出口流量 (4FS-2910, 2911)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4中央制御室温度 (1), (2) (4TS-2908, 2909)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン現場操作箱 (4LB-95, 96)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン入口ダンパ (4D-VS-604A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環流量調節ダンパ (4HCD-2885, 2886)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ダンパ流量設定 (4HC-2885, 2886)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B, 34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン現場操作箱 (34LB-13, 14, 20, 21)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4安全系電気盤室給気止めダンパA, B (4D-VS-532, 533)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4安全系電気盤室排気止めダンパA (4D-VS-536)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4安全系電気盤室排気止めダンパB (4D-VS-537)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B安全補機開閉器室温度 (4TS-2817, 2818)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B制御用空気圧縮機室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B制御用空気圧縮機室給気ファン現場操作箱 (4LB-90, 91)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4制御用空気圧縮機室排気ダンパA, B (4D-VS-431A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（8/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	4制御用空気圧縮機室温度(1), (2), (3), (4) (4TS-2771, 2772, 2773, 2774)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B電動補助給水ポンプ室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B電動補助給水ポンプ室給気ファン現場操作箱(4LB-86, 87)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4電動補助給水ポンプ室排気ダンパA, B (4D-VS-411A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B電動補助給水ポンプ室温度(1), (2) (4TS-2741, 2742, 2743, 2744)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A1, 4A2, 4B1, 4B2ディーゼル発電機室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A1・A2, 4B1・B2ディーゼル発電機室給気ファン現場操作箱(4LB-84, 85)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4ディーゼル発電機室排気ダンパA1, A2, B1, B2 (4D-VS-401A, B, 403A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bディーゼル発電機室温度(1), (2), (3), (4) (4TS-2701, 2702, 2703, 2704, 2711, 2712, 2713, 2714)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B安全補機室冷却ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B安全補機室冷却ファン現場操作箱(4LB-82, 83)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B安全補機室温度(1), (2) (4TS-2680, 2681, 2690, 2691)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B安全補機室排気ダンパ(4D-VS-105A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bほう酸ポンプ室空調ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bほう酸ポンプ室空調ファン現場操作箱(4LB-77, 78)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bほう酸ポンプ室空調ファン給気加熱コイル	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bほう酸ポンプ室温度調節計(4TC-2601, 2611)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4ほう酸タンク室温度(1), (2), (3), (4) (4TS-2602, 2603, 2612, 2613)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3/4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（9/9）							記載箇所の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン現場操作箱 (4LB-97, 98)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ (4D-VS-602A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室外気取入流量調節ダンパ (4HCD-2874, 2875)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時外気取入流量調節ダンパ (4HCD-2889, 2890)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時循環流量調節ダンパ (4HCD-2891, 2892)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン出口流量 (4FS-2004, 2005)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室外気取入調節ダンパ流量設定 (4HC-2874, 2875)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時外気取入調節ダンパ流量設定 (4HC-2889, 2890)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時循環ダンパ流量設定 (4HC-2891, 2892)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス空気浄化ファン (4VSF9A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス空気浄化ファン現場操作箱 (4LB-52, 53)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス排気ダンパ (4D-VS-101A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス戻りダンパ (4D-VS-104A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス全量排気弁 (4V-VS-102A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス少量排気弁 (4V-VS-103A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			


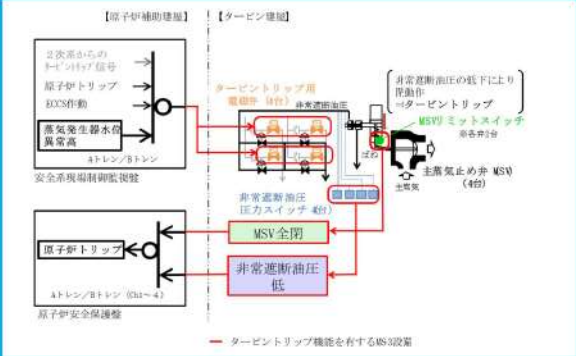
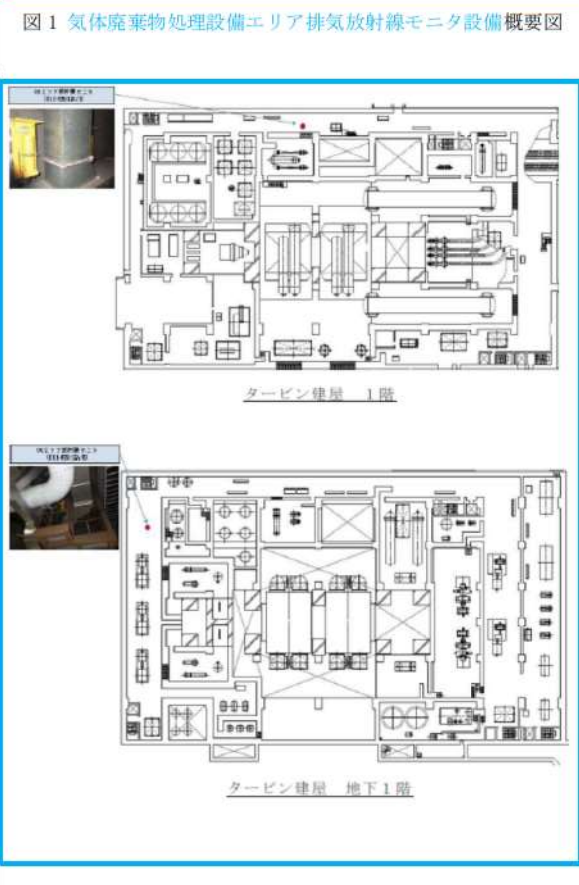
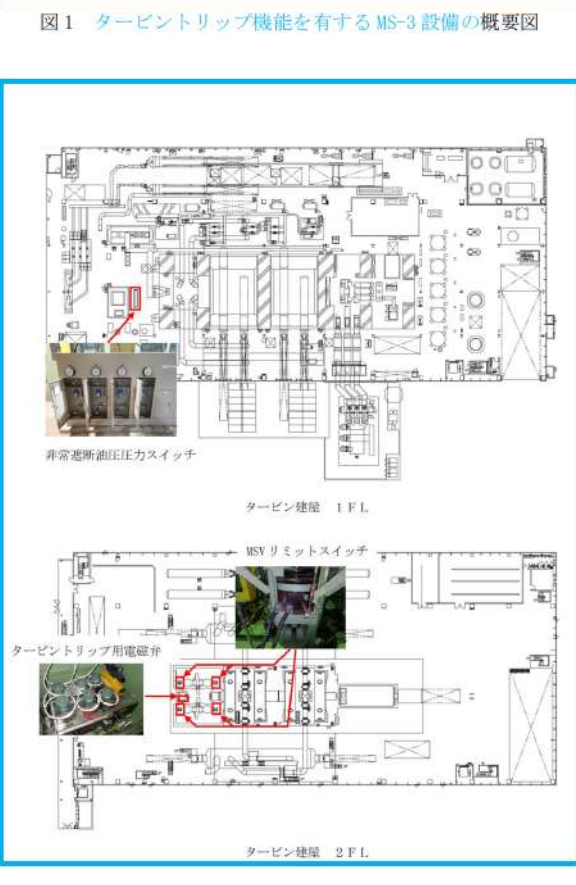
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足説明資料 37</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの内部溢水に対する防護について</p> <p>女川原子力発電所2号炉における、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタを対象とした内部溢水に対する防護について以下に示す。</p> <p>1. 溢水防護の方針</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの内部溢水に対する防護においては、「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」（以下「ガイド」という。）に従い、「内部溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を失わないこと（多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）」を実現する。ここで、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが有する安全機能とは、気体廃棄物処理系の破断事故を検知するための「緊急時対策上重要なもの及び異常状態の把握機能」のことをいう。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 5</p> <p>タービントリップ機能を有する MS-3 設備の内部溢水に対する対応について</p> <p>泊発電所3号炉における、タービントリップ機能を有する MS-3 設備を対象とした内部溢水に対する対応について以下に示す。</p> <p>1. 溢水防護の方針</p> <p>タービントリップ機能を有する MS-3 設備の内部溢水に対する対応においては、設置許可基準規則の要求事項を踏まえ、「溢水が発生した場合でも、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止、及び放射性物質の閉じ込め機能を維持できること、停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持できる」を確認する。ここで、タービントリップ機能を有する MS-3 設備の安全機能とは、運転時の異常な過渡変化があっても、タービンをトリップさせ、MS-1、MS-2 とあいまって事象を緩和する機能のことをいう。</p>	<p><a href="#">記載表現の相違</a></p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川は、安全評価上その機能を期待するクラス3に属する機器として、「気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ」を抽出しているが、泊では「タービントリップ機能を有するMS-3設備」が抽出対象となる。</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <p>女川では、「気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ」に対し溢水防護措置を採っているため「防護」としているが、泊は「タービントリップ機能を有するMS-3設備」に対し、溢水により原子炉外乱が発生した場合においても、その安全機能が必要かどうかを判断していることから「対応」と表現した。</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p><a href="#">設備の相違</a></p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <p>女川では、ガイドに従い設備そのものを防護する方針としているが、泊では、設置許可基準規則の要求事項を踏まえ、対象設備の安全機能が必要かどうかの判断をしている。</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p><a href="#">安全機能の相違</a></p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>2. 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの設備概要</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは、気体廃棄物処理系設備エリア内（空気抽出器から活性炭式希ガスホールドアップ塔までの室）の機器からの漏えいを検出するため、気体廃棄物処理系設備エリアの雰囲気放射線レベルを監視することを目的として設置されたものである。</p> <p>同モニタはタービン建屋内の二箇所に設置されており、各設置箇所において2チャンネルを有する構成とされている。また、検出器には半導体検出器が用いられている。</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの設備概要及び設置箇所をそれぞれ図1及び図2に示す。また、設置位置（溢水に対する機能喪失高さ）及び耐環境仕様の一覧を表1に示す。</p>	<p>2. タービントリップ機能を有するMS-3設備概要</p> <p>タービントリップ機能を有するMS-3設備は、タービン保安装置及び主蒸気止め弁（閉機能）である。タービントリップ機能は、安全評価指針の運転時の異常な過渡変化事象における「蒸気発生器への過剰給水」事象で影響緩和のための安全機能として期待している。この事象は、原子炉の出力運転中に蒸気発生器1基に主給水制御弁全開容量で給水され、蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ、タービントリップによる原子炉トリップという事象進展となる。具体的には、「蒸気発生器水位異常高」信号が発信されると、タービン保安装置内のタービントリップ用電磁弁を作動させて、タービン油系の圧力を開放することにより、主蒸気止め弁（以下「MSV」という）を閉止することによりタービントリップとなる。タービントリップは、MSVリミットスイッチによる全開か、タービン保安装置内の非常遮断油圧圧力スイッチによる油圧低で検出される。このどちらかが検出されることで原子炉トリップ信号を発信し、原子炉トリップ遮断器を開放することになる。</p> <p>タービントリップ用電磁弁への信号は二重化された設計となっており、タービントリップ用電磁弁及び非常遮断油圧圧力スイッチも多重化された設計となっている。また、蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ信号のロジック回路は定期事業者検査ごとに確認され、タービン保安装置によるタービントリップ用電磁弁動作までのロジック回路は通常運転中に毎月1回確認されている。更に、これらへの供給電源は非常用所内電源から給電されている。また、タービントリップ用電磁弁動作によるMSV閉止動作も定期事業者検査ごとに確認されていることから、MSVが全閉（1弁ずつ）することを毎月1回確認されていることから、タービントリップ用電磁弁、MSVリミットスイッチ及び非常遮断油圧圧力スイッチは、十分な信頼性があるMS-3としている。</p> <p>なお、「蒸気発生器への過剰給水」事象以外の運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故においても原子炉トリップによるタービントリップを考慮している事象があるが、これは原子炉トリップ後の炉心の過冷却による正の反応度添加を防止するためであり、安全評価上、MS-1、MS-2とあいまって、事象を緩和する機能としての要求はない。</p> <p>タービントリップ機能を有するMS-3設備（タービントリップ用電磁弁、MSVリミットスイッチ及び非常遮断油圧圧力スイッチ）の設備概要及び設置箇所をそれぞれ図1及び図2に示す。</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>設備の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では、対象設備の防護ではなく、対象設備の安全機能が必要かを判断するため、設置位置、耐環境仕様の一覧は不要。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図1 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ設備概要図</p>	 <p>図1 タービントリップ機能を有するMS-3設備の概要図</p>	<p>記載方針の相違                      設備の相違</p>
 <p>タービン建屋 1階                      タービン建屋 地下1階</p> <p>図2 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ設置箇所</p>		 <p>非常遮断油圧圧力スイッチ                      タービン建屋 1 F L                      MSVリミットスイッチ                      タービントリップ用電磁弁                      タービン建屋 2 F L</p> <p>図2 タービントリップ機能を有するMS-3設備の配置場所</p>	<p>記載方針の相違                      設備の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>3. 溢水の発生に伴う運転時の異常な過渡変件事象の発生時の考察</p> <p>タービントリップ機能が期待される「蒸気発生器への過剰給水」事象については、原子炉の出力運転中に、給水制御系の故障、誤操作等により、主給水制御弁が1個全開し、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が添加され、原子炉出力が上昇する事象を想定している。</p> <p>主給水制御弁は原子炉建屋内の主蒸気管室に設置されており、タービン建屋内で溢水が発生した場合においても物理的に隔離されているため、主給水制御弁の全開は起こらない。なお、タービン建屋内で溢水が発生した場合において給水制御系の故障が仮に発生した場合においても、以下の防止対策、拡大防止対策を講じている。</p> <p>(1) 防止対策</p> <p>主給水制御弁は、誤動作による過渡変化を抑制するために、弁1個当たりの最大容量を適切な値にしており、また、制御系の単一の故障によって、これらの弁が二つ以上同時に全開とならない設計としている。</p> <p>(2) 拡大防止対策</p> <p>a. 通常運転中は、中央制御室で「蒸気発生器水位」、「主給水流量」等の監視を行い、また、警報として「蒸気発生器水位偏差大」を設けており、早期に異常現象の発生が検知できる。</p> <p>b. 蒸気発生器の水位が異常に上昇した場合には、「蒸気発生器水位高」信号により主給水制御弁を全閉する。また、同時に中央制御室に警報を発信し、運転員の注意を喚起する。</p> <p>4. 結論</p> <p>内部溢水により「蒸気発生器への過剰給水」事象の発生のおそれはなく、仮に発生した場合においても防止対策がとられていることから、溢水防護上、タービントリップ機能は原子炉の高温停止及び低温停止を達成し、維持するために必要な機能には該当しない。</p> <p>以上より、タービントリップ機能を有するMS-3設備については溢水による影響評価の対象から除外する。</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>泊では、対象設備の安全機能が必要かを判断する。（泊3設置許可添付書類十の「蒸気発生器への過剰給水」の原因、防止対策、拡大防止対策より抜粋）</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では、対象設備の安全機能が必要かを判断する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
	<p>表1 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ設置位置及び耐環境仕様</p> <table border="1" data-bbox="703 252 1272 1380"> <thead> <tr> <th rowspan="2">系統</th> <th rowspan="2">設備</th> <th colspan="2">設置位置</th> <th rowspan="2">耐環境仕様 仕様温度範囲[℃]／ 使用湿度範囲[%RH]</th> </tr> <tr> <th>設置建屋</th> <th>設置高さ[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (A) (D11 - RE012A)</td> <td>T-B1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃／10～95%RH</td> </tr> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (B) (D11 - RE012B)</td> <td>T-B1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃／10～95%RH</td> </tr> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (C) (D11 - RE012C)</td> <td>T-1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃／10～95%RH</td> </tr> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (D) (D11 - RE012D)</td> <td>T-1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃／10～95%RH</td> </tr> </tbody> </table>	系統	設備	設置位置		耐環境仕様 仕様温度範囲[℃]／ 使用湿度範囲[%RH]	設置建屋	設置高さ[m]	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (A) (D11 - RE012A)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (B) (D11 - RE012B)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (C) (D11 - RE012C)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (D) (D11 - RE012D)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH		<p>記載方針の相違                  女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>
系統	設備			設置位置			耐環境仕様 仕様温度範囲[℃]／ 使用湿度範囲[%RH]																							
		設置建屋	設置高さ[m]																											
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (A) (D11 - RE012A)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH																										
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (B) (D11 - RE012B)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH																										
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (C) (D11 - RE012C)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH																										
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (D) (D11 - RE012D)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃／10～95%RH																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p>3. 想定する溢水の発生要因</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタはタービン建屋内における気体廃棄物処理系設備の破損を検出することにより、気体廃棄物処理系の内包流体の漏えいを速やかに隔離し、環境への放射性物質の放出を防止する機能を担うものである。</p> <p>一方、当該モニタが設置されるタービン建屋は、気体廃棄物処理系を含む建屋内の主要設備が耐震重要度 B クラスに分類・設計されており、基準地震動が生じるような地震発生時における環境への放射性物質の放出防止機能としては、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタではなく、主蒸気隔離弁が担うことになる。</p> <p>以上の放出防止機能の分担の考え方を踏まえ、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの「溢水による損傷の防止」においては、ガイドで示されている溢水の発生要因のうち「想定破損による溢水」及び「消火水による溢水」を想定するものとする。</p> <p>想定する溢水の発生要因の想定確認結果を表2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表2 想定する溢水の発生要因</p> <table border="1" data-bbox="696 756 1272 906"> <thead> <tr> <th>溢水の発生要因</th> <th>想定要否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>想定破損による溢水</td> <td>想定する</td> </tr> <tr> <td>消火水による溢水</td> <td>想定する</td> </tr> <tr> <td>地震に起因する溢水</td> <td>想定しない (他の設備(主蒸気隔離弁)により放射性物質放出防止機能を代替する)</td> </tr> </tbody> </table>	溢水の発生要因	想定要否	想定破損による溢水	想定する	消火水による溢水	想定する	地震に起因する溢水	想定しない (他の設備(主蒸気隔離弁)により放射性物質放出防止機能を代替する)		<p><u>記載方針の相違</u></p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>
溢水の発生要因	想定要否										
想定破損による溢水	想定する										
消火水による溢水	想定する										
地震に起因する溢水	想定しない (他の設備(主蒸気隔離弁)により放射性物質放出防止機能を代替する)										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 溢水影響評価</p> <p>4.1 蒸気による影響評価及び対策</p> <p>4.1.1 影響評価</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは気体廃棄物処理系設備の破損時に発生する蒸気に含まれる放射性物質を検出できるように設計されている。ここでは、他の系統の単一機器の破損による蒸気の発生を想定した際の、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの機能に与える影響について評価する。</p> <p>(1) 蒸気源</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価すべき蒸気源としては、タービン建屋にある、機器破損時に蒸気の発生を伴う高エネルギー系統を対象とする。ただし、蒸気発生後の事象進展として、直接的に設置許可申請書添付資料十（添十）に記載の解析（気体廃棄物処理系破断を除く）で考慮される事象に至る場合においては、原子炉停止につながることであり、その後、主蒸気隔離弁の閉止により気体廃棄物処理系を含めタービン建屋への蒸気の流入が停止することで、気体廃棄物処理系からの放射性物質放出の想定が不要となる。したがって、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの担う放射性物質の放出防止機能は、主蒸気隔離弁によって代替されることとなる。このため、機器の破損による蒸気発生後の事象進展として、これに該当しない系統を蒸気源として抽出する。</p> <p>以上により抽出された、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価すべき蒸気源を表3に示す。また、抽出された蒸気源における内部流体の状態を表4に整理する。</p> <p>なお、表3にて抽出された加熱蒸気及び復水戻り系以外の系統における小規模な蒸気発生の際には原子炉停止に至らないケースも想定されるが、このような場合における蒸気影響は軽微であり、加熱蒸気及び復水戻り系における蒸気発生の影響に包含されるものとする。</p>		<p>記載方針の相違</p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																															
	<p>表3 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価すべき蒸気源</p> <table border="1" data-bbox="696 245 1272 724"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th colspan="2">蒸気発生後の添十記載の事象への進展有無/事象例</th> <th>評価要否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主蒸気系 (MS)</td> <td>有り</td> <td>主蒸気管破断</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>復水及び給水系 (C/PDW)</td> <td>有り</td> <td>給水流量の全喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>給水加熱器ドレン系 (HD)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>給水加熱器ベント系 (HV)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>タービンランド蒸気系 (TGS)</td> <td>有り</td> <td>主復水器の真空度低下</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>抽気系 (ES)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>タービン補助蒸気系 (AS)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>加熱蒸気系 (HS)</td> <td>無し</td> <td>系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>復水戻り系 (HSCR)</td> <td>無し</td> <td>系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし</td> <td>要</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 当該系統における小規模な蒸気発生による影響は HS/HSCR における蒸気発生の影響に含まれる</p> <p>表4 蒸気源の内部流体の状態</p> <table border="1" data-bbox="696 858 1272 1011"> <thead> <tr> <th>蒸気源</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>流体</th> <th>放射性 あり/なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">HS</td> <td>188</td> <td>0.97</td> <td>蒸気</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>204</td> <td>1.57</td> <td>蒸気</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">HSCR</td> <td>188</td> <td>0.97</td> <td>凝縮水</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>204</td> <td>1.57</td> <td>凝縮水</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>	系統	蒸気発生後の添十記載の事象への進展有無/事象例		評価要否	主蒸気系 (MS)	有り	主蒸気管破断	否 <sup>※1</sup>	復水及び給水系 (C/PDW)	有り	給水流量の全喪失	否 <sup>※1</sup>	給水加熱器ドレン系 (HD)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	給水加熱器ベント系 (HV)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	タービンランド蒸気系 (TGS)	有り	主復水器の真空度低下	否 <sup>※1</sup>	抽気系 (ES)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	タービン補助蒸気系 (AS)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	加熱蒸気系 (HS)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要	復水戻り系 (HSCR)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要	蒸気源	最高使用温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	流体	放射性 あり/なし	HS	188	0.97	蒸気	なし	204	1.57	蒸気	なし	HSCR	188	0.97	凝縮水	なし	204	1.57	凝縮水	なし		<p>記載方針の相違</p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>
系統	蒸気発生後の添十記載の事象への進展有無/事象例		評価要否																																																															
主蒸気系 (MS)	有り	主蒸気管破断	否 <sup>※1</sup>																																																															
復水及び給水系 (C/PDW)	有り	給水流量の全喪失	否 <sup>※1</sup>																																																															
給水加熱器ドレン系 (HD)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																																															
給水加熱器ベント系 (HV)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																																															
タービンランド蒸気系 (TGS)	有り	主復水器の真空度低下	否 <sup>※1</sup>																																																															
抽気系 (ES)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																																															
タービン補助蒸気系 (AS)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																																															
加熱蒸気系 (HS)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要																																																															
復水戻り系 (HSCR)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要																																																															
蒸気源	最高使用温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	流体	放射性 あり/なし																																																														
HS	188	0.97	蒸気	なし																																																														
	204	1.57	蒸気	なし																																																														
HSCR	188	0.97	凝縮水	なし																																																														
	204	1.57	凝縮水	なし																																																														

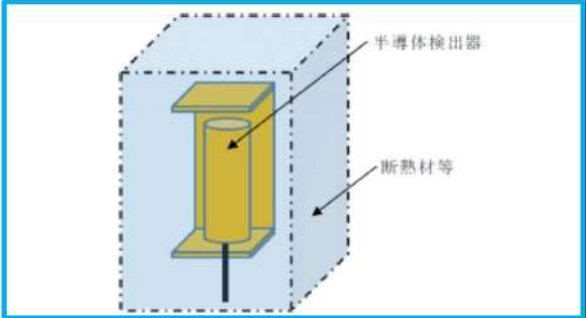
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) 考慮すべき環境条件</p> <p>前項で示した蒸気源に対し、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの「溢水による損傷の防止」において考慮すべき環境条件（温度/湿度、継続時間）の設定に当たっての考え方を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度/湿度                     <p>蒸気発生時の温度は保守的に、内包する流体が建屋内（大気圧下）に流出する際に考えられる最高温度とする。また、ガイドにおける「蒸気評価に用いる拡散範囲の算出方法」の規定のうち「評価手法を用いて拡散範囲の算出を行わない場合には、保守側に連通した複数の区画全体に蒸気が拡散するものとする」の要求を適用し、保守的に、発生箇所の近傍だけでなく気体廃棄物処理系を設置するエリア内が一律に上記の温度になるものとする。</p> <p>具体的には「4.1.1(1)」で示した蒸気源のうち、最も厳しい条件を与える加熱蒸気及び復水戻り系の破損による蒸気発生を考慮した条件とする。</p> </li> <li>・継続時間                     <p>上記の環境条件（温度/湿度）は、蒸気源を隔離するまでの期間、継続するものとする。具体的には、「4.1.1(1)」で示した加熱蒸気及び復水戻り系における蒸気発生時の隔離を想定し、タービン建屋での蒸気の発生、各種系統のパラメータの異常や警報の発生による漏えいの検知、現場移動・確認、補助ボイラーの停止、隔離といった対応により、合計で1時間程度の隔離時間となると考えられるが、隔離後の内部インベントリの放出継続等を考慮し、保守的に3時間とする。</p> <p>なお、蒸気源の隔離後は、非常状態における原子炉格納容器外の設計環境条件（66℃、90%RH）に至るものとし、この状態が12時間継続するものとする。</p> </li> </ul> <p>(3) 評価結果</p> <p>表1に示した耐環境仕様と、「4.1.1(2)」で設定した環境条件を比較することにより、多重化された気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは蒸気の影響に対して同時にその安全機能を喪失し得るものと評価する。</p>		<p>記載方針の相違</p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4.1.2 対策</p> <p>「4.1.1」の影響評価の結果を受けて、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタに対し以下に示す蒸気防護措置を講ずることとする。</p> <p>(1) 蒸気防護措置の設計要件</p> <p>「4.1.1(2)」で設定した環境条件下において、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ部における環境を、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが機能維持することを確認した環境の範囲内に維持する。また、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタに求められる放射線の監視性能に有意な影響を与えない。</p> <p>(2) 蒸気防護措置の設計方針</p> <p>前項の設計要件を満足するにあたり、以下の二種類の蒸気防護措置を組み合わせ、蒸気防護措置を模擬した実証試験を行い、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ部における環境維持性能にかかわる要件を満足するものを設置する。対策概要は図3のとおり。</p> <p>a. 温度影響緩和</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタにおける温度低減措置として、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ周囲に遮熱板等の断熱材を設置する。</p> <p>b. 湿度影響緩和</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ内部への湿分の浸入防止措置として、モニタケースの隙間部にシール処理を実施する。</p>		<p>記載方針の相違</p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

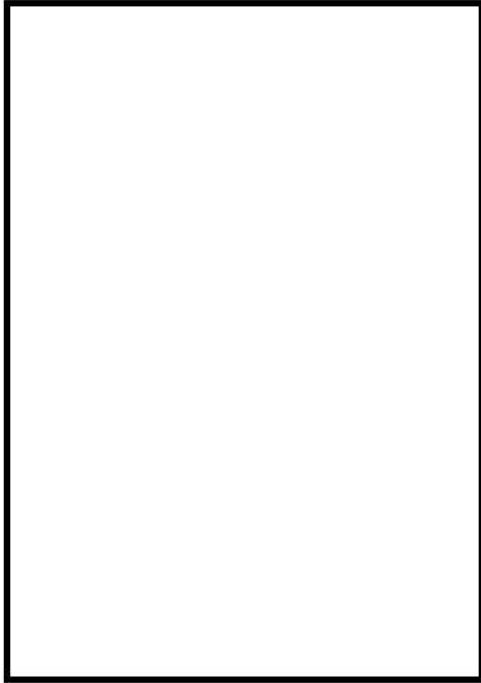
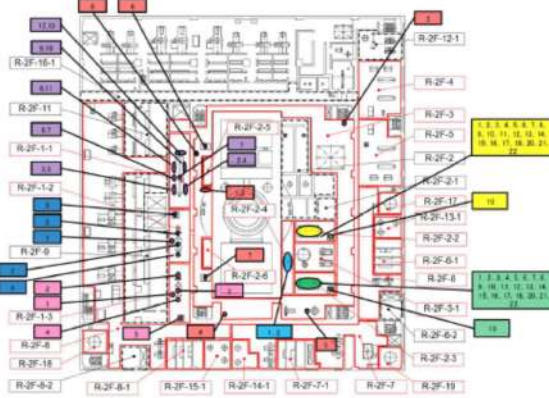
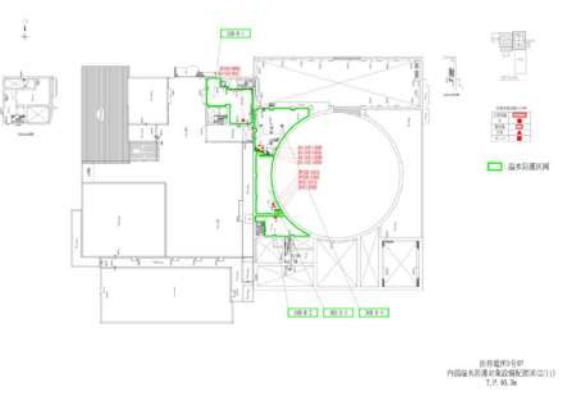
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="871 517 1099 539">図3 蒸気防護措置概要図</p> <p data-bbox="696 587 913 609">4.2 没水による影響評価</p> <p data-bbox="696 624 1279 778">想定破損又は消火活動に伴う放水による溢水が発生した場合に、各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが設置されている区画での没水水位と各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの機能喪失高さを比較し、安全機能への影響を評価する。</p> <p data-bbox="696 793 1279 1050">各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの設置されている区画はタービン建屋1階又は地下1階の通路部であり、これらの区画は階段室の扉が開放されていることから、溢水が発生した場合でも大幅な水位の上昇は起こらない。これに対し、各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは空間上部に設置されたダクトに併設されており、設置高さは表2で示したとおり3.0m以上となっていることから、没水により機能喪失することはない。</p> <p data-bbox="696 1064 1279 1155">したがって、多重化された気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが没水の影響により同時にその安全機能を損なうことはない。</p>		<p data-bbox="1874 180 1995 202">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1874 217 2130 301">女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4.3 被水による影響評価</p> <p>溢水源を内包する単一機器の破損又は消火活動に伴う放水による被水の発生を想定し、それによる気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価する。また上層階で溢水が発生し、各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの上部に貫通部等の開口部が存在する場合は、上方からの伝播による被水の影響も考慮する。</p> <p>これらの被水が発生した場合、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響としては湿度による影響と同等と考えられるため、「4.1.2(2)b.」に示した防護対策を実施することで、被水による影響を防止できる。</p> <p>したがって、多重化された気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが被水の影響により同時にその安全機能を損なうことはない。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		<p>記載方針の相違</p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>



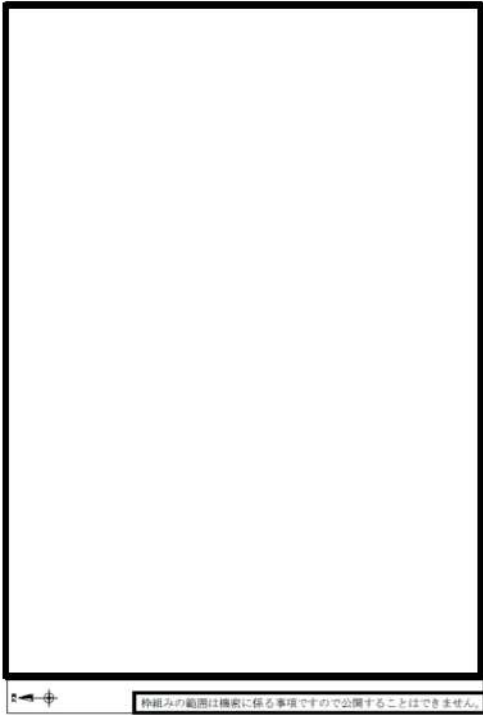
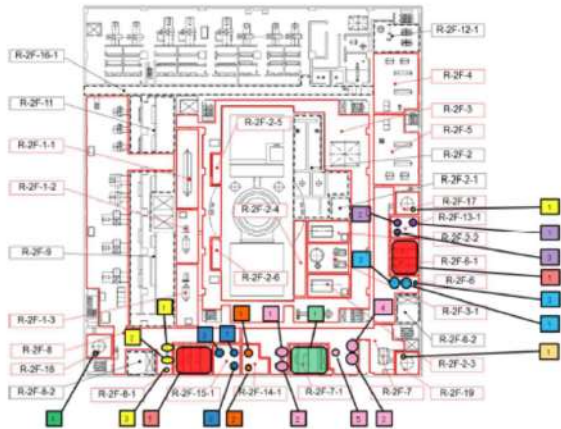
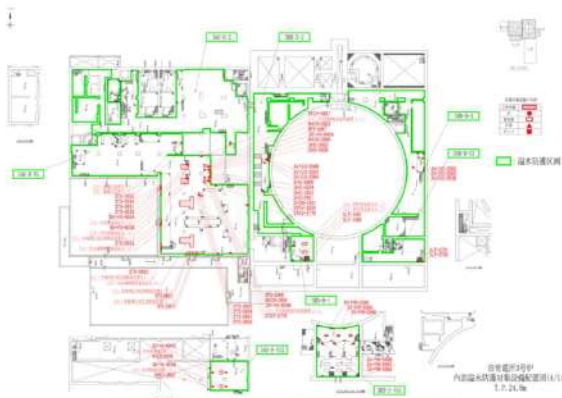
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																								
 <p data-bbox="280 880 631 901">枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p data-bbox="918 582 1052 598">原子炉建屋 2F (1/3)</p> <table border="1" data-bbox="721 622 1214 1021"> <thead> <tr> <th>系統名</th> <th>機器名</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3-試験採取設備用排気ファン</td> <td>3D-03-03</td> <td>2.28</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3-試験採取設備用風量調整ダンパ</td> <td>3D-03-05</td> <td>2.61</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>2A-アニュラス裏リダンパ(流量調整)</td> <td>3A-03-03</td> <td>1.44</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス裏リダンパ(流量調整)</td> <td>3B-03-03</td> <td>1.44</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3A-アニュラス裏リダンパ</td> <td>3D-03-03</td> <td>4.86</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス裏リダンパ</td> <td>3D-03-05</td> <td>4.86</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3A-アニュラス全量排気弁</td> <td>3D-VS-102A</td> <td>4.16</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス全量排気弁</td> <td>3D-VS-102B</td> <td>4.17</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3A-アニュラス少量排気弁</td> <td>3D-VS-103A</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス少量排気弁</td> <td>3D-VS-103B</td> <td>3.12</td> </tr> </tbody> </table>	系統名	機器名	機器番号	設置高さ (m)	換気空調設備系統	3-試験採取設備用排気ファン	3D-03-03	2.28	換気空調設備系統	3-試験採取設備用風量調整ダンパ	3D-03-05	2.61	換気空調設備系統	2A-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3A-03-03	1.44	換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3B-03-03	1.44	換気空調設備系統	3A-アニュラス裏リダンパ	3D-03-03	4.86	換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ	3D-03-05	4.86	換気空調設備系統	3A-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102A	4.16	換気空調設備系統	3B-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102B	4.17	換気空調設備系統	3A-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103A	3.1	換気空調設備系統	3B-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103B	3.12	 <p data-bbox="1747 534 1848 566">図1 防護対象設備配置図 (2/15)</p> <table border="1" data-bbox="1344 598 1792 909"> <thead> <tr> <th>系統名</th> <th>機器名</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3-試験採取設備用排気ファン</td> <td>3D-03-03</td> <td>2.28</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3-試験採取設備用風量調整ダンパ</td> <td>3D-03-05</td> <td>2.61</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>2A-アニュラス裏リダンパ(流量調整)</td> <td>3A-03-03</td> <td>1.44</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス裏リダンパ(流量調整)</td> <td>3B-03-03</td> <td>1.44</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3A-アニュラス裏リダンパ</td> <td>3D-03-03</td> <td>4.86</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス裏リダンパ</td> <td>3D-03-05</td> <td>4.86</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3A-アニュラス全量排気弁</td> <td>3D-VS-102A</td> <td>4.16</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス全量排気弁</td> <td>3D-VS-102B</td> <td>4.17</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3A-アニュラス少量排気弁</td> <td>3D-VS-103A</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3B-アニュラス少量排気弁</td> <td>3D-VS-103B</td> <td>3.12</td> </tr> </tbody> </table>	系統名	機器名	機器番号	設置高さ (m)	換気空調設備系統	3-試験採取設備用排気ファン	3D-03-03	2.28	換気空調設備系統	3-試験採取設備用風量調整ダンパ	3D-03-05	2.61	換気空調設備系統	2A-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3A-03-03	1.44	換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3B-03-03	1.44	換気空調設備系統	3A-アニュラス裏リダンパ	3D-03-03	4.86	換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ	3D-03-05	4.86	換気空調設備系統	3A-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102A	4.16	換気空調設備系統	3B-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102B	4.17	換気空調設備系統	3A-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103A	3.1	換気空調設備系統	3B-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103B	3.12	<p data-bbox="1960 135 2049 167">相違理由</p>
系統名	機器名	機器番号	設置高さ (m)																																																																																								
換気空調設備系統	3-試験採取設備用排気ファン	3D-03-03	2.28																																																																																								
換気空調設備系統	3-試験採取設備用風量調整ダンパ	3D-03-05	2.61																																																																																								
換気空調設備系統	2A-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3A-03-03	1.44																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3B-03-03	1.44																																																																																								
換気空調設備系統	3A-アニュラス裏リダンパ	3D-03-03	4.86																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ	3D-03-05	4.86																																																																																								
換気空調設備系統	3A-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102A	4.16																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102B	4.17																																																																																								
換気空調設備系統	3A-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103A	3.1																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103B	3.12																																																																																								
系統名	機器名	機器番号	設置高さ (m)																																																																																								
換気空調設備系統	3-試験採取設備用排気ファン	3D-03-03	2.28																																																																																								
換気空調設備系統	3-試験採取設備用風量調整ダンパ	3D-03-05	2.61																																																																																								
換気空調設備系統	2A-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3A-03-03	1.44																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ(流量調整)	3B-03-03	1.44																																																																																								
換気空調設備系統	3A-アニュラス裏リダンパ	3D-03-03	4.86																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス裏リダンパ	3D-03-05	4.86																																																																																								
換気空調設備系統	3A-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102A	4.16																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス全量排気弁	3D-VS-102B	4.17																																																																																								
換気空調設備系統	3A-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103A	3.1																																																																																								
換気空調設備系統	3B-アニュラス少量排気弁	3D-VS-103B	3.12																																																																																								



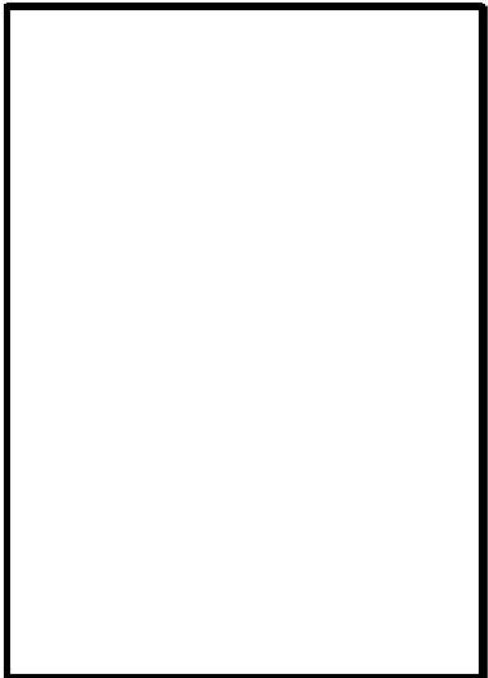
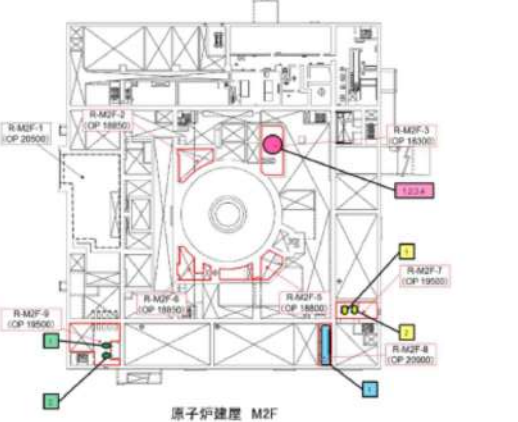
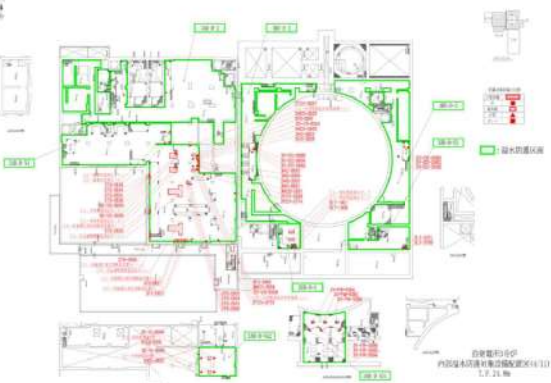


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

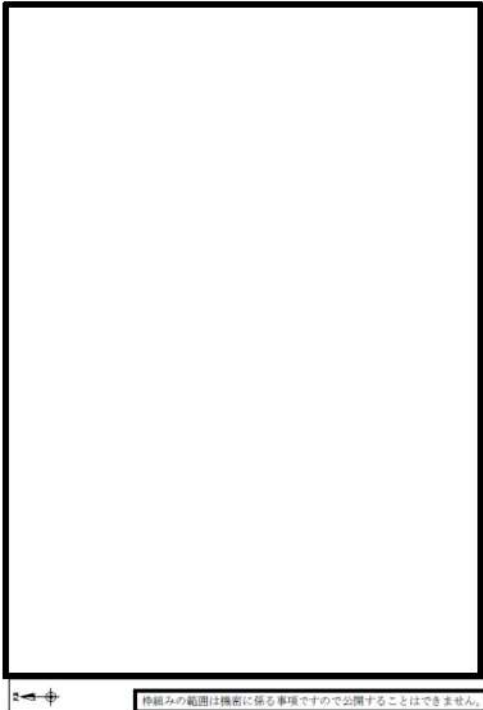
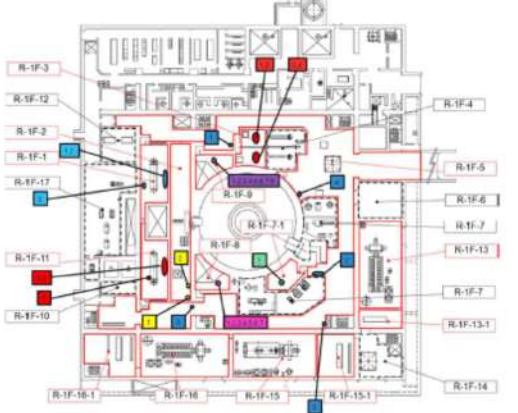
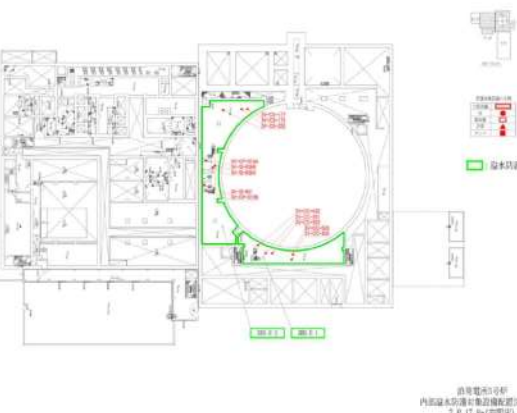
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
 <p>種組みの範囲は構内に関する事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 2F (3/3)</p> <table border="1" data-bbox="750 678 1243 1045"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <p>図1 防護対象設備配置図(4/23)</p>	設備名称	種別	数量	単位	...	...	...	...	 <table border="1" data-bbox="1400 590 1736 1013"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <p>図1 防護対象設備配置図 (4 / 15)</p>	設備名称	種別	数量	単位	...	...	...	...	<p>相違理由</p>
設備名称	種別	数量	単位																
...	...	...	...																
設備名称	種別	数量	単位																
...	...	...	...																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料6）

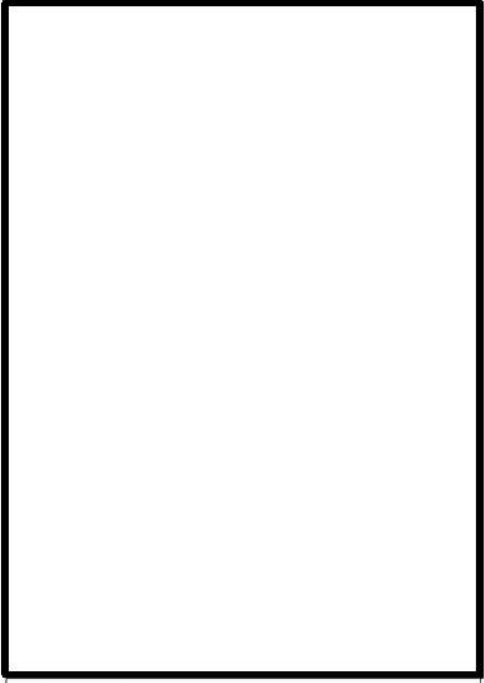
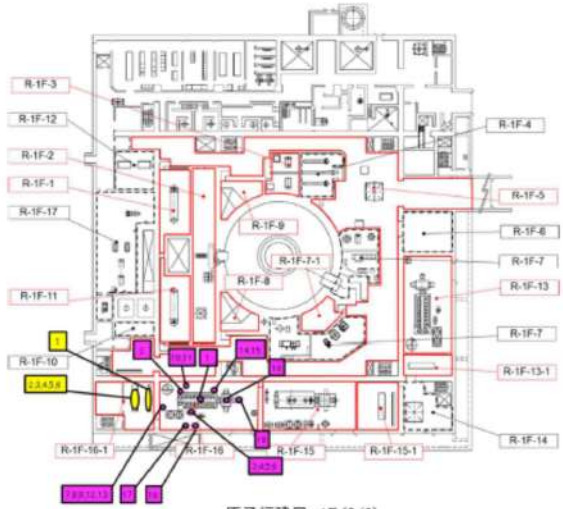
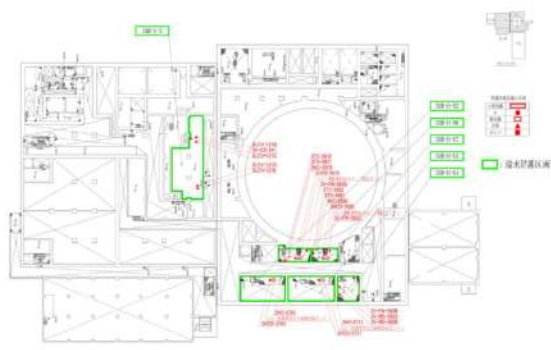
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																
 <p>詳細みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 M2F</p> <table border="1" data-bbox="728 678 1254 774"> <thead> <tr> <th colspan="3">R-M2F-2</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>燃料プールの経路化装置</td> <td>FFC5燃料経路化装置入口第一系(G41-F005A)</td> <td>0.403</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>燃料プールの経路化装置</td> <td>FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020A)</td> <td>0.403</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>燃料プールの経路化装置</td> <td>FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020B)</td> <td>0.403</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>燃料プールの経路化装置</td> <td>FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020C)</td> <td>0.403</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>燃料プールの経路化装置</td> <td>FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020D)</td> <td>0.403</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 798 1254 869"> <thead> <tr> <th colspan="3">R-M2F-3</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)</td> <td>0.125</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)</td> <td>0.146</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 893 1254 941"> <thead> <tr> <th colspan="3">R-M2F-6</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常用DCMPD</td> <td>12V 20A電流源(1)2</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 965 1254 1029"> <thead> <tr> <th colspan="3">R-M2F-8</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)A(V12-C002A)</td> <td>0.125</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)B(V12-C002B)</td> <td>0.125</td> </tr> </tbody> </table>	R-M2F-2			No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)	1	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置入口第一系(G41-F005A)	0.403	2	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020A)	0.403	3	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020B)	0.403	4	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020C)	0.403	5	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020D)	0.403	R-M2F-3			No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)	1	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)	0.125	2	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)	0.146	R-M2F-6			No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)	1	非常用DCMPD	12V 20A電流源(1)2	0.000	R-M2F-8			No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)	1	燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)A(V12-C002A)	0.125	2	燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)B(V12-C002B)	0.125	 <p>泊発電所3号炉 内防壁4号炉側作業設備配置図(5/15) 1.7.23版</p> <table border="1" data-bbox="1400 614 1736 694"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-M2F-2</th> </tr> <tr> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り</th> <th>数量増し (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)</td> <td>0.125</td> <td>0.125</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)</td> <td>0.146</td> <td>0.146</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 702 1736 782"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-M2F-3</th> </tr> <tr> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り</th> <th>数量増し (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)</td> <td>0.125</td> <td>0.125</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)</td> <td>0.146</td> <td>0.146</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 790 1736 869"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-M2F-6</th> </tr> <tr> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り</th> <th>数量増し (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常用DCMPD</td> <td>12V 20A電流源(1)2</td> <td>0.000</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 877 1736 957"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-M2F-8</th> </tr> <tr> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量減り</th> <th>数量増し (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)A(V12-C002A)</td> <td>0.125</td> <td>0.125</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵装置</td> <td>原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)B(V12-C002B)</td> <td>0.125</td> <td>0.125</td> </tr> </tbody> </table> <p>図1 防護対象設備配置図 (5/15)</p>	R-M2F-2				設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)	0.125	0.125	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)	0.146	0.146	R-M2F-3				設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)	0.125	0.125	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)	0.146	0.146	R-M2F-6				設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)	非常用DCMPD	12V 20A電流源(1)2	0.000	0.000	R-M2F-8				設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)	燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)A(V12-C002A)	0.125	0.125	燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)B(V12-C002B)	0.125	0.125	
R-M2F-2																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)																																																																																																																																
1	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置入口第一系(G41-F005A)	0.403																																																																																																																																
2	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020A)	0.403																																																																																																																																
3	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020B)	0.403																																																																																																																																
4	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020C)	0.403																																																																																																																																
5	燃料プールの経路化装置	FFC5燃料経路化装置/イバ反動(G41-F020D)	0.403																																																																																																																																
R-M2F-3																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)																																																																																																																																
1	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)	0.125																																																																																																																																
2	燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)	0.146																																																																																																																																
R-M2F-6																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)																																																																																																																																
1	非常用DCMPD	12V 20A電流源(1)2	0.000																																																																																																																																
R-M2F-8																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	数量減り (%)																																																																																																																																
1	燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)A(V12-C002A)	0.125																																																																																																																																
2	燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)B(V12-C002B)	0.125																																																																																																																																
R-M2F-2																																																																																																																																			
設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)																																																																																																																																
燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)	0.125	0.125																																																																																																																																
燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)	0.146	0.146																																																																																																																																
R-M2F-3																																																																																																																																			
設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)																																																																																																																																
燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)A(V11-C002A)	0.125	0.125																																																																																																																																
燃料貯蔵装置	原子炉建屋A(燃料貯蔵装置)B(V11-C002B)	0.146	0.146																																																																																																																																
R-M2F-6																																																																																																																																			
設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)																																																																																																																																
非常用DCMPD	12V 20A電流源(1)2	0.000	0.000																																																																																																																																
R-M2F-8																																																																																																																																			
設備名称	機器名称	数量減り	数量増し (%)																																																																																																																																
燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)A(V12-C002A)	0.125	0.125																																																																																																																																
燃料貯蔵装置	原子炉建屋B(燃料貯蔵装置)B(V12-C002B)	0.125	0.125																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																				
 <p>詳細の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 1F (1/3)</p> <table border="1" data-bbox="712 678 974 758"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-422</td> <td>1.38</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-430</td> <td>0.88</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁</td> <td>3V-G-501</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-503</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-508</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="712 762 974 842"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-一次でんラインC/V外側止弁</td> <td>3V-G-175</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-一次でんラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-177</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-255</td> <td>0.88</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋スプレイ系統</td> <td>3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-OP-013A</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋スプレイ系統</td> <td>3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-OP-013B</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A</td> <td>3V-SI-016A</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B</td> <td>3V-SI-016B</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-SI-051</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="712 925 974 1005"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-422</td> <td>1.38</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-430</td> <td>0.88</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁</td> <td>3V-G-501</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-503</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-508</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="712 1010 974 1090"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-一次でんラインC/V外側止弁</td> <td>3V-G-175</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-一次でんラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-177</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-255</td> <td>0.88</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋スプレイ系統</td> <td>3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-OP-013A</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋スプレイ系統</td> <td>3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-OP-013B</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A</td> <td>3V-SI-016A</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B</td> <td>3V-SI-016B</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-SI-051</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-422	1.38	原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-430	0.88	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁	3V-G-501	1.12	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-503	1.12	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-508	1.12	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側止弁	3V-G-175	0.6	化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側隔離弁	3V-G-177	0.6	化学体積制御系統	3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁	3V-G-255	0.88	原子炉建屋スプレイ系統	3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013A	1.12	原子炉建屋スプレイ系統	3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013B	1.12	安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A	3V-SI-016A	0.6	安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B	3V-SI-016B	0.6	安全注入系統	3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁	3V-SI-051	0.6	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-422	1.38	原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-430	0.88	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁	3V-G-501	1.12	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-503	1.12	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-508	1.12	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側止弁	3V-G-175	0.6	化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側隔離弁	3V-G-177	0.6	化学体積制御系統	3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁	3V-G-255	0.88	原子炉建屋スプレイ系統	3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013A	1.12	原子炉建屋スプレイ系統	3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013B	1.12	安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A	3V-SI-016A	0.6	安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B	3V-SI-016B	0.6	安全注入系統	3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁	3V-SI-051	0.6	 <p>泊発電所3号炉      内部設備配置図(6/11)      1.F.17.8a(中図)</p> <table border="1" data-bbox="1310 614 1825 726"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-422</td> <td>1.38</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-430</td> <td>0.88</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁</td> <td>3V-G-501</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-503</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-508</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1310 734 1825 893"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-一次でんラインC/V外側止弁</td> <td>3V-G-175</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-一次でんラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-177</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系統</td> <td>3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-G-255</td> <td>0.88</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋スプレイ系統</td> <td>3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-OP-013A</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋スプレイ系統</td> <td>3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁</td> <td>3V-OP-013B</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A</td> <td>3V-SI-016A</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B</td> <td>3V-SI-016B</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁</td> <td>3V-SI-051</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-422	1.38	原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-430	0.88	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁	3V-G-501	1.12	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-503	1.12	原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-508	1.12	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側止弁	3V-G-175	0.6	化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側隔離弁	3V-G-177	0.6	化学体積制御系統	3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁	3V-G-255	0.88	原子炉建屋スプレイ系統	3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013A	1.12	原子炉建屋スプレイ系統	3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013B	1.12	安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A	3V-SI-016A	0.6	安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B	3V-SI-016B	0.6	安全注入系統	3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁	3V-SI-051	0.6	<p>図1 防護対象設備配置図 (6/15)</p>
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-422	1.38																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-430	0.88																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁	3V-G-501	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-503	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-508	1.12																																																																																																																																																																																				
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側止弁	3V-G-175	0.6																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側隔離弁	3V-G-177	0.6																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁	3V-G-255	0.88																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋スプレイ系統	3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013A	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋スプレイ系統	3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013B	1.12																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A	3V-SI-016A	0.6																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B	3V-SI-016B	0.6																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁	3V-SI-051	0.6																																																																																																																																																																																				
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-422	1.38																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-430	0.88																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁	3V-G-501	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-503	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-508	1.12																																																																																																																																																																																				
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側止弁	3V-G-175	0.6																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側隔離弁	3V-G-177	0.6																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁	3V-G-255	0.88																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋スプレイ系統	3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013A	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋スプレイ系統	3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013B	1.12																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A	3V-SI-016A	0.6																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B	3V-SI-016B	0.6																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁	3V-SI-051	0.6																																																																																																																																																																																				
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-422	1.38																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-冷却給出市部用特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-430	0.88																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口止弁弁	3V-G-501	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水入口C/V外側隔離弁	3V-G-503	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋冷却水系統	3-1次冷却材ポンプ特殊冷却水出口C/V外側隔離弁	3V-G-508	1.12																																																																																																																																																																																				
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側止弁	3V-G-175	0.6																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-一次でんラインC/V外側隔離弁	3V-G-177	0.6																																																																																																																																																																																				
化学体積制御系統	3-1次冷却材ポンプ排水ラインC/V外側隔離弁	3V-G-255	0.88																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋スプレイ系統	3A-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013A	1.12																																																																																																																																																																																				
原子炉建屋スプレイ系統	3B-特殊容器スプレイ冷却器出口C/V外側隔離弁	3V-OP-013B	1.12																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁A	3V-SI-016A	0.6																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-ばう動注入タンク出口C/V外側隔離弁B	3V-SI-016B	0.6																																																																																																																																																																																				
安全注入系統	3-種動高圧注入ラインC/V外側隔離弁	3V-SI-051	0.6																																																																																																																																																																																				
	<p>図1 防護対象設備配置図(6/23)</p>																																																																																																																																																																																						



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																									
 <p data-bbox="280 877 638 901">枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p data-bbox="929 694 1086 710">原子炉建屋 1F (3/3)</p> <table border="1" data-bbox="750 758 1220 1029"> <caption>図1-1F-10</caption> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>品名</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>2</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>3</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>4</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>5</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>6</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>7</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>8</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>9</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>10</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>11</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>12</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>13</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>14</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>15</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>16</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>17</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>18</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>19</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>20</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="750 1037 1220 1181"> <caption>図1-1F-10-1</caption> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>品名</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>2</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>3</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>4</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>5</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>6</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>7</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>8</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>9</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>10</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10-1)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> </tbody> </table>	No.	品名	仕様	数量	設置高さ[m]	1	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	2	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	3	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	4	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	5	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	6	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	7	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	8	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	9	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	10	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	11	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	12	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	13	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	14	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	15	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	16	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	17	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	18	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	19	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	20	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	No.	品名	仕様	数量	設置高さ[m]	1	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	2	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	3	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	4	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	5	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	6	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	7	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	8	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	9	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	10	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00	 <p data-bbox="1400 997 1736 1021">図1 防護対象設備配置図 (8/15)</p> <table border="1" data-bbox="1422 606 1713 981"> <caption>図1-1F-10</caption> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>品名</th> <th>仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>2</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>3</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>4</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>5</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>6</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>7</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>8</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>9</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>10</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>11</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>12</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>13</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>14</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>15</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>16</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>17</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>18</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>19</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>20</td><td>非常用予備機</td><td>非常用予備機 (R-1F-10)</td><td>1</td><td>0.00</td></tr> </tbody> </table>	No.	品名	仕様	数量	設置高さ[m]	1	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	2	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	3	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	4	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	5	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	6	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	7	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	8	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	9	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	10	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	11	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	12	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	13	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	14	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	15	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	16	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	17	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	18	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	19	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	20	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00	<p data-bbox="1960 135 2049 159">相違理由</p>
No.	品名	仕様	数量	設置高さ[m]																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
2	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
3	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
4	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
5	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
6	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
7	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
8	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
9	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
10	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
11	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
12	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
13	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
14	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
15	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
16	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
17	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
18	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
19	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
20	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
No.	品名	仕様	数量	設置高さ[m]																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
2	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
3	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
4	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
5	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
6	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
7	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
8	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
9	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
10	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10-1)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
No.	品名	仕様	数量	設置高さ[m]																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
2	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
3	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
4	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
5	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
6	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
7	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
8	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
9	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
10	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
11	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
12	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
13	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
14	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
15	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
16	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
17	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
18	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
19	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								
20	非常用予備機	非常用予備機 (R-1F-10)	1	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

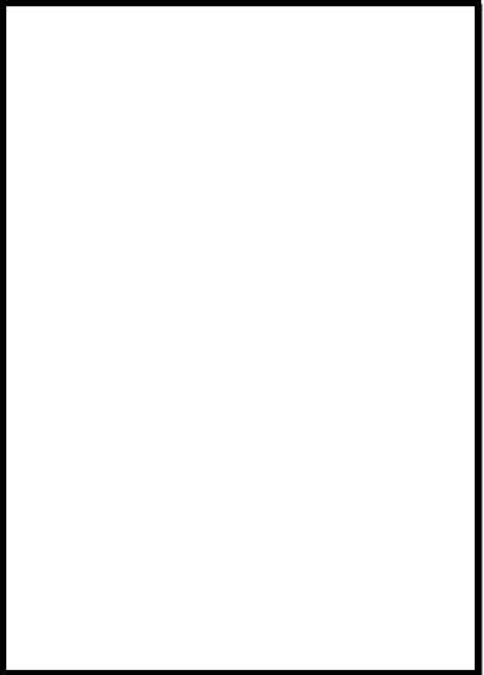
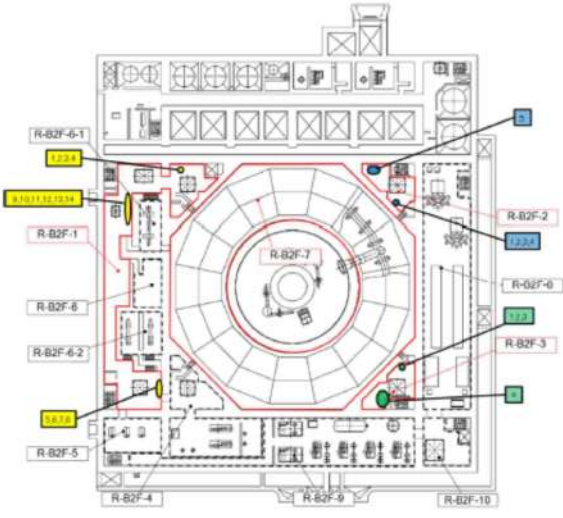
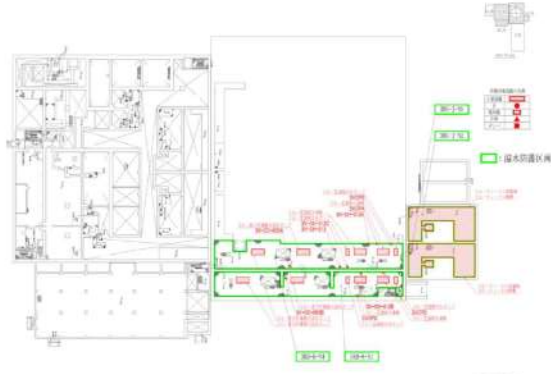
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																
<div data-bbox="159 181 636 863" style="border: 2px solid black; height: 427px; width: 213px;"></div> <div data-bbox="159 874 636 900" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。                 </div>	<div data-bbox="741 197 1256 660" style="text-align: center;"> <p>原子炉建屋 MBIF</p> </div> <div data-bbox="734 762 1227 1027"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-1</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>緊急時監視制御(GAME)</td> <td>GAME(監視用)1号機(102-7981-7982)</td> <td>0.000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非常時停止系(A)</td> <td>RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04A)</td> <td>0.045</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>非常時監視制御(GAME)</td> <td>GAME S-COMP(システム)投入調整弁(102-7981A)</td> <td>1.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-2</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>關注炉心スプレイ系</td> <td>RPCS注入調整弁(22-F06)</td> <td>0.045</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-3</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常時停止系(B)</td> <td>RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04B)</td> <td>0.045</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非常時停止系(C)</td> <td>RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04C)</td> <td>0.045</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-4</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子炉格納容器隔離弁(PHCR)</td> <td>PHCR用ライン第二調整弁(24-F10)</td> <td>0.400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>關注炉心スプレイ系</td> <td>LPCS注入調整弁(22-F06)</td> <td>0.045</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="840 1061 1126 1086" style="text-align: center;"> <p>図1 防護対象設備配置図(9/23)</p> </div>	R-MB1F-1				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	緊急時監視制御(GAME)	GAME(監視用)1号機(102-7981-7982)	0.000	2	非常時停止系(A)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04A)	0.045	3	非常時監視制御(GAME)	GAME S-COMP(システム)投入調整弁(102-7981A)	1.000	R-MB1F-2				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	關注炉心スプレイ系	RPCS注入調整弁(22-F06)	0.045	R-MB1F-3				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	非常時停止系(B)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04B)	0.045	2	非常時停止系(C)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04C)	0.045	R-MB1F-4				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	原子炉格納容器隔離弁(PHCR)	PHCR用ライン第二調整弁(24-F10)	0.400	2	關注炉心スプレイ系	LPCS注入調整弁(22-F06)	0.045	<div data-bbox="1294 181 1845 507" style="border: 2px solid black; height: 204px; width: 246px;"></div> <div data-bbox="1285 523 1854 772"> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-1</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>緊急時監視制御(GAME)</td> <td>GAME(監視用)1号機(102-7981-7982)</td> <td>0.000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非常時停止系(A)</td> <td>RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04A)</td> <td>0.045</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>非常時監視制御(GAME)</td> <td>GAME S-COMP(システム)投入調整弁(102-7981A)</td> <td>1.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-2</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>關注炉心スプレイ系</td> <td>RPCS注入調整弁(22-F06)</td> <td>0.045</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-3</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常時停止系(B)</td> <td>RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04B)</td> <td>0.045</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非常時停止系(C)</td> <td>RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04C)</td> <td>0.045</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-4</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子炉格納容器隔離弁(PHCR)</td> <td>PHCR用ライン第二調整弁(24-F10)</td> <td>0.400</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>關注炉心スプレイ系</td> <td>LPCS注入調整弁(22-F06)</td> <td>0.045</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="1518 794 1816 810" style="text-align: center;"> <p>□ 枠組みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div> <div data-bbox="1400 826 1733 852" style="text-align: center;"> <p>図1 防護対象設備配置図(9/15)</p> </div>	R-MB1F-1				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	緊急時監視制御(GAME)	GAME(監視用)1号機(102-7981-7982)	0.000	2	非常時停止系(A)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04A)	0.045	3	非常時監視制御(GAME)	GAME S-COMP(システム)投入調整弁(102-7981A)	1.000	R-MB1F-2				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	關注炉心スプレイ系	RPCS注入調整弁(22-F06)	0.045	R-MB1F-3				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	非常時停止系(B)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04B)	0.045	2	非常時停止系(C)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04C)	0.045	R-MB1F-4				No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	原子炉格納容器隔離弁(PHCR)	PHCR用ライン第二調整弁(24-F10)	0.400	2	關注炉心スプレイ系	LPCS注入調整弁(22-F06)	0.045	
R-MB1F-1																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	緊急時監視制御(GAME)	GAME(監視用)1号機(102-7981-7982)	0.000																																																																																																																																
2	非常時停止系(A)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04A)	0.045																																																																																																																																
3	非常時監視制御(GAME)	GAME S-COMP(システム)投入調整弁(102-7981A)	1.000																																																																																																																																
R-MB1F-2																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	關注炉心スプレイ系	RPCS注入調整弁(22-F06)	0.045																																																																																																																																
R-MB1F-3																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	非常時停止系(B)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04B)	0.045																																																																																																																																
2	非常時停止系(C)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04C)	0.045																																																																																																																																
R-MB1F-4																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	原子炉格納容器隔離弁(PHCR)	PHCR用ライン第二調整弁(24-F10)	0.400																																																																																																																																
2	關注炉心スプレイ系	LPCS注入調整弁(22-F06)	0.045																																																																																																																																
R-MB1F-1																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	緊急時監視制御(GAME)	GAME(監視用)1号機(102-7981-7982)	0.000																																																																																																																																
2	非常時停止系(A)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04A)	0.045																																																																																																																																
3	非常時監視制御(GAME)	GAME S-COMP(システム)投入調整弁(102-7981A)	1.000																																																																																																																																
R-MB1F-2																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	關注炉心スプレイ系	RPCS注入調整弁(22-F06)	0.045																																																																																																																																
R-MB1F-3																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	非常時停止系(B)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04B)	0.045																																																																																																																																
2	非常時停止系(C)	RHR 系統PC2注入調整弁(11-F04C)	0.045																																																																																																																																
R-MB1F-4																																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																																																																																																																																
1	原子炉格納容器隔離弁(PHCR)	PHCR用ライン第二調整弁(24-F10)	0.400																																																																																																																																
2	關注炉心スプレイ系	LPCS注入調整弁(22-F06)	0.045																																																																																																																																





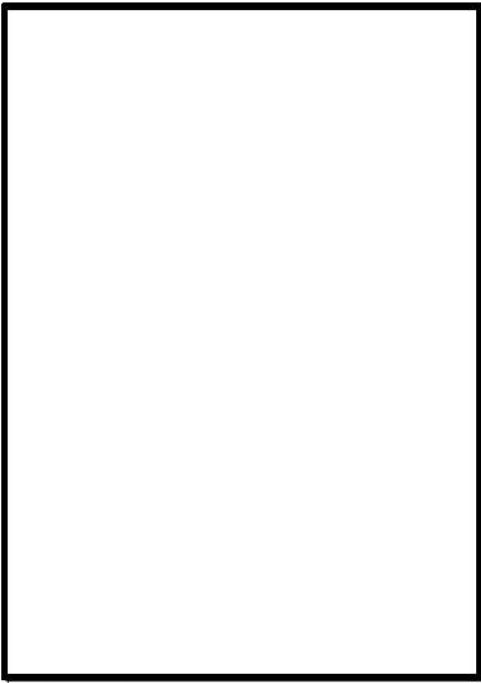
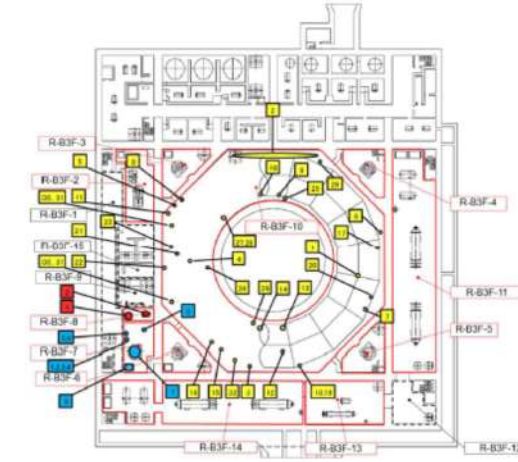
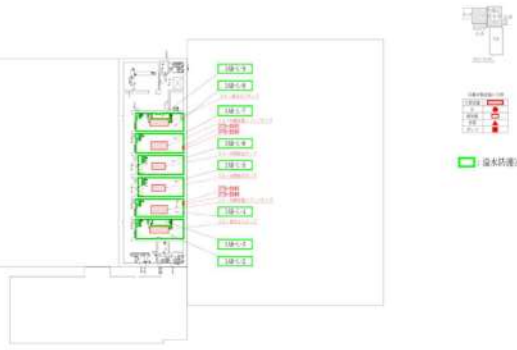


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

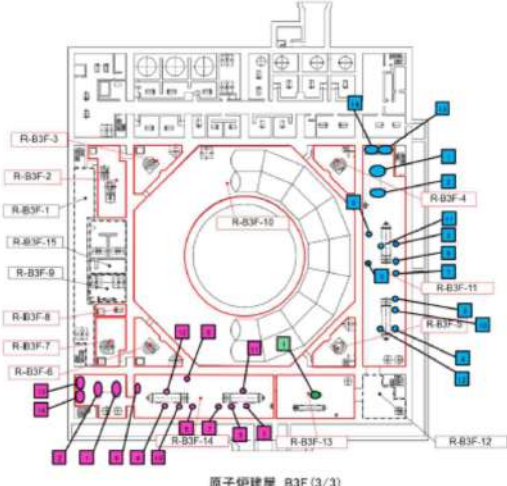
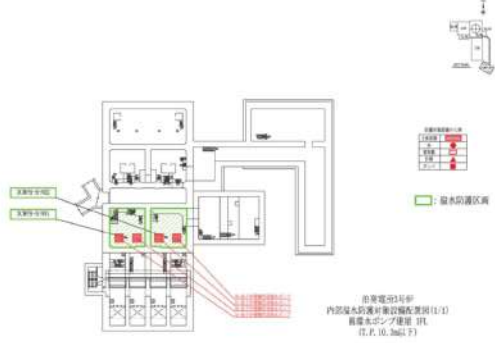
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
 <p data-bbox="280 877 627 901">詳細みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p data-bbox="940 734 1075 758">原子炉建屋 B2F</p> <table border="1" data-bbox="728 790 1254 989"> <caption>R-B2F-1</caption> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量(個)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>機室防犯カメラ(A)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A-1)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>2</td><td>機室防犯カメラ(A)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A-2)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>3</td><td>機室防犯カメラ(A)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>4</td><td>機室防犯カメラ(A)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)</td><td>1.00</td></tr> <tr><td>5</td><td>機室防犯カメラ(B)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B-1)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>6</td><td>機室防犯カメラ(B)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B-2)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>7</td><td>機室防犯カメラ(B)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>8</td><td>機室防犯カメラ(B)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)</td><td>1.00</td></tr> <tr><td>9</td><td>機室防犯カメラ(C)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084C)</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>10</td><td>機室防犯カメラ(C)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084C)</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>11</td><td>機室防犯カメラ(D)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011A)</td><td>1.00</td></tr> <tr><td>12</td><td>機室防犯カメラ(D)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011B)</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>13</td><td>機室防犯カメラ(D)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011B)</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>14</td><td>機室防犯カメラ(D)</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011C)</td><td>0.00</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 1005 1254 1109"> <caption>R-B2F-2</caption> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量(個)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>機室防犯カメラ</td><td>LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>2</td><td>機室防犯カメラ</td><td>LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>3</td><td>機室防犯カメラ</td><td>LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)</td><td>0.01</td></tr> <tr><td>4</td><td>機室防犯カメラ</td><td>LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)</td><td>1.00</td></tr> <tr><td>5</td><td>機室防犯カメラ</td><td>LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>6</td><td>機室防犯カメラ</td><td>LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)</td><td>0.00</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 1125 1254 1212"> <caption>R-B2F-3</caption> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量(個)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>機室防犯カメラ</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>2</td><td>機室防犯カメラ</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)</td><td>0.00</td></tr> <tr><td>3</td><td>機室防犯カメラ</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)</td><td>1.00</td></tr> <tr><td>4</td><td>機室防犯カメラ</td><td>監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)</td><td>0.00</td></tr> </tbody> </table>	No.	設備名称	機器名称	数量(個)	1	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A-1)	0.01	2	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A-2)	0.01	3	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)	0.01	4	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)	1.00	5	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B-1)	0.01	6	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B-2)	0.01	7	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	0.01	8	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	1.00	9	機室防犯カメラ(C)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084C)	0.00	10	機室防犯カメラ(C)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084C)	0.00	11	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011A)	1.00	12	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011B)	0.00	13	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011B)	0.00	14	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011C)	0.00	No.	設備名称	機器名称	数量(個)	1	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)	0.01	2	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	0.01	3	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.01	4	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	1.00	5	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00	6	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00	No.	設備名称	機器名称	数量(個)	1	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	0.00	2	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00	3	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	1.00	4	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00	 <p data-bbox="1724 566 1848 598">泊発電所3号炉 内蔵設備の構成及び配置図(表1)(1) T.P. 2.3(中図表)</p> <table border="1" data-bbox="1422 614 1713 734"> <caption>機室A</caption> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量(個)</th> <th>数量(台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>機室防犯カメラ(A)</td><td>211-機室防犯カメラ(A)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(B)</td><td>211-機室防犯カメラ(B)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(C)</td><td>211-機室防犯カメラ(C)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(D)</td><td>211-機室防犯カメラ(D)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(E)</td><td>211-機室防犯カメラ(E)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(F)</td><td>211-機室防犯カメラ(F)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(G)</td><td>211-機室防犯カメラ(G)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(H)</td><td>211-機室防犯カメラ(H)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(I)</td><td>211-機室防犯カメラ(I)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(J)</td><td>211-機室防犯カメラ(J)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(K)</td><td>211-機室防犯カメラ(K)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(L)</td><td>211-機室防犯カメラ(L)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(M)</td><td>211-機室防犯カメラ(M)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(N)</td><td>211-機室防犯カメラ(N)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(O)</td><td>211-機室防犯カメラ(O)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(P)</td><td>211-機室防犯カメラ(P)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Q)</td><td>211-機室防犯カメラ(Q)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(R)</td><td>211-機室防犯カメラ(R)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(S)</td><td>211-機室防犯カメラ(S)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(T)</td><td>211-機室防犯カメラ(T)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(U)</td><td>211-機室防犯カメラ(U)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(V)</td><td>211-機室防犯カメラ(V)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(W)</td><td>211-機室防犯カメラ(W)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(X)</td><td>211-機室防犯カメラ(X)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Y)</td><td>211-機室防犯カメラ(Y)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Z)</td><td>211-機室防犯カメラ(Z)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1422 742 1713 861"> <caption>機室B</caption> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量(個)</th> <th>数量(台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>機室防犯カメラ(B)</td><td>211-機室防犯カメラ(B)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(C)</td><td>211-機室防犯カメラ(C)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(D)</td><td>211-機室防犯カメラ(D)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(E)</td><td>211-機室防犯カメラ(E)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(F)</td><td>211-機室防犯カメラ(F)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(G)</td><td>211-機室防犯カメラ(G)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(H)</td><td>211-機室防犯カメラ(H)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(I)</td><td>211-機室防犯カメラ(I)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(J)</td><td>211-機室防犯カメラ(J)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(K)</td><td>211-機室防犯カメラ(K)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(L)</td><td>211-機室防犯カメラ(L)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(M)</td><td>211-機室防犯カメラ(M)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(N)</td><td>211-機室防犯カメラ(N)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(O)</td><td>211-機室防犯カメラ(O)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(P)</td><td>211-機室防犯カメラ(P)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Q)</td><td>211-機室防犯カメラ(Q)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(R)</td><td>211-機室防犯カメラ(R)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(S)</td><td>211-機室防犯カメラ(S)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(T)</td><td>211-機室防犯カメラ(T)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(U)</td><td>211-機室防犯カメラ(U)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(V)</td><td>211-機室防犯カメラ(V)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(W)</td><td>211-機室防犯カメラ(W)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(X)</td><td>211-機室防犯カメラ(X)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Y)</td><td>211-機室防犯カメラ(Y)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Z)</td><td>211-機室防犯カメラ(Z)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1422 869 1713 973"> <caption>機室C</caption> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>数量(個)</th> <th>数量(台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>機室防犯カメラ(C)</td><td>211-機室防犯カメラ(C)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(D)</td><td>211-機室防犯カメラ(D)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(E)</td><td>211-機室防犯カメラ(E)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(F)</td><td>211-機室防犯カメラ(F)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(G)</td><td>211-機室防犯カメラ(G)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(H)</td><td>211-機室防犯カメラ(H)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(I)</td><td>211-機室防犯カメラ(I)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(J)</td><td>211-機室防犯カメラ(J)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(K)</td><td>211-機室防犯カメラ(K)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(L)</td><td>211-機室防犯カメラ(L)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(M)</td><td>211-機室防犯カメラ(M)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(N)</td><td>211-機室防犯カメラ(N)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(O)</td><td>211-機室防犯カメラ(O)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(P)</td><td>211-機室防犯カメラ(P)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Q)</td><td>211-機室防犯カメラ(Q)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(R)</td><td>211-機室防犯カメラ(R)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(S)</td><td>211-機室防犯カメラ(S)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(T)</td><td>211-機室防犯カメラ(T)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(U)</td><td>211-機室防犯カメラ(U)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(V)</td><td>211-機室防犯カメラ(V)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(W)</td><td>211-機室防犯カメラ(W)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(X)</td><td>211-機室防犯カメラ(X)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Y)</td><td>211-機室防犯カメラ(Y)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>機室防犯カメラ(Z)</td><td>211-機室防犯カメラ(Z)</td><td>0.01</td><td>0.0</td></tr> </tbody> </table>	設備名称	機器名称	数量(個)	数量(台)	機室防犯カメラ(A)	211-機室防犯カメラ(A)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(B)	211-機室防犯カメラ(B)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(C)	211-機室防犯カメラ(C)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(D)	211-機室防犯カメラ(D)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(E)	211-機室防犯カメラ(E)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(F)	211-機室防犯カメラ(F)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(G)	211-機室防犯カメラ(G)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(H)	211-機室防犯カメラ(H)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(I)	211-機室防犯カメラ(I)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(J)	211-機室防犯カメラ(J)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(K)	211-機室防犯カメラ(K)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(L)	211-機室防犯カメラ(L)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(M)	211-機室防犯カメラ(M)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(N)	211-機室防犯カメラ(N)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(O)	211-機室防犯カメラ(O)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(P)	211-機室防犯カメラ(P)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Q)	211-機室防犯カメラ(Q)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(R)	211-機室防犯カメラ(R)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(S)	211-機室防犯カメラ(S)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(T)	211-機室防犯カメラ(T)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(U)	211-機室防犯カメラ(U)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(V)	211-機室防犯カメラ(V)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(W)	211-機室防犯カメラ(W)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(X)	211-機室防犯カメラ(X)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Y)	211-機室防犯カメラ(Y)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Z)	211-機室防犯カメラ(Z)	0.01	0.0	設備名称	機器名称	数量(個)	数量(台)	機室防犯カメラ(B)	211-機室防犯カメラ(B)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(C)	211-機室防犯カメラ(C)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(D)	211-機室防犯カメラ(D)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(E)	211-機室防犯カメラ(E)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(F)	211-機室防犯カメラ(F)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(G)	211-機室防犯カメラ(G)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(H)	211-機室防犯カメラ(H)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(I)	211-機室防犯カメラ(I)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(J)	211-機室防犯カメラ(J)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(K)	211-機室防犯カメラ(K)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(L)	211-機室防犯カメラ(L)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(M)	211-機室防犯カメラ(M)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(N)	211-機室防犯カメラ(N)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(O)	211-機室防犯カメラ(O)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(P)	211-機室防犯カメラ(P)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Q)	211-機室防犯カメラ(Q)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(R)	211-機室防犯カメラ(R)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(S)	211-機室防犯カメラ(S)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(T)	211-機室防犯カメラ(T)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(U)	211-機室防犯カメラ(U)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(V)	211-機室防犯カメラ(V)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(W)	211-機室防犯カメラ(W)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(X)	211-機室防犯カメラ(X)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Y)	211-機室防犯カメラ(Y)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Z)	211-機室防犯カメラ(Z)	0.01	0.0	設備名称	機器名称	数量(個)	数量(台)	機室防犯カメラ(C)	211-機室防犯カメラ(C)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(D)	211-機室防犯カメラ(D)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(E)	211-機室防犯カメラ(E)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(F)	211-機室防犯カメラ(F)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(G)	211-機室防犯カメラ(G)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(H)	211-機室防犯カメラ(H)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(I)	211-機室防犯カメラ(I)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(J)	211-機室防犯カメラ(J)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(K)	211-機室防犯カメラ(K)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(L)	211-機室防犯カメラ(L)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(M)	211-機室防犯カメラ(M)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(N)	211-機室防犯カメラ(N)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(O)	211-機室防犯カメラ(O)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(P)	211-機室防犯カメラ(P)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Q)	211-機室防犯カメラ(Q)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(R)	211-機室防犯カメラ(R)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(S)	211-機室防犯カメラ(S)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(T)	211-機室防犯カメラ(T)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(U)	211-機室防犯カメラ(U)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(V)	211-機室防犯カメラ(V)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(W)	211-機室防犯カメラ(W)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(X)	211-機室防犯カメラ(X)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Y)	211-機室防犯カメラ(Y)	0.01	0.0	機室防犯カメラ(Z)	211-機室防犯カメラ(Z)	0.01	0.0	<p data-bbox="1388 997 1736 1021">図1 防護対象設備配置図 (12 / 15)</p>
No.	設備名称	機器名称	数量(個)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A-1)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
2	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A-2)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
3	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
4	機室防犯カメラ(A)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)	1.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
5	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B-1)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
6	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B-2)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
7	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
8	機室防犯カメラ(B)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	1.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
9	機室防犯カメラ(C)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084C)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
10	機室防犯カメラ(C)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084C)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
11	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011A)	1.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
12	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011B)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
13	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011B)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
14	機室防犯カメラ(D)	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT011C)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
No.	設備名称	機器名称	数量(個)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084A)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
2	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
3	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.01																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
4	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	1.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
5	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
6	機室防犯カメラ	LPCカメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
No.	設備名称	機器名称	数量(個)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084B)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
2	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
3	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	1.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
4	機室防犯カメラ	監視カメラ(防犯用) (型番: 211-PT084)	0.00																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
設備名称	機器名称	数量(個)	数量(台)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(A)	211-機室防犯カメラ(A)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(B)	211-機室防犯カメラ(B)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(C)	211-機室防犯カメラ(C)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(D)	211-機室防犯カメラ(D)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(E)	211-機室防犯カメラ(E)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(F)	211-機室防犯カメラ(F)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(G)	211-機室防犯カメラ(G)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(H)	211-機室防犯カメラ(H)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(I)	211-機室防犯カメラ(I)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(J)	211-機室防犯カメラ(J)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(K)	211-機室防犯カメラ(K)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(L)	211-機室防犯カメラ(L)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(M)	211-機室防犯カメラ(M)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(N)	211-機室防犯カメラ(N)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(O)	211-機室防犯カメラ(O)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(P)	211-機室防犯カメラ(P)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Q)	211-機室防犯カメラ(Q)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(R)	211-機室防犯カメラ(R)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(S)	211-機室防犯カメラ(S)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(T)	211-機室防犯カメラ(T)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(U)	211-機室防犯カメラ(U)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(V)	211-機室防犯カメラ(V)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(W)	211-機室防犯カメラ(W)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(X)	211-機室防犯カメラ(X)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Y)	211-機室防犯カメラ(Y)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Z)	211-機室防犯カメラ(Z)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
設備名称	機器名称	数量(個)	数量(台)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(B)	211-機室防犯カメラ(B)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(C)	211-機室防犯カメラ(C)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(D)	211-機室防犯カメラ(D)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(E)	211-機室防犯カメラ(E)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(F)	211-機室防犯カメラ(F)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(G)	211-機室防犯カメラ(G)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(H)	211-機室防犯カメラ(H)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(I)	211-機室防犯カメラ(I)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(J)	211-機室防犯カメラ(J)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(K)	211-機室防犯カメラ(K)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(L)	211-機室防犯カメラ(L)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(M)	211-機室防犯カメラ(M)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(N)	211-機室防犯カメラ(N)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(O)	211-機室防犯カメラ(O)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(P)	211-機室防犯カメラ(P)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Q)	211-機室防犯カメラ(Q)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(R)	211-機室防犯カメラ(R)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(S)	211-機室防犯カメラ(S)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(T)	211-機室防犯カメラ(T)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(U)	211-機室防犯カメラ(U)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(V)	211-機室防犯カメラ(V)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(W)	211-機室防犯カメラ(W)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(X)	211-機室防犯カメラ(X)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Y)	211-機室防犯カメラ(Y)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Z)	211-機室防犯カメラ(Z)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
設備名称	機器名称	数量(個)	数量(台)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(C)	211-機室防犯カメラ(C)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(D)	211-機室防犯カメラ(D)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(E)	211-機室防犯カメラ(E)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(F)	211-機室防犯カメラ(F)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(G)	211-機室防犯カメラ(G)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(H)	211-機室防犯カメラ(H)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(I)	211-機室防犯カメラ(I)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(J)	211-機室防犯カメラ(J)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(K)	211-機室防犯カメラ(K)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(L)	211-機室防犯カメラ(L)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(M)	211-機室防犯カメラ(M)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(N)	211-機室防犯カメラ(N)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(O)	211-機室防犯カメラ(O)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(P)	211-機室防犯カメラ(P)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Q)	211-機室防犯カメラ(Q)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(R)	211-機室防犯カメラ(R)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(S)	211-機室防犯カメラ(S)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(T)	211-機室防犯カメラ(T)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(U)	211-機室防犯カメラ(U)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(V)	211-機室防犯カメラ(V)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(W)	211-機室防犯カメラ(W)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(X)	211-機室防犯カメラ(X)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Y)	211-機室防犯カメラ(Y)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
機室防犯カメラ(Z)	211-機室防犯カメラ(Z)	0.01	0.0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																
 <p>特記の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 B3F (2/3)</p> <table border="1" data-bbox="716 742 963 861"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="974 742 1220 861"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	...	...	...	...	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	...	...	...	...	 <p>泊発電所3号炉 内部設備配置図(1/15) T.P.-L.1a</p> <table border="1" data-bbox="1355 630 1769 678"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3号一階安全注入ポンプ</td> <td>2台</td> <td>0.22</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1355 686 1769 750"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却システム</td> <td>3号一階冷却スプレッドポンプ</td> <td>3台</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td>換気空調システム</td> <td>3号一階換気スプレッドポンプ</td> <td>2台</td> <td>1.48</td> </tr> <tr> <td>換気空調システム</td> <td>3号一階換気スプレッドポンプ</td> <td>2台</td> <td>1.45</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1355 758 1769 805"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>冷却水供給系統</td> <td>3号一階冷却水ポンプ</td> <td>2台</td> <td>0.75</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1355 813 1769 861"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>冷却水供給系統</td> <td>3号一階冷却水ポンプ</td> <td>2台</td> <td>0.75</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1355 869 1769 933"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却システム</td> <td>3号一階冷却スプレッドポンプ</td> <td>3台</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td>換気空調システム</td> <td>3号一階換気スプレッドポンプ</td> <td>2台</td> <td>1.45</td> </tr> <tr> <td>換気空調システム</td> <td>3号一階換気スプレッドポンプ</td> <td>2台</td> <td>1.46</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1355 941 1769 989"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>設備仕様</th> <th>数量</th> <th>設置高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安全注入系統</td> <td>3号一階安全注入ポンプ</td> <td>2台</td> <td>0.22</td> </tr> </tbody> </table> <p>図1 防護対象設備配置図 (14/15)</p>	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	安全注入系統	3号一階安全注入ポンプ	2台	0.22	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	原子炉冷却システム	3号一階冷却スプレッドポンプ	3台	0.63	換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.48	換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.45	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	冷却水供給系統	3号一階冷却水ポンプ	2台	0.75	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	冷却水供給系統	3号一階冷却水ポンプ	2台	0.75	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	原子炉冷却システム	3号一階冷却スプレッドポンプ	3台	0.63	換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.45	換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.46	設備名	設備仕様	数量	設置高さ	安全注入系統	3号一階安全注入ポンプ	2台	0.22	<p>相違理由</p>
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
...	...	...	...																																																																																
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
...	...	...	...																																																																																
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
安全注入系統	3号一階安全注入ポンプ	2台	0.22																																																																																
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
原子炉冷却システム	3号一階冷却スプレッドポンプ	3台	0.63																																																																																
換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.48																																																																																
換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.45																																																																																
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
冷却水供給系統	3号一階冷却水ポンプ	2台	0.75																																																																																
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
冷却水供給系統	3号一階冷却水ポンプ	2台	0.75																																																																																
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
原子炉冷却システム	3号一階冷却スプレッドポンプ	3台	0.63																																																																																
換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.45																																																																																
換気空調システム	3号一階換気スプレッドポンプ	2台	1.46																																																																																
設備名	設備仕様	数量	設置高さ																																																																																
安全注入系統	3号一階安全注入ポンプ	2台	0.22																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	 <p style="text-align: center;">原子炉建屋 B3F (3/3)</p> <table border="1" data-bbox="716 734 974 997"> <caption>図1 防護対象設備配置図 (15/23)</caption> <thead> <tr> <th>設備番号</th> <th>設備名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>4</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>5</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>6</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>7</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>8</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>9</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>10</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>11</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>12</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>13</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>14</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>15</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>16</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>17</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>18</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>19</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>20</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>21</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>22</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>23</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>24</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>25</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>26</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>27</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>28</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>29</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>30</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>31</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>32</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>33</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>34</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>35</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>36</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>37</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>38</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>39</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>40</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>41</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>42</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>43</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>44</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>45</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>46</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>47</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>48</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>49</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>50</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>51</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>52</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>53</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>54</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>55</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>56</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>57</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>58</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>59</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>60</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>61</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>62</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>63</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>64</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>65</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>66</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>67</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>68</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>69</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>70</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>71</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>72</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>73</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>74</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>75</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>76</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>77</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>78</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>79</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>80</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>81</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>82</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>83</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>84</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>85</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>86</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>87</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>88</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>89</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>90</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>91</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>92</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>93</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>94</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>95</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>96</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>97</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>98</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>99</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> <tr><td>100</td><td>原子炉建屋冷却水ポンプ</td><td>2.10</td></tr> </tbody> </table>	設備番号	設備名称	設置高さ (m)	1	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	2	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	3	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	4	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	5	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	6	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	7	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	8	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	9	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	10	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	11	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	12	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	13	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	14	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	15	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	16	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	17	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	18	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	19	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	20	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	21	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	22	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	23	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	24	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	25	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	26	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	27	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	28	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	29	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	30	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	31	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	32	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	33	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	34	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	35	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	36	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	37	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	38	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	39	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	40	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	41	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	42	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	43	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	44	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	45	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	46	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	47	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	48	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	49	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	50	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	51	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	52	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	53	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	54	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	55	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	56	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	57	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	58	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	59	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	60	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	61	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	62	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	63	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	64	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	65	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	66	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	67	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	68	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	69	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	70	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	71	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	72	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	73	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	74	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	75	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	76	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	77	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	78	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	79	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	80	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	81	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	82	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	83	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	84	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	85	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	86	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	87	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	88	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	89	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	90	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	91	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	92	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	93	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	94	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	95	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	96	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	97	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	98	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	99	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	100	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10	 <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図 (15/15)</p> <table border="1" data-bbox="1288 630 1814 710"> <caption>3CRP-B-N01</caption> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却海水系統</td> <td>3 A - 原子炉建屋冷却海水ポンプ</td> <td>3SRP1A</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却海水系統</td> <td>3 B - 原子炉建屋冷却海水ポンプ</td> <td>3SRP1B</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1288 718 1814 798"> <caption>3CRP-B-N02</caption> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却海水系統</td> <td>3 C - 原子炉建屋冷却海水ポンプ</td> <td>3SRP1C</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却海水系統</td> <td>3 D - 原子炉建屋冷却海水ポンプ</td> <td>3SRP1D</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table>	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却海水系統	3 A - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1A	1.5	原子炉建屋冷却海水系統	3 B - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1B	1.5	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却海水系統	3 C - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1C	1.5	原子炉建屋冷却海水系統	3 D - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1D	1.5	<p>相違理由</p>
設備番号	設備名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
2	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
3	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
4	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
5	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
6	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
7	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
8	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
9	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
10	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
11	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
12	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
13	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
14	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
15	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
16	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
17	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
18	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
19	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
20	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
21	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
22	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
23	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
24	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
25	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
26	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
27	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
28	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
29	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
30	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
31	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
32	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
33	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
34	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
35	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
36	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
37	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
38	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
39	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
40	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
41	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
42	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
43	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
44	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
45	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
46	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
47	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
48	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
49	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
50	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
51	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
52	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
53	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
54	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
55	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
56	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
57	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
58	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
59	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
60	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
61	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
62	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
63	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
64	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
65	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
66	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
67	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
68	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
69	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
70	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
71	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
72	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
73	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
74	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
75	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
76	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
77	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
78	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
79	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
80	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
81	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
82	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
83	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
84	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
85	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
86	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
87	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
88	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
89	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
90	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
91	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
92	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
93	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
94	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
95	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
96	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
97	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
98	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
99	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
100	原子炉建屋冷却水ポンプ	2.10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
原子炉建屋冷却海水系統	3 A - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1A	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
原子炉建屋冷却海水系統	3 B - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1B	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
原子炉建屋冷却海水系統	3 C - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1C	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
原子炉建屋冷却海水系統	3 D - 原子炉建屋冷却海水ポンプ	3SRP1D	1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	 <p style="text-align: center;">制御建屋 3F</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置場所(㎡)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中央制御室制御盤</td> <td>中央制御室制御盤(01)</td> <td>0.200</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図(16/23)</p>	No.	設備名称	機器名称	設置場所(㎡)	1	中央制御室制御盤	中央制御室制御盤(01)	0.200		
No.	設備名称	機器名称	設置場所(㎡)								
1	中央制御室制御盤	中央制御室制御盤(01)	0.200								

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

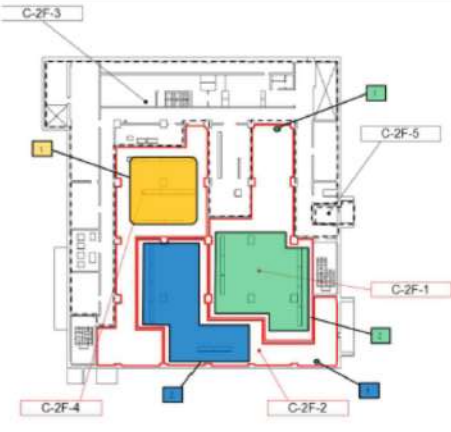
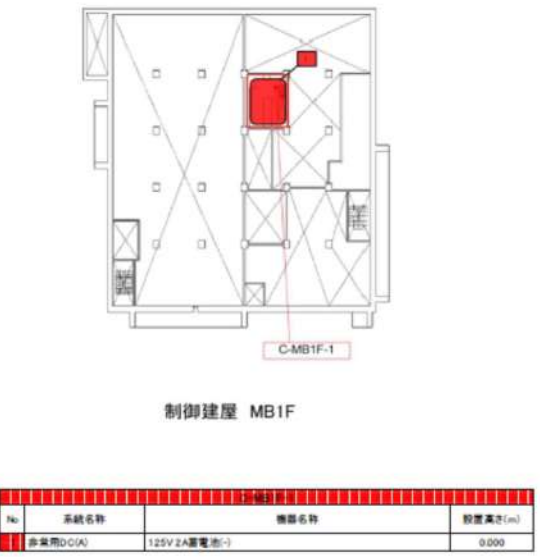
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
	 <p style="text-align: center;">制御建屋 2F</p> <table border="1" data-bbox="739 702 1265 917"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="background-color: #92d050;">C-2F-3</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置箇所 (x-y)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>緊急時監視計器 (FASIS)</td> <td>CANALコンピュータ監視装置 (C-2F3-F200A)</td> <td>0.000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中核種監視装置</td> <td>中核種監視装置 (C-2F3-F200B)</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="739 790 1265 853"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="background-color: #4682b4;">C-2F-4</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置箇所 (x-y)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>緊急時監視計器 (FASIS)</td> <td>CANALコンピュータ監視装置 (C-2F4-F200A)</td> <td>0.000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中核種監視装置</td> <td>中核種監視装置 (C-2F4-F200B)</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="739 869 1265 917"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="background-color: #ffd700;">C-2F-5</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置箇所 (x-y)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中核種監視装置</td> <td>中核種監視装置 (C-2F5-F200)</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table>	C-2F-3				No.	系統名称	機器名称	設置箇所 (x-y)	1	緊急時監視計器 (FASIS)	CANALコンピュータ監視装置 (C-2F3-F200A)	0.000	2	中核種監視装置	中核種監視装置 (C-2F3-F200B)	0.000	C-2F-4				No.	系統名称	機器名称	設置箇所 (x-y)	1	緊急時監視計器 (FASIS)	CANALコンピュータ監視装置 (C-2F4-F200A)	0.000	2	中核種監視装置	中核種監視装置 (C-2F4-F200B)	0.000	C-2F-5				No.	系統名称	機器名称	設置箇所 (x-y)	1	中核種監視装置	中核種監視装置 (C-2F5-F200)	0.000		
C-2F-3																																															
No.	系統名称	機器名称	設置箇所 (x-y)																																												
1	緊急時監視計器 (FASIS)	CANALコンピュータ監視装置 (C-2F3-F200A)	0.000																																												
2	中核種監視装置	中核種監視装置 (C-2F3-F200B)	0.000																																												
C-2F-4																																															
No.	系統名称	機器名称	設置箇所 (x-y)																																												
1	緊急時監視計器 (FASIS)	CANALコンピュータ監視装置 (C-2F4-F200A)	0.000																																												
2	中核種監視装置	中核種監視装置 (C-2F4-F200B)	0.000																																												
C-2F-5																																															
No.	系統名称	機器名称	設置箇所 (x-y)																																												
1	中核種監視装置	中核種監視装置 (C-2F5-F200)	0.000																																												

図1 防護対象設備配置図 (17/23)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="707 194 1272 970" style="border: 1px solid black; height: 486px; width: 252px; margin-bottom: 10px;"></div> <div data-bbox="833 992 1133 1018" style="text-align: center;">                     図1 防護対象設備配置図(18/23)                 </div> <div data-bbox="707 1040 1263 1075" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。                 </div>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	 <p style="text-align: center;">制御建屋 MB1F</p> <table border="1" data-bbox="728 678 1265 742"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常用D(G/A)</td> <td>125V 2A 漏電遮断器</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図(19/23)</p>	No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)	1	非常用D(G/A)	125V 2A 漏電遮断器	0.000		
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)								
1	非常用D(G/A)	125V 2A 漏電遮断器	0.000								

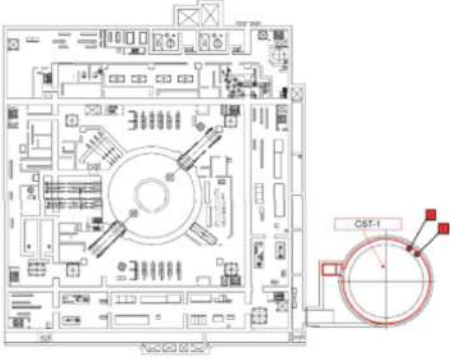
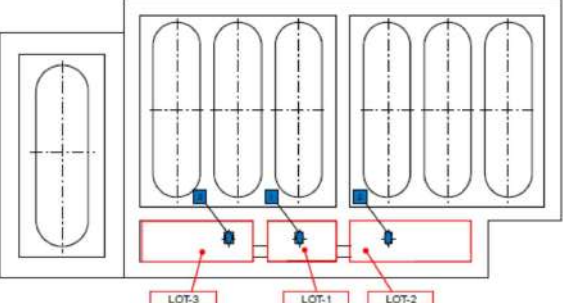




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="707 185 1263 944" style="border: 1px solid black; height: 476px; width: 248px; margin-bottom: 10px;"></div> <div data-bbox="833 957 1133 983" style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図(21/23)</div> <div data-bbox="707 1008 1263 1043" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																												
	 <p style="text-align: center;">復水貯蔵タンクエリア</p> <table border="1" data-bbox="712 662 1256 742"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (注22-L5011A)</td> <td>1.515</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (注22-L5011B)</td> <td>1.515</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図 (22/23)</p>  <p style="text-align: center;">軽油タンクエリア</p> <table border="1" data-bbox="772 1252 1227 1340"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>非常用ディーゼル発電機 (A)</td> <td>燃料移送ポンプ (注19A-C200A)</td> <td>0.440</td> </tr> <tr> <td></td> <td>非常用ディーゼル発電機 (B)</td> <td>燃料移送ポンプ (注19A-C200B)</td> <td>0.440</td> </tr> <tr> <td></td> <td>非常用ディーゼル発電機 (PCS)</td> <td>燃料移送ポンプ (注19A-C200)</td> <td>0.440</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図 (23/23)</p>	No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)		高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (注22-L5011A)	1.515		高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (注22-L5011B)	1.515	No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)		非常用ディーゼル発電機 (A)	燃料移送ポンプ (注19A-C200A)	0.440		非常用ディーゼル発電機 (B)	燃料移送ポンプ (注19A-C200B)	0.440		非常用ディーゼル発電機 (PCS)	燃料移送ポンプ (注19A-C200)	0.440		
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																												
	高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (注22-L5011A)	1.515																												
	高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (注22-L5011B)	1.515																												
No.	系統名称	機器名称	設置高さ(m)																												
	非常用ディーゼル発電機 (A)	燃料移送ポンプ (注19A-C200A)	0.440																												
	非常用ディーゼル発電機 (B)	燃料移送ポンプ (注19A-C200B)	0.440																												
	非常用ディーゼル発電機 (PCS)	燃料移送ポンプ (注19A-C200)	0.440																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p>補足資料4-2</p> <p>4-2 原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響について</p> <p>2. 原子炉格納容器内防護対象設備の保守管理について                      耐環境性仕様である原子炉格納容器内の防護対象設備については、定期点検及び定期取替えを実施し、プラントの安全機能に影響のないようにしている。                      定期点検については、外観点検及び絶縁抵抗測定その他、各設備に応じた特性試験及び入出力試験を実施している。                      また、定期取替えについては、検証寿命等を考慮して取替えの周期を定め、この周期内での取替えを実施している。</p> <p>表1 格納容器内高レンジエリアモニタの保守管理の例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>点検内容</th> <th>点検周期 [回/定検]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外観点検</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>絶縁抵抗測定</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>静電容量測定</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>特性試験</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>入出力試験</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>定期取替</td> <td>1/30</td> </tr> </tbody> </table>	点検内容	点検周期 [回/定検]	外観点検	1/1	絶縁抵抗測定	1/1	静電容量測定	1/1	特性試験	1/1	入出力試験	1/1	定期取替	1/30	<p>補足説明資料3</p> <p>溢水影響評価の対象外とした設備に関する補足</p> <p>1. 溢水影響評価から対象外とした設備                      添付資料6（溢水影響評価の対象外とする設備について）にて整理した結果の補足について示す。</p> <p>2. 「PCV内耐環境仕様の設備」についての補足                      （1）原子炉格納容器内防護対象設備の保全状況                      原子炉冷却材喪失事故時に機能要求がある原子炉格納容器内防護対象設備については、以下のとおり保全を行っており耐環境性能の維持が図れている。</p> <p>a. 弁駆動部及び計器                      長期使用に伴いOリング等の熱劣化によるシール性能の低下や放射線の影響による計測値誤差の増加等が懸念されることから、点検周期を設定し定期的に点検を実施している。</p> <p>b. ケーブル及びケーブル接続部                      長期使用に伴い絶縁体等に経年劣化による絶縁性能の低下が懸念されるが、電力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、許容値以上であることを確認している。                      制御・計装用ケーブルについては、系統機器の動作、又は計器の指示値等に異常がないことを確認し、絶縁低下による機能低下がないことを確認している。                      原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響の確認結果、並びに耐環境性能維持に係る保全状況を表1に示す。                      また、ケーブルの被水影響について評価し、影響ないと評価した。その結果について別紙に示す。</p>	<p>補足説明資料7</p> <p>溢水影響評価の対象外とした設備に関する補足</p> <p>1. 溢水影響評価から対象外とした設備                      添付資料6（溢水影響評価の対象外とする設備について）にて整理した結果の補足について示す。</p> <p>2. 「原子炉格納容器内耐環境仕様の設備」についての補足                      （1）原子炉格納容器内防護対象設備の保全状況                      原子炉冷却材喪失事故時に機能要求がある原子炉格納容器内防護対象設備については、以下のとおり保全を行っており耐環境性能の維持が図れている。</p> <p>a. 弁駆動部及び計器                      長期使用に伴いOリング等の熱劣化によるシール性能の低下や放射線の影響による計測値誤差の増加等が懸念されることから、点検周期を設定し定期的に点検を実施している。</p> <p>b. ケーブル及びケーブル接続部                      長期使用に伴い絶縁体等に経年劣化による絶縁性能の低下が懸念されるが、電力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、許容値以上であることを確認している。                      制御・計装用ケーブルについては、系統機器の動作、又は計器の指示値等に異常がないことを確認し、絶縁低下による機能低下がないことを確認している。                      原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響の確認結果、並びに耐環境性能維持に係る保全状況を表1に示す。                      また、ケーブルの被水影響について評価し、影響ないと評価した。その結果について別紙に示す。</p>	<p>【大阪】                      記載方針の相違                      ・女川審査実績の反映</p> <p>【大阪】                      記載方針の相違                      ・女川審査実績の反映</p>
点検内容	点検周期 [回/定検]																
外観点検	1/1																
絶縁抵抗測定	1/1																
静電容量測定	1/1																
特性試験	1/1																
入出力試験	1/1																
定期取替	1/30																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大阪発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉						相違理由				
表2 原子炉格納容器内防護対象設備の定期取替周期		表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(1/7)				表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(1/4)						【大阪】 記載方針の相違 ・女川審査実績の反映				
設備	取替周期	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	点検部位	周期	保全内容	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(T.P.)		C/V内環境条件の適合性	点検部位	周期	保全内容
電動弁駆動装置	- ※1	サブプレッションプール 水温度(11°)	T11-TE001A	-1600	○	本体	1C	特性試験	加圧器水位	3LT-451,452,453,454	18.8m	○	本体	13M	外観点検	
空気制御弁	リミットスイッチ	サブプレッションプール 水温度(34°)	T11-TE002A	-1600	○	本体	1C	特性試験	加圧器圧力	3PT-451,452,453,454	25.8m	○	本体	13M	外観点検	
	電磁弁	サブプレッションプール 水温度(56°)	T11-TE003A	-1600	○	本体	1C	特性試験		本体	13M	特性試験				
伝送器	～19.8年	サブプレッションプール 水温度(79°)	T11-TE004A	-1600	○	本体	1C	特性試験	1次冷却材圧力	3PT-410,430	18.8m	○	本体	13M	外観点検	
温度計	～35.5年	サブプレッションプール 水温度(11°)	T11-TE001B	-1595	○	本体	1C	特性試験	1次冷却材高温側 温度(狭域)	3TE-411A,413A,415A,421A,423A,425A,431A,433A,435A,441A,443A,445A	22.0m	○	本体	13M	外観点検	
中性子束検出器	～5年	サブプレッションプール 水温度(13°)	T11-TE002B	-1595	○	本体	1C	特性試験		本体	13M	特性試験				
格納容器内高レンジエリアモニタ	～30年	サブプレッションプール 水温度(56°)	T11-TE003B	-1595	○	本体	1C	特性試験	1次冷却材低温側 温度(狭域)	3TE-411B,421B,431B,441B	22.0m	○	本体	13M	外観点検	
		サブプレッションプール 水温度(79°)	T11-TE004B	-1595	○	本体	1C	特性試験	本体	13M	特性試験					
		サブプレッションプール 水温度(101°)	T11-TE005A	-1600	○	本体	1C	特性試験	1次冷却材高温側 温度(広域)	3TE-410,420,430	23.0m	○	本体	13M	外観点検	
		サブプレッションプール 水温度(124°)	T11-TE006A	-1600	○	本体	1C	特性試験	本体	13M	特性試験					
		サブプレッションプール 水温度(146°)	T11-TE007A	-1600	○	本体	1C	特性試験	1次冷却材低温側 温度(広域)	3TE-417,427,437	22.2m	○	本体	13M	外観点検	
		サブプレッションプール 水温度(169°)	T11-TE008A	-1600	○	本体	1C	特性試験	1次冷却材流量	3FT-412,413,414,415,422,423,424,425,432,433,434,435	-	○	本体	13M	外観点検	※1
		サブプレッションプール 水温度(101°)	T11-TE005B	-1595	○	本体	1C	特性試験		本体	13M	特性試験				
		サブプレッションプール 水温度(124°)	T11-TE006B	-1595	○	本体	1C	特性試験	格納容器再循環サンプ水位(狭域)	3LT-620,630	15.5m	○	本体	13M	外観点検	
		サブプレッションプール 水温度(146°)	T11-TE007B	-1595	○	本体	1C	特性試験	本体	13M	特性試験					
		サブプレッションプール 水温度(169°)	T11-TE008B	-1595	○	本体	1C	特性試験	格納容器再循環サンプ水位(広域)	3LT-621,631	15.5m	○	本体	13M	外観点検	
		サブプレッションプール 水温度(191°)	T11-TE009A	-1600	○	本体	1C	特性試験	本体	13M	特性試験					
		サブプレッションプール 水温度(214°)	T11-TE010A	-1600	○	本体	1C	特性試験	蒸気発生器水位(狭域)	3LT-460,461,462,463,470,471,472,473,480,481,482,483	25.8m	○	本体	13M	外観点検	
		サブプレッションプール 水温度(236°)	T11-TE011A	-1600	○	本体	1C	特性試験	本体	13M	特性試験					
		サブプレッションプール 水温度(259°)	T11-TE012A	-1600	○	本体	1C	特性試験	蒸気発生器水位(広域)	3LT-464,474,484	18.8m	○	本体	13M	外観点検	
		サブプレッションプール 水温度(191°)	T11-TE009B	-1595	○	本体	1C	特性試験	中性子源領域検出器	3NES1,32	17.5m	○	本体	13M	特性試験	
									検出器				検出器	26M	取替	

※1 LOCA時に機能要求なし

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																										
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(2/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(214°)</td><td>T11-TE010B</td><td>-1596</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(236°)</td><td>T11-TE011B</td><td>-1596</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(259°)</td><td>T11-TE012B</td><td>-1596</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(281°)</td><td>T11-TE013A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(304°)</td><td>T11-TE014A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(326°)</td><td>T11-TE015A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(349°)</td><td>T11-TE016A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(281°)</td><td>T11-TE013B</td><td>-1596</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(304°)</td><td>T11-TE014B</td><td>-1596</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(326°)</td><td>T11-TE015B</td><td>-1596</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッショナルプール 水温度(349°)</td><td>T11-TE016B</td><td>-1596</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁(A)</td> <td rowspan="4">B21-F002A</td> <td rowspan="4">9107</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールパネル</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>26M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁(B)</td> <td rowspan="4">B21-F002B</td> <td rowspan="4">9110</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールパネル</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>26M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	サブプレッショナルプール 水温度(214°)	T11-TE010B	-1596	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(236°)	T11-TE011B	-1596	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(259°)	T11-TE012B	-1596	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(281°)	T11-TE013A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(304°)	T11-TE014A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(326°)	T11-TE015A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(349°)	T11-TE016A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(281°)	T11-TE013B	-1596	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(304°)	T11-TE014B	-1596	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(326°)	T11-TE015B	-1596	○	本体	1C	特性試験	サブプレッショナルプール 水温度(349°)	T11-TE016B	-1596	○	本体	1C	特性試験	主蒸気第一隔離弁(A)	B21-F002A	9107	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールパネル	13M	分解点検	リミットスイッチ	26M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気第一隔離弁(B)	B21-F002B	9110	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールパネル	13M	分解点検	リミットスイッチ	26M	取替	電磁弁	39M	取替	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (T.P.)</th> <th rowspan="2">C/V内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">出力領域検出器</td> <td rowspan="2">3NE41A,B,42A,B,43A,B,44A,B</td> <td rowspan="2">17.5m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>52M</td> <td>取替</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ)</td> <td rowspan="2">3RE-91A,92A</td> <td rowspan="2">40.2m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>117M</td> <td>取替</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)</td> <td rowspan="2">3RE-91B,92B</td> <td rowspan="2">40.2m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>117M</td> <td>取替</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">加圧留置がし弁</td> <td rowspan="4">3PCV-452A,B</td> <td rowspan="4">39.1m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>機能・性能試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>26M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>130M</td> <td>取替</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>52M</td> <td>取替</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">1次冷却材ポンプ対水戻りライン C/V内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-CS-254</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高圧注入ポンプ出口 C/V内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-SI-061A,B</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高温側高圧注入(A)(B)ライン止め弁</td> <td rowspan="4">3V-SI-062A,B</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">余熱除去 A(B)ライン入口止め弁</td> <td rowspan="4">3PCV-410,430</td> <td rowspan="4">20.6m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	出力領域検出器	3NE41A,B,42A,B,43A,B,44A,B	17.5m	○	本体	13M	特性試験		検出器	52M	取替		格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ)	3RE-91A,92A	40.2m	○	本体	13M	外観点検		検出器	117M	取替		格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)	3RE-91B,92B	40.2m	○	本体	13M	外観点検		検出器	117M	取替		加圧留置がし弁	3PCV-452A,B	39.1m	○	本体	13M	機能・性能試験		本体	26M	分解点検		リミットスイッチ	130M	取替		電磁弁	52M	取替		1次冷却材ポンプ対水戻りライン C/V内側隔離弁	3V-CS-254	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検		駆動部	39M	動作試験		駆動部	156M	分解点検		高圧注入ポンプ出口 C/V内側隔離弁	3V-SI-061A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検		駆動部	39M	動作試験		駆動部	156M	分解点検		高温側高圧注入(A)(B)ライン止め弁	3V-SI-062A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検		駆動部	39M	動作試験		駆動部	156M	分解点検		余熱除去 A(B)ライン入口止め弁	3PCV-410,430	20.6m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検		駆動部	39M	動作試験		駆動部	156M	分解点検		
機器名称	機器番号					機能喪失高さ (O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																																																																																																																																																																																					
		点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																																																																									
サブプレッショナルプール 水温度(214°)	T11-TE010B	-1596	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(236°)	T11-TE011B	-1596	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(259°)	T11-TE012B	-1596	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(281°)	T11-TE013A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(304°)	T11-TE014A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(326°)	T11-TE015A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(349°)	T11-TE016A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(281°)	T11-TE013B	-1596	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(304°)	T11-TE014B	-1596	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(326°)	T11-TE015B	-1596	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッショナルプール 水温度(349°)	T11-TE016B	-1596	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
主蒸気第一隔離弁(A)	B21-F002A	9107	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				コントロールパネル	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				リミットスイッチ	26M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
主蒸気第一隔離弁(B)	B21-F002B	9110	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				コントロールパネル	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				リミットスイッチ	26M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
機器名称	機器番号	機能喪失高さ (T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																																																																																																																																																						
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																																																																							
出力領域検出器	3NE41A,B,42A,B,43A,B,44A,B	17.5m	○	本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				検出器	52M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ)	3RE-91A,92A	40.2m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				検出器	117M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)	3RE-91B,92B	40.2m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				検出器	117M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
加圧留置がし弁	3PCV-452A,B	39.1m	○	本体	13M	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	26M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				リミットスイッチ	130M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
				電磁弁	52M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																							
1次冷却材ポンプ対水戻りライン C/V内側隔離弁	3V-CS-254	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
高圧注入ポンプ出口 C/V内側隔離弁	3V-SI-061A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
高温側高圧注入(A)(B)ライン止め弁	3V-SI-062A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
余熱除去 A(B)ライン入口止め弁	3PCV-410,430	20.6m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																																																							
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																																																							

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																											
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(3/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁(C)</td> <td rowspan="4">B21-F002C</td> <td rowspan="4">9110</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールバルブ</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>26M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁(D)</td> <td rowspan="4">B21-F002D</td> <td rowspan="4">9107</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールバルブ</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>26M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>主蒸気ドレンライン第一隔離弁</td> <td>B21-F004</td> <td>6707</td> <td>○</td> <td>駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事故後炉水サンプリング第一隔離弁</td> <td rowspan="2">B21-F061</td> <td rowspan="2">8611</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td>原子炉再循環ポンプ(A) 吐出弁</td> <td>B32-F002A</td> <td>2970</td> <td>○</td> <td>駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉再循環ポンプ(B) 吐出弁</td> <td rowspan="2">B32-F002B</td> <td rowspan="2">2970</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">PLR サンプルライン第一隔離弁</td> <td rowspan="4">B32-F013</td> <td rowspan="4">10779</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>65M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>52M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	主蒸気第一隔離弁(C)	B21-F002C	9110	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールバルブ	13M	分解点検	リミットスイッチ	26M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気第一隔離弁(D)	B21-F002D	9107	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールバルブ	13M	分解点検	リミットスイッチ	26M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気ドレンライン第一隔離弁	B21-F004	6707	○	駆動部	65M	分解点検	事故後炉水サンプリング第一隔離弁	B21-F061	8611	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	原子炉再循環ポンプ(A) 吐出弁	B32-F002A	2970	○	駆動部	65M	分解点検	原子炉再循環ポンプ(B) 吐出弁	B32-F002B	2970	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	PLR サンプルライン第一隔離弁	B32-F013	10779	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	39M	分解点検	リミットスイッチ	65M	取替	電磁弁	52M	取替	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(T.P.)</th> <th rowspan="2">C/V内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">余熱除去ポンプ入口 C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-RH-002A,B</td> <td rowspan="4">15.1m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4">※2</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">余熱除去冷却器出口 C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-RH-033A,B</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高温側低圧注入ライン止め弁</td> <td rowspan="4">3V-RH-034A,B</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">1次冷却材ポンプ機械冷却水出口 C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-CC-526</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">Bグループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-SS-514</td> <td rowspan="4">21.0m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">Cグループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-SS-519</td> <td rowspan="4">21.0m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 詳細な機能喪失高さはT.P. 15.185mであり、没水評価で示すLOCA時のC/V内水位15.1m（「添付資料6 溢水影響評価の対象外とした設備について」参照）を上回っていることから、余熱除去ポンプ入口C/V内側隔離弁は機能喪失しないと評価している。なお、C/V外の防護対象設備の没水評価では、盤等で被水対策を施していないものがあるため、水面の揺らぎの影響で機能喪失に至る可能性を考慮し、被水対策を施している設備も含めて一律10cmの裕度を設定して評価しているが、C/V内の防護対象設備は耐環境仕様であることから、水面の揺らぎにより被水影響が及んだ場合でも機能喪失に至ることはないため、その溢水に対する耐性的評価では裕度を考慮せずに評価を実施している。</p>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	余熱除去ポンプ入口 C/V 内側隔離弁	3V-RH-002A,B	15.1m	○	本体	13M	外観点検	※2	本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	余熱除去冷却器出口 C/V 内側隔離弁	3V-RH-033A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	高温側低圧注入ライン止め弁	3V-RH-034A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	1次冷却材ポンプ機械冷却水出口 C/V 内側隔離弁	3V-CC-526	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	Bグループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-514	21.0m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	Cグループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-519	21.0m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	
機器名称	機器番号					機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																																																																																																																						
		点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																										
主蒸気第一隔離弁(C)	B21-F002C	9110	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																								
				コントロールバルブ	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				リミットスイッチ	26M	取替																																																																																																																																																																																																								
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																								
主蒸気第一隔離弁(D)	B21-F002D	9107	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																								
				コントロールバルブ	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				リミットスイッチ	26M	取替																																																																																																																																																																																																								
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																								
主蒸気ドレンライン第一隔離弁	B21-F004	6707	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
事故後炉水サンプリング第一隔離弁	B21-F061	8611	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																																																																																																								
原子炉再循環ポンプ(A) 吐出弁	B32-F002A	2970	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
原子炉再循環ポンプ(B) 吐出弁	B32-F002B	2970	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																																																																																																								
PLR サンプルライン第一隔離弁	B32-F013	10779	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	39M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				リミットスイッチ	65M	取替																																																																																																																																																																																																								
				電磁弁	52M	取替																																																																																																																																																																																																								
機器名称	機器番号	機能喪失高さ(T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																																																																																							
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																								
余熱除去ポンプ入口 C/V 内側隔離弁	3V-RH-002A,B	15.1m	○	本体	13M	外観点検	※2																																																																																																																																																																																																							
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
余熱除去冷却器出口 C/V 内側隔離弁	3V-RH-033A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																								
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
高温側低圧注入ライン止め弁	3V-RH-034A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																								
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
1次冷却材ポンプ機械冷却水出口 C/V 内側隔離弁	3V-CC-526	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																								
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
Bグループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-514	21.0m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																								
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
Cグループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-519	21.0m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																								
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																								
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																					
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(A) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001A</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(B)</td> <td rowspan="4">B21-F001B</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(C) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001C</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(D)</td> <td rowspan="4">B21-F001D</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(E) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001E</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	主蒸気逃がし安全弁(A) ADS	B21-F001A	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(B)	B21-F001B	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(C) ADS	B21-F001C	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(D)	B21-F001D	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(E) ADS	B21-F001E	17346	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(4/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(T.P.)</th> <th rowspan="2">C/V内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">格納容器減圧ライン格納容器内側隔離弁</td> <td rowspan="3">3V-DP-001A,B</td> <td rowspan="3">36.1m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">格納容器空気サンプル取出し格納容器内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-RM-001</td> <td rowspan="4">36.8m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">制御用空気原子炉格納容器内供給弁</td> <td rowspan="4">3V-1A-514A,B</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>130M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	格納容器減圧ライン格納容器内側隔離弁	3V-DP-001A,B	36.1m	○	本体	78M	分解点検		駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	格納容器空気サンプル取出し格納容器内側隔離弁	3V-RM-001	36.8m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	制御用空気原子炉格納容器内供給弁	3V-1A-514A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	130M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	
機器名称	機器番号					機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																																																																
		点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																				
主蒸気逃がし安全弁(A) ADS	B21-F001A	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁(B)	B21-F001B	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁(C) ADS	B21-F001C	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁(D)	B21-F001D	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁(E) ADS	B21-F001E	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
機器名称	機器番号	機能喪失高さ(T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																																	
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																		
格納容器減圧ライン格納容器内側隔離弁	3V-DP-001A,B	36.1m	○	本体	78M	分解点検																																																																																																																																																		
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																		
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																		
格納容器空気サンプル取出し格納容器内側隔離弁	3V-RM-001	36.8m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																		
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																		
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																		
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																		
制御用空気原子炉格納容器内供給弁	3V-1A-514A,B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																		
				本体	130M	分解点検																																																																																																																																																		
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																		
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																										
	<p style="text-align: center;">表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(5/7)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気速がし安全弁(F)</td> <td rowspan="4">B21-F001F</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気速がし安全弁(G)</td> <td rowspan="4">B21-F001G</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気速がし安全弁(H) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001H</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気速がし安全弁(J) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001J</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気速がし安全弁(K)</td> <td rowspan="4">B21-F001K</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	主蒸気速がし安全弁(F)	B21-F001F	17346	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気速がし安全弁(G)	B21-F001G	17346	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気速がし安全弁(H) ADS	B21-F001H	17346	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気速がし安全弁(J) ADS	B21-F001J	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気速がし安全弁(K)	B21-F001K	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替		
機器名称	機器番号					機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																					
		点検部位	周期	保全内容																																																																																									
主蒸気速がし安全弁(F)	B21-F001F	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気速がし安全弁(G)	B21-F001G	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気速がし安全弁(H) ADS	B21-F001H	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気速がし安全弁(J) ADS	B21-F001J	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気速がし安全弁(K)	B21-F001K	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(6/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(L) ADS</td> <td rowspan="4">E21-F001L</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>C UW入ロライン第一隔離弁</td> <td>G31-F002</td> <td>3350</td> <td>○</td> <td>駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁</td> <td rowspan="2">E11-F015A</td> <td rowspan="2">3350</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁</td> <td rowspan="2">E11-F015B</td> <td rowspan="2">3350</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCICタービン入口蒸気ライン第一隔離弁</td> <td rowspan="2">E51-F007</td> <td rowspan="2">16322</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW戻り側第一隔離弁(A)</td> <td rowspan="2">P42-F115A</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW戻り側第一隔離弁(B)</td> <td rowspan="2">P42-F115B</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">BNCW 戻りライン第一隔離弁</td> <td rowspan="2">P24-F107</td> <td rowspan="2">11290</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">D/W LCW サンプ第一隔離弁</td> <td rowspan="2">K11-F003</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	主蒸気逃がし安全弁(L) ADS	E21-F001L	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	C UW入ロライン第一隔離弁	G31-F002	3350	○	駆動部	60M	分解点検	RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015A	3350	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015B	3350	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RCICタービン入口蒸気ライン第一隔離弁	E51-F007	16322	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RCW戻り側第一隔離弁(A)	P42-F115A	1650	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RCW戻り側第一隔離弁(B)	P42-F115B	1650	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	BNCW 戻りライン第一隔離弁	P24-F107	11290	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	D/W LCW サンプ第一隔離弁	K11-F003	1650	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定		
機器名称	機器番号					機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																											
		点検部位	周期	保全内容																																																																																															
主蒸気逃がし安全弁(L) ADS	E21-F001L	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																													
				駆動部	13M	分解点検																																																																																													
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																													
				電磁弁	39M	取替																																																																																													
C UW入ロライン第一隔離弁	G31-F002	3350	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015A	3350	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													
RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015B	3350	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													
RCICタービン入口蒸気ライン第一隔離弁	E51-F007	16322	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													
RCW戻り側第一隔離弁(A)	P42-F115A	1650	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													
RCW戻り側第一隔離弁(B)	P42-F115B	1650	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													
BNCW 戻りライン第一隔離弁	P24-F107	11290	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													
D/W LCW サンプ第一隔離弁	K11-F003	1650	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(7/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">D/W BFW サンプ第一隔離弁</td> <td rowspan="2">K11-F103</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>60M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	D/W BFW サンプ第一隔離弁	K11-F103	1650	○	駆動部	60M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定																																																																															
機器名称	機器番号					機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																											
		点検部位	周期	保全内容																																																																																															
D/W BFW サンプ第一隔離弁	K11-F103	1650	○	駆動部	60M	分解点検																																																																																													
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1-1 防護対象設備の選定について より抜粋</p> <p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な計装設備</p> <p>水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p>	<p>3. 「動作機能の喪失により安全機能に影響しない」についての補足</p> <p>3.1 状態監視のみの現場指示計</p> <p>使用済燃料プールの冷却・給水機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象設備とし抽出しており、これらの防護対象設備の機能が維持されていれば、保安規定等で要求される使用済燃料プールの水位及び水温についても満足できる。なお、使用済燃料プールの水位及び水温を監視する設備については、状態監視のみの計器であることから溢水影響評価から除外している。これらの考え方を下記に示す。</p> <p>(1) 使用済燃料プール水温</p> <p>燃料プール冷却浄化系は、プール水がプールからスキマ堰を通り、スキマサージタンクを経て燃料プール冷却浄化系ポンプによって加圧され、熱交換器を通して冷却されてプールに戻る系統構成となっている。また当該系統の設計仕様について、ポンプ定格流量が確保されれば、熱交換器によりプール水温を通常52℃以下、動的機器の単一故障時においても保安規定で定める65℃以下に維持できる設計としている。したがって、当該ポンプの機能維持（ポンプ出口流量が定格流量であること）を確認することで、間接的にプール水温が適切に維持されていることを確認できる。なお当該ポンプ出口流量計は防護対象設備として抽出している。</p> <p>(2) 使用済燃料プール水位</p> <p>地震後の使用済燃料プール水位は一時的にオーバーフロー水位を下回るが、プール水位が低下した際には、スキマサージタンク水位計によって検知できる（スキマサージタンク水位計は防護対象設備として抽出している）。なお、使用済燃料プールへの水の補給については、残留熱除去系による補給が可能である。</p>	<p>3. 「動作機能の喪失により安全機能に影響しない」についての補足</p> <p>3.1 状態監視のみの現場指示計</p> <p>使用済燃料ピットの冷却・給水機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象設備とし抽出しており、これらの防護対象設備の機能が維持されていれば、保安規定等で要求される使用済燃料ピットの水位及び水温についても満足できる。なお、使用済燃料ピットの水位及び水温を監視する設備については、状態監視のみの計器であることから溢水影響評価から除外している。</p> <p>また、水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>女川は使用済燃料プールのスロッシング後に、プールの冷却・給水手順を定めているが、泊では、スロッシングにより使用済燃料ピットの冷却に必要な水位を下回らないことを確認することとしている。よって、使用済燃料ピットの状態監視計器については、運転員による計測に期待することのみを記載している。（大阪と同じ）</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																	
	<p>3.2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備                      フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備について、表2に示す。</p> <p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(1/3)</p> <table border="1" data-bbox="696 555 1272 1318"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>AC</td><td>T48-F001</td><td>バージ用空気供給側隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F002</td><td>D/W バージ用入口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F003</td><td>S/C バージ用入口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F005A</td><td>格納容器外真空逃がし隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F005B</td><td>格納容器外真空逃がし隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F010</td><td>補給用窒素ガス供給側第二隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F011</td><td>D/W 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F012</td><td>S/C 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F016</td><td>バージ用窒素ガス供給側第二隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F019</td><td>D/W ベント用出口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F020</td><td>ベント用 S/GTS 側隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F021</td><td>ベント用 HVAC 側隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F022</td><td>S/C ベント用出口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F023</td><td>D/W ベント用出口隔離弁バイパス弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F024</td><td>S/C ベント用出口隔離弁バイパス弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042A</td><td>真空破壊弁(A)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042B</td><td>真空破壊弁(B)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042C</td><td>真空破壊弁(C)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042D</td><td>真空破壊弁(D)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042E</td><td>真空破壊弁(E)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042F</td><td>真空破壊弁(F)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F708</td><td>LS015 D/W 冠水水位計装配管(D)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F710</td><td>LS015 D/W 冠水水位計装配管(L)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F721</td><td>露点サンプリング入口第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F722</td><td>露点サンプリング入口第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F723</td><td>露点サンプリング戻り第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F724</td><td>露点サンプリング戻り第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F727</td><td>漏えい検出系放射線モニタ入口第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	分類	AC	T48-F001	バージ用空気供給側隔離弁	AO	AC	T48-F002	D/W バージ用入口隔離弁	AO	AC	T48-F003	S/C バージ用入口隔離弁	AO	AC	T48-F005A	格納容器外真空逃がし隔離弁(A)	AO	AC	T48-F005B	格納容器外真空逃がし隔離弁(B)	AO	AC	T48-F010	補給用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO	AC	T48-F011	D/W 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO	AC	T48-F012	S/C 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO	AC	T48-F016	バージ用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO	AC	T48-F019	D/W ベント用出口隔離弁	AO	AC	T48-F020	ベント用 S/GTS 側隔離弁	AO	AC	T48-F021	ベント用 HVAC 側隔離弁	AO	AC	T48-F022	S/C ベント用出口隔離弁	AO	AC	T48-F023	D/W ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO	AC	T48-F024	S/C ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO	AC	T48-S0-F042A	真空破壊弁(A)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042B	真空破壊弁(B)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042C	真空破壊弁(C)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042D	真空破壊弁(D)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042E	真空破壊弁(E)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042F	真空破壊弁(F)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F708	LS015 D/W 冠水水位計装配管(D)側隔離弁	SO	AC	T48-S0-F710	LS015 D/W 冠水水位計装配管(L)側隔離弁	SO	AC	T48-S0-F721	露点サンプリング入口第一隔離弁	SO	AC	T48-S0-F722	露点サンプリング入口第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F723	露点サンプリング戻り第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F724	露点サンプリング戻り第一隔離弁	SO	AC	T48-S0-F727	漏えい検出系放射線モニタ入口第一隔離弁	SO	<p>3.2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備                      フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備について、表2に示す。</p> <p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(1/4)</p> <table border="1" data-bbox="1285 547 1854 1289"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1次冷却系統</td><td>3V-RC-054A, B</td><td>A-加圧器逃がし弁元弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系統</td><td>3LCV-451, 452</td><td>抽出ライン第1(2)止め弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系統</td><td>3V-RC-077</td><td>加圧器逃がしタンク自動ガス分析ライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系統</td><td>3V-RC-078</td><td>加圧器逃がしタンク自動ガス分析ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系統</td><td>3V-RC-084</td><td>加圧器逃がしタンク窒素供給ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系統</td><td>3V-RC-093</td><td>加圧器逃がしタンク補給水ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3FCV-138</td><td>充てん流量制御弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-167</td><td>充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-191</td><td>充てんライン止め弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-186</td><td>加圧器補助スプレイ弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-455A, B</td><td>ほう酸タンク出口弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-466A, B</td><td>ほう酸ポンプ出口補給ライン切替弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-473A, B</td><td>ほう酸ポンプ出口循環ライン切替弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-474A, B</td><td>ほう酸フィルタ出口 A (B) ほう酸タンク戻り弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-499A, B</td><td>ほう酸ポンプ入口切替弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-004A, B, C</td><td>抽出オリフィス出口 C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-006</td><td>抽出ライン格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-224A, B, C</td><td>1次冷却材ポンプ封水注入ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系統</td><td>3V-CS-242A, B, C</td><td>1次冷却材ポンプ封水戻りオリフィスバイパス弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-141</td><td>ほう酸注入タンク循環ライン入口止め弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-145, 146</td><td>ほう酸注入タンク循環ライン出口第1(2)止め弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-132A, B, C</td><td>蓄圧タンク出口弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-123A, B, C</td><td>蓄圧タンクサンプリングライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-124</td><td>蓄圧タンクサンプリングライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-164</td><td>蓄圧タンク窒素供給ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-184</td><td>安全注入逆止弁テストライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-185</td><td>蓄圧タンク補給ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系統</td><td>3V-SI-186</td><td>安全注入逆止弁テストライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>余熱除去系統</td><td>3HCY-603, 613</td><td>余熱除去冷却器出口流量調節弁</td></tr> <tr><td>余熱除去系統</td><td>3FCV-604, 614</td><td>余熱除去 A (B) ライン流量制御弁</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	1次冷却系統	3V-RC-054A, B	A-加圧器逃がし弁元弁	1次冷却系統	3LCV-451, 452	抽出ライン第1(2)止め弁	1次冷却系統	3V-RC-077	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ライン C/V 内側隔離弁	1次冷却系統	3V-RC-078	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ライン C/V 外側隔離弁	1次冷却系統	3V-RC-084	加圧器逃がしタンク窒素供給ライン C/V 外側隔離弁	1次冷却系統	3V-RC-093	加圧器逃がしタンク補給水ライン C/V 外側隔離弁	化学体積制御系統	3FCV-138	充てん流量制御弁	化学体積制御系統	3V-CS-167	充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁	化学体積制御系統	3V-CS-191	充てんライン止め弁	化学体積制御系統	3V-CS-186	加圧器補助スプレイ弁	化学体積制御系統	3V-CS-455A, B	ほう酸タンク出口弁	化学体積制御系統	3V-CS-466A, B	ほう酸ポンプ出口補給ライン切替弁	化学体積制御系統	3V-CS-473A, B	ほう酸ポンプ出口循環ライン切替弁	化学体積制御系統	3V-CS-474A, B	ほう酸フィルタ出口 A (B) ほう酸タンク戻り弁	化学体積制御系統	3V-CS-499A, B	ほう酸ポンプ入口切替弁	化学体積制御系統	3V-CS-004A, B, C	抽出オリフィス出口 C/V 内側隔離弁	化学体積制御系統	3V-CS-006	抽出ライン格納容器外側隔離弁	化学体積制御系統	3V-CS-224A, B, C	1次冷却材ポンプ封水注入ライン C/V 外側隔離弁	化学体積制御系統	3V-CS-242A, B, C	1次冷却材ポンプ封水戻りオリフィスバイパス弁	安全注入系統	3V-SI-141	ほう酸注入タンク循環ライン入口止め弁	安全注入系統	3V-SI-145, 146	ほう酸注入タンク循環ライン出口第1(2)止め弁	安全注入系統	3V-SI-132A, B, C	蓄圧タンク出口弁	安全注入系統	3V-SI-123A, B, C	蓄圧タンクサンプリングライン C/V 内側隔離弁	安全注入系統	3V-SI-124	蓄圧タンクサンプリングライン C/V 外側隔離弁	安全注入系統	3V-SI-164	蓄圧タンク窒素供給ライン C/V 外側隔離弁	安全注入系統	3V-SI-184	安全注入逆止弁テストライン C/V 内側隔離弁	安全注入系統	3V-SI-185	蓄圧タンク補給ライン C/V 外側隔離弁	安全注入系統	3V-SI-186	安全注入逆止弁テストライン C/V 外側隔離弁	余熱除去系統	3HCY-603, 613	余熱除去冷却器出口流量調節弁	余熱除去系統	3FCV-604, 614	余熱除去 A (B) ライン流量制御弁	
系統	機器番号	設備	分類																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F001	バージ用空気供給側隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F002	D/W バージ用入口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F003	S/C バージ用入口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F005A	格納容器外真空逃がし隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F005B	格納容器外真空逃がし隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F010	補給用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F011	D/W 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F012	S/C 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F016	バージ用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F019	D/W ベント用出口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F020	ベント用 S/GTS 側隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F021	ベント用 HVAC 側隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F022	S/C ベント用出口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F023	D/W ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F024	S/C ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042A	真空破壊弁(A)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042B	真空破壊弁(B)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042C	真空破壊弁(C)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042D	真空破壊弁(D)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042E	真空破壊弁(E)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042F	真空破壊弁(F)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F708	LS015 D/W 冠水水位計装配管(D)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F710	LS015 D/W 冠水水位計装配管(L)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F721	露点サンプリング入口第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F722	露点サンプリング入口第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F723	露点サンプリング戻り第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F724	露点サンプリング戻り第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F727	漏えい検出系放射線モニタ入口第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
系統	機器番号	設備																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系統	3V-RC-054A, B	A-加圧器逃がし弁元弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系統	3LCV-451, 452	抽出ライン第1(2)止め弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系統	3V-RC-077	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系統	3V-RC-078	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系統	3V-RC-084	加圧器逃がしタンク窒素供給ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系統	3V-RC-093	加圧器逃がしタンク補給水ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3FCV-138	充てん流量制御弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-167	充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-191	充てんライン止め弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-186	加圧器補助スプレイ弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-455A, B	ほう酸タンク出口弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-466A, B	ほう酸ポンプ出口補給ライン切替弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-473A, B	ほう酸ポンプ出口循環ライン切替弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-474A, B	ほう酸フィルタ出口 A (B) ほう酸タンク戻り弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-499A, B	ほう酸ポンプ入口切替弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-004A, B, C	抽出オリフィス出口 C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-006	抽出ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-224A, B, C	1次冷却材ポンプ封水注入ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系統	3V-CS-242A, B, C	1次冷却材ポンプ封水戻りオリフィスバイパス弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-141	ほう酸注入タンク循環ライン入口止め弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-145, 146	ほう酸注入タンク循環ライン出口第1(2)止め弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-132A, B, C	蓄圧タンク出口弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-123A, B, C	蓄圧タンクサンプリングライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-124	蓄圧タンクサンプリングライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-164	蓄圧タンク窒素供給ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-184	安全注入逆止弁テストライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-185	蓄圧タンク補給ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系統	3V-SI-186	安全注入逆止弁テストライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
余熱除去系統	3HCY-603, 613	余熱除去冷却器出口流量調節弁																																																																																																																																																																																																																		
余熱除去系統	3FCV-604, 614	余熱除去 A (B) ライン流量制御弁																																																																																																																																																																																																																		

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																														
	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F728</td><td>漏えい検出系放射線モニタ入口第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F729</td><td>漏えい検出系放射線モニタ戻り第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F730</td><td>漏えい検出系放射線モニタ戻り第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F772</td><td>T48-LS025 D/W 水位計装配管(L)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F774</td><td>T48-LS025 D/W 水位計装配管(H)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>CRD</td><td>C12-D001-126</td><td>スクラム入口弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>CRD</td><td>C12-D001-139</td><td>スクラムパイロット弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>FDW</td><td>B21-F052A</td><td>FDW 第二隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>FDW</td><td>B21-F052B</td><td>FDW 第二隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F007A</td><td>中央制御室給気冷却コイル(A)温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F007B</td><td>中央制御室給気冷却コイル(B)温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F018A</td><td>計測制御電源(A)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F018B</td><td>計測制御電源(B)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F024A</td><td>原子炉補機(A)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F024B</td><td>原子炉補機(B)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D201A</td><td>CAMS(A)室非常用給気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D201B</td><td>CAMS(B)室非常用給気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D202A</td><td>CAMS(A)室非常用排気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D202B</td><td>CAMS(B)室非常用排気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D203</td><td>DC-MCC 2A 室非常用給気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D204</td><td>DC-MCC 2A 室非常用排気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F001A</td><td>原子炉棟給気隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F001B</td><td>原子炉棟給気隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F002A</td><td>原子炉棟排気隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F002B</td><td>原子炉棟排気隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F522A</td><td>原子炉棟給気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)</td><td>SO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F522B</td><td>原子炉棟給気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)</td><td>SO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F530A</td><td>原子炉棟排気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)</td><td>SO</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	分類	AC	T48-S0-F728	漏えい検出系放射線モニタ入口第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F729	漏えい検出系放射線モニタ戻り第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F730	漏えい検出系放射線モニタ戻り第一隔離弁	SO	AC	T48-S0-F772	T48-LS025 D/W 水位計装配管(L)側隔離弁	SO	AC	T48-S0-F774	T48-LS025 D/W 水位計装配管(H)側隔離弁	SO	CRD	C12-D001-126	スクラム入口弁	AO	CRD	C12-D001-139	スクラムパイロット弁	SO	FDW	B21-F052A	FDW 第二隔離弁(A)	AO	FDW	B21-F052B	FDW 第二隔離弁(B)	AO	HECW	P25-F007A	中央制御室給気冷却コイル(A)温度調節弁	AO	HECW	P25-F007B	中央制御室給気冷却コイル(B)温度調節弁	AO	HECW	P25-F018A	計測制御電源(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HECW	P25-F018B	計測制御電源(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HECW	P25-F024A	原子炉補機(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HECW	P25-F024B	原子炉補機(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HVAC	V10-D201A	CAMS(A)室非常用給気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D201B	CAMS(B)室非常用給気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D202A	CAMS(A)室非常用排気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D202B	CAMS(B)室非常用排気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D203	DC-MCC 2A 室非常用給気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D204	DC-MCC 2A 室非常用排気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-F001A	原子炉棟給気隔離弁(A)	AO	HVAC	V10-F001B	原子炉棟給気隔離弁(B)	AO	HVAC	V10-F002A	原子炉棟排気隔離弁(A)	AO	HVAC	V10-F002B	原子炉棟排気隔離弁(B)	AO	HVAC	V10-F522A	原子炉棟給気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	HVAC	V10-F522B	原子炉棟給気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	HVAC	V10-F530A	原子炉棟排気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>余熱除去系統</td><td>3V-RH-029A, B</td><td>余熱除去 A (B) ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td rowspan="2">主蒸気系統</td><td>3HCV-3616, 3626, 3636</td><td>主蒸気バイパス隔離弁</td></tr> <tr><td>3V-MS-575A, B</td><td>タービン動機補助水ポンプ駆動蒸気 B (C) 主蒸気ライン元弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系統</td><td>3V-MS-518A, B, C</td><td>主蒸気速がし弁元弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系統</td><td>3V-MS-581</td><td>非常用タービングラント蒸気元弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系統</td><td>3V-MS-601A, B, C</td><td>主蒸気隔離弁上流ドレンライン隔離弁</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器スプレシステム</td><td>3V-CP-056A, B</td><td>よう素除去薬品タンク注入 A (B) ライン止め弁後弁</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却水系統</td><td>3V-CC-054A, B, C, D</td><td>原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-005</td><td>CVDT 自動ガス分析ライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-006</td><td>CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-010</td><td>格納容器冷却材ドレンタンクベントライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-011</td><td>格納容器冷却材ドレンタンクベントライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-017</td><td>格納容器冷却材ドレンタンク室素供給 C/V 隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-031</td><td>格納容器冷却材ドレンポンプ出口 C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-032</td><td>格納容器冷却材ドレンポンプ出口 C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-113</td><td>格納容器サンポンプ出口 C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系統</td><td>3V-WL-114</td><td>格納容器サンポンプ出口 C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系統</td><td>3V-SS-504</td><td>加圧器気相部サンプリングライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系統</td><td>3V-SS-509</td><td>加圧器液相部サンプリングライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系統</td><td>3V-SS-521A</td><td>B ループ高温側、加圧器サンプリングライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系統</td><td>3V-SS-521B</td><td>C ループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系統</td><td>3V-SS-718</td><td>PASS1 次冷却材サンプル戻りライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備</td><td>3V-DP-002A, B</td><td>格納容器減圧ライン格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備</td><td>3V-HC-304A, B</td><td>格納容器水素バージ給気ライン格納容器外側隔離弁</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	余熱除去系統	3V-RH-029A, B	余熱除去 A (B) ライン C/V 外側隔離弁	主蒸気系統	3HCV-3616, 3626, 3636	主蒸気バイパス隔離弁	3V-MS-575A, B	タービン動機補助水ポンプ駆動蒸気 B (C) 主蒸気ライン元弁	主蒸気系統	3V-MS-518A, B, C	主蒸気速がし弁元弁	主蒸気系統	3V-MS-581	非常用タービングラント蒸気元弁	主蒸気系統	3V-MS-601A, B, C	主蒸気隔離弁上流ドレンライン隔離弁	原子炉格納容器スプレシステム	3V-CP-056A, B	よう素除去薬品タンク注入 A (B) ライン止め弁後弁	原子炉補機冷却水系統	3V-CC-054A, B, C, D	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-005	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-006	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-010	格納容器冷却材ドレンタンクベントライン C/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-011	格納容器冷却材ドレンタンクベントライン C/V 外側隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-017	格納容器冷却材ドレンタンク室素供給 C/V 隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-031	格納容器冷却材ドレンポンプ出口 C/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-032	格納容器冷却材ドレンポンプ出口 C/V 外側隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-113	格納容器サンポンプ出口 C/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系統	3V-WL-114	格納容器サンポンプ出口 C/V 外側隔離弁	試料採取系統	3V-SS-504	加圧器気相部サンプリングライン C/V 内側隔離弁	試料採取系統	3V-SS-509	加圧器液相部サンプリングライン C/V 内側隔離弁	試料採取系統	3V-SS-521A	B ループ高温側、加圧器サンプリングライン C/V 外側隔離弁	試料採取系統	3V-SS-521B	C ループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁	試料採取系統	3V-SS-718	PASS1 次冷却材サンプル戻りライン C/V 外側隔離弁	格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-DP-002A, B	格納容器減圧ライン格納容器外側隔離弁	格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-HC-304A, B	格納容器水素バージ給気ライン格納容器外側隔離弁	
系統	機器番号	設備	分類																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F728	漏えい検出系放射線モニタ入口第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F729	漏えい検出系放射線モニタ戻り第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F730	漏えい検出系放射線モニタ戻り第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F772	T48-LS025 D/W 水位計装配管(L)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F774	T48-LS025 D/W 水位計装配管(H)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
CRD	C12-D001-126	スクラム入口弁	AO																																																																																																																																																																																														
CRD	C12-D001-139	スクラムパイロット弁	SO																																																																																																																																																																																														
FDW	B21-F052A	FDW 第二隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																														
FDW	B21-F052B	FDW 第二隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F007A	中央制御室給気冷却コイル(A)温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F007B	中央制御室給気冷却コイル(B)温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F018A	計測制御電源(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F018B	計測制御電源(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F024A	原子炉補機(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F024B	原子炉補機(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D201A	CAMS(A)室非常用給気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D201B	CAMS(B)室非常用給気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D202A	CAMS(A)室非常用排気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D202B	CAMS(B)室非常用排気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D203	DC-MCC 2A 室非常用給気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D204	DC-MCC 2A 室非常用排気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F001A	原子炉棟給気隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F001B	原子炉棟給気隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F002A	原子炉棟排気隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F002B	原子炉棟排気隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F522A	原子炉棟給気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F522B	原子炉棟給気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F530A	原子炉棟排気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																																																																														
系統	機器番号	設備																																																																																																																																																																																															
余熱除去系統	3V-RH-029A, B	余熱除去 A (B) ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系統	3HCV-3616, 3626, 3636	主蒸気バイパス隔離弁																																																																																																																																																																																															
	3V-MS-575A, B	タービン動機補助水ポンプ駆動蒸気 B (C) 主蒸気ライン元弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系統	3V-MS-518A, B, C	主蒸気速がし弁元弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系統	3V-MS-581	非常用タービングラント蒸気元弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系統	3V-MS-601A, B, C	主蒸気隔離弁上流ドレンライン隔離弁																																																																																																																																																																																															
原子炉格納容器スプレシステム	3V-CP-056A, B	よう素除去薬品タンク注入 A (B) ライン止め弁後弁																																																																																																																																																																																															
原子炉補機冷却水系統	3V-CC-054A, B, C, D	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-005	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-006	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-010	格納容器冷却材ドレンタンクベントライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-011	格納容器冷却材ドレンタンクベントライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-017	格納容器冷却材ドレンタンク室素供給 C/V 隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-031	格納容器冷却材ドレンポンプ出口 C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-032	格納容器冷却材ドレンポンプ出口 C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-113	格納容器サンポンプ出口 C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系統	3V-WL-114	格納容器サンポンプ出口 C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系統	3V-SS-504	加圧器気相部サンプリングライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系統	3V-SS-509	加圧器液相部サンプリングライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系統	3V-SS-521A	B ループ高温側、加圧器サンプリングライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系統	3V-SS-521B	C ループ高温側サンプリングライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系統	3V-SS-718	PASS1 次冷却材サンプル戻りライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-DP-002A, B	格納容器減圧ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-HC-304A, B	格納容器水素バージ給気ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																																																															

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																							
	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HVAC</td> <td>V10-F530B</td> <td>原子炉棟排気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)</td> <td>SO</td> </tr> <tr> <td>MS</td> <td>B21-F003A</td> <td>主蒸気第二隔離弁(A)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>MS</td> <td>B21-F003B</td> <td>主蒸気第二隔離弁(B)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>MS</td> <td>B21-F003C</td> <td>主蒸気第二隔離弁(C)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>MS</td> <td>B21-F003D</td> <td>主蒸気第二隔離弁(D)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>PLR</td> <td>B32-F014</td> <td>PLR サンプルライン第二隔離弁</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F006A</td> <td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F006B</td> <td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F010A</td> <td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F010B</td> <td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F089A</td> <td>RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(A)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F089B</td> <td>RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(B)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F089C</td> <td>RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(C)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>RCW</td> <td>F42-F089D</td> <td>RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(D)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>SGTS</td> <td>T46-F001A</td> <td>非常用ガス処理系入口弁(A)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>SGTS</td> <td>T46-F001B</td> <td>非常用ガス処理系入口弁(B)</td> <td>AO</td> </tr> <tr> <td>TIP</td> <td>C51-F083</td> <td>TIP バージ隔離弁</td> <td>SO</td> </tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	分類	HVAC	V10-F530B	原子炉棟排気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	MS	B21-F003A	主蒸気第二隔離弁(A)	AO	MS	B21-F003B	主蒸気第二隔離弁(B)	AO	MS	B21-F003C	主蒸気第二隔離弁(C)	AO	MS	B21-F003D	主蒸気第二隔離弁(D)	AO	PLR	B32-F014	PLR サンプルライン第二隔離弁	AO	RCW	F42-F006A	RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁	AO	RCW	F42-F006B	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	AO	RCW	F42-F010A	RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁	AO	RCW	F42-F010B	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	AO	RCW	F42-F089A	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(A)	AO	RCW	F42-F089B	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(B)	AO	RCW	F42-F089C	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(C)	AO	RCW	F42-F089D	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(D)	AO	SGTS	T46-F001A	非常用ガス処理系入口弁(A)	AO	SGTS	T46-F001B	非常用ガス処理系入口弁(B)	AO	TIP	C51-F083	TIP バージ隔離弁	SO	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線監視設備空気サンプルリング系統</td> <td>3V-RM-002</td> <td>格納容器空気サンプル取出し格納容器外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>放射線監視設備空気サンプルリング系統</td> <td>3V-RM-015</td> <td>格納容器空気サンプル戻り格納容器外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器ブローダウン系統</td> <td>3V-BD-028A, B, C</td> <td>ブローダウン止め弁</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器ブローダウン系統</td> <td>3V-BD-008A, B, C</td> <td>蒸気発生器サンプルラインC/V外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器ブローダウン系統</td> <td>3V-BD-026A, B, C</td> <td>ブローダウンC/V外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-291A, B</td> <td>燃料取扱棟事故時排気ライン隔離ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3V-VS-055</td> <td>格納容器給気ライン格納容器外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3V-VS-056</td> <td>格納容器給気ライン格納容器内側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3V-VS-061</td> <td>格納容器排気ライン格納容器内側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3V-VS-062</td> <td>格納容器排気ライン格納容器外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-301A, B</td> <td>安全補機室給気第1隔離ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-302A, B</td> <td>安全補機室給気第2隔離ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-303A, B</td> <td>安全補機室排気第1隔離ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-304A, B</td> <td>安全補機室排気第2隔離ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-402A, B, C, D</td> <td>ディーゼル発電機室排気ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-601A, B</td> <td>中央制御室外気取入ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-611, 612</td> <td>中央制御室排気第1(2)隔離ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3HCD-2838, 2839</td> <td>中央制御室排気風量調節ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-053</td> <td>格納容器給気気密ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備系統</td> <td>3D-VS-064</td> <td>格納容器排気気密ダンパ</td> </tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	放射線監視設備空気サンプルリング系統	3V-RM-002	格納容器空気サンプル取出し格納容器外側隔離弁	放射線監視設備空気サンプルリング系統	3V-RM-015	格納容器空気サンプル戻り格納容器外側隔離弁	蒸気発生器ブローダウン系統	3V-BD-028A, B, C	ブローダウン止め弁	蒸気発生器ブローダウン系統	3V-BD-008A, B, C	蒸気発生器サンプルラインC/V外側隔離弁	蒸気発生器ブローダウン系統	3V-BD-026A, B, C	ブローダウンC/V外側隔離弁	換気空調設備系統	3D-VS-291A, B	燃料取扱棟事故時排気ライン隔離ダンパ	換気空調設備系統	3V-VS-055	格納容器給気ライン格納容器外側隔離弁	換気空調設備系統	3V-VS-056	格納容器給気ライン格納容器内側隔離弁	換気空調設備系統	3V-VS-061	格納容器排気ライン格納容器内側隔離弁	換気空調設備系統	3V-VS-062	格納容器排気ライン格納容器外側隔離弁	換気空調設備系統	3D-VS-301A, B	安全補機室給気第1隔離ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-302A, B	安全補機室給気第2隔離ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-303A, B	安全補機室排気第1隔離ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-304A, B	安全補機室排気第2隔離ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-402A, B, C, D	ディーゼル発電機室排気ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-601A, B	中央制御室外気取入ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-611, 612	中央制御室排気第1(2)隔離ダンパ	換気空調設備系統	3HCD-2838, 2839	中央制御室排気風量調節ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-053	格納容器給気気密ダンパ	換気空調設備系統	3D-VS-064	格納容器排気気密ダンパ	
系統	機器番号	設備	分類																																																																																																																																							
HVAC	V10-F530B	原子炉棟排気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																							
MS	B21-F003A	主蒸気第二隔離弁(A)	AO																																																																																																																																							
MS	B21-F003B	主蒸気第二隔離弁(B)	AO																																																																																																																																							
MS	B21-F003C	主蒸気第二隔離弁(C)	AO																																																																																																																																							
MS	B21-F003D	主蒸気第二隔離弁(D)	AO																																																																																																																																							
PLR	B32-F014	PLR サンプルライン第二隔離弁	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F006A	RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F006B	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F010A	RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F010B	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F089A	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(A)	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F089B	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(B)	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F089C	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(C)	AO																																																																																																																																							
RCW	F42-F089D	RCW 常用冷却水緊急しゃ断弁(D)	AO																																																																																																																																							
SGTS	T46-F001A	非常用ガス処理系入口弁(A)	AO																																																																																																																																							
SGTS	T46-F001B	非常用ガス処理系入口弁(B)	AO																																																																																																																																							
TIP	C51-F083	TIP バージ隔離弁	SO																																																																																																																																							
系統	機器番号	設備																																																																																																																																								
放射線監視設備空気サンプルリング系統	3V-RM-002	格納容器空気サンプル取出し格納容器外側隔離弁																																																																																																																																								
放射線監視設備空気サンプルリング系統	3V-RM-015	格納容器空気サンプル戻り格納容器外側隔離弁																																																																																																																																								
蒸気発生器ブローダウン系統	3V-BD-028A, B, C	ブローダウン止め弁																																																																																																																																								
蒸気発生器ブローダウン系統	3V-BD-008A, B, C	蒸気発生器サンプルラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																								
蒸気発生器ブローダウン系統	3V-BD-026A, B, C	ブローダウンC/V外側隔離弁																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-291A, B	燃料取扱棟事故時排気ライン隔離ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3V-VS-055	格納容器給気ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3V-VS-056	格納容器給気ライン格納容器内側隔離弁																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3V-VS-061	格納容器排気ライン格納容器内側隔離弁																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3V-VS-062	格納容器排気ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-301A, B	安全補機室給気第1隔離ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-302A, B	安全補機室給気第2隔離ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-303A, B	安全補機室排気第1隔離ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-304A, B	安全補機室排気第2隔離ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-402A, B, C, D	ディーゼル発電機室排気ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-601A, B	中央制御室外気取入ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-611, 612	中央制御室排気第1(2)隔離ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3HCD-2838, 2839	中央制御室排気風量調節ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-053	格納容器給気気密ダンパ																																																																																																																																								
換気空調設備系統	3D-VS-064	格納容器排気気密ダンパ																																																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


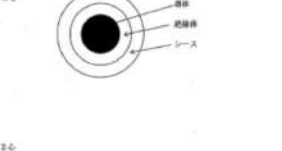
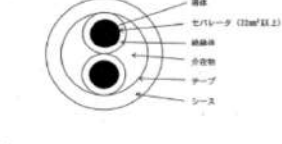
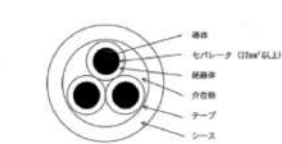
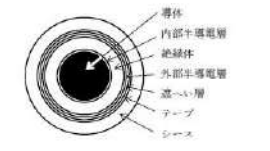



大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																								
		<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(4/4)</p> <table border="1" data-bbox="1290 245 1854 539"> <thead> <tr> <th>系 統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調設備 系統</td> <td>3D-VS-065A,B</td> <td>格納容器排気ファン出口ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備 系統</td> <td>3D-VS-232</td> <td>補助建屋排気隔離ダンパ</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備 系統</td> <td>3FCD-2526</td> <td>補助建屋排気風量制御ダンパ</td> </tr> <tr> <td>1次系建屋 水消火系統</td> <td>3V-FS-504</td> <td>消火水 C/V 外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>炉内核計装 置ガスバー ジ設備系統</td> <td>3V-IG-008</td> <td>炉内核計装装置二酸化炭素バーゼライン C/V 外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>炉内核計装 置ガスバー ジ設備系統</td> <td>3V-IG-009</td> <td>炉内核計装装置二酸化炭素バーゼライン C/V 内側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納 器真空逃が し装置系統</td> <td>3V-YR-001A,B</td> <td>真空逃がし装置 C/V 外側隔離弁</td> </tr> </tbody> </table>	系 統	機器番号	設備	換気空調設備 系統	3D-VS-065A,B	格納容器排気ファン出口ダンパ	換気空調設備 系統	3D-VS-232	補助建屋排気隔離ダンパ	換気空調設備 系統	3FCD-2526	補助建屋排気風量制御ダンパ	1次系建屋 水消火系統	3V-FS-504	消火水 C/V 外側隔離弁	炉内核計装 置ガスバー ジ設備系統	3V-IG-008	炉内核計装装置二酸化炭素バーゼライン C/V 外側隔離弁	炉内核計装 置ガスバー ジ設備系統	3V-IG-009	炉内核計装装置二酸化炭素バーゼライン C/V 内側隔離弁	原子炉格納 器真空逃が し装置系統	3V-YR-001A,B	真空逃がし装置 C/V 外側隔離弁	
系 統	機器番号	設備																									
換気空調設備 系統	3D-VS-065A,B	格納容器排気ファン出口ダンパ																									
換気空調設備 系統	3D-VS-232	補助建屋排気隔離ダンパ																									
換気空調設備 系統	3FCD-2526	補助建屋排気風量制御ダンパ																									
1次系建屋 水消火系統	3V-FS-504	消火水 C/V 外側隔離弁																									
炉内核計装 置ガスバー ジ設備系統	3V-IG-008	炉内核計装装置二酸化炭素バーゼライン C/V 外側隔離弁																									
炉内核計装 置ガスバー ジ設備系統	3V-IG-009	炉内核計装装置二酸化炭素バーゼライン C/V 内側隔離弁																									
原子炉格納 器真空逃が し装置系統	3V-YR-001A,B	真空逃がし装置 C/V 外側隔離弁																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
	<p>4. 「他の設備で代替できる」についての補足</p> <p>他の設備により機能が代替できる防護対象設備について、対象設備、要求事項、代替設備及びその設備の保全状況について表3に示す。</p>		<p>設計方針の相違</p> <p>添付資料6に記載したとおり、泊では本スクリーニング基準により溢水評価対象外とした設備は無いことから、当該項目について記載していない。</p>																																																				
	<p>表3 他の設備により機能を代替する防護対象設備</p> <table border="1" data-bbox="698 727 1270 1417"> <thead> <tr> <th rowspan="2">溢水影響評価対象外とした設備</th> <th rowspan="2">要求機能</th> <th rowspan="2">代替する設備</th> <th colspan="2">代替する設備の保全状況</th> </tr> <tr> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FPC ろ過脱塩装置 出口弁 (G41-F013)</td> <td>使用済燃料プールの冷却機能</td> <td>FPC ろ過脱塩装置 出口逆止弁 (G41-F012)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HNCW 供給ライン第一隔離弁 (P24-F102)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HNCW 供給ライン第一隔離弁 (P24-F103)</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>IA 第二隔離弁 (P52-F111)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>IA 第一隔離弁 (P52-F112)</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HPIN 常用第二隔離弁 (P54-F015)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HPIN 常用第一隔離弁 (P54-F020)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HPIN 非常用第二隔離弁 (A) (P54-F068A)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HPIN 非常用第一隔離弁 (A) (P54-F070A)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HPIN 非常用第二隔離弁 (B) (P54-F068B)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HPIN 非常用第一隔離弁 (B) (P54-F070B)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>主蒸気第二隔離弁 リークオフライン 隔離弁 (B21-F045)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>主蒸気第二隔離弁 リークオフライン 逆止弁 (B21-F044)</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>RCW 供給側第二隔離弁 (A) (P42-F112A)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>RCW 供給側第一隔離弁 逆止弁 (A) (P42-F113A)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>RCW 供給側第二隔離弁 (B) (P42-F112B)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>RCW 供給側第一隔離弁 逆止弁 (B) (P42-F113B)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> </tbody> </table>	溢水影響評価対象外とした設備	要求機能	代替する設備	代替する設備の保全状況		周期	保全内容	FPC ろ過脱塩装置 出口弁 (G41-F013)	使用済燃料プールの冷却機能	FPC ろ過脱塩装置 出口逆止弁 (G41-F012)	39M	分解点検	HNCW 供給ライン第一隔離弁 (P24-F102)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HNCW 供給ライン第一隔離弁 (P24-F103)	65M	分解点検	IA 第二隔離弁 (P52-F111)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	IA 第一隔離弁 (P52-F112)	65M	分解点検	HPIN 常用第二隔離弁 (P54-F015)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HPIN 常用第一隔離弁 (P54-F020)	39M	分解点検	HPIN 非常用第二隔離弁 (A) (P54-F068A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HPIN 非常用第一隔離弁 (A) (P54-F070A)	39M	分解点検	HPIN 非常用第二隔離弁 (B) (P54-F068B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HPIN 非常用第一隔離弁 (B) (P54-F070B)	39M	分解点検	主蒸気第二隔離弁 リークオフライン 隔離弁 (B21-F045)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	主蒸気第二隔離弁 リークオフライン 逆止弁 (B21-F044)	65M	分解点検	RCW 供給側第二隔離弁 (A) (P42-F112A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW 供給側第一隔離弁 逆止弁 (A) (P42-F113A)	39M	分解点検	RCW 供給側第二隔離弁 (B) (P42-F112B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW 供給側第一隔離弁 逆止弁 (B) (P42-F113B)	39M	分解点検		
溢水影響評価対象外とした設備	要求機能				代替する設備	代替する設備の保全状況																																																	
		周期	保全内容																																																				
FPC ろ過脱塩装置 出口弁 (G41-F013)	使用済燃料プールの冷却機能	FPC ろ過脱塩装置 出口逆止弁 (G41-F012)	39M	分解点検																																																			
HNCW 供給ライン第一隔離弁 (P24-F102)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HNCW 供給ライン第一隔離弁 (P24-F103)	65M	分解点検																																																			
IA 第二隔離弁 (P52-F111)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	IA 第一隔離弁 (P52-F112)	65M	分解点検																																																			
HPIN 常用第二隔離弁 (P54-F015)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HPIN 常用第一隔離弁 (P54-F020)	39M	分解点検																																																			
HPIN 非常用第二隔離弁 (A) (P54-F068A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HPIN 非常用第一隔離弁 (A) (P54-F070A)	39M	分解点検																																																			
HPIN 非常用第二隔離弁 (B) (P54-F068B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HPIN 非常用第一隔離弁 (B) (P54-F070B)	39M	分解点検																																																			
主蒸気第二隔離弁 リークオフライン 隔離弁 (B21-F045)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	主蒸気第二隔離弁 リークオフライン 逆止弁 (B21-F044)	65M	分解点検																																																			
RCW 供給側第二隔離弁 (A) (P42-F112A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW 供給側第一隔離弁 逆止弁 (A) (P42-F113A)	39M	分解点検																																																			
RCW 供給側第二隔離弁 (B) (P42-F112B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW 供給側第一隔離弁 逆止弁 (B) (P42-F113B)	39M	分解点検																																																			

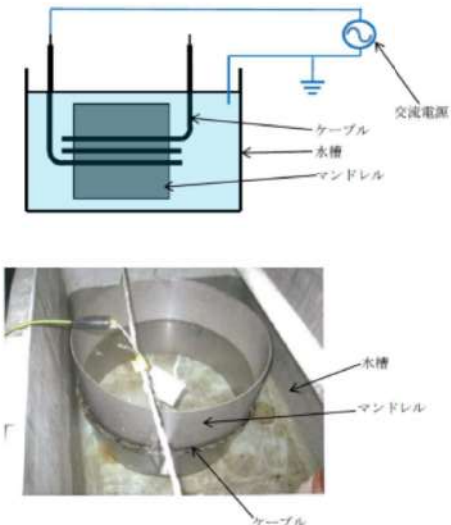
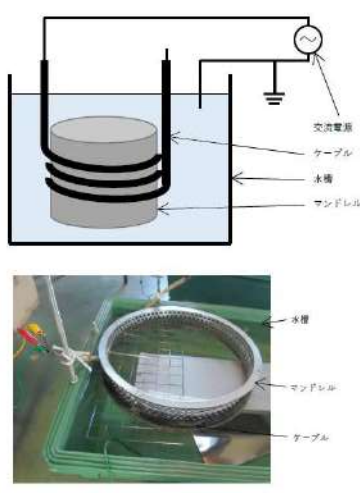


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙</p> <p>ケーブルの被水影響について</p> <p>1. はじめに</p> <p>図1にケーブルの断面図を示す。ケーブルは充電部となる導体の周りが絶縁体で覆われ、さらに外皮が耐水性・絶縁性の高いシースで覆われていることから、被水による機能影響は受けない。ここで、ケーブルが被水により機能影響を受けるケースとしては、絶縁体の割れ等によりケーブルの絶縁性能が低下している状態で被水する場合が考えられる。以下に、ケーブルの形式試験からその被水影響について評価した結果を示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="705 662 974 869"> <p>(高圧動力ケーブルの例)</p>  </div> <div data-bbox="985 662 1265 869"> <p>(低圧動力ケーブルの例)</p> <p>単心</p>  <p>2心</p>  <p>3心</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">図1 ケーブル断面図</p> <p>2. 建設時の試験（原子炉格納容器内ケーブル）</p> <p>(1) 劣化模擬試験</p> <p>運転期間（40年）相当の劣化及び原子炉冷却材喪失事故時の劣化を模擬する。詳細条件を図2に示す。</p> <p>試験条件：熱老化（121℃、7日）          放射線照射（<math>7.6 \times 10^5 \text{Gy}</math>）          原子炉冷却材喪失事故模擬（171℃、427kPa、9時間）</p>	<p style="text-align: right;">別紙</p> <p>ケーブルの被水影響について</p> <p>1. はじめに</p> <p>図1にケーブルの断面図を示す。ケーブルは充電部となる導体の周りが絶縁体で覆われ、さらに外皮が耐水性・絶縁性の高いシースで覆われていることから、被水による機能影響は受けない。ここで、ケーブルが被水により機能影響を受けるケースとしては、絶縁体の割れ等によりケーブルの絶縁性能が低下している状態で被水する場合が考えられる。以下に、ケーブルの型式試験からその被水影響について評価した結果を示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1310 662 1579 869"> <p>(高圧動力ケーブルの例)</p>  </div> <div data-bbox="1590 662 1859 869"> <p>(低圧動力ケーブルの例)</p> <p>単心</p>  <p>2心</p>  <p>3心</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">図1 ケーブル断面図</p> <p>2. 建設時の試験（原子炉格納容器内ケーブル）</p> <p>(1) 劣化模擬試験</p> <p>運転期間（40年）相当の劣化及び原子炉冷却材喪失事故時の劣化を模擬する。</p> <p>試験条件：熱老化 [redacted]          放射線照射 [redacted]          原子炉冷却材喪失事故模擬（図2のとおり）</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>原子炉冷却材喪失事故時の環境条件が異なるため、試験条件が異なる。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="696 209 1261 850" style="border: 2px solid black; height: 400px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="696 855 1261 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>図2 原子炉格納容器内原子炉冷却材喪失事故条件</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div> <p>(2) 40倍マンドレル耐電圧試験                      原子炉冷却材喪失事故模擬試験を実施したケーブルに対して、下記の条件で試験を実施する。                      試験条件：試験後の試料を、ケーブル外径の40倍の内径で金属製マンドレルに巻きつけ、室温の水に浸漬させた状態で電圧（例として高圧動力ケーブルの場合 AC 12.6kV/mm）を5分間印加。試験装置の例は図3を参照。                      判定基準：絶縁破壊を生じないこと。</p>	<div data-bbox="1279 209 1850 611" style="border: 2px solid black; height: 250px; width: 100%;"></div> <p>図2 原子炉格納容器内原子炉冷却材喪失事故条件</p> <p>(2) 40倍マンドレル耐電圧試験                      原子炉冷却材喪失事故模擬試験を実施したケーブルに対して、下記の条件で試験を実施する。                      試験条件：試験後の試料を、ケーブル外径の40倍の内径で金属製マンドレルに巻きつけ、室温の水に浸漬させた状態で電圧（例として低圧（制御）ケーブルの場合 AC3.2kV/mm）を5分間印加。試験装置の例は図3を参照。                      判定条件：絶縁破壊を生じないこと。</p>	<p>記載方針の相違                      女川と泊で例として示しているケーブルが異なる。</p>

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="828 726 1142 750">図3 マンドレル耐電圧試験装置例</p> <p data-bbox="696 821 1272 1189">                     3. ケーブル導入後の定期点検について                      前述のとおり、ケーブルはプラント内で想定される経年劣化により、被水による機能影響を受けるような絶縁性能の低下が起らないことを導入時に確認しているが、導入後も定期点検により異常が生じていないことを確認している。                      具体的に、電力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、絶縁抵抗に有意な変動が無いことを確認している。                      また、制御・計装用ケーブルについては、定期検査時の点検・検査、運転中の定例試験時等において、系統機器の動作又は計器の指示値等を確認することで、ケーブルの異常が無いことを確認している。                 </p> <p data-bbox="696 1236 1272 1461">                     4. まとめ                      以上から、運転期間相当（40年）を模擬した劣化に加え、原子炉冷却材喪失事故時を模擬した劣化を与えたケーブルに対しマンドレル耐電圧試験を実施し、浸水時における機械的・電氣的の裕度を確認していること、及び導入後においても定期点検により有意な劣化が無いことを確認していることから、ケーブルの被水影響はないと評価する。                 </p>	 <p data-bbox="1411 726 1724 750">図3 マンドレル耐電圧試験装置例</p> <p data-bbox="1279 821 1861 1189">                     3. ケーブル導入後の定期点検について                      前述のとおり、ケーブルはプラント内で想定される経年劣化により、被水による機能影響を受けるような絶縁性能の低下が起らないことを導入時に確認しているが、導入後も定期点検により異常が生じていないことを確認している。                      具体的に、動力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、絶縁抵抗に有意な変動がないことを確認している。                      また、制御・計装用ケーブルについては、定期<b>事業者</b>検査時の点検・検査、運転中の定例試験時等において、系統機器の動作又は計器の指示値等を確認することで、ケーブルの異常が無いことを確認している。                 </p> <p data-bbox="1279 1236 1861 1461">                     4. まとめ                      以上から、運転期間相当（40年）を模擬した劣化に加え、原子炉冷却材喪失事故時を模擬した劣化を与えたケーブルに対しマンドレル耐電圧試験を実施し、浸水時における機械的・電氣的の裕度を確認していること、及び導入後においても定期点検により有意な劣化がないことを確認していることから、ケーブルの被水影響はないと評価する。                 </p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料8）



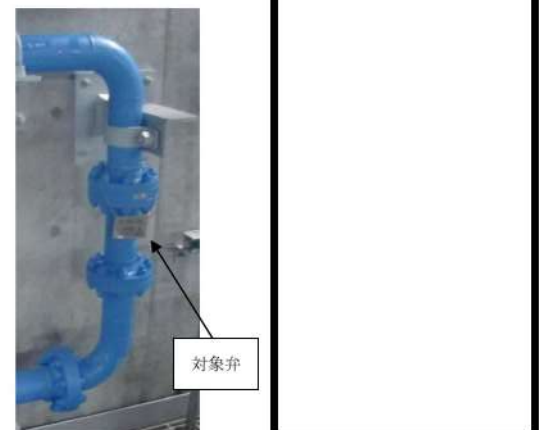
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																			
<p>添付資料 1.3-3</p> <p>溢水影響評価で止水を期待できる設備</p> <p>添付資料 1.3-3 別紙1</p> <p>表7 ⑦水密扉（新設）</p> <table border="1" data-bbox="129 550 660 869"> <tr> <th>名称</th> <th colspan="2">水密扉</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th colspan="2">片開扉</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">主要寸法 (mm)</th> <td>3号炉</td> <td>4号炉</td> </tr> <tr> <td>たて：1,827 横：2,003</td> <td>たて：2,207 横：2,003</td> </tr> <tr> <th>材料(扉)</th> <td colspan="2">SS400</td> </tr> <tr> <th>取付箇所 (3号1箇所) (4号1箇所)</th> <td colspan="2">3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路</td> </tr> <tr> <th>止水性能</th> <td colspan="2">判定基準：200/m<sup>2</sup>・hr 以下 検査圧力：21.0kN/m<sup>2</sup> 検査結果：合格(00/m<sup>2</sup>・hr)</td> </tr> <tr> <th>耐圧強度</th> <td colspan="2">静水圧 20.4kN/m<sup>2</sup>にて強度評価を行い、 水密扉の強度を確認</td> </tr> </table>  <p>図7 ⑦水密扉（新設）</p>	名称	水密扉		種類	片開扉		主要寸法 (mm)	3号炉	4号炉	たて：1,827 横：2,003	たて：2,207 横：2,003	材料(扉)	SS400		取付箇所 (3号1箇所) (4号1箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路		止水性能	判定基準：200/m <sup>2</sup> ・hr 以下 検査圧力：21.0kN/m <sup>2</sup> 検査結果：合格(00/m <sup>2</sup> ・hr)		耐圧強度	静水圧 20.4kN/m <sup>2</sup> にて強度評価を行い、 水密扉の強度を確認		<p>補足説明資料 16</p> <p>止水を期待する設備の止水性能等について</p> <p>1. 止水を期待する設備について</p> <p>溢水影響評価で止水を期待する設備としては水密扉、堰、逆止弁等があり、本設備の止水性能等については以下のとおりである。</p> <p>(1) 水密扉<sup>*1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="705 558 1265 710"> <tr> <th>主要寸法</th> <td>高さ：2,000(mm) 幅：999(mm)</td> </tr> <tr> <th>主要材料</th> <td>鋼材 (SS400)</td> </tr> <tr> <th>止水性能</th> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。          なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>  <p>図1 水密扉概要図</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	主要寸法	高さ：2,000(mm) 幅：999(mm)	主要材料	鋼材 (SS400)	止水性能		<p>補足説明資料 8</p> <p>止水を期待する設備の止水性能等について</p> <p>1. 止水を期待する設備について</p> <p>溢水影響評価で止水を期待する設備としては水密扉、堰、逆止弁等があり、本設備の止水性能等については以下のとおりである。</p> <p>(1) 水密扉<sup>*1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="1294 566 1854 742"> <tr> <th>主要寸法</th> <td>高さ：1,980(mm) 幅：1,020(mm)</td> </tr> <tr> <th>主要材料</th> <td>鋼材 (SS400)</td> </tr> <tr> <th>止水性能</th> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。          なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>  <p>(参考図) (参考写真)</p> <p>図1 水密扉概要図</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	主要寸法	高さ：1,980(mm) 幅：1,020(mm)	主要材料	鋼材 (SS400)	止水性能		<p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>記載表現の相違</p>
名称	水密扉																																					
種類	片開扉																																					
主要寸法 (mm)	3号炉	4号炉																																				
	たて：1,827 横：2,003	たて：2,207 横：2,003																																				
材料(扉)	SS400																																					
取付箇所 (3号1箇所) (4号1箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路																																					
止水性能	判定基準：200/m <sup>2</sup> ・hr 以下 検査圧力：21.0kN/m <sup>2</sup> 検査結果：合格(00/m <sup>2</sup> ・hr)																																					
耐圧強度	静水圧 20.4kN/m <sup>2</sup> にて強度評価を行い、 水密扉の強度を確認																																					
主要寸法	高さ：2,000(mm) 幅：999(mm)																																					
主要材料	鋼材 (SS400)																																					
止水性能																																						
主要寸法	高さ：1,980(mm) 幅：1,020(mm)																																					
主要材料	鋼材 (SS400)																																					
止水性能																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p style="text-align: center;">添付資料1.3-3 別紙1</p> <p style="text-align: center;">表8 ⑤堰（新設）</p> <table border="1" data-bbox="134 247 638 534"> <tr><td>名称</td><td>溢水防護堰</td></tr> <tr><td>種類</td><td>堰</td></tr> <tr><td>主要寸法<sup>※1</sup></td><td>床面より250mm以上</td></tr> <tr><td>材料</td><td>炭素鋼</td></tr> <tr><td>取付箇所<sup>※2</sup></td><td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 (3号3箇所) E.L.+26.0m 通路 (2箇所) (4号4箇所) 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 E.L.+23.0m 通路 E.L.+26.0m 通路 (2箇所)</td></tr> <tr><td>止水性能</td><td>鋼板の位置、高さ、仕上り状態を外観検査で確認</td></tr> <tr><td>耐圧強度</td><td>堰高さまでの浸水深に対して強度評価を行い、堰の健全性を確認</td></tr> </table> <p>※1 主要寸法は、廃棄物処理建屋の各階段堰高さを基準として算出</p> <p>※2 取付箇所は、原子炉周辺建屋</p>  <p style="text-align: center;">図8 ⑤堰（新設）</p>	名称	溢水防護堰	種類	堰	主要寸法 <sup>※1</sup>	床面より250mm以上	材料	炭素鋼	取付箇所 <sup>※2</sup>	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 (3号3箇所) E.L.+26.0m 通路 (2箇所) (4号4箇所) 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 E.L.+23.0m 通路 E.L.+26.0m 通路 (2箇所)	止水性能	鋼板の位置、高さ、仕上り状態を外観検査で確認	耐圧強度	堰高さまでの浸水深に対して強度評価を行い、堰の健全性を確認	<p>(2) 堰<sup>※1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="705 215 1265 367"> <tr><td>主要寸法</td><td>堰高さ：400mm</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>鋼材 (SS400)</td></tr> <tr><td>止水性能</td><td></td></tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p>  <p style="text-align: center;">(参考図)</p>  <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図2 堰概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	主要寸法	堰高さ：400mm	主要材料	鋼材 (SS400)	止水性能		<p>(2) 堰及び止水板<sup>※1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="1288 215 1848 367"> <tr><td>主要寸法</td><td>堰高さ：240(mm)</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>アルミ材</td></tr> <tr><td>止水性能</td><td></td></tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p>  <p style="text-align: center;">(参考図)</p>  <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図2 堰及び止水板概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	主要寸法	堰高さ：240(mm)	主要材料	アルミ材	止水性能		<p>記載表現の相違                  設備名称の相違</p> <p>泊においては止水に期待する堰と止水板を設定しているが、設置目的に相違はないことから実質的な相違はない。</p>
名称	溢水防護堰																												
種類	堰																												
主要寸法 <sup>※1</sup>	床面より250mm以上																												
材料	炭素鋼																												
取付箇所 <sup>※2</sup>	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 (3号3箇所) E.L.+26.0m 通路 (2箇所) (4号4箇所) 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 E.L.+23.0m 通路 E.L.+26.0m 通路 (2箇所)																												
止水性能	鋼板の位置、高さ、仕上り状態を外観検査で確認																												
耐圧強度	堰高さまでの浸水深に対して強度評価を行い、堰の健全性を確認																												
主要寸法	堰高さ：400mm																												
主要材料	鋼材 (SS400)																												
止水性能																													
主要寸法	堰高さ：240(mm)																												
主要材料	アルミ材																												
止水性能																													

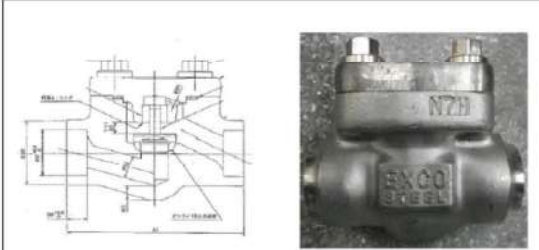
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p>添付資料1.3-3 別紙1 表1 ①機器ドレン逆止弁（既設）</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護リフト式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>リフト式</td> </tr> <tr> <td>主要寸法(mm)</td> <td>1. 呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5 2. 3. 呼び径：25 弁箱厚さ：7.5 弁蓋厚さ：10</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 (3号5箇所)</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1. A,B安全補機室空調ユニットドレンライン 2. サンプルシンクドレンライン (1箇所) 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3. サンプルシンクドレンライン (2箇所)</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>1. 判定基準：37.5cc/min<sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格 2. 3. 判定基準：50cc/min<sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.49MPa (水圧) 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※メーカ基準は50cc/min/inch (dia)</p>	名称	溢水防護リフト式逆止弁	種類	リフト式	主要寸法(mm)	1. 呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5 2. 3. 呼び径：25 弁箱厚さ：7.5 弁蓋厚さ：10	材料	SUSF316	取付箇所 (3号5箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1. A,B安全補機室空調ユニットドレンライン 2. サンプルシンクドレンライン (1箇所) 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3. サンプルシンクドレンライン (2箇所)	止水性能	1. 判定基準：37.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格 2. 3. 判定基準：50cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.49MPa (水圧) 検査結果：合格	<p>(3) 逆流防止ファンネル<sup>※1</sup></p> <table border="1"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>80A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>鋼材 (SUS303) フッ素ゴム<sup>※2</sup> (シート面)</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。          ※2 止水に用いるシート面には難燃性のフッ素ゴムを選定することとしている。</p>	主要寸法	80A	主要材料	鋼材 (SUS303) フッ素ゴム <sup>※2</sup> (シート面)	止水性能		<p>(3) 逆止弁<sup>※1</sup> (代表例)</p> <table border="1"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>呼び径：100A(4B)</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>SUS303(本体) フッ素ゴム (シート面)</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p>	主要寸法	呼び径：100A(4B)	主要材料	SUS303(本体) フッ素ゴム (シート面)	止水性能		<p>記載表現の相違                  設計方針の相違                  女川はファンネルからの逆流を防ぐ目的に対し、泊はドレンラインの最下端に逆止弁（ドレンライン逆止弁）を設置している。                  大阪においても逆止弁による逆流防止としており、弁種が異なるものの目的及び機能に相違はない。</p>
名称	溢水防護リフト式逆止弁																												
種類	リフト式																												
主要寸法(mm)	1. 呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5 2. 3. 呼び径：25 弁箱厚さ：7.5 弁蓋厚さ：10																												
材料	SUSF316																												
取付箇所 (3号5箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1. A,B安全補機室空調ユニットドレンライン 2. サンプルシンクドレンライン (1箇所) 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3. サンプルシンクドレンライン (2箇所)																												
止水性能	1. 判定基準：37.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格 2. 3. 判定基準：50cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格																												
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.49MPa (水圧) 検査結果：合格																												
主要寸法	80A																												
主要材料	鋼材 (SUS303) フッ素ゴム <sup>※2</sup> (シート面)																												
止水性能																													
主要寸法	呼び径：100A(4B)																												
主要材料	SUS303(本体) フッ素ゴム (シート面)																												
止水性能																													
 <p>図1 ①機器ドレン逆止弁（既設）</p>	 <p>図3 逆流防止ファンネル概要図</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	 <p>図2 逆止弁構造図</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>記載表現の相違</p>																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p style="text-align: center;"><b>表2 ②機器ドレン逆止弁（新設）</b></p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護リフト式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>リフト式</td> </tr> <tr> <td>主要寸法(mm)</td> <td>呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 (3号 14箇所)</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m A,B使用済燃料ビットポンプドレンライン A,B充てんポンプドレンライン（各2箇所） A,Bほう酸ポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m A,B高圧注入ポンプドレンライン A,B格納容器スプレイポンプドレンライン A,B余熱除去ポンプドレンライン</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>判定基準：7.5cc/min<sup>※</sup> 検査圧力：0.59MPa（気圧） 検査結果：合格</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.0MPa（水圧） 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※メーカー基準は10cc/min/inch（dia）</p>	名称	溢水防護リフト式逆止弁	種類	リフト式	主要寸法(mm)	呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5	材料	SUSF316	取付箇所 (3号 14箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m A,B使用済燃料ビットポンプドレンライン A,B充てんポンプドレンライン（各2箇所） A,Bほう酸ポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m A,B高圧注入ポンプドレンライン A,B格納容器スプレイポンプドレンライン A,B余熱除去ポンプドレンライン	止水性能	判定基準：7.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.59MPa（気圧） 検査結果：合格	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.0MPa（水圧） 検査結果：合格			
名称	溢水防護リフト式逆止弁																
種類	リフト式																
主要寸法(mm)	呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5																
材料	SUSF316																
取付箇所 (3号 14箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m A,B使用済燃料ビットポンプドレンライン A,B充てんポンプドレンライン（各2箇所） A,Bほう酸ポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m A,B高圧注入ポンプドレンライン A,B格納容器スプレイポンプドレンライン A,B余熱除去ポンプドレンライン																
止水性能	判定基準：7.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.59MPa（気圧） 検査結果：合格																
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.0MPa（水圧） 検査結果：合格																
 <p>弁箱漏えい試験は0.0990%（気圧）で行い、判定基準は7.5cc/min ⇒ 合格          耐圧試験は15.0MPa（水圧）で行い、判定基準は弁各部の変形及び漏えいがないこと ⇒ 合格</p>																	
<p style="text-align: center;"><b>図2 ②機器ドレン逆止弁（新設）</b></p>																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p style="text-align: center;">表3 ③機器ドレン逆止弁（新設）</p> <table border="1" data-bbox="114 220 658 576"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護フロート式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>フロート式（配管タイプ）*</td> </tr> <tr> <td>主要寸法（mm）</td> <td>呼び径：20 弁箱厚さ：4.95</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 （3号5箇所）</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m C充てんポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m サンプルシンクドレンベントライン（2箇所） A,B原子炉周辺建屋サンブポンプ</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.9MPa 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※フロート式はフロートが浮力により押し上げられ、上部のシート面と接触することにより止まる構造。</p> <div data-bbox="114 691 678 1082">  <p>図3 ③機器ドレン逆止弁（新設）</p> </div>	名称	溢水防護フロート式逆止弁	種類	フロート式（配管タイプ）*	主要寸法（mm）	呼び径：20 弁箱厚さ：4.95	材料	SUS304	取付箇所 （3号5箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m C充てんポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m サンプルシンクドレンベントライン（2箇所） A,B原子炉周辺建屋サンブポンプ	止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.9MPa 検査結果：合格			
名称	溢水防護フロート式逆止弁																
種類	フロート式（配管タイプ）*																
主要寸法（mm）	呼び径：20 弁箱厚さ：4.95																
材料	SUS304																
取付箇所 （3号5箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m C充てんポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m サンプルシンクドレンベントライン（2箇所） A,B原子炉周辺建屋サンブポンプ																
止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）																
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.9MPa 検査結果：合格																




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p style="text-align: center;">表4 ④ベント逆止弁（新設）</p> <table border="1" data-bbox="114 220 658 515"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護フロート式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>フロート式（配管タイプ）*</td> </tr> <tr> <td>主要寸法（mm）</td> <td>呼び径：50 弁箱厚さ：4.8</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SCS13A</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 （3号1箇所）</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンクベントライン</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：1.5MPa 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※フロート式はフロートが浮力により押し上げられ、上部のシート面と接触することにより止まる構造。</p> <div data-bbox="114 628 680 1007" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">   </div> <p style="text-align: center;">図4 ④ベント逆止弁（新設）</p>	名称	溢水防護フロート式逆止弁	種類	フロート式（配管タイプ）*	主要寸法（mm）	呼び径：50 弁箱厚さ：4.8	材料	SCS13A	取付箇所 （3号1箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンクベントライン	止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：1.5MPa 検査結果：合格			
名称	溢水防護フロート式逆止弁																
種類	フロート式（配管タイプ）*																
主要寸法（mm）	呼び径：50 弁箱厚さ：4.8																
材料	SCS13A																
取付箇所 （3号1箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンクベントライン																
止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）																
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：1.5MPa 検査結果：合格																

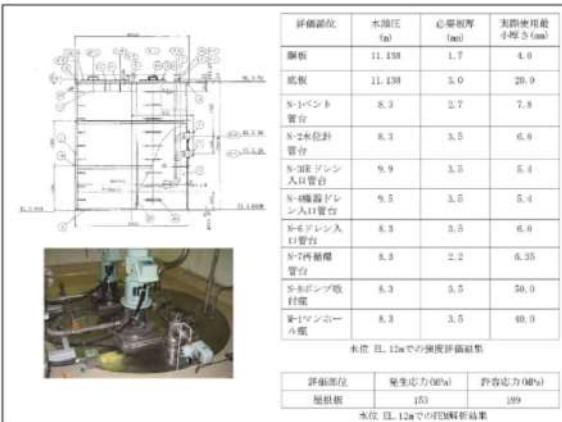
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料8）

大阪発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
表5 ⑤目皿逆止弁（新設）				
名称	溢水防護フロート式逆止弁			
種類	フロート式（目皿タイプ）*			
主要寸法（mm）	1、3.呼び径：100 2、4.呼び径：80			
材料	SUS303			
取付箇所 （3号25箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1.A,B使用済燃料ピット冷却器室 A,B,C 充てんポンプ室 ほう酸タンク室 ほう酸ポンプ室 充てんポンプバルブ室 2.B使用済燃料ピット冷却器室前通路 温水器洗濯脱水機室 西側通路 B 充てんポンプ室前通路 A格納容器スプレイ冷却器室西側通路 B格納容器スプレイ冷却器室東側通路  原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3.原子炉周辺建屋サンプタンク室 A,B 高圧注入ポンプ室 A,B 格納容器スプレイポンプ室 A,B 余熱除去ポンプ室 4.A,B 高圧注入ポンプ室前通路 A,B 余熱除去ポンプ室前通路			
止水性能	判定基準：10cc/min 検査圧力：0.01MPa 検査結果：合格(0cc/min)			
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.45MPa 検査結果：合格			
<p>※フロート式はフロートが浮力により押し上げられ、上部のシート面と接触することにより止まる構造。</p> 				
図5 ⑤目皿逆止弁（新設）				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大阪発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																		
<p>表6 ⑥サンプタンク（既設）</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>原子炉周辺建屋サンプタンク</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>埋込たて蓋円筒形</td> </tr> <tr> <td>主要寸法 (mm)</td> <td>胴内径：2400 胴板厚さ：4 底板厚さ：20 全高：2860</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>胴板：SUS304 底板：SUS304</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 (3号1箇所)</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンク室</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>E.L.+12.0m 水頭圧にて強度評価を行い、 タンクの健全性を確認。</td> </tr> </table>		名称	原子炉周辺建屋サンプタンク	種類	埋込たて蓋円筒形	主要寸法 (mm)	胴内径：2400 胴板厚さ：4 底板厚さ：20 全高：2860	材料	胴板：SUS304 底板：SUS304	取付箇所 (3号1箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンク室	耐圧強度	E.L.+12.0m 水頭圧にて強度評価を行い、 タンクの健全性を確認。																																									
名称	原子炉周辺建屋サンプタンク																																																					
種類	埋込たて蓋円筒形																																																					
主要寸法 (mm)	胴内径：2400 胴板厚さ：4 底板厚さ：20 全高：2860																																																					
材料	胴板：SUS304 底板：SUS304																																																					
取付箇所 (3号1箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンク室																																																					
耐圧強度	E.L.+12.0m 水頭圧にて強度評価を行い、 タンクの健全性を確認。																																																					
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>水頭圧 (m)</th> <th>心厚板厚 (mm)</th> <th>実効使用最小径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴板</td> <td>11.138</td> <td>1.7</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>底板</td> <td>11.138</td> <td>3.0</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>N-1ベント蓋台</td> <td>8.3</td> <td>2.7</td> <td>7.9</td> </tr> <tr> <td>N-2水位計蓋台</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>N-3注水ポンプ入口蓋台</td> <td>9.9</td> <td>3.2</td> <td>5.4</td> </tr> <tr> <td>N-4機器ドレン入口蓋台</td> <td>9.5</td> <td>3.5</td> <td>5.4</td> </tr> <tr> <td>N-6ドレン入口蓋台</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>N-7片側補強蓋台</td> <td>8.3</td> <td>2.2</td> <td>6.35</td> </tr> <tr> <td>N-8サンプ取付座</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>N-1マンホール小径</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>40.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>水位 E.L.12mでの強度評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>発生応力 (MPa)</th> <th>許容応力 (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴板</td> <td>153</td> <td>189</td> </tr> </tbody> </table> <p>水位 E.L.12mでの応力解析結果</p>		評価部位	水頭圧 (m)	心厚板厚 (mm)	実効使用最小径 (mm)	胴板	11.138	1.7	4.0	底板	11.138	3.0	20.0	N-1ベント蓋台	8.3	2.7	7.9	N-2水位計蓋台	8.3	3.5	6.0	N-3注水ポンプ入口蓋台	9.9	3.2	5.4	N-4機器ドレン入口蓋台	9.5	3.5	5.4	N-6ドレン入口蓋台	8.3	3.5	6.0	N-7片側補強蓋台	8.3	2.2	6.35	N-8サンプ取付座	8.3	3.5	50.0	N-1マンホール小径	8.3	3.5	40.0	評価部位	発生応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	胴板	153	189			
評価部位	水頭圧 (m)	心厚板厚 (mm)	実効使用最小径 (mm)																																																			
胴板	11.138	1.7	4.0																																																			
底板	11.138	3.0	20.0																																																			
N-1ベント蓋台	8.3	2.7	7.9																																																			
N-2水位計蓋台	8.3	3.5	6.0																																																			
N-3注水ポンプ入口蓋台	9.9	3.2	5.4																																																			
N-4機器ドレン入口蓋台	9.5	3.5	5.4																																																			
N-6ドレン入口蓋台	8.3	3.5	6.0																																																			
N-7片側補強蓋台	8.3	2.2	6.35																																																			
N-8サンプ取付座	8.3	3.5	50.0																																																			
N-1マンホール小径	8.3	3.5	40.0																																																			
評価部位	発生応力 (MPa)	許容応力 (MPa)																																																				
胴板	153	189																																																				
<p>図6 ⑥サンプタンク（既設）</p>																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
	<p>(4) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（シリコンシール：押さえ板有り）</p> <table border="1" data-bbox="703 244 1256 392"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A～500A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シリコンシール材<sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。                  ※2 止水に用いるシール材には難燃性のシリコンシール材を選定することとしている。</p> <div data-bbox="703 451 1256 740" style="border: 1px solid black; height: 180px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <div data-bbox="824 807 1144 1051" style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図4 シリコンシール（押さえ板有り）概要図</p> <div data-bbox="703 1139 1256 1182" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。                 </div>	主要寸法	100A～500A	主要材料	シリコンシール材 <sup>※2</sup>	最高使用温度		止水性能		<p>(4) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（代表例）（シールプレート+シリコンシーラント）</p> <table border="1" data-bbox="1292 244 1845 440"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>200A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シールプレート+シリコンシーラント</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td style="border: 2px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td style="border: 2px solid black;"></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="1319 501 1536 740" style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <div data-bbox="1554 509 1845 740" style="border: 1px solid black; height: 145px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <p style="text-align: center;">図3 シールプレート+シリコンシーラント概要図</p> <div data-bbox="1279 935 1865 962" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	主要寸法	200A	主要材料	シールプレート+シリコンシーラント	最高使用温度		止水性能		<p>記載表現の相違                  設計方針の相違                  貫通部シールの施工方法の違いによる。</p>
主要寸法	100A～500A																		
主要材料	シリコンシール材 <sup>※2</sup>																		
最高使用温度																			
止水性能																			
主要寸法	200A																		
主要材料	シールプレート+シリコンシーラント																		
最高使用温度																			
止水性能																			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
		<p>(5) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（代表例）（シールプレート+充てんシール材）</p> <table border="1" data-bbox="1288 288 1852 475"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>150A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シールプレート+充てんシール材（シリコンゴム）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1303 539 1563 715">  <p>(参考写真)</p> </div> <div data-bbox="1592 523 1852 715">  <p>(参考図)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">図4 シールプレート+充てんシール材</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	主要寸法	150A	主要材料	シールプレート+充てんシール材（シリコンゴム）	最高使用温度		止水性能		<p>設計方針の相違                      貫通部シールの施工方法の違いによる。</p>
主要寸法	150A										
主要材料	シールプレート+充てんシール材（シリコンゴム）										
最高使用温度											
止水性能											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
	<p>(5) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（シリコンシール：押さえ板無し）</p> <table border="1" data-bbox="701 252 1263 405"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A～500A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シリコンシール材<sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐水圧性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。                  ※2 止水に用いるシール材には難燃性のシリコンシール材を選定することとしている。</p> <div data-bbox="743 523 1218 874" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <div data-bbox="817 981 1146 1206" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図5 シリコンシール（押さえ板無し）概要図</p> <div data-bbox="703 1310 1261 1350" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。                 </div>	主要寸法	100A～500A	主要材料	シリコンシール材 <sup>※2</sup>	最高使用温度		耐水圧性能		<p>(6) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（代表例）（充てんシール材）</p> <table border="1" data-bbox="1290 252 1852 443"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>300A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>充てんシール材（シリコンゴム）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="1299 486 1541 715" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <div data-bbox="1554 486 1848 715" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <p style="text-align: center;">図5 充てんシール概要図</p> <div data-bbox="1281 933 1854 957" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	主要寸法	300A	主要材料	充てんシール材（シリコンゴム）	最高使用温度		止水性能		<p>記載表現の相違                  設計方針の相違                  貫通部シールの施工方法の違いによる。</p>
主要寸法	100A～500A																		
主要材料	シリコンシール材 <sup>※2</sup>																		
最高使用温度																			
耐水圧性能																			
主要寸法	300A																		
主要材料	充てんシール材（シリコンゴム）																		
最高使用温度																			
止水性能																			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
		<table border="1" data-bbox="1290 177 1850 371"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>□300×150</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>充てんシール材（DFシール）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p data-bbox="1290 375 1680 399">※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="1301 435 1570 636">  </div> <p data-bbox="1361 655 1462 679">(参考写真)</p> <div data-bbox="1574 424 1850 625">  </div> <p data-bbox="1697 655 1776 679">(参考図)</p> <p data-bbox="1368 724 1771 748">図6 充てんシール（ケーブルトレイ）概要図</p> <p data-bbox="1283 831 1850 855">仲囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	主要寸法	□300×150	主要材料	充てんシール材（DFシール）	最高使用温度		止水性能		
主要寸法	□300×150										
主要材料	充てんシール材（DFシール）										
最高使用温度											
止水性能											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p>(6) 貫通部ブーツラバー施工<sup>※1</sup></p> <table border="1" data-bbox="701 204 1265 383"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A～</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>ブーツラバー（EPDM、シリコン系） 調整リング（セメント系材料）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="705 459 1261 798" style="border: 1px solid black; height: 212px; width: 248px; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <div data-bbox="837 852 1140 1083" style="border: 1px solid black; width: 135px; height: 145px; margin: 10px 0; text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図6 ブーツラバー概要図</p> <div data-bbox="701 1204 1261 1246" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	主要寸法	100A～	主要材料	ブーツラバー（EPDM、シリコン系） 調整リング（セメント系材料）	最高使用温度		止水性能			<p>記載方針の相違</p> <p>泊における止水に期待する設備のうちブーツラバーを用いた貫通部シールはすべて高温用である。</p>
主要寸法	100A～										
主要材料	ブーツラバー（EPDM、シリコン系） 調整リング（セメント系材料）										
最高使用温度											
止水性能											



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
	<p>(7) 貫通部<b>ブーツラバー</b>施工（高温）※1</p> <table border="1" data-bbox="701 244 1267 483"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A～1000A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>高水頭ブーツラバー（シリコン系） 調整リング（セメント系材料）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="752 571 1211 906" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <div data-bbox="848 954 1146 1198" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図7 高温ブーツラバー概要図</p> <div data-bbox="701 1313 1267 1353" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。             </div>	主要寸法	100A～1000A	主要材料	高水頭ブーツラバー（シリコン系） 調整リング（セメント系材料）	最高使用温度		止水性能		<p>(7) 貫通部<b>高耐圧ブーツ</b>施工（高温）※1</p> <table border="1" data-bbox="1290 244 1856 483"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>300A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>高耐圧ブーツラバー 調整リング（セメント系材料）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="1323 555 1597 743" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <div data-bbox="1599 544 1839 746" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <p style="text-align: center;">図7 高耐圧ブーツ概要図</p> <div data-bbox="1279 970 1865 994" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。             </div>	主要寸法	300A	主要材料	高耐圧ブーツラバー 調整リング（セメント系材料）	最高使用温度		止水性能		<p>記載方針の相違</p>
主要寸法	100A～1000A																		
主要材料	高水頭ブーツラバー（シリコン系） 調整リング（セメント系材料）																		
最高使用温度																			
止水性能																			
主要寸法	300A																		
主要材料	高耐圧ブーツラバー 調整リング（セメント系材料）																		
最高使用温度																			
止水性能																			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由						
	<p>(8) ハッチへの止水処置<sup>※1</sup></p> <table border="1" data-bbox="701 220 1263 384"> <tr> <td data-bbox="701 220 831 284">主要寸法</td> <td data-bbox="831 220 1263 284">(ハッチ開口部寸法) 幅：約0.8m 奥行き：約0.8m</td> </tr> <tr> <td data-bbox="701 284 831 331">主要材料</td> <td data-bbox="831 284 1263 331">鋼材 (SUS304) クロロブレンゴム (シート面)<sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td data-bbox="701 331 831 384">耐水圧性能</td> <td data-bbox="831 331 1263 384"></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。                  ※2 火災による影響からシール部を防護するために断熱カバーを設置する。</p> <div data-bbox="719 496 1245 719" style="border: 1px solid black; height: 140px; width: 235px; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <div data-bbox="848 818 1128 979" style="border: 1px solid black; width: 125px; height: 101px; margin: 10px 0; text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center; color: red;">図8 ハッチへの止水処置概要図</p> <div data-bbox="701 1106 1263 1145" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">                 特用みの内容は商業機密の観点から公開できません。             </div>	主要寸法	(ハッチ開口部寸法) 幅：約0.8m 奥行き：約0.8m	主要材料	鋼材 (SUS304) クロロブレンゴム (シート面) <sup>※2</sup>	耐水圧性能			<p><u>設計方針の相違</u></p> <p>泊において、止水性を期待しているハッチはなく、溢水影響評価上もハッチから流下するものとしている。</p>
主要寸法	(ハッチ開口部寸法) 幅：約0.8m 奥行き：約0.8m								
主要材料	鋼材 (SUS304) クロロブレンゴム (シート面) <sup>※2</sup>								
耐水圧性能									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

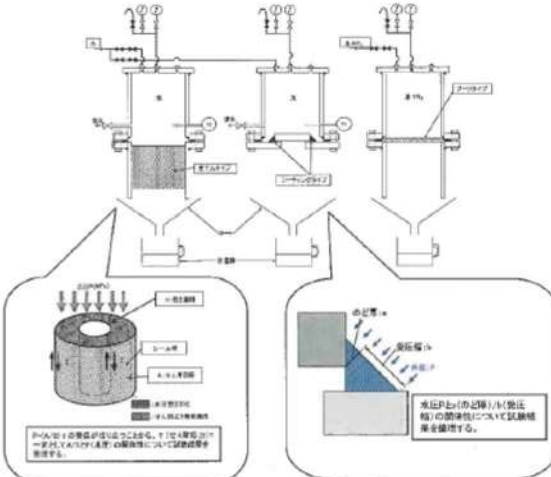

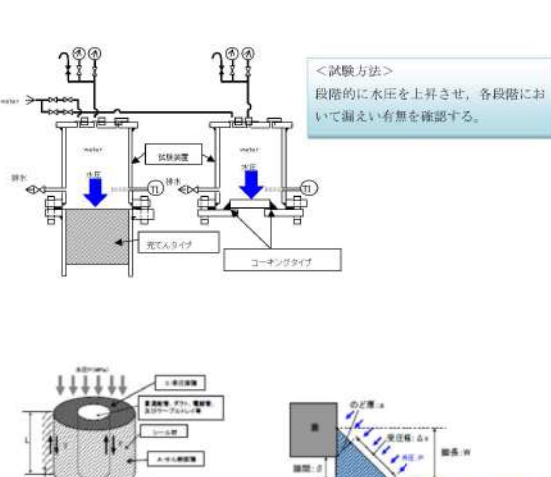
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<p style="text-align: right;">添付資料5.2 別紙4</p> <p>配管、電線管等貫通部シール材の強度及び止水性能について</p> <p>配管、電線管等貫通部シール材の強度及び止水性能については、表1及び図1に示す耐圧試験及び漏水試験により、20m静水圧に耐えられる施工条件に基づき施工している。</p> <p>また、水密シール材を充てんしている配管、電線管等貫通部について、図2に示すとおり、配管等が両側で同じ建屋に支持されている等、地震時に配管とシール材の相対変位が発生しにくく、シール材への影響は軽微であり、地震後に止水性能が低下する可能性は低いと考えている。</p> <p style="text-align: center;">表1 耐圧試験及び漏水試験を行ったシール材</p> <table border="1" data-bbox="114 762 678 903"> <thead> <tr> <th>シールタイプ</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>充てんタイプ</td> <td>ポリウレタン</td> </tr> <tr> <td>コーティングタイプ</td> <td>シリコン</td> </tr> <tr> <td>ブーツタイプ（ブーツラバー）</td> <td>シリコンゴム</td> </tr> </tbody> </table>	シールタイプ	材質	充てんタイプ	ポリウレタン	コーティングタイプ	シリコン	ブーツタイプ（ブーツラバー）	シリコンゴム	<p>2. 壁貫通部止水対策の耐水圧性能試験について</p> <p>壁貫通部止水対策の耐水圧性能について、下記のとおり耐水圧性能試験を実施し、影響がないことを確認した。</p> <p>(1) シリコンシールの耐水圧試験について</p> <p>以下にシリコンシールの耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図9に示す。</p>	<p>2. 貫通部止水対策の耐水圧性能試験について</p> <p>貫通部止水対策の耐水圧性能について、下記のとおり耐水圧試験を実施し、影響がないことを確認した。</p> <p>(1) シリコンシーラント及び充てんシール材の耐水圧試験について</p> <p>以下にシリコンシーラント及び充てんシール材の耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図8に示す。</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>設計方針の相違 貫通部シールの施工方法の違いによる。</p> <p>記載表現の相違 女川審査実績の反映</p>
シールタイプ	材質										
充てんタイプ	ポリウレタン										
コーティングタイプ	シリコン										
ブーツタイプ（ブーツラバー）	シリコンゴム										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="703 802 1265 839" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。                 </div>	<p>a. シリコンシーラントの場合</p> <p>シリコンシーラントによる貫通部シール施工箇所の耐水性については、試験結果より「のど厚/受圧幅（<math>a/\Delta x</math>）」の比を 0.131以上確保することにより 0.196MPa（20m 静水頭）の耐水性を有することを確認した。</p> <p>なお、配管変位量が大きい貫通部シール施工箇所については、必要に応じて貫通部シール保護を目的としたサポートを設置する。</p> <p>b. 充てんシール材の場合</p> <p>充てんシール材による貫通部シール施工箇所の耐水性については、試験結果より「せん断面積/受圧面積（<math>A/S</math>）= 0.196MPa」となるよう充てんシール材の施工を行うことで 0.196MPa（20m 静水頭）の耐水性を有することを確認した。</p> <p>なお、配管変位量が大きい貫通部シール施工箇所については、必要に応じて貫通部シール保護を目的としたサポートを設置する。</p>	<p>記載方針の相違</p> <p>試験方法は異なるものの、貫通部シール施工の耐水圧性能を試験によって確認し、必要耐水圧性能を確保している。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>試験方法は異なるものの、貫通部シール施工の耐水圧性能を試験によって確認し、必要耐水圧性能を確保している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

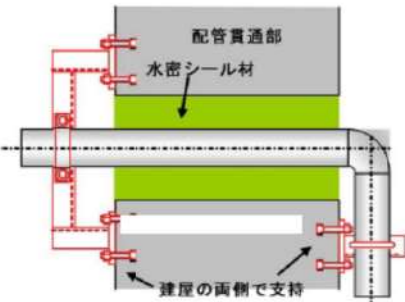
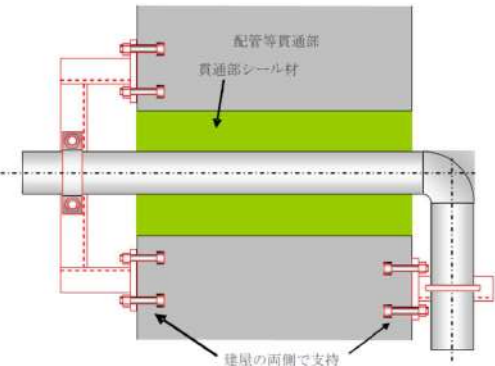
第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料8）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>図1 シール材の耐圧試験及びび漏水試験</p>	 <p>図9 シリコンシールの耐水圧試験概要図</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	 <p>図8 シリコンシーラント及びび充てんシール材の耐水圧試験概要図</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>試験方法の違いによる相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）



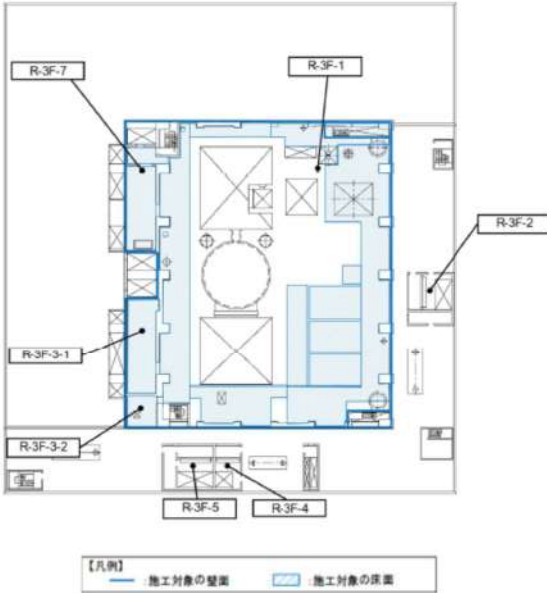
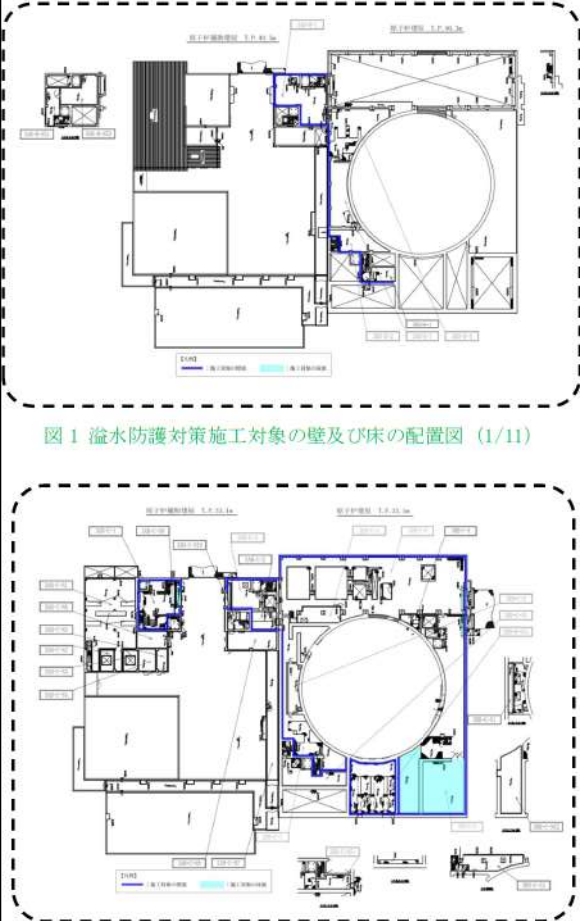
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) ブーツラバーの耐水圧試験について</p> <p>以下にブーツラバーの耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図10に示す。</p> <div data-bbox="696 312 1272 703" style="border: 2px solid blue; height: 245px; width: 257px;"></div> <div data-bbox="696 719 1272 1086" style="border: 2px solid blue; height: 230px; width: 257px;"></div> <p style="text-align: center;">図10 ブーツラバーの耐水圧試験概要図</p> <div data-bbox="696 1139 1272 1190" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	<p>(2) 高耐圧ブーツの耐水圧試験について</p> <p>以下に高耐圧ブーツの耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図9に示す。</p> <p>a. 高耐圧ブーツの場合</p> <p>高耐圧ブーツによる貫通部シール施工の耐水性については、試験結果より「0.196MPa（20m 静水頭）」の耐水性を有することを確認した。</p> <p>なお、配管変位量が大きい貫通部シール施工箇所については、必要に応じて高耐圧ブーツの保護を目的としたサポートを設置する。</p> <div data-bbox="1317 715 1839 1091" style="border: 2px solid blue; text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">図9 高耐圧ブーツの耐水圧試験概要図</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>記載内容は異なるものの、貫通部シール施工の耐水圧性能を試験によって確認し、必要耐水圧性能を確保している。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>試験方法の違いによる相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>水密シール材を充てんしている配管、電線管等貫通部について、図2に示すとおり、配管等が両側で同じ建屋に支持されている等、地震時に配管とシール材の相対変位が発生しにくく、シール材への影響は軽微であり、地震後に止水性能が低下する可能性は低いと考えている。</p>  <p>図2 配管支持構造物概念</p>		<p>(3) 貫通部シール材及び高耐圧ブーツの地震時の健全性について                  貫通部シール材を充てんしている配管及び高耐圧ブーツを用いている配管について、図10に示すとおり、配管及びケーブルダクトが両側で同じ建屋に支持されており、地震時に配管とシール材の相対変位が発生しにくく、貫通部シール材及び高耐圧ブーツへの影響は軽微であり、地震後に止水性能が低下する可能性は低いと考えている。</p>  <p>図10 配管支持構造物概念図</p>	<p>記載方針の相違                  大飯審査実績の反映                  （大飯欄記載の文章については再掲載）                  記載表現の相違</p>


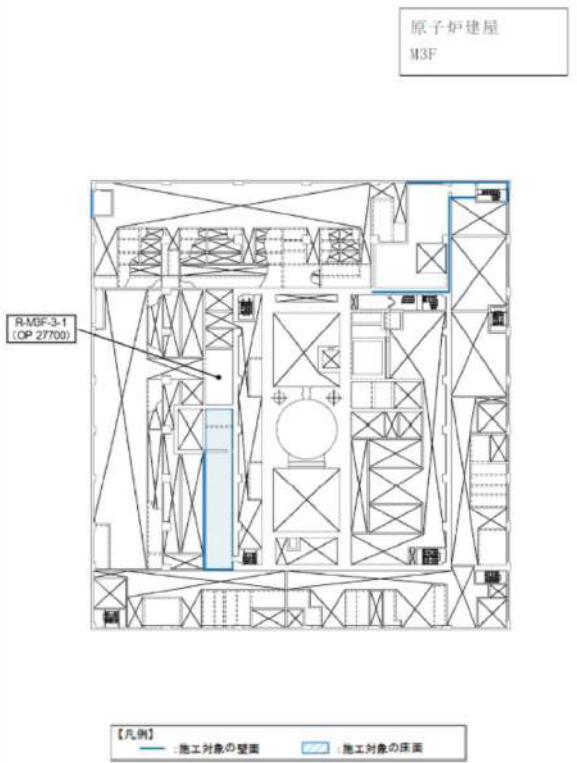
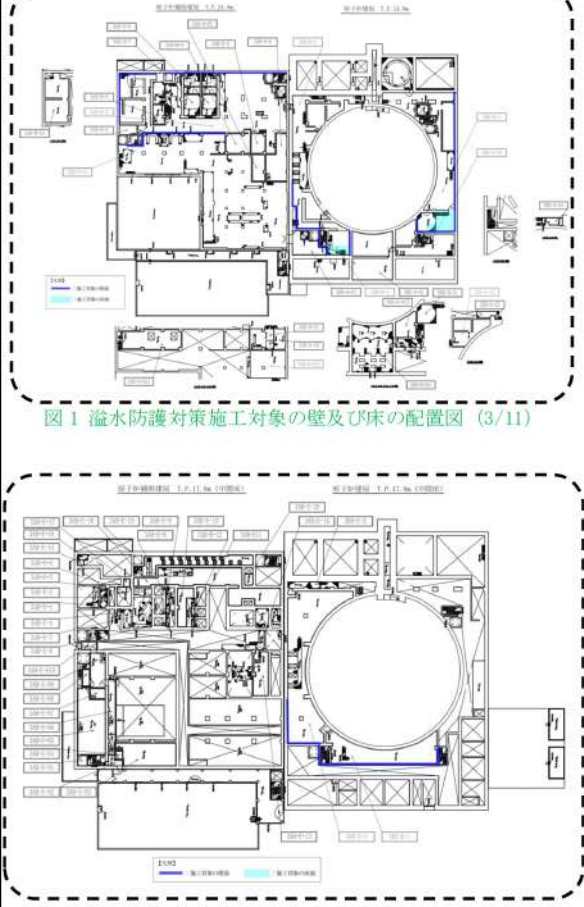

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料9）

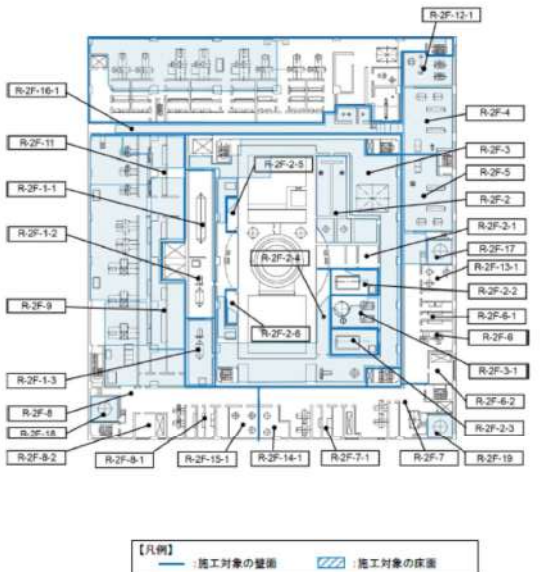
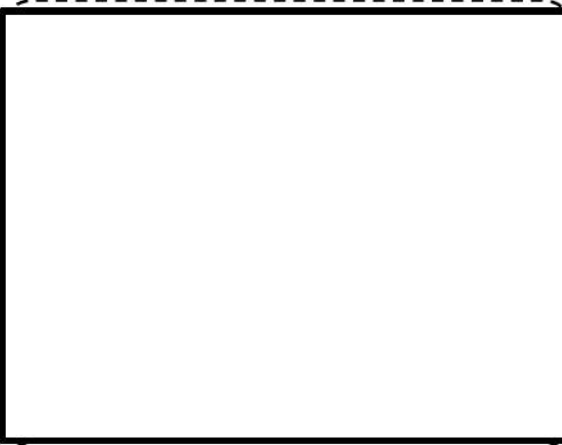
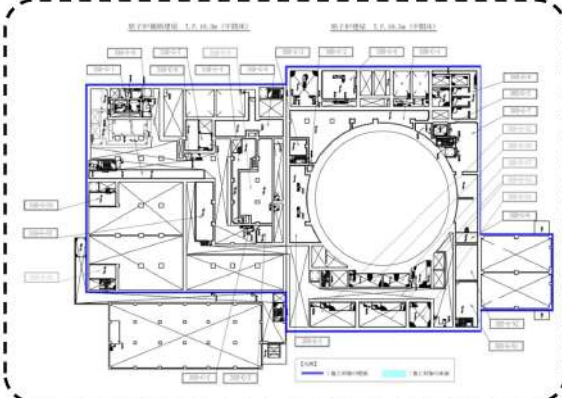
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="506 177 689 201">添付資料 5.2 別紙 3</p> <p data-bbox="107 416 271 440">1. 水密扉設置箇所</p>  <p data-bbox="293 825 501 849">図 4 水密扉の設置位置</p> <p data-bbox="107 858 271 882">2. 貫通部対策箇所</p>  <p data-bbox="219 1267 564 1291">図 6 貫通部対策配置図 (E. L. +10.0m)</p> <p data-bbox="118 1319 642 1343">枠囲みの範囲は機密に係る次項ですので公開することはできません。</p>	<p data-bbox="1126 177 1274 201">補足説明資料 17</p> <p data-bbox="696 212 1016 236">溢水防護対策の主要な施工対象範囲</p> 	<p data-bbox="1720 177 1859 201">補足説明資料 9</p> <p data-bbox="1281 212 1601 236">溢水防護対策の主要な施工対象範囲</p> <div data-bbox="1281 309 1859 440" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p data-bbox="1429 328 1700 352">追而【地震津波側審査の反映】</p> <p data-bbox="1317 363 1834 419">(下表の破線囲部分 は、基準地震動確定後の評価結果により、見直しの要否を検討する。)</p> </div>  <p data-bbox="1317 895 1812 919">図 1 溢水防護対策施工対象の壁及び扉の配置図 (1/11)</p> <p data-bbox="1317 1406 1812 1430">図 1 溢水防護対策施工対象の壁及び扉の配置図 (2/11)</p>	<p data-bbox="1865 177 2047 233">記載表現の相違 (次ページ以降も同様)</p>



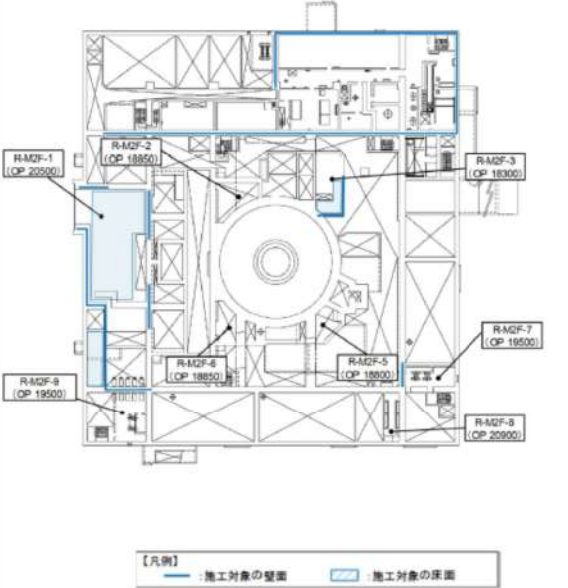
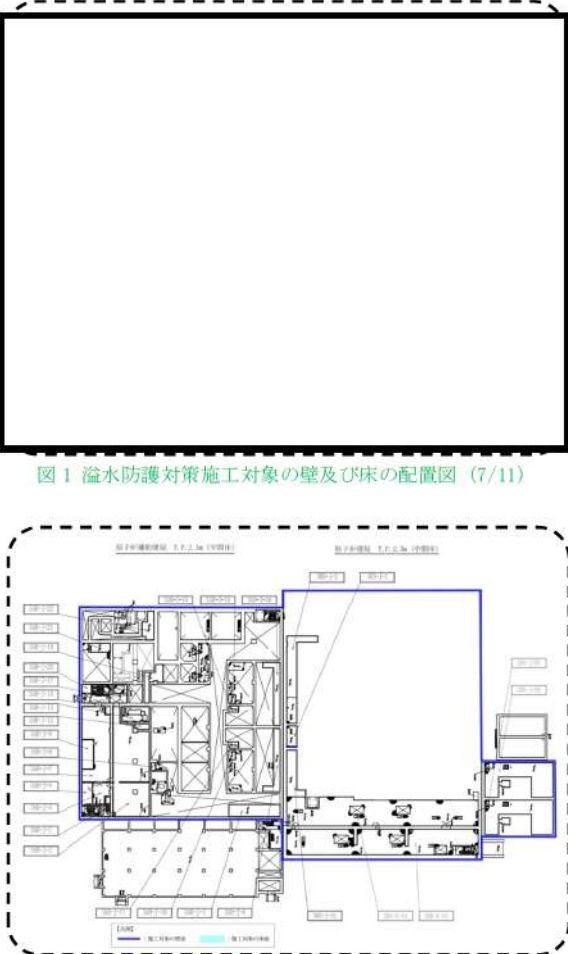
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			
<p>図7 貫通部対策配置図 (E.L. +6.6、E.L. +7.0m)</p>		<p>図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (3/11)</p>	
			
<p>図8 貫通部対策配置図 (E.L. +3.5m)</p>			
<p>枠囲みの範囲は機密に係る次項ですので公開することはできません。</p>			

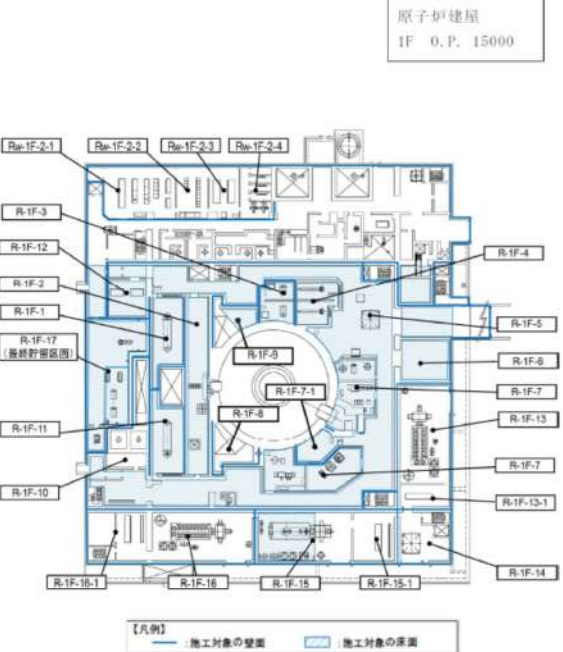
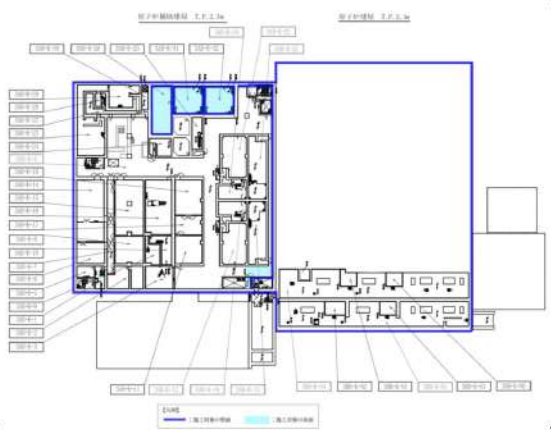
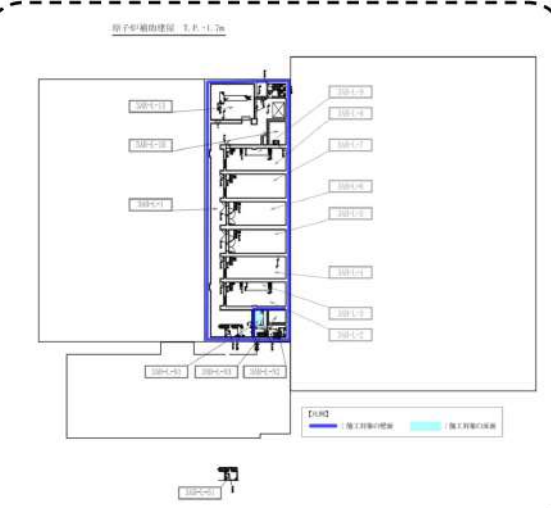
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: center;">原子炉建屋 2F O.P. 22500</p> 	 <p style="text-align: center;">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (5/11)</p>  <p style="text-align: center;">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (6/11)</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1093 199 1263 263">原子炉建屋 M2F</p> 	 <p data-bbox="1317 654 1814 678">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図（7/11）</p> <p data-bbox="1317 1165 1814 1189">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図（8/11）</p> <p data-bbox="1288 1236 1854 1268">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>原子炉建屋 1F 0.P. 15000</p> <p>【凡例】  <span style="color: blue;">—</span> 施工対象の壁面  <span style="background-color: lightblue; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 施工対象の床面</p>	 <p>原子炉建屋 1F 0.P. 15000</p> <p>図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (9/11)</p>  <p>原子炉建屋 1.F. 1.7m</p> <p>図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (10/11)</p>	<p>相違理由</p>

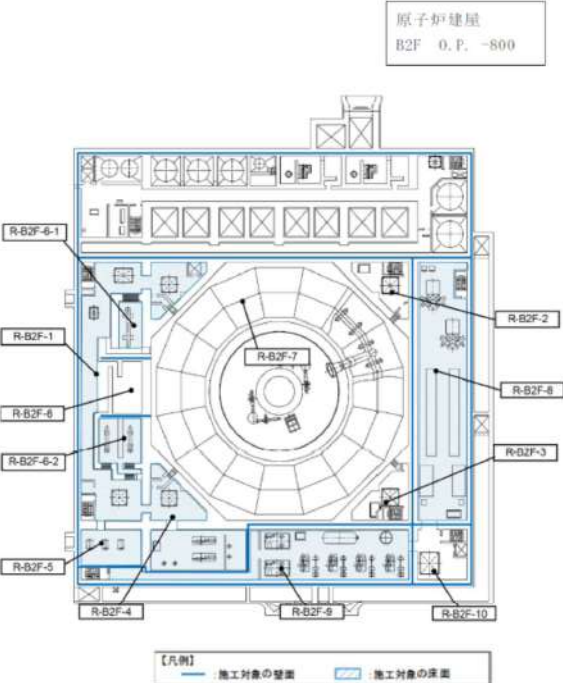
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p data-bbox="1317 624 1816 646">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (11/11)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>原子炉建屋 B1F O.P. 6000</p> <p>RB1F-5 RB1F-3-3 RB1F-3 RB1F-4 RB1F-13 RB1F-3-2 RB1F-3 RB1F-14 RB1F-12 RB1F-11 RB1F-10 RB1F-9 RB1F-1 RB1F-6 RB1F-7 RB1F-8</p> <p>【凡例】 — 施工対象の壁面 ■ 施工対象の床面</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由



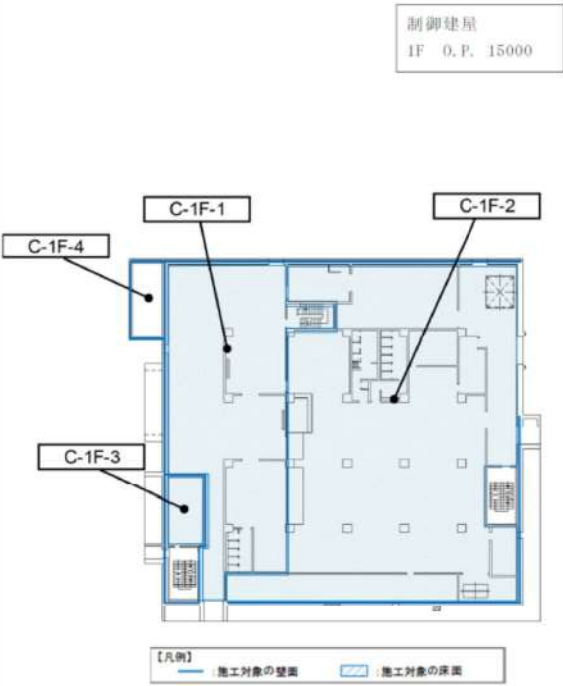
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>制御建屋 3F O.P. 23500</p> <p>C-3F-4 C-3F-1</p> <p>C-3F-3 C-3F-2</p> <p>【凡例】  <span style="color: blue;">—</span> 施工対象の壁面 <span style="background-color: #e0e0ff; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 施工対象の床面</p>		

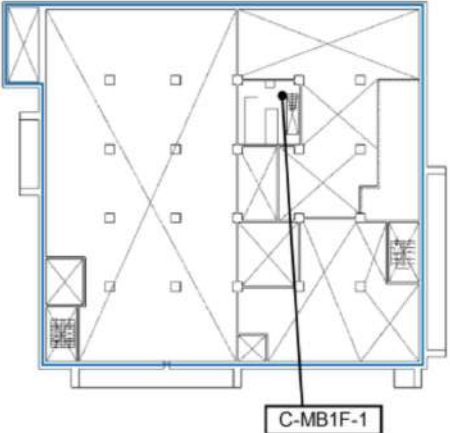
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1093 193 1256 256">制御建屋 2F 0.P. 19500</p>  <p data-bbox="808 804 1151 839">【凡例】  <span style="color: blue;">—</span> 施工対象の壁面    <span style="border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 施工対象の床面</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			

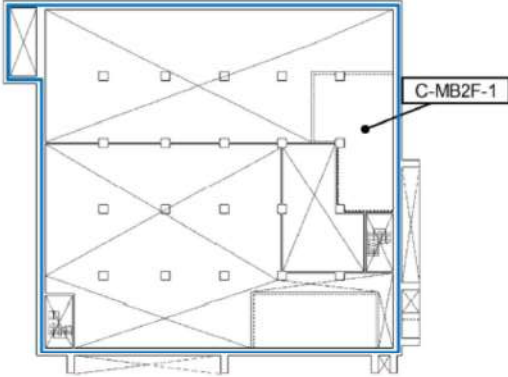
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1070 201 1256 277" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">                     制御建屋                      MB1F O.P. 11400                 </div>  <div data-bbox="763 919 1167 959" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">                     【凡例】  <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; border: 1px solid blue; margin-right: 5px;"></span> : 施工対象の壁面    <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: lightblue; border: 1px solid blue; margin-right: 5px;"></span> : 施工対象の床面                 </div>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1084 204 1214 256" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">                     制御建屋                      B1F O.P. 8000                 </div> <div data-bbox="707 304 1261 791" style="border: 1px solid black; height: 300px; margin-bottom: 10px;"> </div> <div data-bbox="831 863 1218 900" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。                 </div>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1077 212 1256 284" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">                     制御建屋                      MB2F O.P. 4400                 </div>  <div data-bbox="815 855 1189 895" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">                     【凡例】  <span style="color: blue;">—</span> 施工対象の壁面    <span style="background-color: lightblue; border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> 施工対象の床面                 </div>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

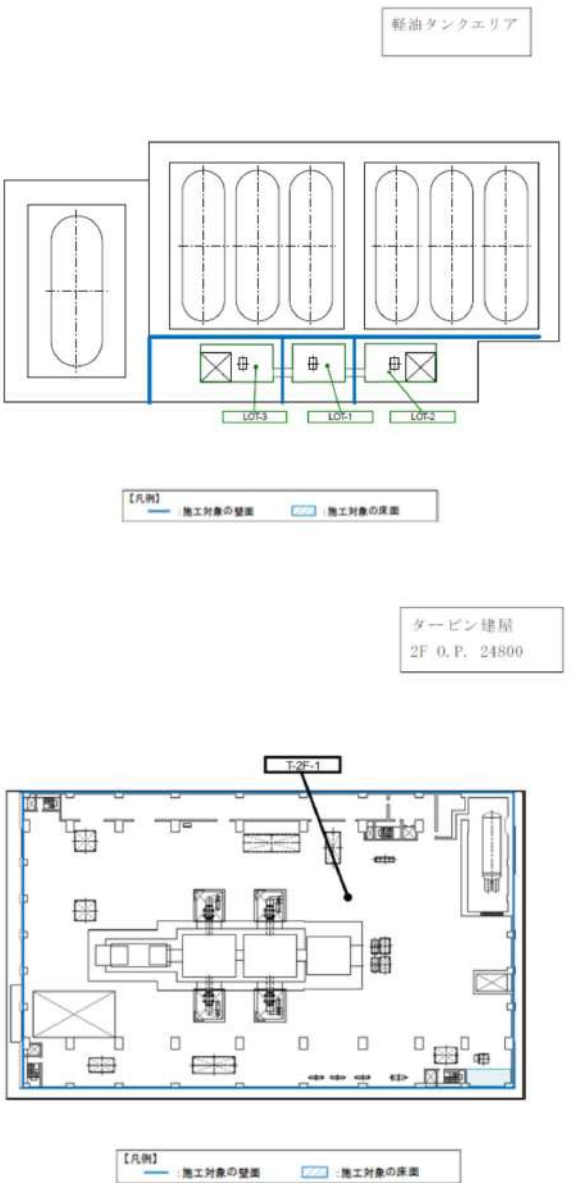
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1077 204 1218 261" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">海水ポンプ室 上部</div> <div data-bbox="712 301 1254 758" style="border: 1px solid black; height: 286px; margin: 10px auto;"></div> <div data-bbox="799 896 1249 932" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>		



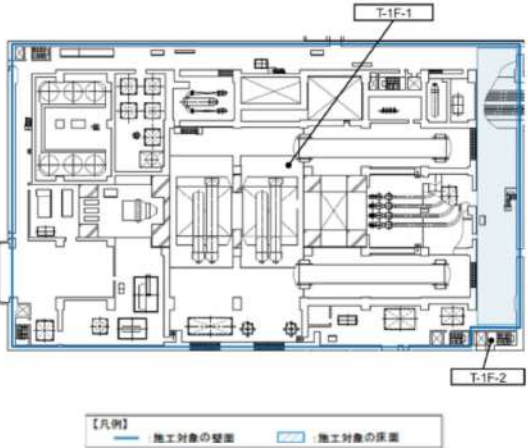
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1088 178 1232 236" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">                     海水ポンプ室 下部                 </div> <div data-bbox="712 268 1258 734" style="border: 1px solid black; height: 292px; margin: 10px auto; width: 244px;"></div> <div data-bbox="770 871 1240 909" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">                     枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。                 </div>		

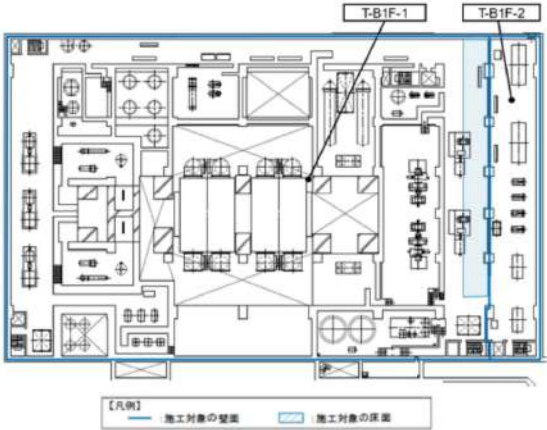
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>軽油タンクエリア</p> <p>タービン建屋 2F O.P. 24800</p> <p>【凡例】 — 施工対象の壁面    ▨ 施工対象の床面</p> <p>【凡例】 — 施工対象の壁面    ▨ 施工対象の床面</p>		

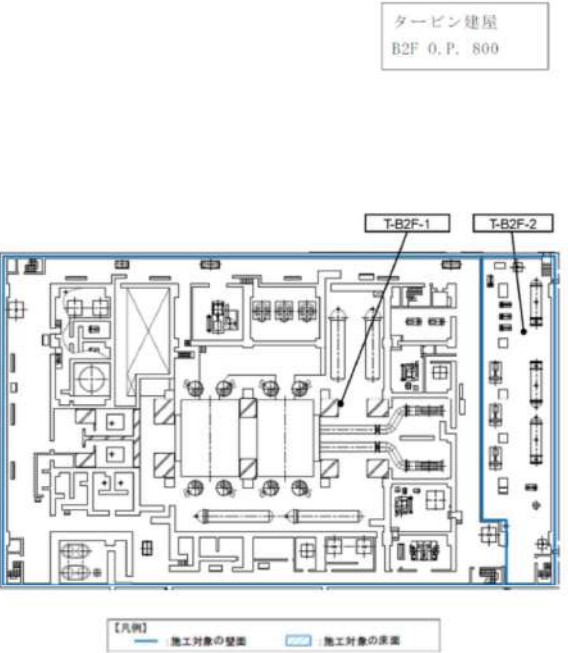
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1099 204 1263 268">タービン建屋 1F O.P. 15000</p>  <p data-bbox="790 767 1146 802">【凡例】  <span style="border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> 施工対象の壁面    <span style="background-color: lightblue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> 施工対象の床面</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1099 197 1261 261">タービン建屋 B1F 0.P. 7600</p>  <p data-bbox="808 804 1133 836">【凡例】  <span style="color: blue;">—</span> 施工対象の壁面    <span style="background-color: lightblue; border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 施工対象の床面</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>タービン建屋 B2F 0.P. 800</p> <p>T-B2F-1 T-B2F-2</p> <p>【凡例】  <span style="color: blue;">—</span> 施工対象の壁面 <span style="background-color: lightblue; border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 施工対象の床面</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">補足資料3-1 別紙18</p> <p style="text-align: center;">A、B、C充てんポンプの没水影響評価</p> <p>添付資料 1.4.1-2:「想定破損による溢水影響評価」の備考欄「※トレン分離されており同時に機能喪失しない。隣接する別区画のポンプは機能喪失しない。」について以下に説明する。</p> <p>充てんポンプが設置された各区画には破損を想定する配管が敷設されており、溢水量 44.7m<sup>3</sup>が流出すると溢水水位はポンプの機能喪失高さを超えるため、破損した区画のポンプが没水する。</p> <div style="border: 2px solid black; height: 150px; width: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">図1 A、B、C充てんポンプの配置</p> <p>しかし1つの区画内の破損によって3つの区画の溢水水位がポンプの機能喪失高さを同時に超えることはない。</p> <p>以上により、充てんポンプは設計上多重性を有しており、かつ、別々の区画に設置されていることから、トレン分離されており同時に機能喪失しない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</div>	<p style="text-align: center;">補足説明資料 10</p> <p style="text-align: center;">A、B、C充てんポンプの没水影響評価</p> <p>添付資料 17「想定破損による溢水影響評価結果」の備考欄「※トレン分離されており同時に機能喪失しない。隣接する別区画のポンプは機能喪失しない。」について以下に説明する。</p> <p>充てんポンプが設置された各区画には破損を想定する配管が敷設されており、溢水量 37.6m<sup>3</sup>が流出すると溢水水位はポンプの機能喪失高さを超えるため、破損した区画のポンプが没水する。</p> <div style="border: 2px solid black; height: 150px; width: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">図1 A、B、C充てんポンプの配置</p> <p>しかし1つの区画内の破損によって3つの区画の溢水水位がポンプの機能喪失高さを同時に超えることはない。</p> <p>以上により、充てんポンプは設計上多重性を有しており、かつ、別々の区画に設置されていることから、トレン分離されており同時に機能喪失しない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p style="text-align: center;">相違理由</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載内容の相違                  想定破損評価結果における溢水量の違い。溢水影響評価方法については、大阪と同様である。</p> <p>記載表現の相違</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料15</p> <p>運転員のアクセス性（温度、放射線、薬品及び漂流物）</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料9</p> <p>運転員のアクセス性</p> <p>1. 運転員のアクセスが必要となる溢水事象</p> <p>女川2号炉の内部溢水影響評価では、以下のとおり評価を実施しており、運転員のアクセス性に関して評価が必要となるのは、想定破損による溢水影響評価のみである。</p> <p>(1) 想定破損による溢水</p> <p>溢水発生時に現場の温度を上昇させるような高温の溢水源としては、給復水系、原子炉冷却材浄化系があるが、これらについては、漏えい検知・隔離するインターロックが作動し自動的に隔離されるため、運転員の手動操作は必要ない。</p> <p>一方、低エネルギー系統の破損を想定した場合は、漏えい箇所の確認（特定）と隔離操作及び系統の切替操作について、運転員による対応が必要となる。</p> <p>(2) 消火水の放水による溢水</p> <p>火災発生時における消火水放水（3時間放水）を考慮した評価としており、運転員のアクセス性の検討は不要。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料11</p> <p>運転員のアクセス性</p> <p>1. 運転員のアクセスが必要となる溢水事象</p> <p>泊発電所3号炉の内部溢水影響評価では、以下のとおり評価を実施しており、運転員のアクセス性に関して評価が必要となるのは、想定破損及び地震起因による溢水影響評価である。</p> <p>(1) 想定破損による溢水</p> <p>溢水発生時に現場の温度を上昇させるような高温の溢水源としては、化学体積制御系統、主蒸気系統、主給水系統、補助給水系統、蒸気発生器ブローダウン系統及び補助蒸気系統があるが、これらについては、漏えい検知・隔離するインターロックが作動し自動的に隔離される、又は中央制御室からの遠隔操作による隔離が可能な系統であることから、運転員による中央制御室外での手動操作は必要ない。</p> <p>一方、低エネルギー配管の破損を想定した場合は、漏えい箇所の確認（特定）と隔離操作について、運転員による対応が必要となる。</p> <p>(2) 消火水の放水による溢水</p> <p>火災発生時における消火水放水を考慮した評価としており、運転員のアクセス性の検討は不要。</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では、地震発生後に運転員によるパトロールを実施し、耐震B、Cクラスの機器からの漏えいが確認された場合には手動操作による漏えい停止を実施する。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>対象設備の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、高エネルギー配管については、自動隔離の他に、検知、事象の判断、漏えい箇所の特定、隔離操作のすべてを中央制御室で実施するケースがあり、現場へのアクセスがないため、自動隔離と併せて記載する。</li> <li>・泊では溢水時に必要な系統の切替操作は無い。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では、消火栓からの放水については、3時間の放水により想定される溢水量若しくは、火災源が小さい場合においては、その可燃性物質の量及び等価時間を考慮した消火活動に伴う放水により想定される溢水量を設定している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
<p>内部溢水発生時における運転員のアクセス性について検討した。運転員のアクセス性に係る評価項目を表1に示す。</p> <p>表1 運転員のアクセス性に係る評価項目</p> <table border="1" data-bbox="114 531 683 730"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>歩行に影響しないこと。</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>溢水温度が歩行に影響しないこと。</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>化学反応により歩行に影響しないこと。</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと。</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>歩行に影響する障害物がないこと。</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部溢水影響評価において運転員のアクセス性の評価ケースの抽出条件は、漏えい箇所の確認を要することと隔離操作を要することであり、抽出した1ケースの評価結果を表2に示す。                  現場確認が必要な設備へのアクセスルートにあつては、歩行に影響のない水位であること及び必要に応じて環境の温度、放射線量、薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。別紙1に評価結果の詳細を示す。</p>	項目	内容	水位	歩行に影響しないこと。	温度	溢水温度が歩行に影響しないこと。	薬品	化学反応により歩行に影響しないこと。	放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと。	漂流物	歩行に影響する障害物がないこと。	<p>(3) 地震起因による溢水                  運転員による手動隔離には期待しない評価としている。</p> <p>2. 運転員のアクセス性を検討する際的评价項目                  内部溢水発生時における運転員のアクセス性を検討する際的评价項目を表1に示す。</p> <p>表1 運転員のアクセス性に係わる評価項目</p> <table border="1" data-bbox="705 531 1265 730"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>溢水温度が歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>化学反応により歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>歩行に影響する障害物がないこと</td> </tr> <tr> <td>照明</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>感電</td> <td>感電がないこと</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部溢水影響評価において運転員のアクセス性の評価を実施する場合、漏えい箇所の確認に対する評価と隔離操作に対する評価、及び系統の切替操作を伴う場合、操作対象弁までのアクセス性に関する評価が必要となる。                  表2に漏えい箇所の確認・隔離操作における運転員のアクセス性評価結果、表3に系統の切替操作が必要となるケースを整理した結果を示す。                  なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>	項目	内容	水位	歩行に影響しないこと	温度	溢水温度が歩行に影響しないこと	薬品	化学反応により歩行に影響しないこと	放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと	漂流物	歩行に影響する障害物がないこと	照明	歩行に影響しないこと	感電	感電がないこと	<p>(3) 地震起因による溢水                  地震発生時に想定する溢水源のうち、循環水系統、原子炉補給水系統(脱塩水)、飲料水系統、水消火系統、海水電解装置海水供給・注入系統及び所内用水系統については、漏えい箇所の確認(特定)と隔離操作について、運転員による対応が必要となる。</p> <p>2. 運転員のアクセス性を検討する際的评价項目                  内部溢水発生時における運転員のアクセス性を検討する際的评价項目を表1に示す。</p> <p>表1 運転員のアクセス性に係わる評価項目</p> <table border="1" data-bbox="1288 531 1848 730"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>溢水温度が歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>化学反応により歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>歩行に影響する障害物がないこと</td> </tr> <tr> <td>照明</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>感電</td> <td>感電がないこと</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部溢水影響評価において運転員のアクセス性の評価を実施する場合、漏えい箇所の確認に対する評価と隔離操作に対する評価及び操作対象までのアクセス性に関する評価が必要となる。                  表2に想定破損時の漏えい箇所の確認・隔離操作における運転員のアクセス性評価結果、表3に地震時の漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果を示す。                  なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>	項目	内容	水位	歩行に影響しないこと	温度	溢水温度が歩行に影響しないこと	薬品	化学反応により歩行に影響しないこと	放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと	漂流物	歩行に影響する障害物がないこと	照明	歩行に影響しないこと	感電	感電がないこと	<p>設計方針の相違                  泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</p> <p>【大阪】                  記載表現の相違</p> <p>【大阪】                  記載方針の相違                  女川審査実績の反映</p> <p>設計方針の相違                  ・泊では溢水時に必要な系統の切替操作は無い。                  ・泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</p> <p>【大阪】                  記載方針の相違                  女川審査実績の反映</p>
項目	内容																																														
水位	歩行に影響しないこと。																																														
温度	溢水温度が歩行に影響しないこと。																																														
薬品	化学反応により歩行に影響しないこと。																																														
放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと。																																														
漂流物	歩行に影響する障害物がないこと。																																														
項目	内容																																														
水位	歩行に影響しないこと																																														
温度	溢水温度が歩行に影響しないこと																																														
薬品	化学反応により歩行に影響しないこと																																														
放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと																																														
漂流物	歩行に影響する障害物がないこと																																														
照明	歩行に影響しないこと																																														
感電	感電がないこと																																														
項目	内容																																														
水位	歩行に影響しないこと																																														
温度	溢水温度が歩行に影響しないこと																																														
薬品	化学反応により歩行に影響しないこと																																														
放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと																																														
漂流物	歩行に影響する障害物がないこと																																														
照明	歩行に影響しないこと																																														
感電	感電がないこと																																														



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料11）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																										
<p>表2 内部溢水影響評価における運転員のアクセス性の評価結果</p>	<p>表2 漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果</p>	<p>表2 想定破損時の漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果</p>	<p>記載表現の相違                      設計方針の相違</p>																																																																																																																																										
<table border="1"> <tr> <td>対象</td> <td>想定破損(原子炉周辺建屋)</td> </tr> <tr> <td>検知方法</td> <td>化学体積制御系</td> </tr> <tr> <td>現場へ行く理由</td> <td>サンプル検知</td> </tr> <tr> <td>操作箇所</td> <td>中央制御室(遠隔操作)</td> </tr> <tr> <td>アクセスルート上の溢水水位</td> <td>0.077m(原子炉周辺建屋E.L.+10.0m)</td> </tr> <tr> <td>水温(気温)</td> <td>~46℃</td> </tr> <tr> <td>薬品(液性)</td> <td>現場確認時に薬品は漏えいしない。</td> </tr> <tr> <td>被ばく線量<sup>※1</sup></td> <td>約2.2mSv</td> </tr> <tr> <td>漂流物対策</td> <td>実施済み<sup>※2</sup></td> </tr> </table>	対象	想定破損(原子炉周辺建屋)	検知方法	化学体積制御系	現場へ行く理由	サンプル検知	操作箇所	中央制御室(遠隔操作)	アクセスルート上の溢水水位	0.077m(原子炉周辺建屋E.L.+10.0m)	水温(気温)	~46℃	薬品(液性)	現場確認時に薬品は漏えいしない。	被ばく線量 <sup>※1</sup>	約2.2mSv	漂流物対策	実施済み <sup>※2</sup>	<table border="1"> <tr> <td>対象建屋・エリア</td> <td>原子炉建屋 原子炉棟</td> <td>原子炉建屋 付属棟</td> <td>制御建屋</td> <td>海水ポンプ エリア</td> <td>CSTエリア</td> <td>軽油タンク エリア</td> </tr> <tr> <td>検知方法</td> <td>①、②、③ R1, Rb, T</td> <td>①、② R1, Rb, T</td> <td>①、② R1, C, T</td> <td>①、② 海P</td> <td>①、② CST</td> <td>② LOT</td> </tr> <tr> <td>現場へ行く理由<sup>※1</sup></td> <td>0~0.4m</td> <td>0~0.3m</td> <td>0~0.3m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> </tr> <tr> <td>隔離操作を実施する 建屋・エリア<sup>※2</sup></td> <td>~40℃程度<sup>※6</sup></td> <td>~40℃程度<sup>※6</sup></td> <td>~40℃程度<sup>※6</sup></td> <td>~30℃程度</td> <td>~40℃程度<sup>※6</sup></td> <td>~40℃程度</td> </tr> <tr> <td>アクセス通路の 溢水水位<sup>※3</sup></td> <td>約5.0×10<sup>-6</sup>mSv<sup>※4</sup></td> <td>想定破損評価時に、薬品タンクが影響を及ぼすことはない<sup>※7</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>約6.5×10<sup>-6</sup>mSv<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>温度(気温)<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>実効線量<sup>※5</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>漂流物対策<sup>※6</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>照明<sup>※7</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>感電<sup>※8</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> </table>	対象建屋・エリア	原子炉建屋 原子炉棟	原子炉建屋 付属棟	制御建屋	海水ポンプ エリア	CSTエリア	軽油タンク エリア	検知方法	①、②、③ R1, Rb, T	①、② R1, Rb, T	①、② R1, C, T	①、② 海P	①、② CST	② LOT	現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	0~0.4m	0~0.3m	0~0.3m	0m	0m	0m	隔離操作を実施する 建屋・エリア <sup>※2</sup>	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~30℃程度	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~40℃程度	アクセス通路の 溢水水位 <sup>※3</sup>	約5.0×10 <sup>-6</sup> mSv <sup>※4</sup>	想定破損評価時に、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	約6.5×10 <sup>-6</sup> mSv <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	温度(気温) <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	実効線量 <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	漂流物対策 <sup>※6</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	照明 <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	感電 <sup>※8</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	<table border="1"> <tr> <td>対象建屋・エリア</td> <td>タービン建屋 ピット検知</td> <td>出入管理建屋 警報、監視点検</td> <td>電気建屋 警報</td> <td>循環水ポンプ建屋 漏えい検知</td> </tr> <tr> <td>検知方法</td> <td>① A/B</td> <td>①、② A/B</td> <td>①、② A/B</td> <td>①、② R/B, T/B, CWP/B</td> </tr> <tr> <td>現場へ行く理由<sup>※1</sup></td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> </tr> <tr> <td>隔離操作を実施する 建屋・エリア<sup>※2</sup></td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> </tr> <tr> <td>アクセス通路の 溢水水位<sup>※3</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>3.3×10<sup>-6</sup>mSv<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>温度(気温)<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>実効線量<sup>※5</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>漂流物対策<sup>※6</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>照明<sup>※7</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>感電<sup>※8</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> </table>	対象建屋・エリア	タービン建屋 ピット検知	出入管理建屋 警報、監視点検	電気建屋 警報	循環水ポンプ建屋 漏えい検知	検知方法	① A/B	①、② A/B	①、② A/B	①、② R/B, T/B, CWP/B	現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	0m	0m	0m	0m	隔離操作を実施する 建屋・エリア <sup>※2</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	アクセス通路の 溢水水位 <sup>※3</sup>	— (管理区域外)	3.3×10 <sup>-6</sup> mSv <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	温度(気温) <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	実効線量 <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	漂流物対策 <sup>※6</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	照明 <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	感電 <sup>※8</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	<p>・泊は、想定破損において溢水が発生するエリアにアクセスしないため、「漂流物対策については不要」、「感電による影響はない」としている。</p> <p>・泊では溢水時に必要な系統の切替操作は無い。</p> <p>・泊では表2の対象建屋・エリアにある溢水源配管に対し、応力評価による想定破損除外を適用していない。</p>
対象	想定破損(原子炉周辺建屋)																																																																																																																																												
検知方法	化学体積制御系																																																																																																																																												
現場へ行く理由	サンプル検知																																																																																																																																												
操作箇所	中央制御室(遠隔操作)																																																																																																																																												
アクセスルート上の溢水水位	0.077m(原子炉周辺建屋E.L.+10.0m)																																																																																																																																												
水温(気温)	~46℃																																																																																																																																												
薬品(液性)	現場確認時に薬品は漏えいしない。																																																																																																																																												
被ばく線量 <sup>※1</sup>	約2.2mSv																																																																																																																																												
漂流物対策	実施済み <sup>※2</sup>																																																																																																																																												
対象建屋・エリア	原子炉建屋 原子炉棟	原子炉建屋 付属棟	制御建屋	海水ポンプ エリア	CSTエリア	軽油タンク エリア																																																																																																																																							
検知方法	①、②、③ R1, Rb, T	①、② R1, Rb, T	①、② R1, C, T	①、② 海P	①、② CST	② LOT																																																																																																																																							
現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	0~0.4m	0~0.3m	0~0.3m	0m	0m	0m																																																																																																																																							
隔離操作を実施する 建屋・エリア <sup>※2</sup>	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~30℃程度	~40℃程度 <sup>※6</sup>	~40℃程度																																																																																																																																							
アクセス通路の 溢水水位 <sup>※3</sup>	約5.0×10 <sup>-6</sup> mSv <sup>※4</sup>	想定破損評価時に、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	約6.5×10 <sup>-6</sup> mSv <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																							
温度(気温) <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																							
実効線量 <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																							
漂流物対策 <sup>※6</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																							
照明 <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																							
感電 <sup>※8</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																							
対象建屋・エリア	タービン建屋 ピット検知	出入管理建屋 警報、監視点検	電気建屋 警報	循環水ポンプ建屋 漏えい検知																																																																																																																																									
検知方法	① A/B	①、② A/B	①、② A/B	①、② R/B, T/B, CWP/B																																																																																																																																									
現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	0m	0m	0m	0m																																																																																																																																									
隔離操作を実施する 建屋・エリア <sup>※2</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度																																																																																																																																									
アクセス通路の 溢水水位 <sup>※3</sup>	— (管理区域外)	3.3×10 <sup>-6</sup> mSv <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																									
温度(気温) <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																									
実効線量 <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																									
漂流物対策 <sup>※6</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																									
照明 <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																									
感電 <sup>※8</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																									
<p>※1 別紙2に被ばく線量の考え方を示す。                      ※2 別紙3に因対策事例を示す。</p>	<p>※1 ①漏えい箇所の特定、②漏えい箇所の確認、③系戻切替操作                      ※2 R1：原子炉建屋原子炉棟、Rb：原子炉建屋付属棟、C：制御建屋、海P：海水ポンプエリア、T：タービン建屋                      LOT：軽油タンクエリア、Rw：原子炉建屋付属棟(廃棄物処理エリア)                      ※3 系統隔離及び系戻切替操作におけるアクセス性の確認を別紙1に示す                      ※4 高濃縮水素である軽水水系、原子炉冷却炉系は、漏えい検知・自動隔離、加熱蒸気系については、想定破損除外を適用                      ※5 高濃縮水素である加熱蒸気系は、想定破損除外を適用                      ※6 現場操作時の線量影響の考え方を別紙3に示す                      ※7 因対策事例の適用例を別紙3に示す                      ※8 漏水等により、絶縁等の影響が発生した場合の負荷の切り取りを行う</p>	<p>※1 ①漏えい箇所の特定、②漏えい箇所の確認                      ※2 R/B：原子炉建屋、A/B：原子炉補助建屋、T/B：タービン建屋、CWP/B：循環水ポンプ建屋                      ※3 系統隔離におけるアクセス性の確認を別紙1に示す                      ※4 漏えい箇所の確認・隔離操作等後の中央制御室まで戻るまでのアクセス性を評価                      ※5 薬品によるアクセス性への影響については補足説明資料31に示す                      ※6 想定破損時に管理区域へアクセスするのは、出入管理建屋での原子炉補給水系統(船庫水)の溢水時であり、アクセス先では溢水がまず発生しないため、測定線量より0.001mSv/hを用いて、移動時間15分と動作時間5分を考慮して算出                      ※7 想定破損時の隔離操作については、溢水水位が発生する区画にアクセスしないため漂流物対策は不要                      ※8 アクセス先は溢水が発生しないため、感電による影響はない</p>	<p>記載表現の相違                      設計方針の相違</p>																																																																																																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

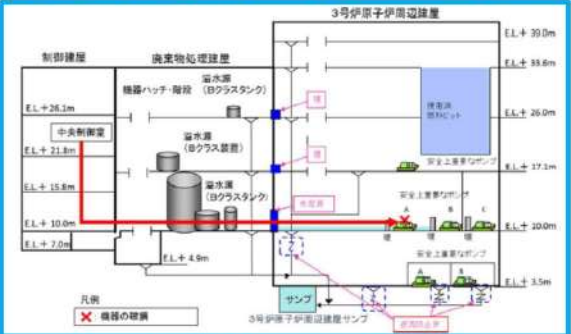
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																
	<p style="text-align: center;">表3 系統の切替操作が必要となるケース</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">機能</th> <th style="width: 20%;">系統</th> <th style="width: 10%;">手動弁の操作</th> <th style="width: 10%;">現場指示計の確認<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">原子炉施設</td> <td>緊急停止機能</td> <td>水圧制御ユニット</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>未臨界維持機能</td> <td>ほう酸水注入系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高温停止機能</td> <td>残留熱除去系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>自動周王系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>低圧中心スプレイ系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>高圧中心スプレイ系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時注水機能</td> <td>原子炉隔離時冷却系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高圧中心スプレイ系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">手動逃がし機能</td> <td>逃がし安全弁</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>自動周王系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>低温停止機能</td> <td>残留熱除去系 (原子炉停止時冷却モード)</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">閉じ込め機能</td> <td>隔離弁機能</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>可燃性ガス濃度制御系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>監視機能</td> <td>事故時計装系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">使用済燃料プール</td> <td rowspan="2">冷却機能</td> <td>燃料プール冷却浄化系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系 (燃料プール水の冷却)</td> <td style="text-align: center;">○<sup>※2, 4</sup></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">給水機能</td> <td>燃料プール補給水系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系 (燃料プール水の補給)</td> <td style="text-align: center;">○<sup>※3, 4</sup></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>中央制御室</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>中央制御室換気空調系</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table> <p>凡例 ○：操作又は確認が必要な場合 -：操作又は確認が無い場合</p> <p>※1 状態監視のみの現場指示計について、系統切替操作時に必要か否かの確認を実施</p> <p>※2 燃料プール冷却浄化系の機能が喪失した場合、残留熱除去系への切替操作が必要</p> <p>※3 燃料プール補給水系の機能が喪失した場合、残留熱除去系への切替操作が必要</p> <p>※4 系統切替操作時のアクセス通路における溢水水位について、別紙1に示す</p>		機能	系統	手動弁の操作	現場指示計の確認 <sup>※1</sup>	原子炉施設	緊急停止機能	水圧制御ユニット	-	-	未臨界維持機能	ほう酸水注入系	-	-	高温停止機能	残留熱除去系	-	-	自動周王系	-	-	低圧中心スプレイ系	-	-	高圧中心スプレイ系	-	-	原子炉隔離時注水機能	原子炉隔離時冷却系	-	-		高圧中心スプレイ系	-	-	手動逃がし機能	逃がし安全弁	-	-	自動周王系	-	-	低温停止機能	残留熱除去系 (原子炉停止時冷却モード)	-	-	閉じ込め機能	隔離弁機能	-	-	非常用ガス処理系	-	-	可燃性ガス濃度制御系	-	-	監視機能	事故時計装系	-	-	使用済燃料プール	冷却機能	燃料プール冷却浄化系	-	-	残留熱除去系 (燃料プール水の冷却)	○ <sup>※2, 4</sup>	-	給水機能	燃料プール補給水系	-	-	残留熱除去系 (燃料プール水の補給)	○ <sup>※3, 4</sup>	-	中央制御室	-	中央制御室換気空調系	-	-		<p>設計方針の相違</p> <p>泊では溢水時に必要な系統の切替操作はない。</p>
	機能	系統	手動弁の操作	現場指示計の確認 <sup>※1</sup>																																																																															
原子炉施設	緊急停止機能	水圧制御ユニット	-	-																																																																															
	未臨界維持機能	ほう酸水注入系	-	-																																																																															
	高温停止機能	残留熱除去系	-	-																																																																															
		自動周王系	-	-																																																																															
		低圧中心スプレイ系	-	-																																																																															
		高圧中心スプレイ系	-	-																																																																															
	原子炉隔離時注水機能	原子炉隔離時冷却系	-	-																																																																															
		高圧中心スプレイ系	-	-																																																																															
	手動逃がし機能	逃がし安全弁	-	-																																																																															
		自動周王系	-	-																																																																															
低温停止機能	残留熱除去系 (原子炉停止時冷却モード)	-	-																																																																																
閉じ込め機能	隔離弁機能	-	-																																																																																
	非常用ガス処理系	-	-																																																																																
	可燃性ガス濃度制御系	-	-																																																																																
監視機能	事故時計装系	-	-																																																																																
使用済燃料プール	冷却機能	燃料プール冷却浄化系	-	-																																																																															
		残留熱除去系 (燃料プール水の冷却)	○ <sup>※2, 4</sup>	-																																																																															
	給水機能	燃料プール補給水系	-	-																																																																															
		残留熱除去系 (燃料プール水の補給)	○ <sup>※3, 4</sup>	-																																																																															
中央制御室	-	中央制御室換気空調系	-	-																																																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
		<p>表3 地震時の漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果</p> <p><b>追而【地震津波側審査の反映】</b>                  下表の破線囲部分については基準地震動確定後の評価結果を反映する。</p>	<p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</li> <li>・一部の建屋では、アクセス先に溢水が発生しないため漂流物対策を不要としている。</li> </ul>																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">地質</th> </tr> <tr> <th>対象建屋・エリア</th> <th>タービン建屋</th> <th>出入管理建屋</th> <th>船盛水ポンプ建屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検知方法</td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> </tr> <tr> <td>現場へ行く理由<sup>※1</sup></td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> </tr> <tr> <td>隔離操作を実施する建屋・エリア<sup>※2</sup></td> <td>EL/B</td> <td>A/B, R/B</td> <td>R/B, CWP/B</td> </tr> <tr> <td>アクセス通路の長さ<sup>※3</sup></td> <td>0m</td> <td>0~0.00m</td> <td>0~0.1m</td> </tr> <tr> <td>温度（気温）<sup>※4</sup></td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> </tr> <tr> <td>薬品<sup>※5</sup></td> <td>—（管理区域外）</td> <td>—（管理区域外）</td> <td>—（管理区域外）</td> </tr> <tr> <td>放射線<sup>※6</sup></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>漂流物対策<sup>※7</sup></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>照明<sup>※8</sup></td> <td>—</td> <td>非常用照明又は可搬型照明により対応可能</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>感電<sup>※9</sup></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>上流側の遮断器がトリップするため影響はない<sup>※9</sup></p>	地質				対象建屋・エリア	タービン建屋	出入管理建屋	船盛水ポンプ建屋	検知方法	①、②	①、②	①、②	現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	①、②	①、②	①、②	隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>※2</sup>	EL/B	A/B, R/B	R/B, CWP/B	アクセス通路の長さ <sup>※3</sup>	0m	0~0.00m	0~0.1m	温度（気温） <sup>※4</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	薬品 <sup>※5</sup>	—（管理区域外）	—（管理区域外）	—（管理区域外）	放射線 <sup>※6</sup>	—	—	—	漂流物対策 <sup>※7</sup>	—	—	—	照明 <sup>※8</sup>	—	非常用照明又は可搬型照明により対応可能	—	感電 <sup>※9</sup>	—	—	—	
地質																																																			
対象建屋・エリア	タービン建屋	出入管理建屋	船盛水ポンプ建屋																																																
検知方法	①、②	①、②	①、②																																																
現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	①、②	①、②	①、②																																																
隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>※2</sup>	EL/B	A/B, R/B	R/B, CWP/B																																																
アクセス通路の長さ <sup>※3</sup>	0m	0~0.00m	0~0.1m																																																
温度（気温） <sup>※4</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度																																																
薬品 <sup>※5</sup>	—（管理区域外）	—（管理区域外）	—（管理区域外）																																																
放射線 <sup>※6</sup>	—	—	—																																																
漂流物対策 <sup>※7</sup>	—	—	—																																																
照明 <sup>※8</sup>	—	非常用照明又は可搬型照明により対応可能	—																																																
感電 <sup>※9</sup>	—	—	—																																																
		<p>※1 ①漏えい箇所の特定、②漏えい箇所の隔離                  ※2 R/B：原子炉建屋、A/B：原子炉補助建屋、EL/B：電気建屋、CWP/B：船盛水ポンプ建屋                  ※3 系統隔離におけるアクセス性の確認を別紙1に示す                  ※4 漏えい箇所の確認・隔離操作等後の中央制御室まで戻るまでのアクセス性を評価                  ※5 薬品によるアクセス性への影響について補足説明資料31に示す                  ※6 現場操作時の線量影響の考え方を別紙2に示す                  ※7 海水水位が発生しないため漂流物対策は不要                  ※8 隔離対策の実施例を別紙3に示す                  ※9 海水等により地絡等の警報が発生した場合に真荷を調査した上で、真荷の切り離しを行う</p>																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料11）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
<p style="text-align: right;">別紙1</p> <p>想定破損のアクセス性評価結果について</p> <p>化学体積制御系の充てんポンプミニフローラインの破断箇所は原子炉周辺建屋E.L.+10.0mにある。</p> <p>破断後、中央制御室にサンプ水位高等の警報が発信し、様々な運転パラメータから破断箇所を推定し、運転員は現場で漏えい箇所の特定を行う。閉止にかかる操作は、中央制御室から行うことができるため漏えい確認に要した時間で被ばく評価を実施した。</p>  <p style="text-align: center;">図1 想定破損のアクセス性評価の概要</p> <p style="text-align: center;">表1 評価結果</p> <table border="1" data-bbox="141 903 674 1070"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">結果概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>0.077m</td> <td>原子炉周辺建屋E.L.+10.0m通路の溢水水位</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>室温</td> <td>～46℃</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>影響無し</td> <td>想定破損では、破損想定する設備以外は漏えいしない。</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>約2.2mSv</td> <td>詳細は別紙2に示す。</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>影響なし</td> <td>因循対策を実施済み。詳細は別紙3に示す。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	結果概要		水位	0.077m	原子炉周辺建屋E.L.+10.0m通路の溢水水位	温度	室温	～46℃	薬品	影響無し	想定破損では、破損想定する設備以外は漏えいしない。	放射線	約2.2mSv	詳細は別紙2に示す。	漂流物	影響なし	因循対策を実施済み。詳細は別紙3に示す。	<p>3. 運転員のアクセス性に関する検討結果</p> <p>現場操作が必要な設備のアクセス通路にあっては、歩行に影響のない水位であること、及び環境の温度、放射線量、薬品による影響、漂流物の影響、照明並びに感電を考慮してもアクセス性への影響がないことを確認した。</p>	<p>3. 運転員のアクセス性に関する検討結果</p> <p>現場操作が必要な設備のアクセス通路にあっては、歩行に影響のない水位であること及び環境の温度、放射線量、薬品による影響、漂流物の影響、照明並びに感電を考慮してもアクセス性への影響がないことを確認した。</p>	<p>【大阪】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>
項目	結果概要																				
水位	0.077m	原子炉周辺建屋E.L.+10.0m通路の溢水水位																			
温度	室温	～46℃																			
薬品	影響無し	想定破損では、破損想定する設備以外は漏えいしない。																			
放射線	約2.2mSv	詳細は別紙2に示す。																			
漂流物	影響なし	因循対策を実施済み。詳細は別紙3に示す。																			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由						
<p style="text-align: right;">別紙4</p> <p>被水に対するアクセス性について                      現場操作に向かう運転員の被水に対するアクセス性については各評価項目（想定破損、消火活動に係る放水、地震時の破損）において、弁操作は基本的には中央制御室からの操作により隔離が可能である。一方、以下のケースについては漏えい箇所の確認又は現場操作のために運転員が現場へアクセスする必要があるが、表1に示すように、いずれのケースにおいてもアクセス性に影響を与えないことから消火活動だけに限定できる。</p> <p style="text-align: center;">表1 被水に対するアクセス性の評価</p> <table border="1" data-bbox="114 582 680 743"> <thead> <tr> <th>想定するケース</th> <th>アクセスの目的</th> <th>不要とする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>想定破損（原子炉周辺建屋）</td> <td>漏えい箇所の確認</td> <td>漏えい箇所の確認のみを実施するため破断箇所まで近接する必要がなくアクセス性への影響はない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、スプリンクラーの放水時の現場へのアクセスについては、スプリンクラーが作動している現場の状況確認であり、停止操作は中央制御室にて操作することから「消火活動に係る放水による溢水影響評価」にて記載しているとおり運転員への被水による影響はなくアクセス性への影響はない。</p>	想定するケース	アクセスの目的	不要とする理由	想定破損（原子炉周辺建屋）	漏えい箇所の確認	漏えい箇所の確認のみを実施するため破断箇所まで近接する必要がなくアクセス性への影響はない。	<p>4. その他                      (1) 被水によるアクセス性への影響について                      対象系統の隔離作業に影響がある被水は考えられないが、万が一隔離作業に支障がある場合には、隔離弁の変更、アクセスルートの変更等による対応が可能であるため、アクセス性への影響はない。                      (2) 蒸気によるアクセス性への影響について                      加熱蒸気系の漏えいについては、現場での隔離作業がないため、アクセス性への影響はない。</p> <p style="text-align: right;">別紙1</p> <p>系統隔離及び系統切替操作におけるアクセス性の確認</p> <p>1. 系統隔離操作におけるアクセス性の確認                      (1) 隔離操作時のアクセス通路の溢水水位                      漏えい箇所の隔離操作対象となる現場手動弁までのアクセス通路の設定を行う場合は、積極的な流下経路に設定している階段室を通過しないことを考慮している。溢水を想定する系統（想定破損させる系統）とその隔離操作時にアクセスが必要となる区画について、表1に示す。</p>	<p>4. その他                      (1) 被水によるアクセス性への影響について                      対象系統の隔離作業に影響がある被水は考えられないが、万が一隔離作業に支障がある場合には、隔離弁の変更、アクセスルートの変更等による対応が可能であるため、アクセス性への影響はない。                      (2) 蒸気によるアクセス性への影響について                      化学体積制御系統、補助蒸気系統、蒸気発生器ブローダウン系統及び主蒸気系統の漏えいについては、現場での隔離作業がないため、アクセス性への影響はない。</p> <p style="text-align: right;">別紙1</p> <p>系統隔離におけるアクセス性の確認</p> <p>1. 想定破損時の系統隔離操作におけるアクセス性の確認                      (1) 隔離操作時のアクセス通路の溢水水位                      想定破損におけるアクセス区画について、溢水水位が発生する区画はない。溢水を想定する系統と（想定破損させる系統）その隔離操作時にアクセスが必要となる区画について、表1に示す。</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a>                      対象系統の相違</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a>                      ・泊では溢水時に必要な系統の切替操作はない。                      ・女川は想定破損の隔離において、溢水水位があるが、泊では溢水水位が発生しないため、その旨を記載している。</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>                      泊では、地震時にも現場にアクセスし隔離操作を実施しているため、記載表現を左記のとおりとする。</p>
想定するケース	アクセスの目的	不要とする理由							
想定破損（原子炉周辺建屋）	漏えい箇所の確認	漏えい箇所の確認のみを実施するため破断箇所まで近接する必要がなくアクセス性への影響はない。							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																												
	<p>表1 隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (1/3)</p> <table border="1" data-bbox="698 252 1270 938"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">CRD</td> <td>R-1F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-3</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-4</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>T-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>T-B1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">SLC</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-3</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>RIR(A)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>RIR(B)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>RIR(C)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">LPCS</td> <td>R-1F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-B1F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-MB1F-2</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-MB1F-4</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">HPCS</td> <td>R-1F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-B1F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-MB1F-2</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">FPC</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-4</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-M2F-3</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	CRD	R-1F-5	0	可	R-2F-3	0	可	R-2F-7	0	可	R-2F-4	0.3	可	T-1F-1	0	可	T-B1F-1	0	可	SLC	R-1F-5	0.3	可	R-2F-3	0.3	可	RIR(A)	R-1F-5	0.3	可	RIR(B)	R-1F-5	0.3	可	RIR(C)	R-1F-5	0.3	可	LPCS	R-1F-5	0	可	R-B1F-1	0.3	可	R-MB1F-2	0	可	R-MB1F-4	0.3	可	HPCS	R-1F-5	0	可	R-B1F-1	0.3	可	R-MB1F-2	0.3	可	FPC	R-1F-5	0.3	可	R-1F-4	0.3	可	R-M2F-3	0.3	可	<p>表1 想定破損時における隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (1/2)</p> <table border="1" data-bbox="1317 293 1839 794"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">水消火系統 (出入管理建屋・電気建屋)</td> <td>3AB-F-N8</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3AB-F-N6</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3AB-F-N7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">原子炉補給水系統（脱塩水） (出入管理建屋)</td> <td>3AB-F-N8</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3AB-F-N6</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3ACB-B-N02</td> <td>0<sup>※</sup></td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3ACB-C-N01</td> <td>0<sup>※</sup></td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3ACB-D-N01</td> <td>0<sup>※</sup></td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3ACB-D-01</td> <td>0<sup>※</sup></td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">飲料水系統 (出入管理建屋)</td> <td>3AB-F-N8</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3AB-F-N6</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3AB-F-N7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3ELB-C-N01</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3AB-D-N1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 原子炉補給水系統（脱塩水）による溢水は、出入管理建屋の最下層に貯留されるため、当該区画の水位は0mと設定する。</p>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	水消火系統 (出入管理建屋・電気建屋)	3AB-F-N8	0	可	3AB-F-N6	0	可	3AB-F-N7	0	可	原子炉補給水系統（脱塩水） (出入管理建屋)	3AB-F-N8	0	可	3AB-F-N6	0	可	3ACB-B-N02	0 <sup>※</sup>	可	3ACB-C-N01	0 <sup>※</sup>	可	3ACB-D-N01	0 <sup>※</sup>	可	3ACB-D-01	0 <sup>※</sup>	可	飲料水系統 (出入管理建屋)	3AB-F-N8	0	可	3AB-F-N6	0	可	3AB-F-N7	0	可	3ELB-C-N01	0	可	3AB-D-N1	0	可	<p>記載表現の相違</p>
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																																																																																												
CRD	R-1F-5	0	可																																																																																																																												
	R-2F-3	0	可																																																																																																																												
	R-2F-7	0	可																																																																																																																												
	R-2F-4	0.3	可																																																																																																																												
	T-1F-1	0	可																																																																																																																												
	T-B1F-1	0	可																																																																																																																												
SLC	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																												
	R-2F-3	0.3	可																																																																																																																												
RIR(A)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																												
RIR(B)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																												
RIR(C)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																												
LPCS	R-1F-5	0	可																																																																																																																												
	R-B1F-1	0.3	可																																																																																																																												
	R-MB1F-2	0	可																																																																																																																												
	R-MB1F-4	0.3	可																																																																																																																												
HPCS	R-1F-5	0	可																																																																																																																												
	R-B1F-1	0.3	可																																																																																																																												
	R-MB1F-2	0.3	可																																																																																																																												
FPC	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																												
	R-1F-4	0.3	可																																																																																																																												
	R-M2F-3	0.3	可																																																																																																																												
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																																																																																												
水消火系統 (出入管理建屋・電気建屋)	3AB-F-N8	0	可																																																																																																																												
	3AB-F-N6	0	可																																																																																																																												
	3AB-F-N7	0	可																																																																																																																												
原子炉補給水系統（脱塩水） (出入管理建屋)	3AB-F-N8	0	可																																																																																																																												
	3AB-F-N6	0	可																																																																																																																												
	3ACB-B-N02	0 <sup>※</sup>	可																																																																																																																												
	3ACB-C-N01	0 <sup>※</sup>	可																																																																																																																												
	3ACB-D-N01	0 <sup>※</sup>	可																																																																																																																												
	3ACB-D-01	0 <sup>※</sup>	可																																																																																																																												
飲料水系統 (出入管理建屋)	3AB-F-N8	0	可																																																																																																																												
	3AB-F-N6	0	可																																																																																																																												
	3AB-F-N7	0	可																																																																																																																												
	3ELB-C-N01	0	可																																																																																																																												
	3AB-D-N1	0	可																																																																																																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																				
	<p>表1 隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (2/3)</p> <table border="1" data-bbox="712 248 1256 1262"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス 可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="5">MUWP</td><td>Rw-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-E2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="13">MUWC</td><td>R-1F-5</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E2F-3</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E2F-7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E2F-4</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E2F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E2F-5</td><td>0.4<sup>※1</sup></td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-E2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-E2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="5">FW</td><td>Rw-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-E2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-ME2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B1F-3</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="7">FPM/W</td><td>T-E2F-3</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-5</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B1F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E3F-5</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E3F-10</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E3F-6</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E3F-7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="3">HNCW</td><td>R-E3F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-E3F-8</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-5</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="2">HECW(A)</td><td>R-3F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-3F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 設置する堰（高さ0.4m）を考慮</p>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス 可否	MUWP	Rw-1F-1	0	可	Rw-B1F-1	0	可	T-1F-1	0	可	T-B1F-1	0	可	T-E2F-1	0	可	MUWC	R-1F-5	0.3	可	R-E2F-3	0	可	R-E2F-7	0	可	R-E2F-4	0.3	可	R-E2F-1	0.3	可	R-E2F-5	0.4 <sup>※1</sup>	可	Rw-1F-1	0	可	Rw-B1F-1	0	可	Rw-E2F-1	0	可	T-1F-1	0	可	T-B1F-1	0	可	T-E2F-1	0	可	FW	Rw-1F-1	0	可	Rw-B1F-1	0	可	Rw-E2F-1	0	可	Rw-ME2F-1	0	可	T-B1F-3	0	可	FPM/W	T-E2F-3	0	可	R-1F-5	0.3	可	R-B1F-1	0.3	可	R-E3F-5	0	可	R-E3F-10	0	可	R-E3F-6	0	可	R-E3F-7	0	可	HNCW	R-E3F-1	0.3	可	R-E3F-8	0.3	可	R-1F-5	0.3	可	HECW(A)	R-3F-1	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	<p>表1 想定破損時における隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (2/2)</p> <table border="1" data-bbox="1301 296 1843 1098"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="6">軸受冷却系統 (循環水ポンプ建屋)</td><td>3AB-F-N8</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N6</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3ACB-B-N02</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3ACB-D-N01</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>屋外</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="7">軸受冷却系統（共通ライン） (循環水ポンプ建屋)</td><td>3CWPB-A-N01</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N8</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N6</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3ACB-B-N2</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3ACB-D-N1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>屋外</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="5">所内用水系統 (循環水ポンプ建屋)</td><td>3CWPB-A-N01</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3BB-F-N2</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>タービン建屋</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N8</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N6</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="4">飲料水系統 (循環水ポンプ建屋)</td><td>3AB-F-N7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3BB-F-N2</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>タービン建屋</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N8</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="3"></td><td>3AB-F-N6</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3BB-F-N2</td><td>0</td><td>可</td></tr> </tbody> </table>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	軸受冷却系統 (循環水ポンプ建屋)	3AB-F-N8	0	可	3AB-F-N6	0	可	3AB-F-N7	0	可	3ACB-B-N02	0	可	3ACB-D-N01	0	可	屋外	0	可	軸受冷却系統（共通ライン） (循環水ポンプ建屋)	3CWPB-A-N01	0	可	3AB-F-N8	0	可	3AB-F-N6	0	可	3AB-F-N7	0	可	3ACB-B-N2	0	可	3ACB-D-N1	0	可	屋外	0	可	所内用水系統 (循環水ポンプ建屋)	3CWPB-A-N01	0	可	3BB-F-N2	0	可	タービン建屋	0	可	3AB-F-N8	0	可	3AB-F-N6	0	可	飲料水系統 (循環水ポンプ建屋)	3AB-F-N7	0	可	3BB-F-N2	0	可	タービン建屋	0	可	3AB-F-N8	0	可		3AB-F-N6	0	可	3AB-F-N7	0	可	3BB-F-N2	0	可	<p>記載表現の相違</p>
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス 可否																																																																																																																																																																																																				
MUWP	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	Rw-B1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	T-1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	T-B1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	T-E2F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
MUWC	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E2F-3	0	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E2F-7	0	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E2F-4	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E2F-1	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E2F-5	0.4 <sup>※1</sup>	可																																																																																																																																																																																																				
	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	Rw-B1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	Rw-E2F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	T-1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	T-B1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	T-E2F-1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	FW	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																																																																																																			
Rw-B1F-1		0	可																																																																																																																																																																																																				
Rw-E2F-1		0	可																																																																																																																																																																																																				
Rw-ME2F-1		0	可																																																																																																																																																																																																				
T-B1F-3		0	可																																																																																																																																																																																																				
FPM/W	T-E2F-3	0	可																																																																																																																																																																																																				
	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-B1F-1	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E3F-5	0	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E3F-10	0	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E3F-6	0	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E3F-7	0	可																																																																																																																																																																																																				
HNCW	R-E3F-1	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-E3F-8	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
HECW(A)	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																																																																																																				
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																																																																																																																																																																				
軸受冷却系統 (循環水ポンプ建屋)	3AB-F-N8	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N6	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N7	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3ACB-B-N02	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3ACB-D-N01	0	可																																																																																																																																																																																																				
	屋外	0	可																																																																																																																																																																																																				
軸受冷却系統（共通ライン） (循環水ポンプ建屋)	3CWPB-A-N01	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N8	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N6	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N7	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3ACB-B-N2	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3ACB-D-N1	0	可																																																																																																																																																																																																				
	屋外	0	可																																																																																																																																																																																																				
所内用水系統 (循環水ポンプ建屋)	3CWPB-A-N01	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3BB-F-N2	0	可																																																																																																																																																																																																				
	タービン建屋	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N8	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N6	0	可																																																																																																																																																																																																				
飲料水系統 (循環水ポンプ建屋)	3AB-F-N7	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3BB-F-N2	0	可																																																																																																																																																																																																				
	タービン建屋	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N8	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N6	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3AB-F-N7	0	可																																																																																																																																																																																																				
	3BB-F-N2	0	可																																																																																																																																																																																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

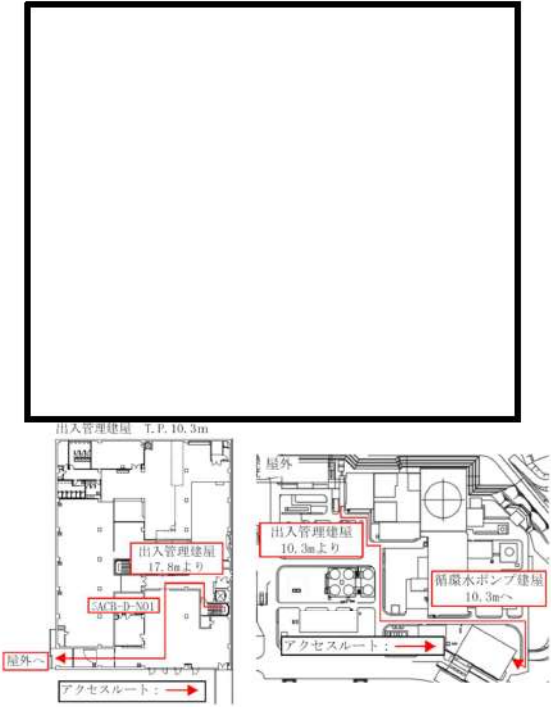
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																			
	<p>表1 隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (3/3)</p> <table border="1" data-bbox="698 256 1265 1270"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">HECW(B)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW(A)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW(B)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">HPCW</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-3</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">HWH</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">FP</td> <td>T-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>C-1F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>Rw-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>A-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">DGCW(A)</td> <td>R-2F-16-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-4</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-6</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-14</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-13-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-13</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">DGCW(B)</td> <td>R-2F-16-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-8</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-16-1</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-16</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">DGCW(H)</td> <td>R-2F-16-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-4</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-6</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-14</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-15-1</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-15</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	HECW(B)	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	RCW(A)	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	RCW(B)	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	HPCW	R-1F-5	0.3	可	R-2F-3	0.3	可	HWH	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	FP	T-1F-1	0	可	C-1F-1	0.3	可	Rw-1F-1	0	可	A-1F-1	0	可	DGCW(A)	R-2F-16-1	0	可	R-2F-4	0	可	R-2F-5	0	可	R-2F-6	0	可	R-2F-7	0	可	R-1F-14	0.3	可	R-1F-13-1	0.3	可	R-1F-13	0.3	可	DGCW(B)	R-2F-16-1	0	可	R-2F-8	0	可	R-1F-16-1	0.2	可	R-1F-16	0.2	可	DGCW(H)	R-2F-16-1	0	可	R-2F-4	0	可	R-2F-5	0	可	R-2F-6	0	可	R-2F-7	0	可	R-1F-14	0.3	可	R-1F-15-1	0.2	可	R-1F-15	0.2	可		
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																																																																																			
HECW(B)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
RCW(A)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
RCW(B)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
HPCW	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-2F-3	0.3	可																																																																																																																			
HWH	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
FP	T-1F-1	0	可																																																																																																																			
	C-1F-1	0.3	可																																																																																																																			
	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																			
	A-1F-1	0	可																																																																																																																			
DGCW(A)	R-2F-16-1	0	可																																																																																																																			
	R-2F-4	0	可																																																																																																																			
	R-2F-5	0	可																																																																																																																			
	R-2F-6	0	可																																																																																																																			
	R-2F-7	0	可																																																																																																																			
	R-1F-14	0.3	可																																																																																																																			
	R-1F-13-1	0.3	可																																																																																																																			
R-1F-13	0.3	可																																																																																																																				
DGCW(B)	R-2F-16-1	0	可																																																																																																																			
	R-2F-8	0	可																																																																																																																			
	R-1F-16-1	0.2	可																																																																																																																			
	R-1F-16	0.2	可																																																																																																																			
DGCW(H)	R-2F-16-1	0	可																																																																																																																			
	R-2F-4	0	可																																																																																																																			
	R-2F-5	0	可																																																																																																																			
	R-2F-6	0	可																																																																																																																			
	R-2F-7	0	可																																																																																																																			
	R-1F-14	0.3	可																																																																																																																			
	R-1F-15-1	0.2	可																																																																																																																			
R-1F-15	0.2	可																																																																																																																				



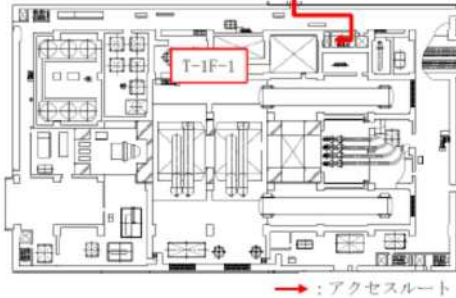
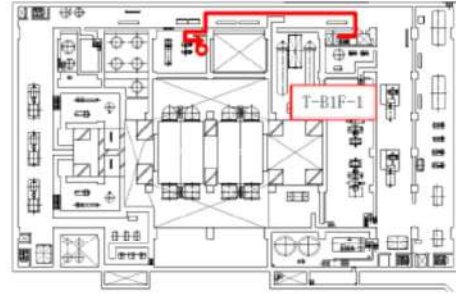

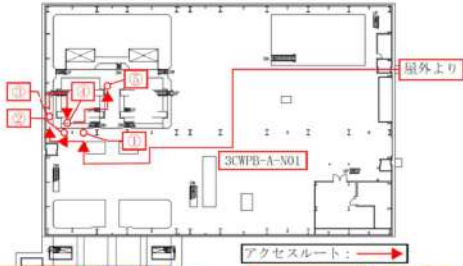






赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																												
	<p>(2) 隔離操作時に操作が必要となる弁</p> <p>漏えい箇所の隔離操作を実施する場合に、操作対象となる現場手動弁までのアクセス通路と操作が必要となる弁について確認を行っている。以下に、代表例（溢水源：制御棒駆動水圧系）を示す。隔離操作対象弁を表2、隔離操作時におけるアクセス通路を図1に示す。</p> <p>表2 制御棒駆動水圧系の隔離操作対象弁リスト</p> <table border="1" data-bbox="698 416 1270 544"> <thead> <tr> <th colspan="4">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th>弁番号</th> <th>弁名</th> <th>設置場所</th> <th>区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F13-F010</td> <td>CRD 復水入口弁</td> <td>CRD バルブ室</td> <td>R-B2F-4</td> </tr> <tr> <td>N21-F045</td> <td>CRD 復水積算流量計出口弁</td> <td>T/B B1F グランド蒸気復水器室</td> <td>T-B1F-1</td> </tr> <tr> <td>N21-F046</td> <td>CRD 復水積算流量計バイパス弁</td> <td>T/B B1F グランド蒸気復水器室</td> <td>T-B1F-1</td> </tr> </tbody> </table>	操作対象弁				弁番号	弁名	設置場所	区画	F13-F010	CRD 復水入口弁	CRD バルブ室	R-B2F-4	N21-F045	CRD 復水積算流量計出口弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1	N21-F046	CRD 復水積算流量計バイパス弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1	<p>(2) 隔離操作時に操作が必要となる弁</p> <p>漏えい箇所の隔離操作を実施する場合に、操作対象となる現場手動弁までのアクセス通路と操作が必要となる弁について確認を行っている。以下に、代表例（溢水源：軸受冷却系統（A系））を示す。隔離操作対象弁を表2、隔離操作時におけるアクセス通路を図1に示す。</p> <p>表2 軸受冷却系統（A系）の隔離操作対象弁リスト</p> <table border="1" data-bbox="1288 432 1848 866"> <thead> <tr> <th colspan="4">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th>弁番号</th> <th>弁名称</th> <th>設置場所</th> <th>区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3V-JW-240A</td> <td>3 A-CWP 翼可変用油冷却器冷却水入口弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-JW-241A</td> <td>3 A-CWP 翼可変用油冷却器冷却水出口弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-MR-021A</td> <td>3 A-循環水ポンプ電動機軸受冷却器冷却水入口弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-MR-024A</td> <td>3 A-循環水ポンプ電動機軸受冷却器冷却水サイトグラス後弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-MR-026A</td> <td>3 A-循環水ポンプ電動機A 空気冷却器冷却水入口弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-MR-040A</td> <td>3 A-循環水ポンプ電動機A 空気冷却器冷却水サイトグラス後弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-MR-027A</td> <td>3 A-循環水ポンプ電動機B 空気冷却器冷却水入口弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-MR-041A</td> <td>3 A-循環水ポンプ電動機B 空気冷却器冷却水サイトグラス後弁</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> </tbody> </table>	操作対象弁				弁番号	弁名称	設置場所	区画	3V-JW-240A	3 A-CWP 翼可変用油冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	3V-JW-241A	3 A-CWP 翼可変用油冷却器冷却水出口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	3V-MR-021A	3 A-循環水ポンプ電動機軸受冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	3V-MR-024A	3 A-循環水ポンプ電動機軸受冷却器冷却水サイトグラス後弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	3V-MR-026A	3 A-循環水ポンプ電動機A 空気冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	3V-MR-040A	3 A-循環水ポンプ電動機A 空気冷却器冷却水サイトグラス後弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	3V-MR-027A	3 A-循環水ポンプ電動機B 空気冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	3V-MR-041A	3 A-循環水ポンプ電動機B 空気冷却器冷却水サイトグラス後弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	<p>記載表現の相違                  代表例の相違</p> <p>記載表現の相違                  代表例の相違</p>
操作対象弁																																																															
弁番号	弁名	設置場所	区画																																																												
F13-F010	CRD 復水入口弁	CRD バルブ室	R-B2F-4																																																												
N21-F045	CRD 復水積算流量計出口弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1																																																												
N21-F046	CRD 復水積算流量計バイパス弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1																																																												
操作対象弁																																																															
弁番号	弁名称	設置場所	区画																																																												
3V-JW-240A	3 A-CWP 翼可変用油冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												
3V-JW-241A	3 A-CWP 翼可変用油冷却器冷却水出口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												
3V-MR-021A	3 A-循環水ポンプ電動機軸受冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												
3V-MR-024A	3 A-循環水ポンプ電動機軸受冷却器冷却水サイトグラス後弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												
3V-MR-026A	3 A-循環水ポンプ電動機A 空気冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												
3V-MR-040A	3 A-循環水ポンプ電動機A 空気冷却器冷却水サイトグラス後弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												
3V-MR-027A	3 A-循環水ポンプ電動機B 空気冷却器冷却水入口弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												
3V-MR-041A	3 A-循環水ポンプ電動機B 空気冷却器冷却水サイトグラス後弁	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図1 制御棒駆動水圧系の隔離操作時におけるアクセス通路(1/2)</p>	 <p>図1 軸受冷却系統（A系）の隔離操作時におけるアクセス通路(1/2)</p>	<p>記載表現の相違                  代表例の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>T/B 1F</p>  <p>→ : アクセスルート</p> <p>T/B B1F</p>  <p>N21-F045, F046</p>  <p>図1 制御棒駆動水圧系の隔離操作時におけるアクセス通路(2/2)</p>	<p>循環水ポンプ建屋 T.P. 10.3m</p>  <p>屋外より</p> <p>アクセスルート: →</p>       <p>図1 軸受冷却系統 (A系) の隔離操作時におけるアクセス通路(2/2)</p>	<p>相違理由</p> <p>記載表現の相違                  代表例の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																										
		<p>2. 地震時の系統隔離操作におけるアクセス性の確認</p> <p>(1) 隔離操作時のアクセス通路の溢水水位</p> <p>溢水を想定する系統とその隔離操作時にアクセスが必要となる区画について、表3に示す。</p> <p>表3 地震時における隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>追而【地震津波側審査の反映】</b></p> <p>（下表の破線囲部分は、基準地震動確定後の評価結果により、見直しの要否を検討する。）</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="14">原子炉補給水系統（脱塩水）</td><td>3AB-F-N8</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N6</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-F-N7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-H-1</td><td>0.09</td><td>可</td></tr> <tr><td>3AB-D-N1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>飲料水系統</td><td>3RB-F-N2</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>水消火系統</td><td>タービン建屋</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>簡便水管伸縮継手</td><td>3ELB-D-N01</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="2">海水電解装置海水供給・注入系統</td><td>3RB-H-N1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3RB-H-N10</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="5">所内用水系統</td><td>3DG-H-N1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>屋外</td><td>0.1</td><td>可</td></tr> <tr><td>3CWPB-A-N01</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3CWPB-B-N04-2</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3CWPB-B-N02</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>3CWPB-B-N01</td><td>0</td><td>可</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 隔離操作時に操作が必要となる弁</p> <p>漏えい箇所の隔離操作を実施する場合に、操作対象となる現場手動弁までのアクセス通路と操作が必要となる弁について確認を行っている。以下に、地震時の系統隔離操作について示す。隔離操作対象弁を表4、隔離操作時におけるアクセス通路を図2示す。</p>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	原子炉補給水系統（脱塩水）	3AB-F-N8	0	可	3AB-F-N6	0	可	3AB-F-N7	0	可	3AB-H-1	0.09	可	3AB-D-N1	0	可	飲料水系統	3RB-F-N2	0	可	水消火系統	タービン建屋	0	可	簡便水管伸縮継手	3ELB-D-N01	0	可	海水電解装置海水供給・注入系統	3RB-H-N1	0	可	3RB-H-N10	0	可	所内用水系統	3DG-H-N1	0	可	屋外	0.1	可	3CWPB-A-N01	0	可	3CWPB-B-N04-2	0	可	3CWPB-B-N02	0	可	3CWPB-B-N01	0	可	<p>設計方針の相違</p> <p>泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</p>
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																										
原子炉補給水系統（脱塩水）	3AB-F-N8	0	可																																																										
	3AB-F-N6	0	可																																																										
	3AB-F-N7	0	可																																																										
	3AB-H-1	0.09	可																																																										
	3AB-D-N1	0	可																																																										
	飲料水系統	3RB-F-N2	0	可																																																									
	水消火系統	タービン建屋	0	可																																																									
	簡便水管伸縮継手	3ELB-D-N01	0	可																																																									
	海水電解装置海水供給・注入系統	3RB-H-N1	0	可																																																									
		3RB-H-N10	0	可																																																									
	所内用水系統	3DG-H-N1	0	可																																																									
		屋外	0.1	可																																																									
		3CWPB-A-N01	0	可																																																									
		3CWPB-B-N04-2	0	可																																																									
3CWPB-B-N02		0	可																																																										
3CWPB-B-N01	0	可																																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
		<p style="text-align: center;">表4 地震時の隔離操作対象弁リスト</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">弁番号</th> <th style="text-align: center;">弁名称</th> <th style="text-align: center;">設置場所</th> <th style="text-align: center;">区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3V-DW-729</td> <td>3-出入管理建屋脱塩水補給弁</td> <td>通路</td> <td>3AB-H-1</td> </tr> <tr> <td>3V-DR-510</td> <td>3-電気建屋及び出入管理建屋他 飲料水補給弁</td> <td>通路</td> <td>3AB-D-N1</td> </tr> <tr> <td>3V-FS-554</td> <td>3-電気建屋行き消火水 非管理区域(A/B)止め弁</td> <td>通路</td> <td>3AB-F-N7</td> </tr> <tr> <td>3V-SW-511A</td> <td>3A、B-原子炉補機冷却海水 ポンプ側海水電解装置入口ライン 止め弁</td> <td>海水ストレーナ室</td> <td>3CWPB-B-N04-2</td> </tr> <tr> <td>3V-SW-511B</td> <td>3C、D-原子炉補機冷却海水 ポンプ側海水電解装置入口ライン 止め弁</td> <td>海水ストレーナ室</td> <td>3CWPB-B-N04-2</td> </tr> <tr> <td>3V-SW-517A</td> <td>3A-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁</td> <td>A-原子炉補機 冷却海水ポンプ室</td> <td>3CWPB-B-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-SW-517B</td> <td>3B-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁</td> <td>A-原子炉補機 冷却海水ポンプ室</td> <td>3CWPB-B-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-SW-517C</td> <td>3C-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁</td> <td>B-原子炉補機 冷却海水ポンプ室</td> <td>3CWPB-B-N02</td> </tr> <tr> <td>3V-SW-517D</td> <td>3D-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁</td> <td>B-原子炉補機 冷却海水ポンプ室</td> <td>3CWPB-B-N02</td> </tr> <tr> <td>(新設)</td> <td>所内用水配管隔離弁(仮称)</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> <tr> <td>(新設)</td> <td>飲料水配管隔離弁(仮称)</td> <td>循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m</td> <td>3CWPB-A-N01</td> </tr> </tbody> </table>	操作対象弁				弁番号	弁名称	設置場所	区画	3V-DW-729	3-出入管理建屋脱塩水補給弁	通路	3AB-H-1	3V-DR-510	3-電気建屋及び出入管理建屋他 飲料水補給弁	通路	3AB-D-N1	3V-FS-554	3-電気建屋行き消火水 非管理区域(A/B)止め弁	通路	3AB-F-N7	3V-SW-511A	3A、B-原子炉補機冷却海水 ポンプ側海水電解装置入口ライン 止め弁	海水ストレーナ室	3CWPB-B-N04-2	3V-SW-511B	3C、D-原子炉補機冷却海水 ポンプ側海水電解装置入口ライン 止め弁	海水ストレーナ室	3CWPB-B-N04-2	3V-SW-517A	3A-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	A-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N01	3V-SW-517B	3B-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	A-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N01	3V-SW-517C	3C-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	B-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N02	3V-SW-517D	3D-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	B-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N02	(新設)	所内用水配管隔離弁(仮称)	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	(新設)	飲料水配管隔離弁(仮称)	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01	<p>設計方針の相違                      泊では地震発生時に現場での隔離                      操作を期待している。</p>
操作対象弁																																																							
弁番号	弁名称	設置場所	区画																																																				
3V-DW-729	3-出入管理建屋脱塩水補給弁	通路	3AB-H-1																																																				
3V-DR-510	3-電気建屋及び出入管理建屋他 飲料水補給弁	通路	3AB-D-N1																																																				
3V-FS-554	3-電気建屋行き消火水 非管理区域(A/B)止め弁	通路	3AB-F-N7																																																				
3V-SW-511A	3A、B-原子炉補機冷却海水 ポンプ側海水電解装置入口ライン 止め弁	海水ストレーナ室	3CWPB-B-N04-2																																																				
3V-SW-511B	3C、D-原子炉補機冷却海水 ポンプ側海水電解装置入口ライン 止め弁	海水ストレーナ室	3CWPB-B-N04-2																																																				
3V-SW-517A	3A-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	A-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N01																																																				
3V-SW-517B	3B-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	A-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N01																																																				
3V-SW-517C	3C-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	B-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N02																																																				
3V-SW-517D	3D-原子炉補機冷却海水ポンプ 電解液流量調節弁	B-原子炉補機 冷却海水ポンプ室	3CWPB-B-N02																																																				
(新設)	所内用水配管隔離弁(仮称)	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																				
(新設)	飲料水配管隔離弁(仮称)	循環水ポンプ建屋 T.P.10.3m	3CWPB-A-N01																																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div data-bbox="1294 178 1854 730" style="border: 2px solid black; height: 346px; width: 250px; margin-bottom: 10px;"></div> <div data-bbox="1355 758 1809 1104" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p data-bbox="1339 1133 1825 1157">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路(1/7)</p> <p data-bbox="1299 1184 1848 1209"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span>             枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。         </p>	<p data-bbox="1872 178 2134 204">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1872 215 2134 271">泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

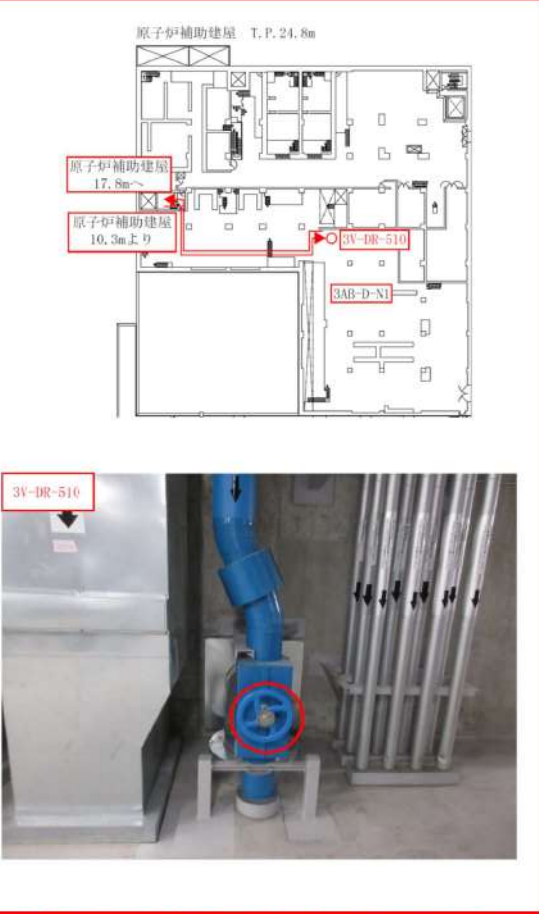


大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>原子炉補助建屋 T.P. 24.8m</p> <p>原子炉補助建屋 17.8m～</p> <p>原子炉補助建屋 10.3mより</p> <p>3V-DR-510</p> <p>3AB-D-N1</p> <p>3V-DR-510</p>	<p>設計方針の相違</p> <p>泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</p>

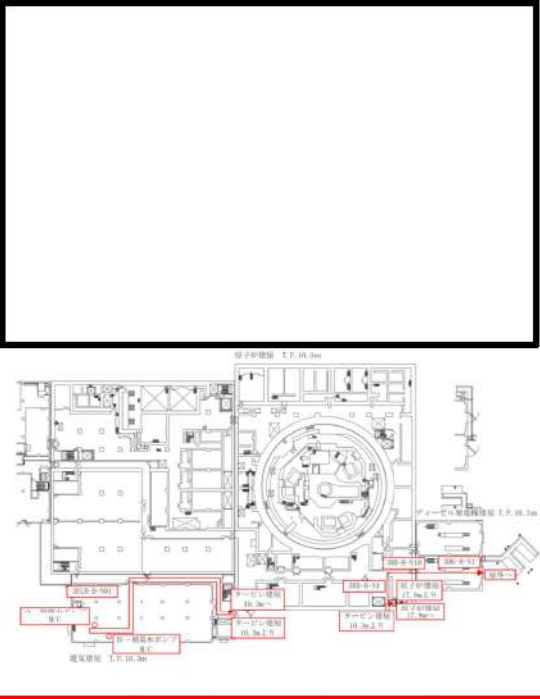
図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路(2/7)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>原子炉補助建屋 T.P. 10.3m</p>   <p>図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路(3/7)</p>	<p>設計方針の相違                  泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1332 893 1825 917">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路(4/7)</p> <p data-bbox="1299 949 1848 973">□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1872 183 2134 207">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1872 215 2134 271">泊では地震発生時に現場での隔離操作を期待している。</p>